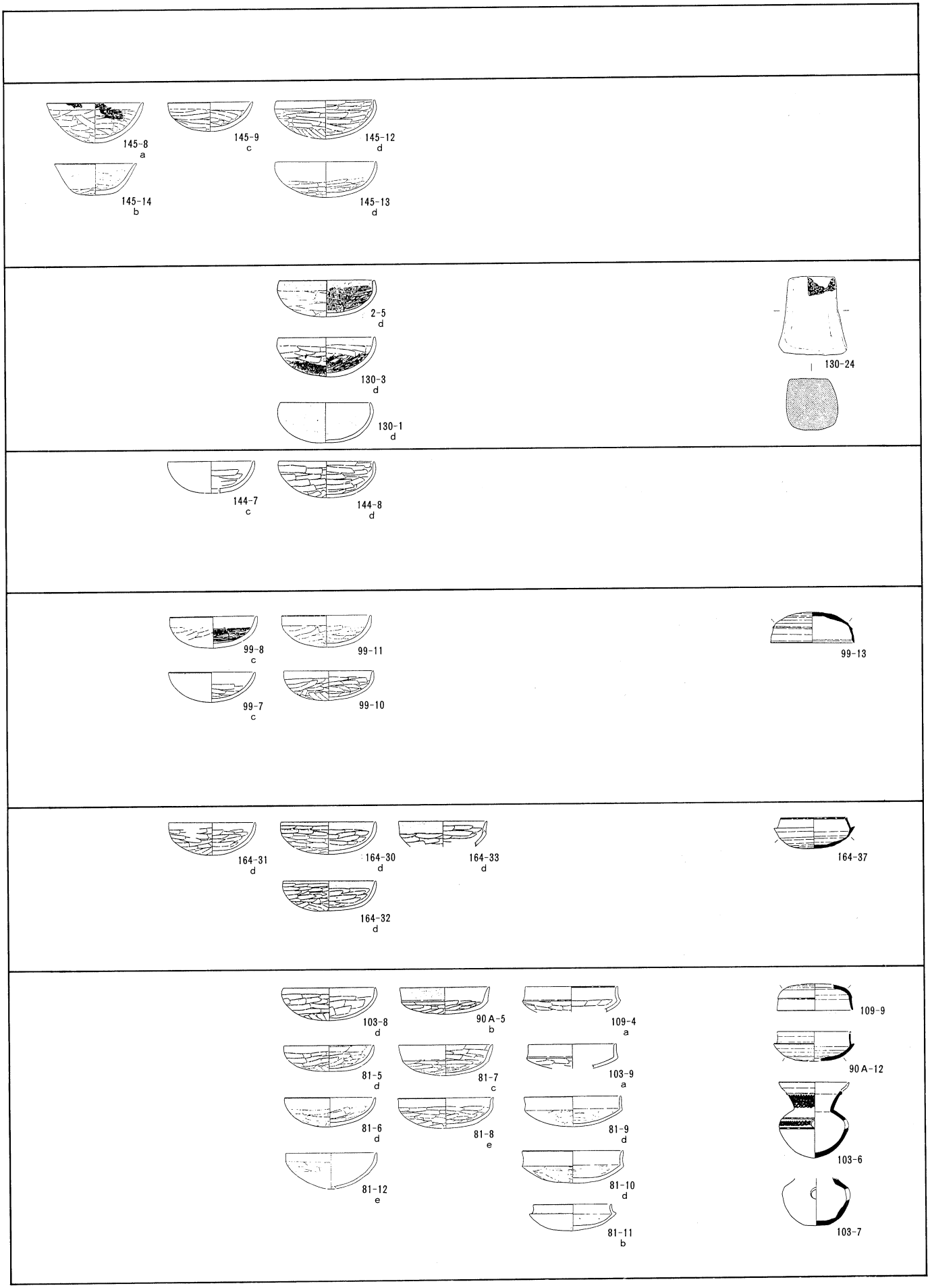


第112図　椎津茶ノ木遺跡出土土器変遷図2

き縦方向のヘラケズリが施され、ヘラミガキは消滅されているものの、底部は依然突出している。尚この段階における古段階では甕ｄは消滅しており、また新段階においては新たな器種として胴部の張りが弱く口縁部の短いｇが出現している。球胴系甕は底部が依然突出ぎみで、古相の様相を残すｃと底部が平底化し、より新相の様相を呈するｄが存在している。甑はｄ・ｅ類が存在し、前段階と大きな変化は認められない。

小型丸胴甕はｂ・ｃ類が存在し、前段階に比べ一廻り小さくなっている。坩はこの段階まで存在するが、胴部の形状がｂ・ｃのちょうど中間的な大きさになるなど、より小型化している状況が認められる。鉢ａは前段階に比べ器高が低くなり、新たに口縁部が外反するｂが出現している。高坏は前段階同様短脚＋埦形坏の形状を呈しているが、ｄは全体的に大ぶりになっており、長脚化の兆しが認められる。埦形坏ｄは前段階よりさらに偏平化しており、またこの段階で無彩で器高の高いｅが出現する。器形そのものは和泉式期に比定される赤彩埦形坏ａに近似しているが、この後一貫して無彩で他の坏に比べ器高の高い同系列と思われる坏が出現していることから、埦形坏ａ類とは別系列のものとして捉えておきたい。須恵器模倣坏は、その大半が大型で器高が高く赤彩が施されており、古い段階に比定できるものほど器高に対する口縁部高の割合が高い。また身模倣坏ｂは、比較的小型の須恵器坏身を忠実に模倣した製品として捉えられ、やや時期が下る105号検出例には、これまでの赤彩に変わって、黒色処理が施されている。このほか、模倣坏形大型品も存在している。須恵器は坏身、蓋、甕等が存在し、陶邑編年ＴＫ－47型式の後半の一部からＭＴ－15型式及びＴＫ－10型式期にそれぞれ比定することができる。また標式遺構の重複関係、球胴系甕ｃ・ｄ及び坏型土器類の法量変化等から、ＴＫ－47型式終末～ＭＴ－15型式古段階と、ＭＴ－15型式新段階～ＴＫ－10型式段階の小２期に細分することが可能であるが、全体的な土師器土器様式の変化は少なく、比較的長期安定的な状況が窺われる。

第５期

前段階の系譜を引き続ぐ器形と、新たに出現する器種・器形が共存し、器種が飛躍的に増加する段階である。当期に比定できる遺構として、116・136・139・146号遺構が存在する。器種は、長胴系甕ｂ・ｃ・ｅ・ｇ・ｈ・ｉ、球胴系甕ｅ・ｆ、大型甕ａ・ｂ、甑ｆ・ｇ・ｈ、短頸壺ｂ、深鉢形小型甕ｂ、小型短頸壺ｃ、鉢ｃ・ｄ、埦ｃ、高坏ｈ・ｉ、埦形坏ｄ・ｅ、模倣身坏ｃ・ｄ・ｅ・ｆ・ｇ・ｈ、模倣蓋坏ｃ・ｉ・ｊ・ｋ・ｌ、平底系坏ａなどが存在する。

新旧要素が混在する中で、選択と排除が行われる段階と考えられ、当期を境として古い様相が消え、新しい要素が残っていく過渡期として捉えることができる。甕形土器では、大型甕が出現し、小型甕も相対的に大ぶりなものが目立つ。また外来系の製品として捉えられる駿東型の甕なども一時的に出現している。甑はｆの様な甕形に近い形状を呈するものも存在するが、全体的にスマートないしはシャープな器形となり、前段階と比べやや小型化している。鉢型土器は深鉢系と浅鉢系に大きく２分できる。埦は器高が高く口縁部は稜を持って内彎し、赤彩が施されている製品が存在している。高坏は確実に長脚化しており、埦形の坏部が浅くなったものが多く、赤彩を施すものと無彩のものが共存する。埦形坏ｄは当期まで残存することが認められるが、小型で器高が低くなり、すでに客体的な存在となっている。模倣坏は、前段階に比べ、小型ないしは偏平化したものが多くなり、赤彩を施すもの

を主体とするが、無彩、黒色処理の製品が散見しはじめる。また身模倣系のｆ・ｇ、蓋模倣系のｌ等、稜の退化や特異な器形のものや、北総ないしは東北系の坏と考えられるｋ、平底系のａ、埦形坏のｅなどが存在し、全体的にバラエティに富んだ状況となる。須恵器は坏身・坏蓋が存在し、ＴＫ－10型式後半の一部～ＭＴ－85窯資料期に比定することができる。

第６期

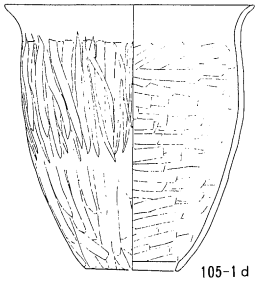
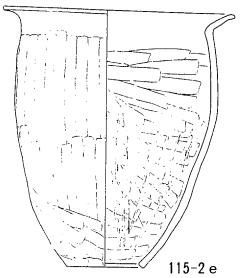
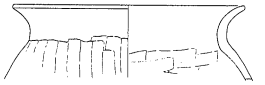
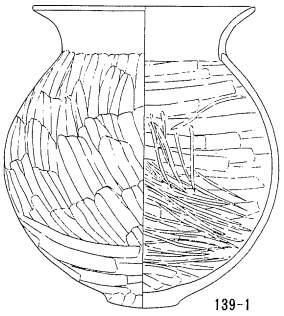
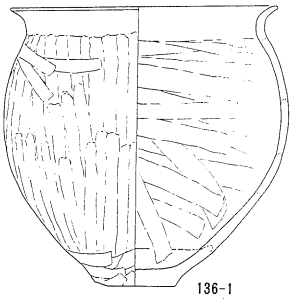
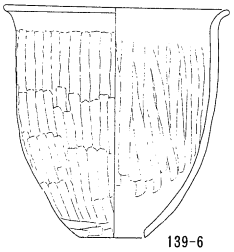
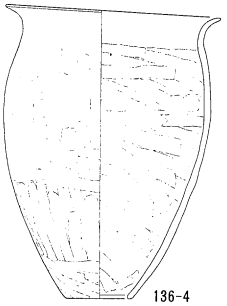
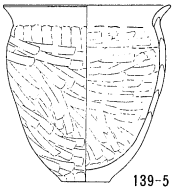
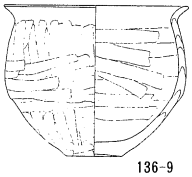
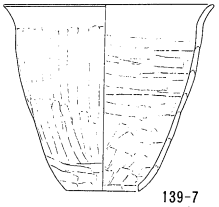
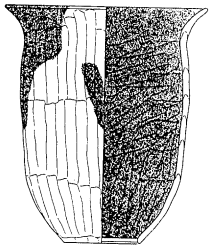
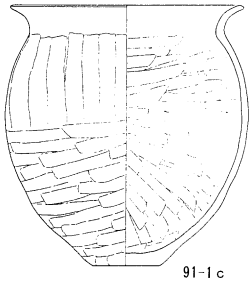
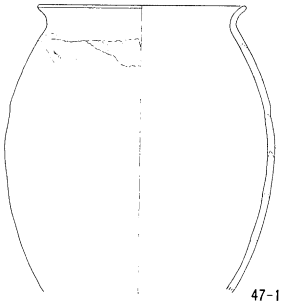
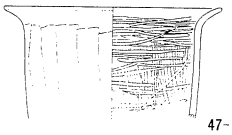
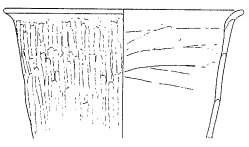
前段階の濾過を通し残存した器種が更に進化した段階と想定され、旧器種が激減し、残存する各器種に新相の様相が多分に認められる。当期に比定できる遺構に25・28・44・78・118・142号遺構が存在する。器種は、長胴系甕ｉ・ｊ、甑ｉ、小型短頸壺ｄ、鉢ｃ・ｅ・ｆ・ｇ、埦ｄ・ｅ、模倣身坏ｈ・ｉ・ｊ・ｋ・ｌ、模倣蓋坏ｉ・ｍ・ｎ・ｏ・ｐ、埦形坏ｅが存在する。

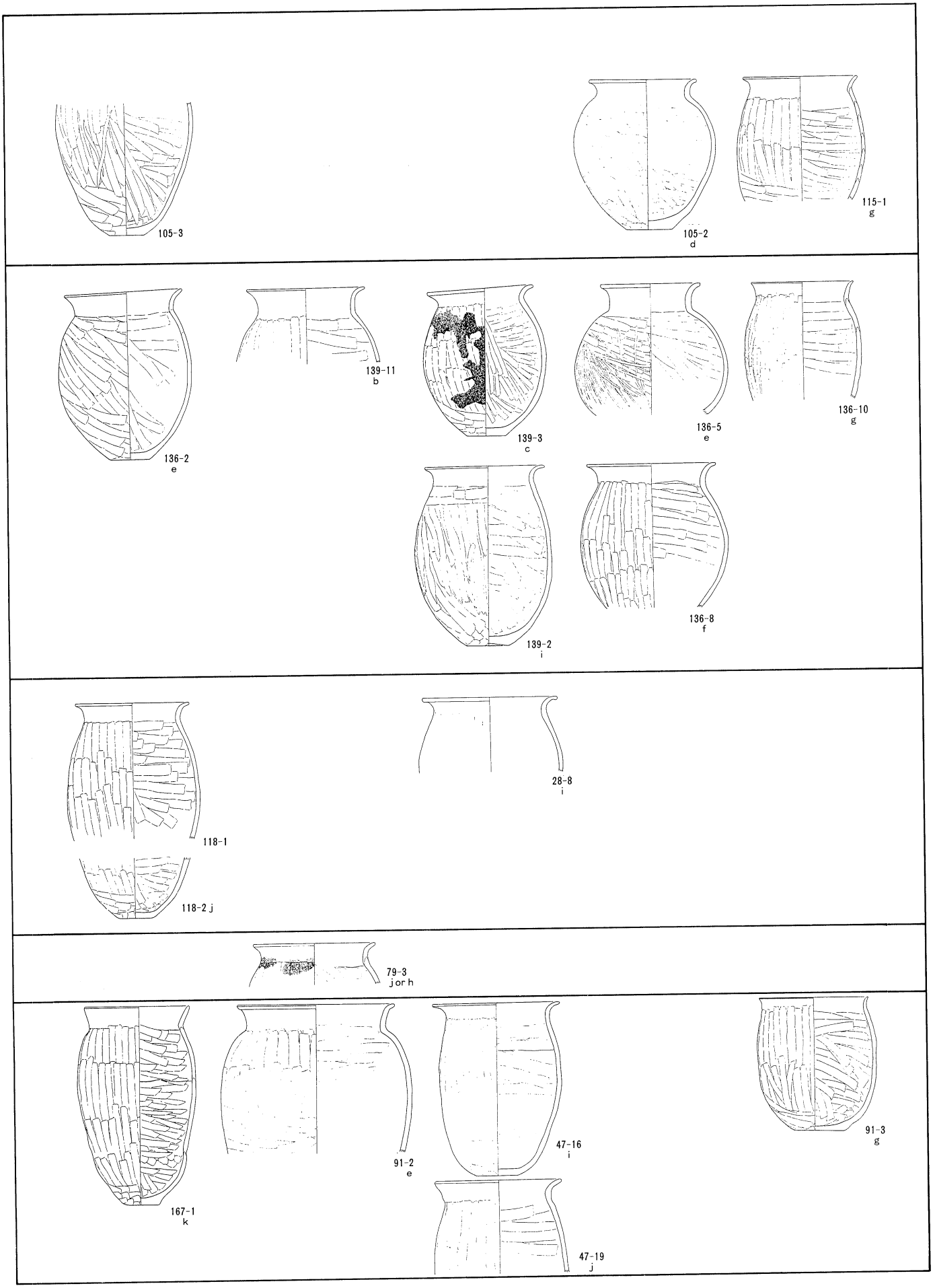
長胴系甕ｉは、この段階となって文字通り長胴化の兆しが認められる。また前段階で縦ケズリとなった球胴系の甕や大型甕の良好資料は認められないが、単なる資料上の問題の可能性もありここでの言及はさけておきたい。甑は、全体に丸味のとれた直線的な形状を呈するｉが存在する。鉢は両段階同様、深鉢系と浅鉢系が存在し、これにｅ類とｆ類が加わってくる。埦は黒色処理が施されたｄと、やや偏平化したｅが存在している。埦形坏ｄはこの段階には確実に消滅しており、前段階より偏平化が進んだ無彩のｅが存在している。模倣坏は蓋、身の両者とも前段階に比べ確実に偏平化しており、ｉの系譜上の製品には赤彩と黒色処理が施された２者が存在している。このほか外来系の土器で、内面にヘラミガキによる放射状暗文を施す有段口縁坏ｐなどが存在している。全体的に赤彩を施すものが消滅し、一部に無彩を含みながらも、黒色処理された製品がその主流となる。須恵器は坏身、坏蓋が存在し、ＭＴ－85窯資料の一部を含み得るＴＫ－43型式新古の二段階ないしＴＫ－209型式の極初期のものにそれぞれ比定でき、これに各器種の形態差等を加えてａ・ｂの小２期に細分することが可能である。

第７期

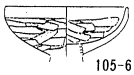
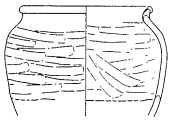
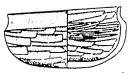
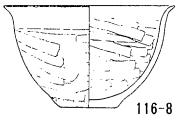
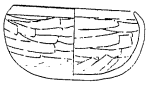
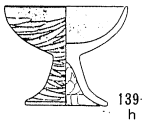
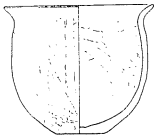
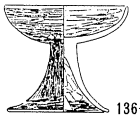
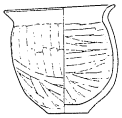
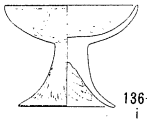
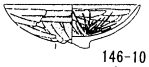
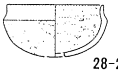
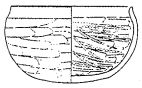
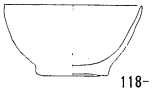
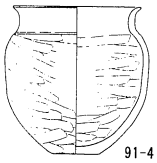
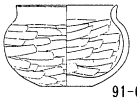
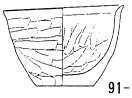
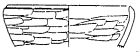
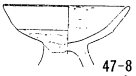
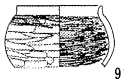
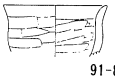
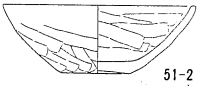
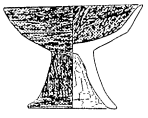
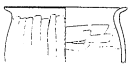
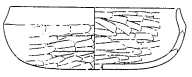
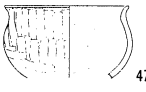
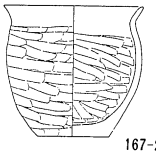
坏形土器が小型偏平化する段階であり、当期に比定できる遺構として47・51・52・91・163・167号遺構が存在する。器種は長胴系甕ｇ・ｉ・ｋ、大型甕ｃ・ｄ・ｅ、甑ｇ・ｉ、小型球胴甕ｃ、深鉢形小型甕ｂ・ｃ、小型短頸壺ｅ、鉢ｄ・ｆ・ｇ・ｈ、埦ｂ・ｅ、模倣坏形大型品ａ、高坏ｊ、模倣身坏ｋ・ｍ・ｎ、模倣蓋坏ｏ・ｑ・ｒなどが存在する。

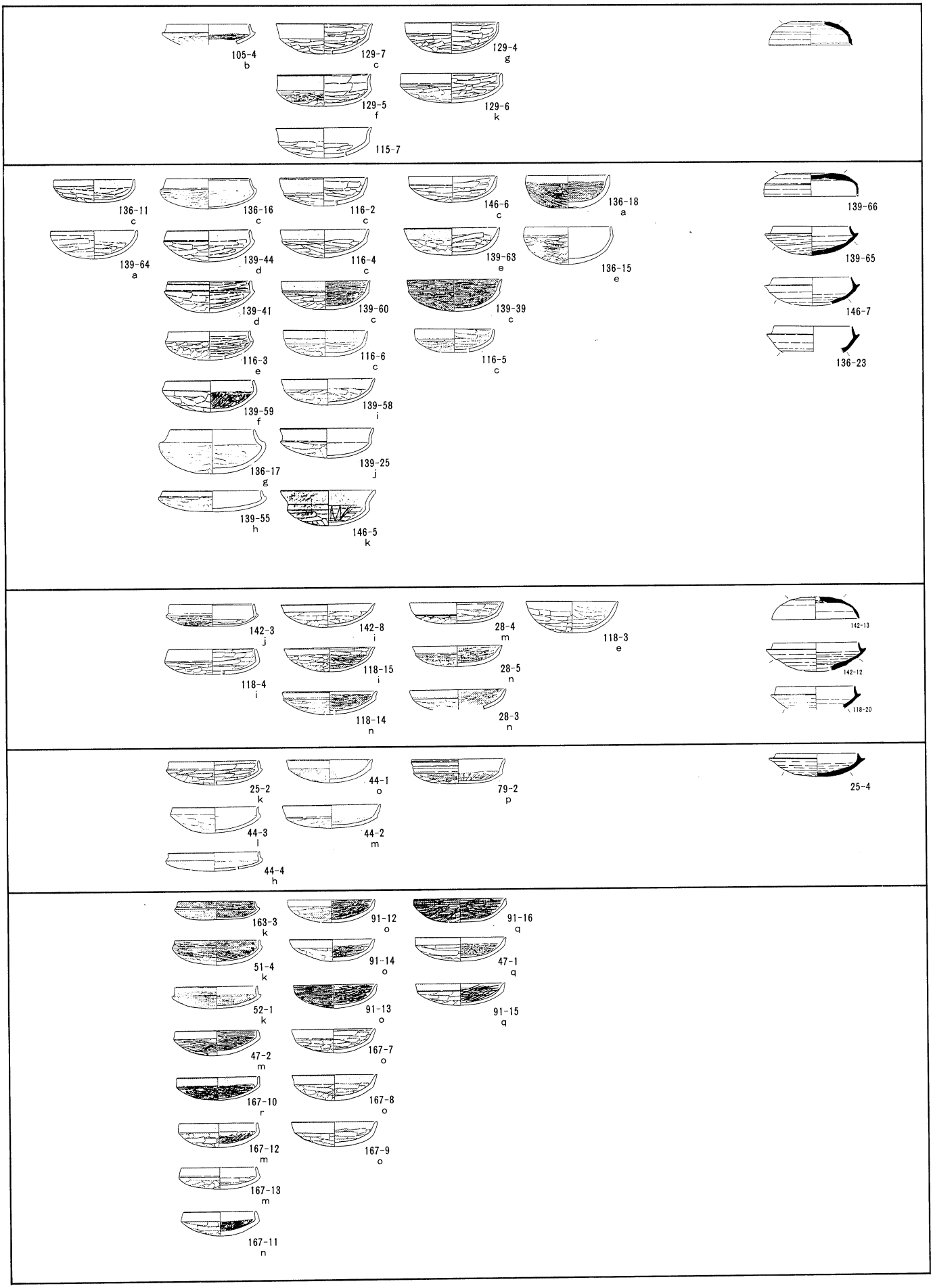
長胴系甕ｇは、口縁部が極端に短く、ｉは胴部の張りがなくなり、いずれも縁部径と胴部径との差がほとんど認められなくなり、ｋは文字通り長胴化している。球胴系甕はこの段階には確実に消滅しており、代わって胴部に張りをもつ大型甕ｃ・ｄ・ｅが存在している。甑は胴部に張りをもたず直線的なｇ・ｉが存在する。小型器種に関しては出土例が増加する傾向が認められ、この中でも浅鉢形土器の大型化が目につく。高坏は赤彩を施した埦形坏部系のものは完全に消滅し、代わって坏部下端に稜を持つ黒色処理系のものが出現している。模倣坏は蓋・身とも前段階に比べ確実に小型偏平化が進み、明瞭な稜を有するものが減少し、稜の曖昧なものが目立つ。またこの段階の坏類は、ヘラミガキと黒色処理を施されたものが主体となっており、167号遺構は、当期でも終末段階に位置付けることができることから、ａ・ｂの小２期に細分することが可能である。

4 - b	 105-1 d  115-2 e
5	 116-1 b  139-1 a  136-1 b  139-6 g  136-4 f 136-7 h  139-5  136-9  139-7 h
6 - a	 142-1 i
6 - b	
7 - a ∫ 7 - b	 91-1 c  47-17 d  47-18 i  51-1 g



第113図　椎津茶ノ木遺跡出土土器変遷図３

4 - b	129-3 a  105-6 c
5	 139-12 b  146-12 c  116-8 c 116-9 d  139-73 c  139-69 h  139-13 b  136-20 i  139-14 b  136-19 i  146-10 i 146-11
6 - a	 28-2 d 118-10 c 118-12 f  118-13 d  118-11 e
6 - b	44-6 g 79-1 e
7 - a ～ 7 - b	 91-4 c  91-6 e  91-11 g 91-10 f  91-9 e  47-8 j  91-7 e  91-8 g  51-2 d 47-6 b  167-6 j  91-5 b 47-11 g 47-14 d  167-4 d  47-13 c 47-10 h  167-2 b



第114図　椎津茶ノ木遺跡出土土器変遷図４

第8期

暗文系の坏が出現し、模倣身坏が極小化する段階であり、土器様式における一つの画期を認めることができ、当期に比定できる遺構として70・159・160号遺構が存在する。器種は甑ｊ、鉢ｃ・ｉ、高坏ｋ・ｌ・ｍ、模倣身坏ｏ、模倣蓋坏ｓ、暗文系坏ａ等が存在する。尚、甕形土器に関しては良好資料に恵まれず、具体的な形状等については不明な点が多い。

甑は前段階に比べ口縁部が発達し、胴部にまったく張りを持たないｉが存在する。鉢形土器には前段階以前におけるｃが器高を減じ、ｄとの中間的な形状になったものや、口縁部が内傾する深鉢的なｉが出現している。高坏には坏部下端に稜を持って直立ぎみにたちあがるｌや、弱い稜を有し開きぎみにたちあがるｍ等が存在している。模倣坏は前段階よりもさらに小型化し、ヘラミガキと黒色処理を施したものが主体となっている。尚この段階には暗文系の坏ａが出現している。須恵器は坏蓋が存在し、ＴＫ－209型式ないしは飛鳥Ⅰでも後半の範疇に比定できるものが存在している。

尚当期も標式遺構である159号と160号遺構間に切り合い関係が認められており、159号遺構がより新しい段階として捉えられることからａ・ｂの小2期に細分することが可能である。

第9期

放射状暗文坏が存在し、模倣坏蓋が形骸化する段階であり、当期に比定できる遺構として、43・161・166号遺構が存在する。器種は長胴系甕ｌ・ｍ、深鉢形土器甕ｂ、小型短頸壺ｅ・ｆ、鉢ｊ、模倣身坏ｐ、模倣身坏ｔ・ｕ・ｖ、暗文系坏ｂ、埦形坏ｅ、平底系坏ｂ、等が存在する。

長胴系甕ｌ・ｍは、胴部≧口縁部の最終段階のもので、特にｌは、最も長胴化し、口縁部＝胴部に近い形状を呈している。尚、甑形土器については良好な資料に恵まれておらず、深鉢形小型甕は前段階と比べ大きな変化は認められない。この他の小型器種としては、埦ｄとの区別が不明瞭な小型短頸壺ｆや、特異な器形の鉢ｊなどが存在しており、いずれにしても前段階における類似器種と対比した場合形骸化した製品となっている。模倣坏に関しては前段階よりもさらに縮少・偏平化が進み、身・蓋とも今だ稜の鮮明なものが存在する一方で、稜の不明瞭化も進み、特に蓋模倣系と考えられるものは稜線の位置が口縁部付近に達する製品が認められる様になる。暗文系の坏には、口唇部から底部に至るいわゆる放射状暗文が施された製品が存在する。尚埦形坏ｅはやや小型化する傾向が認められ、また平底系坏ｂは、模倣坏の系譜上に存在する可能性も残るが、当期前後のみならず出現から消滅に至る模倣坏すべてが、ほぼ丸底を呈していることから、あえて別系の枠内として取扱っている。

須恵器は、天井部の回転ヘラ削りが省略された坏蓋が存在し、前段階に比べ口径が著しく減少する傾向が認められるものの器高がまだ高く、合子形坏蓋終末段階でもその前半代に比定することができる。

第10期

甕形土器の口径が胴部径を上回りはじめ、模倣坏が客体化しはじめると伴に、新たな埦形坏等が主体化する段階であり、当期に比定できる遺構として、27・34・50・162・168Ａ号遺構が存在する。器種は長胴系甕ｌ・ｎ・ｏ、鉢ｋ、模倣身坏ｏ・ｑ、模倣蓋坏ｒ・ｗ、小型埦形坏ａ・ｂ、暗文形坏ｃ・

d、埦形坏ｆ・ｇ、平底系坏ｃ、皿状偏平坏ａ等が存在する。

長胴系甕はこの段階で確実に口縁部≧胴部径へと移行しており、以後の甕形土器の基本形が成立する段階として捉えられる。小型器種では、小型短頸壺はこの段階にはすでに消滅しており、埦形坏との区別が困難な鉢形土器ｋ等が存在している。模倣身坏は前段階よりさらに小型化したｏ・ｑなどが残存するもののすでに客体化しており、蓋模倣坏系に関しては、もはや口縁部と体部を分ける稜が明瞭な製品は存在せず、ｒや口唇部のみナデが施されたｗなどが存在し、この段階において蓋模倣坏は消滅しているものと考えている。

この他放射状暗文坏は前段階に比べ偏平化したｃ・ｄが存在する反面、前段階よりも一廻り大きくなった埦形坏ｅ、及び赤彩が施されたｆが存在する。また新たに内面にヘラミガキと黒色処理を施した小型埦形坏ａ・ｂや模倣坏とは別系統の平底系坏ｃ、底部が丸底ぎみと推定される皿状偏平坏ａが存在し、前段階と比べより明瞭な土器変化の様相を認めることができる。

須恵器は前段階よりも小型偏平化が進み、天井部ヘラ削りが省略された坏蓋と、ほとんどたちあがりを持たない坏身が存在し、合子形坏の最終末段階に比定することができる。

第11期

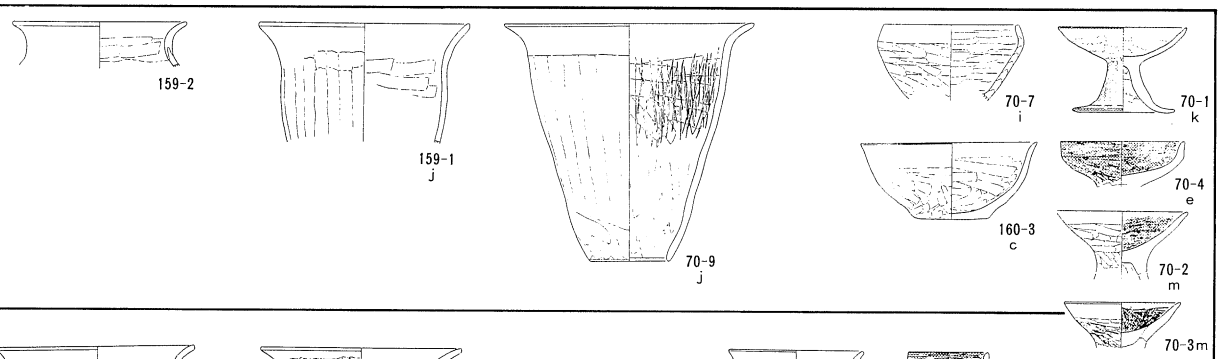
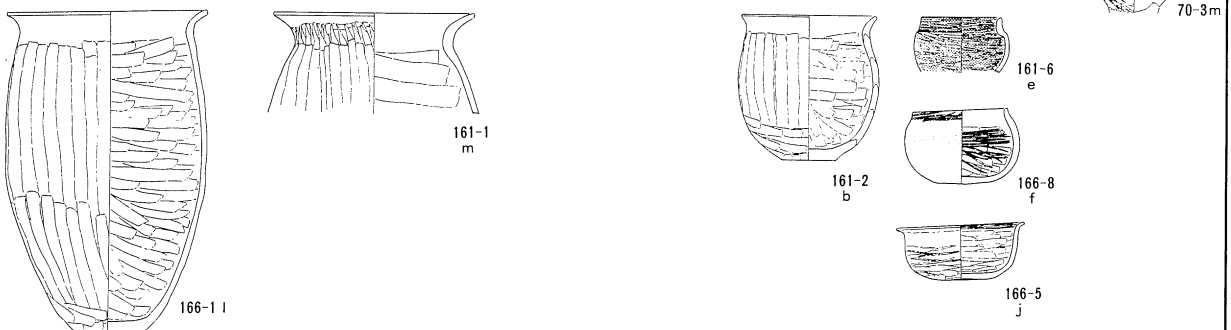
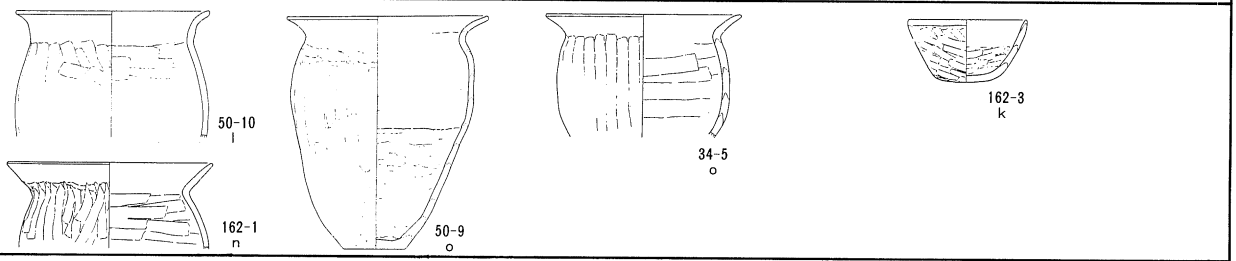
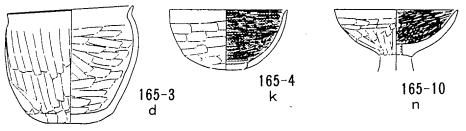
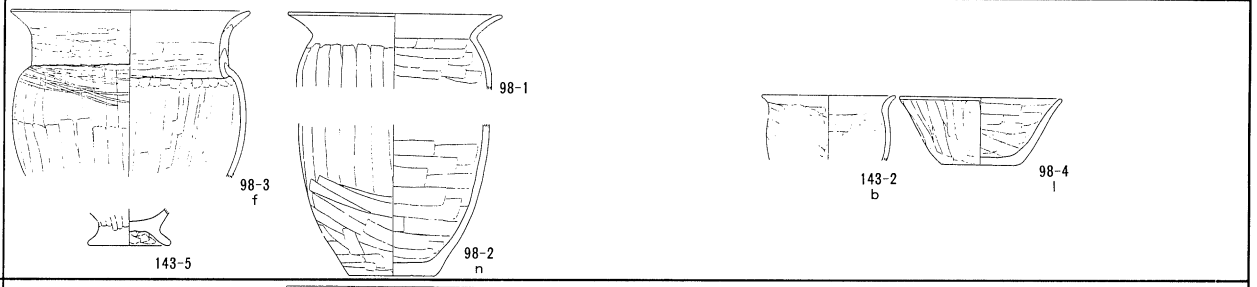
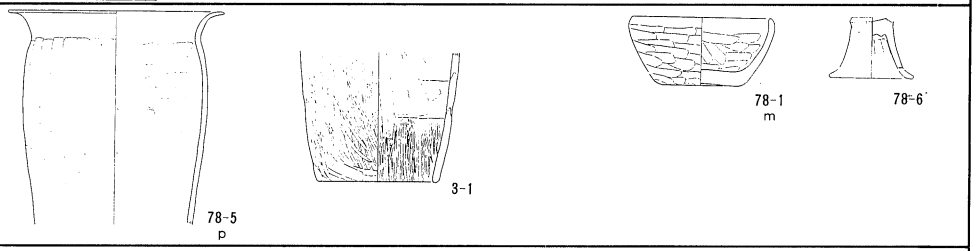
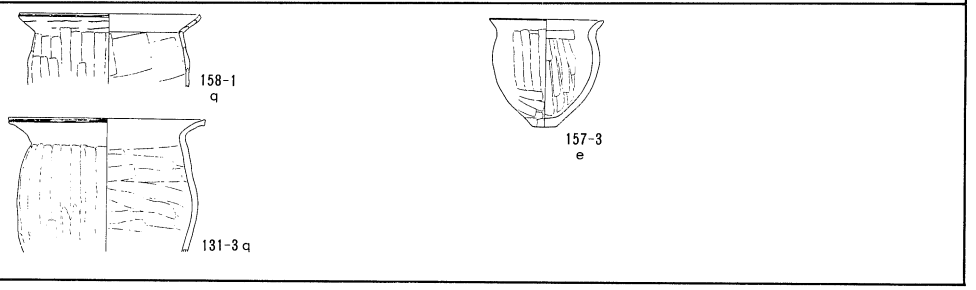
第10期を小ａ期とすれば、その小ｂ期に相当する段階であり、前段階ほどの各器種間における明瞭な土器変化は認められないものの、遺構間の切り合い関係とその存続時間幅の中で、あえて細分できる段階のものであり、当期に比定できる遺構として165－Ａ号遺構が存在する。器種は深鉢形小型甕ｄ、鉢ｋ、高坏ｎ、模倣身坏ｒ、暗文系坏ｃ・ｄ、埦形坏ｇ、皿状偏平坏ｂなどの他に口縁部形状の不明な長胴甕が存在する。

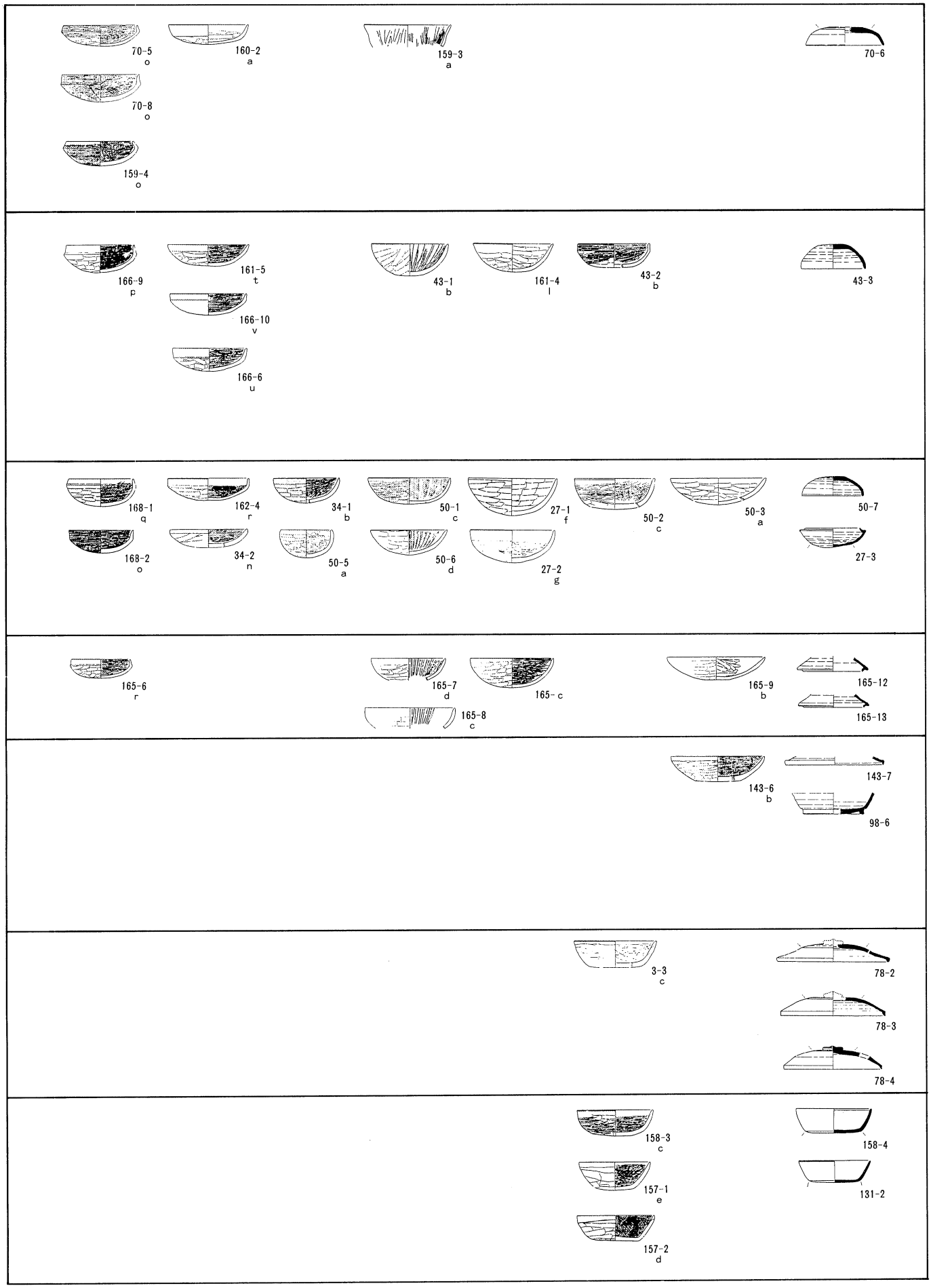
鉢ｋは、内面にヘラミガキと黒色処理が施され、底部が比較的丸く収まるものと推定されることから、埦形坏に近い形状の製品となる。高坏は外面無稜で外反度が少なく、やや深めで埦形に近い形状の坏部を有するｎが存在する。模倣身坏は前段階よりさらに小型偏平化した製品が存在し、当期まで残存することが認められる。埦形坏ｇは前段階よりさらに偏平化し、内外面に黒色処理が施された製品が存在する。皿状偏平坏は小さな平底を呈するｂが存在している。須恵器は第10期の合子形坏と共存しても矛盾のない、つまみ形状の不明な湖西産かと思われる坏蓋２点が検出されている。これらのことを総合的にまとめて見ても第10期との明瞭な画期を見い出すことは非常に困難であるが、模倣坏の最終的残存段階及び165Ａ号遺構の重複関係からあえて第11期と細分しておきたい。

第12期

模倣坏が完全消滅し、長胴系甕形土器の口径が確実に胴部径を上回る段階であり、当期に比定できる遺構として98･143号遺構が存在する。器種は、大型甕ｂ、長胴系甕ｎ、深鉢型小型甕ｅ、鉢ｌ、皿状偏平坏ｂ等が存在し、この他新たに台付甕が出現している。

長胴系甕形土器の形状がほぼ安定化し、鬼高式土器の指標であった模倣坏が完全に消滅すると同時に、前段階の特徴を残した土器群がほぼ一掃され、土器変化の明瞭な画期を認めることができる。須恵器はかえりを持たない大ぶりの坏蓋と底部が突出ぎみとなる高台付坏が認められ、飛鳥Ⅴないしは平城Ⅰとほぼ併行する段階の所産と考えられる。

8	
9	
10	
11	
12	
13	
14-a 〜 14-b	



第115図　椎津茶ノ木遺跡出土土器変遷図5

尚この段階より、今回の調査範囲内においては該当期に相当する遺構が消滅しはじめる傾向が認められる。

第13期

前段階に引き続き該当遺構が少なく良好資料に恵まれていない。当期に比定できる遺構として3・78号遺構が存在する。長胴系甕p、鉢m、平底系坏cの他に底径の広い甑、須恵器蓋等の器種が存在している。全体的な器種構成が少なく問題が残るものの、須恵器蓋の年代観より前段階を含み、なおかつ継続性が認められる段階に比定することができる。

第14期

口唇部が摘み上がる形状の甕形土器が出現する段階で、当期に比定できる遺構として、131・157・158号遺構が存在する。尚、今回の調査範囲内においては第13期との間に明瞭な時期差と断絶が認められる。長胴系甕q、深鉢形小型甕e、平底系坏c・d・eの他、無高台の須恵器坏等の器種が存在している。このほか、157号及び158号遺構は互いに重複関係を有しており、157号遺構の方がその新段階に比定することができる。

第15期

ロクロ土師器が存在する段階で、該当遺構に33・77・89・106・114号遺構が存在する。今回の調査範囲内では、第14期との間に明瞭な断絶が認められるものの、再び遺構数が増加する傾向が認められると同時に、9世紀代でも比較的長期に及ぶ時間差が存在することが認められる。したがってさらに細分することが可能であろう。尚、器種分類は行っていないか、甕・甑・坏・高台付坏・高台付皿等が存在し、甕形土器の1つは、タタキを有しながら還元焼成されていない製品が存在している。

以上古墳時代中期から平安時代に至る標式資料を、土師器を中心として15期(小期を含めると23期)に区分してきた。上記の15段階（小期を含めると23段階）の区分の中には、それぞれ定型・画一化が認められる安定期と、新古の多種・多様な土器群が入り乱れる過渡期が存在し、それぞれの土器変化が編年上のキーポイントとなることは言うまでもない。椎津茶ノ木遺跡の場合は、これに標式遺構間において互いに複雑な重複関係を有しており、互いの土器型式間における微かな差異の中にも年代差があることを教えてくれる。また、各期における標式遺構外にも、その切り合い関係や、その一括性が認められる遺構が多数存在しており、次章ではそれらの遺構も含めて特にその継続性が認められる第14・15期を除いた各期に対して概ねの年代観を与え、集落の変遷を捉えておきたい。

Ⅳ　集落の変遷

(1)　時期区分

前章で13期（小期を含めて20期）に区分された古墳時代中期～奈良時代前半代に比定できる標式遺構出土遺物に対しておおよその年代観を与える前に、椎津茶ノ木遺跡住居跡一覧表における時期区分について説明を加えておかねばならない。今日の発掘成果や諸氏の論考等により、南関東地域における土器型式や時代区分観は、個々個人によって千差万別の状況にあり、今日「真間式」・「国分式」の土器型式名がほとんど使用されなくなった様に、古墳時代前期・中期・後期のそれぞれに対応すると考えられていた五領・和泉・鬼高式土器の型式区分と時期区分観は、再考の段階にせまられている。たとえば、庄内・布留式土器との併行関係の再考を余儀なくされている五領式土器、出現期及び初期須恵器や布留式土器後半の一部との併行関係が考えられる和泉式土器、古墳時代中期のある時点まで遡り得る鬼高式土器の問題等を加えることによって、そうは単純に時期区分できない状況下であると言えよう。

椎津茶ノ木遺跡の場合、古墳時代の時期区分を、便宜上、五領式土器を主体とする前期、和泉式土器と陶邑編年第１型式期終末に相当するＴＫ－47型式期と確実に併行関係を有し、いわゆる鬼高式の古相と呼ばれてきた鬼高式土器成立段階に相当する時期までを中期、模倣坏が主体となる後期、暗文系坏が出現し、飛鳥Ⅰ～Ⅴと併行関係の中で捉えられる終末期の４区分し、それぞれ概ね、４、５、６、７世紀の年代観の中で捉えており、特に古墳時代中期から終末期に相当する時期を検出土師器と重複関係を中心とする細分を試みてきた。そして、これらの土師器と伴出する須恵器については、現状においてその併行性に大幅な矛盾がないと考えられることから、須恵器の年代観を援用した暦年代を各期に与えておきたい。(註1)

尚、須恵器の出現期から古墳時代終末期に至る間の年代観を含む諸問題については、すでに別稿を用意しており、また紙面の都合上詳細に関してはそちらに委ねることとし、今回は第３表を持って代えさせて頂きたい。

(2)　竪穴住居の耐久年数と変遷

今回の分類作業によって得られた成果と、標式遺構間の重複関係及び伴出須恵器によって得られた年代観を第３表にまとめた。須恵器の年代観における定点として、埼玉稲荷山古墳におけるＴＫ－47型式古段階期と辛亥銘鉄剣製作年代とされる471年との関係。527年に没した筑紫国造磐井の墳墓として捉えられ、ＭＴ－15～ＴＫ－10型式期への過渡期が530年頃に求められる福岡岩戸山古墳。ＴＫ－43型式期頃に比定され、587年に建立が開始された飛鳥寺下層の須恵器。飛鳥Ⅱに比定され、少なくともＴＫ－217型式期の新古の二段階に細分し得る川原寺下層及び前期難波宮整地下層ないし朝堂院東回廊出土の須恵器の新段階相当のものが７世紀中葉から第３四半紀の前年代にそれぞれ比定することが可能であろう。(註2)

さて、その定点における年代観を、椎津茶ノ木遺跡における該当期にあてはめてみると、Ⅴ－３－ｂ期に490年代、Ⅵ－４－ｂ期に530年代、Ⅵ－６－ａ～ｂ期に580年代、Ⅶ－９期に630～640年代、Ⅶ－

第3表　椎津茶ノ木遺跡検出遺構時期別一覧表

時期		遺　構
I	縄文	32・92・93・153
II	弥中	59・62・85・87・123・169
III	弥後	6・31・48・53・57・84？・94？・108・117・191
IV	古前	5・82・83・86？・111・126・147？・149？・172

時期			須恵器他	標式遺構○印は建替住居	前後時期の重複関係○印は該当遺構	暦年代	その他遺構
V	1	a	（TK－216古）（中村編年 I－2）	29		440～450	
		b	（TK－216新）	14・145		450～460	
	2	a	（ON－46）	2・130	⑬⓪＜144	460～470	137
		b	（TK－208）	⑭④	⑭④＞130	470～480	
	3	a	TK－23	⑨⑨		480～490	140？
		b	TK－47	⑯④		490～500	80？
VI	4	a	TK－47未～MT－15古	⑧① ・90A・⑩③・⑩⑧	⑩③＜⑩⑧	500～525	151
		b	MT－15新～TK－10古	105・⑪⑤・129	107＜⑩⑤・119＜⑪⑤ $\frac{130}{144}$＜129＜127	525～545	107・150
	5		TK－10新～MT－85古	116・136・⑬⑨・146	144・140・151＜⑬⑨＜142 151＜⑭⑥	545～565	110？
	6	a	MT－85新～TK－43古	28・118・142	⑪⑧＜127・139＜⑭②	565～585	141
		b	TK－43新～TK－209極頭	25・44・79	④④＜47	585～595	127
	7	a	（TK－209古）飛鳥I	47・51・52・⑨①	44＜④⑦、⑤①＜56、⑤②＜56、⑨①＜160	595～605	
		b	TK－209古～新	167	⑯⑦＜166、168	600～610	56
VII	8	a	TK－209新 飛鳥I～	⑦⓪・160	91＜⑯⓪＜159	610～620	
		b	TK－209新～TK－217古 II	159	163・160＜⑮⑨＜161・166	620～630	
	9		TK－217古 飛鳥II	43・⑯①・⑯⑥	159＜⑯①＜162　159・167⑯⑥＜168	630～650	
	10		TK－217新～TK－46初頭 飛鳥II～III	27・③④・50・⑯②・⑯⑧？	159・161＜⑯②　166＜⑯⑧＜165	650～670	
	11		TK－46～TK－48 飛鳥III～VI	165	168＜⑯⑤	670～680	
	12		MT－21 飛鳥V‖平城I	98・143		690～710	
VIII	13		MT－21 平城I	⑦⑧ 3		700～720	
	14	a		131・158	158＜157	8c第3後半	
		b		157	157＜158	8c第4前半	
IX	15			33・77・89・106・114		9c第2～第4	

10期に650～660年代、Ⅶ－11期に670年代の概ね暦年代を与えることができる。さらに標式遺構間の重複関係及び建替例を加えて、定点間を埋めてみると、一つの事実が浮かび上がってくる。すなわち最も遺構間重複例が多い８～10期のうち159号遺構と重複関係にある遺構を例にとると、建替えが行われなかった住居跡の存続年数がほぼ10年、建替えが行われた住居跡の存続年数がほぼ20年という結果が導きだされてくるのである。(註3)そこでこの現象を各期にあてはめてみても、建替えが行われた住居跡がほぼ20年、行われなかった住居跡がほぼ10年という年代幅と各期との関係がうまく符合すると同時に、現状における５世紀代の須恵器一型式に関る変遷年代幅と矛盾することなく、椎津茶ノ木遺跡における古墳時代中期～終末期における竪穴住居跡の耐久年数は10年が一つの目安となっていることを提言しておきたい。しかしながら現状における古墳時代須恵器の年代観については、その出現と終焉をめぐっていまだ定まったものが存在しておらず、特に５世紀代における須恵器一型式期に関る変遷年代幅を長くとる説と短くとる説の二論が並立しており、短くとる説を採用した場合には、ここで導き出された結果も５世紀代に限ってさらに短縮する必要が生じてくるのである。すなわち５世紀代と６・７世紀代では、竪穴住居の耐久年数が大きく異なるという特別な関係を想定せねばならなくなるであろう。したがってここでは、ＴＫ－47以前における須恵器一型式に関る変遷年代幅を比較的長期に捉える説を採用しておきたい。またそうすることによって竪穴住居の耐久年数は、世紀を越えて不変的であることの証明ともなろう。また古墳時代中期～終末期に至る間は、その竪穴住居跡の変遷により、決して無秩序に竪穴住居を構築するのではなく、前段階に存在した住居をある程度意識して構築されたものと推定される。(たとえば145号→130号→144号、44号→47号、51・52号と56号、159～166号に至る間の変遷等)

尚詳細については別稿（市原市文化財センター研究紀要Ⅱ）で論述するつもりであり、今回は縄文時代～平安時代に及ぶ各期の変遷図と第３表を示すにとどめておく。

註１．　須恵器に関しては枚挙にいとまがないほどの論考が存在するが、大阪南部に所在する我国最大級の古窯跡群である陶邑窯に関しては、田辺昭三氏と中村浩氏の詳細な編年案が存在する。両者は論考の差異は、窯式と型式に集約させていると言っても過言ではないが、初期須恵器をはじめとする各型式期に微妙なずれがある。尚本報告書では田辺編年を採用している。

田辺昭三　『陶邑古窯跡群Ⅰ』平安学園考古学クラブ　1966

同　『須恵器大成』角川書店　1980

中村浩ほか『陶邑Ⅰ』『陶邑Ⅱ』大阪府教育委員会1976、1977

中村　浩　「和泉陶邑窯出土遺物の時期編年」『陶邑Ⅲ』大阪府教育委員会　1978

同　『和泉陶邑の研究』柏書房1981

同　『古代窯業史の研究』柏書房1985

同　「初期須恵器の窯跡――近畿地域とくに陶邑窯跡群および――須賀窯跡について――」『考古学ジャーナル259』1986

註２．　定点における暦年代は、諸氏多様の論文があるが、ここでは須恵器出現期と飛鳥Ⅱ期の年代幅を比較的長期に捉えている白石説を参考としながらも自説を展開しておきたい。

白石太一郎『畿内における古墳の終末』「国立歴史民族博物館研究報告第１集」1982

同　『年代決定論（２）――弥生時代以降の年代決定』――「岩波講座日本考古学１研究の方法」1985

尚埼玉稲荷山古墳の辛亥年銘鉄剣とＴＫ－47型式古段階の須恵器に関しては、鉄剣製作年代を471年として捉えており、これが古墳に副葬される間に20～30年程の小期が存在していたものと理解しており、ＴＫ－47型式期古段階の年代を471年を越えない範囲の中で捉えている。

これに熊本江田船山古墳出土銘文大刀及び検出須恵器、宋書倭国伝における倭王武の上表文等を加味して考えれば、少なくとも470年代は倭王武が活躍していた全盛期と見做すことができると同時に、倭王武ないしはそれ以前の倭王と地方に存在するクニとの関係をある程度当時の倭国的規模において推定することができる。

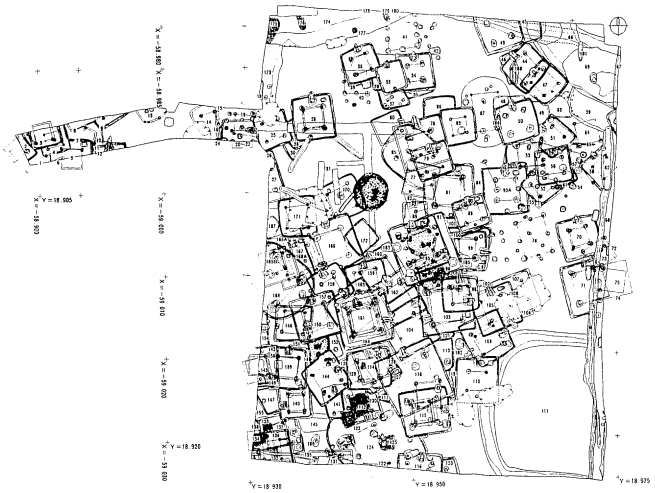
筆者は椎津茶ノ木遺跡における和泉式ではない鬼高式最古段階として茶ノ木編年Ⅴ－２－ａ段階を想定しており、また別稿による他

遺跡との検討結果、房総における鬼高式最古段階併行期須恵器としてＯＮ－46型式期の存在を認定しようとする場合に立つものである。このことは地方窯成立期における最古段階期として、東国における宮城大連寺窯が存在していることをはじめとして、愛知、三重、香川等にこの段階に比定される窯跡ないしはその存在が推定できる古墳等が存在している周知の事実と、宋書倭国伝における倭王武の上表文の倭国統一的内容とがあながち無関係なのではなく、また房総における王賜銘鉄剣の存在等から、少なくとも現状における５世紀中葉段階以降においては、当時の倭国的視野に基づく倭王との関係関連の中で捉えるべき問題と考えるからである。なお余談ではあるが、上表文における「東は毛人を征すること五十五国、西は衆夷を服すること六十六国」は、478年当時における任那を除いた概ね倭国のクニの数であろうことが推定されよう。なぜなら後の隋書倭国伝における「軍尼百二十人有り」や、国造本紀における126程の国造の数からしてもまったく根拠のない数字としてこれを完全に否定することができないからである。

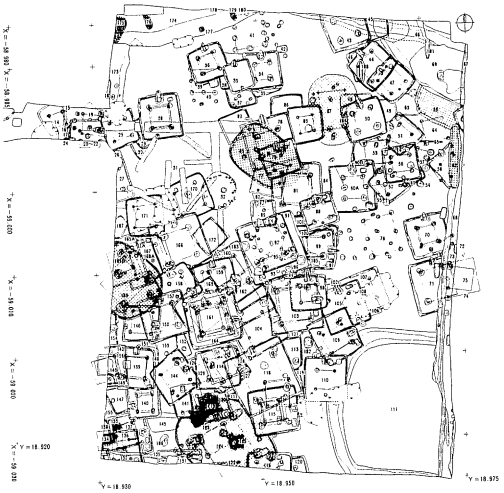
これらのことから少なくとも倭王武に関連する銘文鉄剣・大刀の製作年代のひとつが471年に想定できること、検出須恵器がＴＫ－47型式期に比定できること、銘文鉄剣の使用期間が少なくとも20年ほど存在すること等に、椎津茶ノ木遺跡における竪穴住居跡の重複関係と土器変遷から得られた須恵器定点間との関係を加味して作成したのが第３表である。

およそ当時の倭国的範囲内に分布する倭王関連銘文鉄剣・大刀及び初期須恵器地方窯成立期が、倭王武ないしはそれ以前の倭王の段階、すなわち房総における鬼高式最古段階とほぼ対応し得ること、またこの段階に東国における土師器が、大きな型式変遷を遂げること等の関係は極めて重要であろう。

註３．　各期における住居跡存続年数については、建替えが行われた住居跡とそれが認められない住居跡が各期に存在していることが重要ポイントとなる。結論から先に申せば、茶ノ木遺跡においてこれだけの重複関係を有する理由として、何らかの強い規則が存在していた可能性も考えられないこともないが、これを証明することは困難であり、単に当時の竪穴住居の耐久年数がその程度であったと考える方が理解しやすい。現在博物館の周辺等に古代の竪穴住居が復元されている風景はよく見かけるが、当時の工具（誰もが所有している理由ではない）を使用した一般庶民の家は、現在我々が復元する竪穴住居よりもずっと粗末なものだったのではないかと考えるからである。また８世紀前半代に山上憶良によって詠まれた貧窮問答歌における当時の竪穴住居の様相や、農民のくらしぶりは、律令制度導入以後ではあるが、決して豊かなものではないことを今日の我々に教えてくれているのではないだろうか。



I 縄 文



II 弥生中期

III 弥生後期

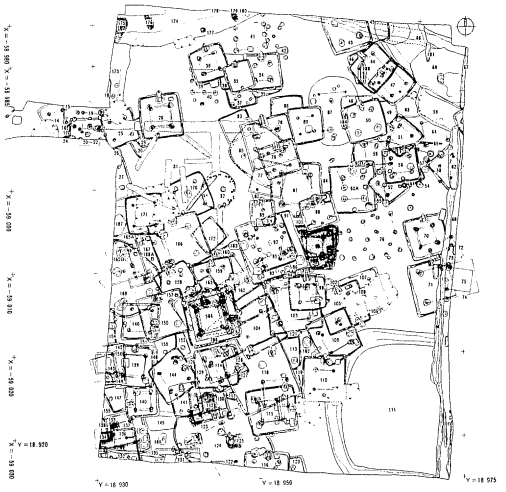
IV 古墳前期

V-1-a

V-1-b

V-2-a

V-2-b

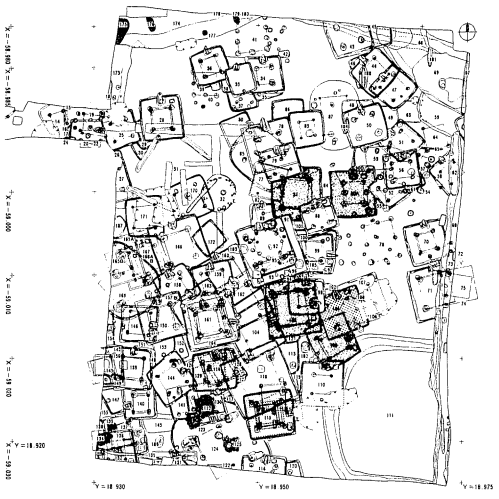


V-3-a

V-3-b

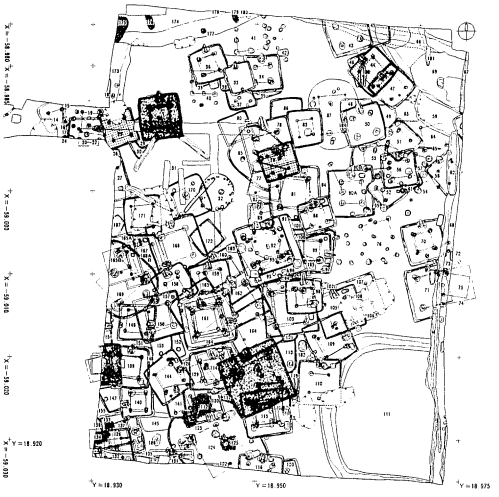
0 10m

第116図　各期における遺構分布図 1



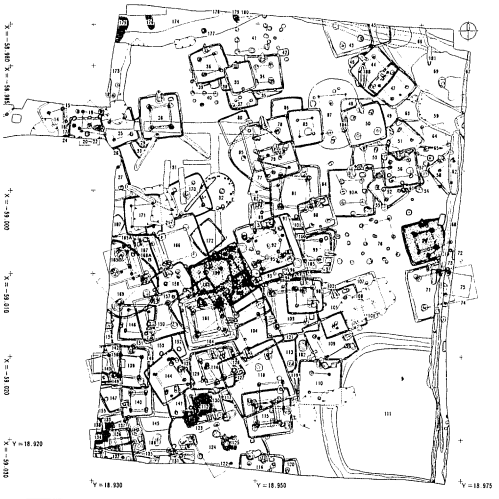
VI－4－a
VI－4－b

VI－5



VI－6－a
VI－6－b

VI－7－a
VI－7－b

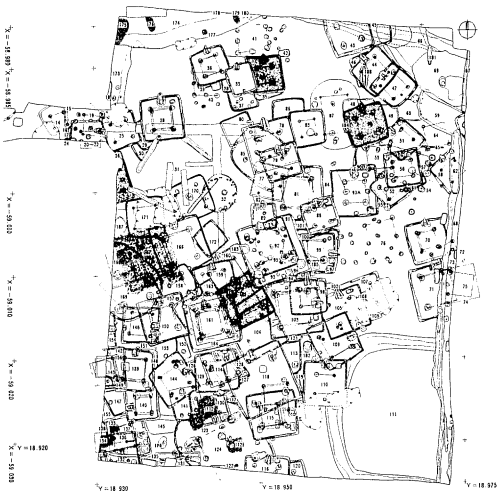


VII－8－a
VII－8－b

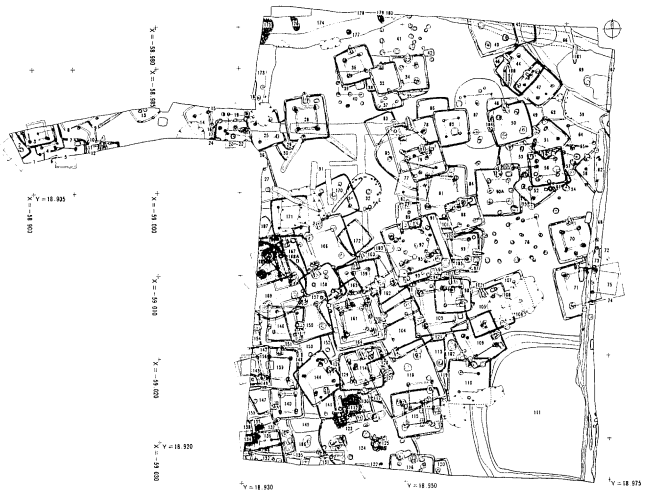
VII－9

0 10m

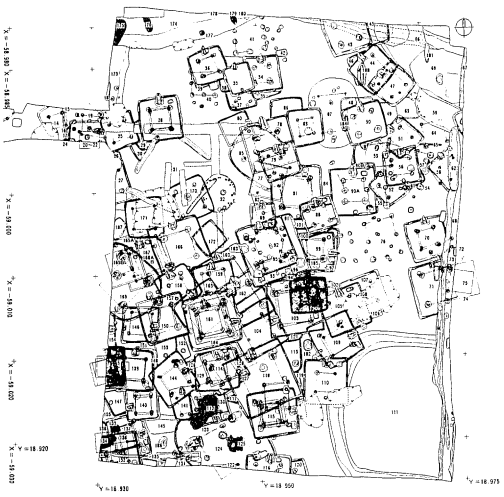
第117図　各期における遺構分布図　2



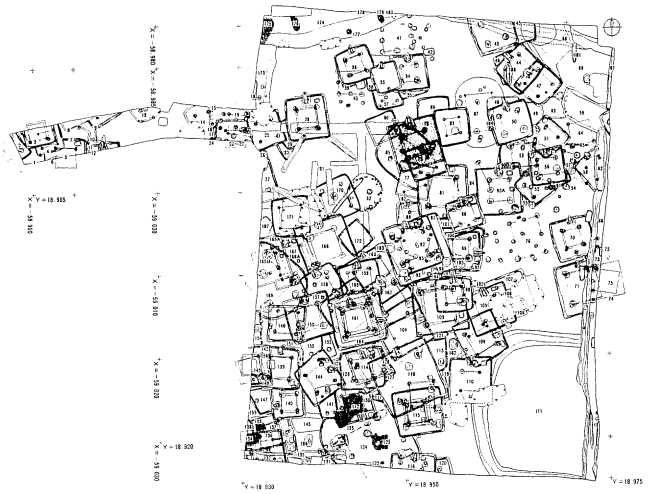
Ⅶ-10



Ⅶ-11



Ⅷ-12



Ⅷ-13

Ⅷ-14-a

Ⅷ-14-b

Ⅸ-15

0 10m

第118図　各期における遺構分布図　3

Ⅴ　ま　と　め

最後に椎津茶ノ木遺跡によって得られた成果を、各時代ごとにまとめておきたい。

縄文時代（Ⅰ期）

32・92・93・153号が存在する。このうち32号を除く遺構は他遺構との激しい切り合いの結果、明瞭なプランが存在せず遺存状況は極めて不良であった。32号は円形プランと炉を有するものの、残存遺物に恵まれてはおらず、また153号遺構は比較的遺物に恵まれていた。両者とも加曽利Ｂ式期に比定できよう。91号及び103号に削平された92・93号は、貼床下より炉と円形を呈して巡る柱穴が検出されるものの、遺物がまったく存在しておらず、具体的な時期等については不明である。この他遺跡内の各所から早期撚糸文系の土器や早期条痕文系の土器等が検出されているものの、全体量は微量である。

弥生時代（Ⅱ・Ⅲ期）

中期末～後期のものが主体であり、53・59・62・85・87・123・169号が中期に6・31・48・57・84？・94？・108・117・171号が後期に比定することができる。このうち中期末葉に比定される123号遺構は、長軸長14m前後を呈するものと考えられる大型住居跡であり、総数6点の琥珀玉が検出されている。この時期における琥珀玉検出例は極めて少なく、特に琥珀勾玉は全国的に見ても本跡の他は銚子市佐野原遺跡2号住居以外には存在していない様であり、また検出土器群についても、北関東系のものが含まれていることなど、佐野原遺跡2号住居と共通する点が多い。

古墳時代前期（Ⅳ期）

5・60・82・86？・111・126・147？・149？・170・172号が存在する。大半が五領Ⅰ式期に比定され、126号は五領Ⅱ式期に相当する。尚当期の所産かどうかは微妙ながら、149号遺構より布留Ⅱ式系に比定できる甕形土器口縁部が出土しているが、胎土に金雲母を多量に含み器壁が厚いことなどから、在地産の製品であろうと推定される。この他126号遺構より、円形の粘土盤炉が検出されている。また147号遺構は、甕と高坏が検出されているが、高坏が比較的新しい時期に比定することができることから、当期に伴う遺構かどうかは不明であるが変遷図では一先づ当期に編入しておいた。

古墳時代中期（Ⅴ期）

第1期　いわゆる和泉式期に相当する段階で、145号はその終末期に比定することができる。a期には29号遺構が存在するが、これをもって和泉式期でも最古期に位置付けることはできない。b期として145号が存在する。尚本構出土の壺形土器内より2合分ほどの炭化米が検出されている。また14号は当期に比定できようか。

第2期　鬼高式土器に移行し、カマドが出現する段階である。甕形土器はすでに長胴化しており、Ⅵ期のものと比べても当期の方が長胴的である。椎津茶ノ木遺跡においてはやや確実性を欠くが、周辺地域においては、すでに須恵器が共伴する遺構が存在する。尚、本遺跡においても遺構に伴うか伴わないかは微妙ではあるが、ＴＫ－216型式～ＯＮ－46型式期に比定できる須恵器は存在する。

第3期　須恵器が確実に遺構に伴う段階で、その後半には模倣坏が出現する。164号出土遺物の中に外来系かと思われる甕形土器が存在しているが、出土状況からすれば上部に存在する161号に伴う可能性の方が強い。

古墳時代後期（Ⅵ期）

赤彩と黒色処理との差異によって前半と後半に大きく分けることができ、その過渡期として6－a期が相当する。模倣坏が盛流し、その前半期は大ぶりなものが多い。また須恵器の出土例も増大し、検出須恵器の大部分がこの段階に集中する。この他外来系の土師器も存在し、前半段階では136号遺構の駿東型甕、146号遺構の北総ないしは北関東系の坏、セット関係が不良ながら141号遺構の比企型の坏などが存在し、後半には79号遺構の有段口縁坏などが存在している。またⅤ期との過渡期として捉られる遺構として103号、Ⅶ期への移行期を示す遺構として167号遺構が存在する。

古墳時代終末期（Ⅶ期）

飛鳥仏教文化ないしは、律令的法治体制と密接な関係を有すると思われる暗文系の坏が存在し、坏形土器が前段階に比べ著しく小型化する段階で、Ⅵ期と比較した場合、土器変化の明瞭な画期を認めることができる。ただし、その存続年数の割に坏形土器においては法量の縮少化以外には明瞭な変化が認められず、甕形土器の方がむしろその形態変化が大きい。尚この段階の終末には椎津茶ノ木遺跡における今回の調査範囲内においては、該当遺構が激減する傾向が認められる。

律令時代（Ⅷ期）

この段階以降を概ね歴史時代の土器として取扱っている文献が多く、模倣坏の完全消滅とカエリの消滅した須恵器蓋、高台付坏などが存在することから奈良時代を中心とする段階であることが認められる。前段階終末期に引き続き調査範囲内における該当遺構は少なく、13期と14期の間にやや隔小期が存在する。その後半段階の157号遺構と158号遺構が重複関係を有しており、現状では158号が8世紀第3四半紀後半、157号が8世紀第4四半紀前半代頃にそれぞれ比定できようか。

平安時代（Ⅸ期）

ロクロ土師器が存在する段階であり、今回の調査範囲内においては前段階との隔小期が認められる。その年代幅は9世紀第2四半紀～第4四半紀頃まで及ぶものと考えられ、検出された遺構間の細分はもちろん可能であろう。その最も後半に属する遺構として114号遺構が存在し、ほぼ9世紀第4四半紀を持って椎津茶ノ木遺跡における竪穴式住居跡は、今回の調査範囲内から消滅する。

おわりに

最後に縄文時代～平安時代に及ぶ竪穴住居跡を検出した椎津茶ノ木遺跡の問題点を抽出しておきたい。

今回の調査における整理作業の結果、古墳時代後～終末期を中心とする時期の竪穴住居跡の耐久年数がほぼ10年前後という結果が導き出された理由であるが、これを古墳時代中期に適応した場合、当

然須恵器の出現期の問題まで及ぶものであろうし、またこれが他の遺跡についても適応できるのかどうかの検討を加えねばならないであろう。また今回の調査範囲前面に存在する椎津稲荷山古墳の墳形も69号遺構との関係如何によっては前方後円墳となる可能性も残している。さらに、古墳時代終末期における竪穴住居跡の激減傾向とこの時期養老川下流域南岸地帯に郡名寺院を伴って移動したと考えられる上海上国造との関係などが存在している。このうち後半の2つについては、今後の隣接地の調査等によってある程度明瞭にすることが出来るであろう。また竪穴住居跡の耐久年数に関しても、当遺跡同様の激しい重複関係を有する遺跡の再検討によってさらに解明されるであろうことを信じて稿を終えたい。

第４表　椎津茶ノ木遺跡住居跡一覧表

○有存　△可能性あり

遺構No.	時　期	規　模（m）	床	柱穴	周　構	貯蔵穴	カマド	炉	火災	建替	その他	遺　物
1	不　明	—	硬～軟	2	—	—	—	△	—	—		甕１．土玉１
床面、Pitのみ検出、２号・３号・４号・５号遺構に切られている。東側に組合せるPitが検出されなかったことから、対応するPitは西側に存在するものと推定される。Ｐ１～５号西壁間に硬化床面あり。												
2	古墳中期	(3.1×1.43)	硬	2	深さ12cm前後	—	△	—	○	なし	床面上に壁材と考えられる 防入りレンガ状遺物あり	甑３、甕１、坏３、（レンガ状遺物）１
東～南側の一部のみ検出。Pit間の間隔から東側を除いた壁際にカマドの存在が予想される。覆土中及び床面に焼土が多量に検出され、火災住居と推定される。												
3	奈　良	3.75×(2.30)	硬	3	深さ10cm前後	—	△	—	○	１回		坏１、甑３、刀子１、紡錘車１
北壁側未調査、北カマドと推定される。覆土中及び床面に焼土、炭化物が多量に検出され、火災住居と推定される。Ｐ６は二重に検出されていることから、建替が行われたものと考えられる。												
4	不　明	(3.1)×3.4	硬	4	深さ５cm前後	—	△	—	—	なし		鉢１、坏１
周溝は部分的に検出、３号遺構に切られており、北カマドと推定される。												
5	古墳前期？	5.1×(1.7)	硬	4	深さ３cm前後	北東コーナー部	—	△	—	１回		甕２
Ｐ12、Ｐ13はそれぞれ重複して検出されたことから、建替が行われたものと推定される。Ｐ13～Ｐ14にかけての床面、及び壁際の周溝内に焼土が認められた。												
6	弥生後期？	(1.67×0.28)	軟？	—	—	—	—	—	—	—		壺２
北東コーナー部のみ検出、５号遺構貼床下に存在。												
7	不　明	(1.7×1.15)	軟	1	深さ15cm前後	—	—	—	—	—		細片のみ
10号遺構を切り、４号・５号・８号遺構に切られる。Ｐ15は削平された他遺構Pitの可能性あり。												
8	不　明	(1.18×3.7)	硬～軟	—	深さ７cm前後	—	△	—	—	—		高坏１、小型甕１
図示のごとく調査したが、断面で貼床及び周溝を捉えている。７号・９号・10号遺構を切る。												

9	不　　明	(1.3×3.8)	軟	3	深さ10cm前後	−	未	−	−	○		坏1、甕1
10号遺構を切り8号遺構に切られる。P17は重複しており、建替が行われたものと推定される。P16は削平された他遺構Pitの可能性があるが、7号遺構内P15とは深さが30cm近く異なるので、対応するとは考えられない。												
10	不　　明	(1.38)	軟	−	−	−	−	−	−	−		甕2、土玉3
東壁のみ検出。ソフトローム層より、13cm程掘り込まれている。5号・7号・8号・9号・11号遺構に切られている。												
11	不　　明	3.6×1.58	硬	−	深さ5cm前後	−	北壁	−	−	−		細片のみ
12号遺構の上に貼床をもって構築。カマド煙道部は北壁より80cm程突出している。カマド袖部は床面より5cmほど突起しているが、耕作攪乱表土層によって、上部の大半を削平されている。火床面は床面より3cm程掘り下がった所に存在し、よく焼けている。												
12	不　　明	3.56×(0.95)	硬	−	深さ7cm前後	−	北壁	−	−	−		鞴羽口1
11号遺構貼床下に存在。カマド内より支脚に転用されたと推定される鞴羽口が検出されている。カマドは、良質灰色粘土を用いて構築。火床面はよく焼けている。												
13	不　　明	(1.7×2.7)	やや軟	3	−	−	−	−	−	−		細片のみ
ソフトロームからの掘り込みは10cm前後。平面形は隅丸ないし、楕円形と推定される。P19以外は本遺構に伴うかどうか不明。												
14	古墳中期	(1.2×1.7)	軟	3	なし	−	−	−	△	−		甕1、甑1、管状土錘1、軽石1（1.6g）
15・16号遺構に切られる。床面が軟弱で炉跡が検出されなかったことから、遺構掘り方面まで下げてしまったか、あるいはカマドが存在していた可能性がある。												
15	不　　明	西壁下端0.6のみ	軟	−	なし	−	−	−	−	−		細片のみ
18号遺構と同一遺構の可能性もあるが、床面レベルの差から、別遺構と判断。												
16	古墳後期	西壁2.35のみ	硬	2	深さ6cm前後	−	−	−	−	−		須恵器（蓋）1、土玉2
P7、P8が相当すると考えられる。床面に粘土ブロックが2ケ所に存在する。19号遺構より新。												

遺構No.	時　期	規　模（m）	床	柱穴	周　構	貯蔵穴	カマド	炉	火災	建替	その他	遺　物
17	不　明	(0.8×0.7)	軟	不明	深さ5cm前後	－	－	－	－	－		細片のみ
22号遺構に切られる。												
18	不　明	東壁2.5	硬	不明	なし	－	－	－	－	－		細片のみ
19	不　明	P4～P6＝2.05 P5～P6＝2.10	硬	3	－	－	－	－	－	－		
P4～P6が相当、16号遺構貼床下より検出。22号遺構より古。P2、P3付近における16号遺構下端検出R状況から、古墳時代前期前後か？												
20	古墳終末	－	硬	不明	－	－	西壁	－	－	－		坏1＜手捏（小型鉢）、支脚1、土玉3、石器2
22号遺構より新、カマドは西側の壁中央部と推定される。壁未検出。カマド東側の硬化した床面直上に遺物が検出されている。												
21	不　明	－	硬	不明	－	－	－	－	－	－		細片のみ
レベル的には173号（道路状遺構？）と同一か。床面かと思われるかなり硬化した面を検出している。現状では、竪穴住居か、道路か判断できない。												
22	不　明	(2.36×3.36)	硬	2	深さ3cm前後	－	－	－	－	－		小型鉢1
25号遺構に切られる。P12、P13が相当か。西壁に位置するカマドは、20号遺構に帰属するものと考えられること、及び床面上に炉跡が検出されなかったことから、東ないし南カマドと推定される。またP13検出（中央）時に、貼床下より、一連のPitが検出され、本遺構より古い遺構が相当数存在するものと推定される。（P13の大半及びP6、P10、P11、P16、P17）												
23	不　明	－	－	3	－	－	－	－	－	－		遺物なし
P9～P11で構成。22号遺構より古。												
24	古墳前期？	(0.5×0.3)	軟	－	深さ15cm前後	－	－	－	－	－		坏1
コーナー部及び周溝の一部のみ検出。												

25	古墳後期	4×4	硬	4	深さ4cm前後	—	削平(北壁)か	—	—	—		小型甕1、甕？1、坏2、須恵器（坏）1、鉄器1、石器1
カマドは攪乱によって削平されている。須恵器（坏）は北東コーナー部で16cm程浮いた状況で検出。												
26	不明	(0.7×0.9)	軟	—	なし	—	—	—	—	—		細片のみ
コーナー部のみ検出。確認面より14cm程掘り込まれている。												
27	古墳終末	(2.24)×4.98	硬	2	深さ5～18cm前後	—	△	—	—	—		坏2、須恵器（坏）1、鉄器2、（釘）1、鉄滓1（4g）
遺構南側(遺物1、2、5検出付近)は攪乱によって特に床面状況軟弱であり、調査が床面以下に達してしまった可能性がある。遺物5は本遺構に直接伴うものとは考えられず、調査終了後トレンチを設定して再調査を実施。												
28	古墳後期	5.14×5.0	硬	11 主柱穴4	深さ10cm前後	カマド右	北壁	—	—	3回		甕6、坏3、鉢2、手捏(埦)2、土鈴2、支脚2、土玉2、鉄器2、(鎌)1、軽石1、骨1
カマド遺存良好。												
29	古墳中期	3.5×(2.5)	硬	—	深さ10cm前後	—	—	△	—	—	—	甕6、大型甕1、小型甕1、高坏1、坩1、深鉢1、土玉1
25号遺構東西コーナー部付近に厚さ13～20cm程の焼土検出。												
30	弥生後期？	(2.13)	軟	—	深さ16cm前後	—	—	△	—	—	—	鉄器1、石器1
西側周溝部のみ検出。												
32	縄文後期	4.55×4.15 (長×短)	軟	33	—	—	—	○	—	—	—	深鉢片8、石器1
炉は中央東寄りに検出、床面中央部はトレンチによって削平。												
33	平安	3.1×3.46	硬	—	深さ10cm前後	—	北壁	—	—	—	—	坏9、甕2、甑1、支脚1、埦？1、瓦1、高台付皿1、管状土錘1、刀子1、砥石1
P1は入口施設に伴うものと推定、中央東側に厚さ15cm程の焼土混入粘土ブロックを検出。												

遺構No.	時　期	規　模（m）	床	柱穴	周　構	貯蔵穴	カマド	炉	火災	建替	その他	遺　物
34	古墳終末	4.3×4.2	硬	8 （主柱穴4）	深さ9～10cm前後	－	北壁	－	－	1回？	－	坏2、甕1、小型甕2、土玉1
カマド両脇のコーナー部が微かにつり上って検出されていることから、主軸が微かに異なる別の竪穴住居と重複している可能性も考えられる。33号貼床下に周溝部残存(未調査)。												
35	不　明	3.35×1.35	軟	2	深さ8～10cm前後	－	－	△	－	－	－	坏1、土玉1
残り主柱穴は34号遺構貼床下に存在するものと推定。												
36	古墳後期	4.0×3.6	硬	8 （主柱穴4）	深さ3.5～8cm前後	－	北壁	－	－	1回	南側に張り出し部を持つ	坏1、手捏（埦）1、刀子1、軽石1（2g）
40号掘立柱建物跡と重複。33号貼床下にコーナー部残存(未調査)。												
37	不　明	(2.2×3.2)	軟	6	深さ12cm前後	－	－	△	－	－	－	高坏1
P20が主柱穴の1つと推定される以外は不明。												
38	不　明	(1.4×0.87)	軟		深さ17cm前後	－	－	△	－	－	－	細片のみ
確認調査時トレンチによって、残存壁部を削平してしまったものと推定される。Pitは33号・36号遺構貼床下に残存か？壁際にP25あり。												
39	不　明	(2.85×0.45)	軟	－	深さ11cm前後	－	－	△	－	－	－	細片のみ
残壁7～10cm前後、ほとんど周溝のみの検出。												
43	古墳終末	(4.7)×5.0	硬	3	深さ10cm前後	－	△	－	－	1回	－	坏2、須恵器（蓋）1、土玉1、鉄滓2（30.4g）
中央やや北側にカマド流出と考えられる粘土ブロックが厚さ5cm堆積。貼床部をはがしておらず、45号遺構主柱穴は未検出。45号遺構を切り、66号遺構に切られる。												
44	古墳後期	4.85×4.5	硬	4	深さ7cm前後	－	北壁	－	－	－	－	坏5、小型鉢1、鉄滓？1(4.5g)
46号遺構を切り、47号遺構に切られる。												

45	古墳後期？	(2.9×1.9)	軟	−	深さ15cm前後	−	△	−	−	−	−	高坏１、土玉１
43号、66号、69号遺構に切られる。床面以下に達する66号遺構底部硬化範囲、及び43号遺構貼床部を掘り下げなかった為、柱穴は未検出のままである。南壁際に厚さ16cm程の粘土が散乱する。												
46	不　　明	(2.55)×3.42	軟	−	深さ10cm前後	−	△	−	−	−	−	土玉１
北西コーナー部付近に厚さ５cm程の粘土ブロックを検出。												
47	古墳後期	4.15×4.5	硬	4	深さ７cm前後	−	北壁	−	−	−	−	小型甕１、甕３、坏７、甑１、高坏２、鉢６、坩１、土玉７、紡錘車１
北西コーナー部付近に厚さ５cm程の焼土範囲を検出、44号、49号、63号遺構を切る。また焼土下より遺物９、11を検出。												
48	弥生後期	3.85×(3.9)	軟	−	−	−	−	△	−	−	−	甕３、壺１、鉢１、石皿１
50号遺構に切られる。87号遺構を切る。												
49	古墳後期	(4.5×5.0)	軟	1	−	−	△	−	−	−	−	坏３、土玉８
図示に至った土玉１以外はすべて細片。47号、50号、51号遺構に切られる。												
50	古墳終末	4.75×4.8	硬	4	深さ15cm前後	−	北壁	−	−	−	−	坏5、甕２、埦１、手捏（埦）４、須恵器（蓋）１、支脚１、土玉４、土製丸玉１、釘？１、凹石１、骨１、鉄滓３(29.5g)
カマド煙道部は比較的長い。48号、49号、51号、53号、87号、184号を切る。												
51	古墳後期	4.87×4.15	硬	4	深さ12cm前後	カマド右脇	西側北壁	−	−	−	−	坏１、甑１、鉢１、支脚１、土玉２、鉄滓２(43.1g)
床面上の一部に焼土、炭化物を認める。49号・53号・57号、63号、64号遺構を切り、50号・56号遺構に切られる。												
52	古墳後期	4.12×3.8	硬	4	深さ８cm前後	東西コーナー部	△	−	−	−	−	坏１
西側北壁中央部付近に、54号遺構Ｐ17に切られているが、カマド煙道部と推定される突出部を持つことから、西側北壁中央部にカマドが存在したものと推定される。53号・55号・61号・90Ａ号遺構を切り、54号・56号遺構に切られる。												

遺構No.	時　期	規　模（m）	床	柱穴	周　構	貯蔵穴	カマド	炉	火災	建替	その他	遺　物
53	弥生後期	－	硬	4	深さ15cm前後	－	－	○	－	1回	－	甕2、壺1、土玉1、抉入石斧1
炉内に五徳的用途に使用したと考えられる壺型土器片が存在する。90A号・90B号・52号・56号・51号・49号　50号遺構に切られる。												
55	不　明	約2.2×2.15 （柱穴間）	－	4	－	－	1	－	－	－	－	遺物なし
52号・90A号遺構貼床下よりPit(P24～27)のみ検出。また、両遺構間の確認面上にも床面と推定される様な硬化範囲は検出されなかった。検出面はハードローム。												
56	古墳後期	4.35×4.35	硬	4	深さ12cm前後	カマド右脇	北壁	－	－	－	－	坏1、高坏1、小型甕1、ミニチュア甕1、ミニチュア鉢1、甕1、壺1、支脚1、土玉2
南、西壁際の一部に厚さ15～20cm程の粘土散布箇所あり。												
57	古墳前期？	P8～P10＝3.7 P9～P10＝3.42	軟	4	－	－	－	○	－	－	－	坏1
51号・54号・56号・58号・61号遺構に切られる。炉火床面はよく焼けている。炉以外覆土がまったく存在せず、明瞭な床面は検出されなかった。検出面はハードローム。尚56号攪乱内にP7（柱穴残痕と推定）の一部を検出している。												
58	古墳後期	(3.65×4.2)	硬	3	深さ10cm前後	カマド右	西側北壁	－	－	－	－	坏1、高坏1、鉢2、鉄滓1（9g）
東側1/2は床面以下に及ぶ68号遺構（道路状遺構）によって削平されている。62号遺構は、60号遺構床面下より検出された溝状遺構とセットで方形周溝墓として捉えられることから、本遺構の方が新しい。 主柱穴の残りは調査区域外に存在するものと考えられる。												
59	不　明	残長5.75	軟	－	－	－	－	－	－	－	－	坏3、高坏1、甕4、壺3、鉢1、手捏1、鉄器2、（釘？1、）鉄滓7（114.7g）
検出面は弥生住居跡掘り方面と推定される。図示した弥生中期の遺物よりも、古墳時代後期前葉の土器量が多く、また比較的新しい時期に比定される1の灯明皿なども検出されることから、本遺構を削平した複数の遺構の存在が考えられるが、明瞭なる床面及び壁などが認められなかった。尚、図中の鉄滓・釘？は未実測。												
60	古墳前期？	(1.4×2.5)	硬	－	深さ8cm前後	－	－	△	－	－	－	高坏1、小型甕1、甕1、壺1、土玉2、管状土錘1
62号（方形周溝墓溝）上の一部に硬化面が認められた。68号（道路状遺構）平坦面より35cm程深い位置で検出されたことから、本遺構の床面の一部と推定できる。												
61	古墳前期？	(1.6×2.15)	軟	－	深さ5cm前後	－	－	△	－	－	－	甕2（細片）
52号・56号遺構に切られる。覆土がほとんど存在しておらず、検出遺物も少ない。												

63	不　　明	(2.5×2.6)	軟	—	—	—	—	—	—	—	—	細片のみ
47号・49号・51号遺構に切られる。住居跡掘り方面の検出と推定されるが、柱穴等は検出されなかった。												
64	不　　明	P15～P16＝2.6 P16～P17＝2.63	軟	3	—	—	—	—	—	—	—	遺物なし
P15、16、17、18によって構成される。確認面はハードローム。本遺構も床面はすでに削平されてしまったものと推定される。												
65	不　　明	残長2.9	—	—	深さ12cm前後	—	—	—	—	—	—	細片のみ
周溝と推定される溝のみの検出。付近に対応する周溝、柱穴等未検出。確認面はハードローム。												
70	古墳終末	4.65×4.46	硬	4	深さ15cm前後	—	北壁	—	—	1回	—	高坏5、甑1、坏2、鉢1、須恵器（蓋）1、軽石1（4g）
遺構東側は68号遺構によって削平。72号・73号遺構と一部重複するが、本遺構の方が新しい。P9は重複しているが、深い方が本遺構入口施設と推定される。												
71	古墳後期	(4.2)×6.2	硬	3	深さ15cm前後	—	北壁	—	—	1回	—	大型甑1、大型甕1、甕1、高坏2、土玉2
カマドはイモ穴によって一部削平されている。P8は入口施設と考えられる。遺構東側は68号遺構によって削平。												
72	不　　明	P9～P10＝3.1 P9～P11＝2.67	—	3	—	—	—	—	—	—	—	遺物なし
P9～P11の3本以上で構成、深さもほぼ均一なことから住居跡Pitとして捉えてよいものと考えられる。残Pitは調査区域外に存在するものと推定される。70号～71号遺構間はハードローム層が露呈しているが硬化しておらず、床面は耕作等によって削平されたものと推定される。												
73	不　　明	P12～P13＝1.76 P12～P16＝2.00	—	3	—	—	—	—	—	—	—	遺物なし
P12、P13、P16は深さがほぼ均一なことから住居跡Pitとして捉えてよいものと考えられる。残Pitは調査区域外に存在するものと推定される。床面未検出。												
74	不　　明	P14～P15＝4.00	—	2	—	—	—	△	—	—	—	遺物なし
P14～P15間中央やや東側に炉跡、火床面が検出されていることから、本跡か75号遺構に伴うと考えられる。残Pitは調査区域外に存在するものと推定される。												

遺構No.	時　期	規　模（m）	床	柱穴	周　構	貯蔵穴	カマド	炉	火災	建替	その他	遺　物
75	不　明	P16～P17＝2.55	－	2	－	－	－	△	－	－	－	遺物なし
74号遺構同様、P16～P17間西側に炉跡火床面が検出されている。												
77	平安時代	(3.98)×4.15	－	－	－	－	北西コーナー	－	－	－	－	甕4
85号床面上に粘土ブロックが検出され、断面に焼土、炭化物が検出されることからカマドと判断してよいものと考えられる。遺構プランは、西南コーナー部の変色範囲を検出したが、0.5cm程しか掘り下げられないことから、掘り方面でも底面部のみの検出と推定される。												
78	奈良時代	(3.4×4.6)	硬	4	深さ12cm前後	－	北壁	－	－	1回	－	甕1、高坏1、鉢1、須恵器（蓋）3、土玉4、軽石2（31g）
5.4×5.6cm程の規模をもつものと推定される。85号遺構と床面レベルがほとんど同一であったが、本跡の床面硬化範囲として捉えられたのは、85号東側周溝外側の範囲のみである。また確認調査時のトレンチによって、カマド及び壁の一部が削平されている。												
79	古墳後期	4.4×4.0	硬	4	－	カマド右脇2	北壁	－	－	－	－	甕1、坏2、鉢1、高坏3、甑1、土玉1、鉄器1、鉄滓2（17.5g）、軽石1（17g）
南側に焼土、炭化物が広範囲に渡って分布している。（厚さ5～10cm程）が、床面まで達しておらず、わずかに間層を挟んだのち焼けている。												
80	古墳後期	3.6×(1.6)	軟	－	深さ6cm前後	カマド右脇	東壁	－	－	－	－	甕1、土玉1
確認調査時にトレンチによって1/2弱を削平、カマド位置から推定して3.6×3.2m程の規模と考えられる。トレンチ内P11は、位置的に貯蔵穴であるものと推定される。また、85号遺構北側において周溝、床面は検出できなかった。												
81	古墳後期	6.2×6.5	硬	6	深さ16cm前後	カマド右脇	北壁	－	－	2回	－	甕1、坏8、土玉1、管状土錘1、釘1、鉄滓1（7g）
77号・88号・89号・91号遺構より古、82号・84号遺構より新。カマド片袖は79号遺構によって削平。												
82	古墳前期	P18～P19＝2.8 P18～P20＝2.55	－	4	－	－	－	△	－	－	－	高坏3、坩1
77号・89号遺構によってほとんど削平されており、検出面は掘り方底面と推定される。												
83	古墳前期	3.95×4.4	軟	4	深さ12cm前後	－	－	△	－	－	－	甕1
中央南側に粘土板状炉と推定される円形の粘土ブロックを検出。火床面は検出されなかった。												

84	弥生中～後期	P24～P26＝3.7 P26～P28＝3.65	軟	4	－	－	－	○	－	－	－	壺３、甕３、鉢２
81号・88号・90号遺構に削平される。81号遺構北東コーナー部付近に地床炉の一部と推定される火床面を検出。												
85	弥生中～後期	6.1×(7.0)	硬	4	深さ20cm前後	－	－	○	－	－	－	壺３、甕３、鉢１
77号・78号・79号・80号・81号遺構に覆土の大半及びそれ以下を削平されている。												
86	古墳前期？	3.8×(2.2)	軟	－	深さ12cm前後	－	－	△	－	－	－	細片のみ
78号・83号遺構に切られている。遺物は細片が多く図示に至らないが、古墳時代前期の竪穴と推定される。												
87	弥生中期	長8.35×短(6.0) 前後	硬	３？	－	－	－	○	－	－	－	甕７、壺４、高坏１、土玉３、刀子１、鉄滓２(37.4g)
変色範囲内よりPitは計11個検出された。長軸方向から推定して、P１～３が主柱穴と推定されるが、いずれもやや浅い感がある。P５、P８は柱穴たる規模を有するが、対応するPitが検出されなかった。変色範囲をもって遺構プランとして捉えたが、P５、P８に対応する未検出Pitが変色範囲外に存在した場合、長軸プランが西側にずれる可能性がある。												
88	古墳後期	4.2×3.85	硬	4	深さ12cm前後	カマド右脇	北壁	－	－	－	間仕切溝４	土玉３、軽石１(32g)
Pit内において外側柱痕跡は81号遺構に帰属。P１～P４の外側から壁に向かって４本の間仕切溝（深さ10cm前後）が存在する。遺物は細片が多く、図示に至るものが少ない。												
89	平安時代	(3)×3.15	硬	－	深さ10cm前後	－	北壁	－	－	－	－	甕２、小型甕１、坏２、高台付坏１、支脚１、土玉１、軽石１（４ｇ）
91号遺構西壁検出作業中に床面を検出。したがって東壁の一部を削平してしまった。カマドは良質粘土を使用し、遺存は良好である。カマド南側から91号遺構にかけての床面は粘土で構築されている。												
90A	古墳後期	5.75×5.55	軟	4	深さ15cm前後	カマド右脇	北壁	－	－	－	－	甕２、小型甕１、高坏10、坏３、土玉１、管状土錘２、土製紡錘車１、管玉１、鉄器１、鉄滓３（62g)、石器１
カマド北側に、90B号遺構とした平坦面と壁立ち上がりを検出する。規模(2.9×0.4)m程遺存。竪穴住居か？												
91	古墳後期	7.35×7.25	硬	12	内深さ15cm前後 外深さ12cm前後	カマド右脇３ 東南コーナー部１	北壁	－	－	１回	－	甕５、小型甕５、鉢３、坏８、坏？４、高坏４、須恵器(杯)１、土玉14、管状土錘２、鎌１、偏平勾玉１、有孔円盤１、石１、軽石４（９ｇ）
カマドは北壁中央やや西側に存在。４本柱穴から、８本柱穴へと拡張が行われたものと考えられる。89号遺構床面粘土散布状況から北壁中央部にカマドが存在するものと推定されたが、中央部にカマドは存在せず拡張に伴いカマド移築は行なわれなかったと考えられる。貼床下の一部より92号～93号遺構の炉跡検出。P12上に粘土Bが厚さ20cm程検出されている。												

遺構No.	時　期	規　模（m）	床	柱穴	周　構	貯蔵穴	カマド	炉	火災	建替	その他	遺　物
92	縄　文　？	－	－	10	－	－	－	○	－	－	－	遺物なし
91号遺構清掃中炉跡を検出して判明。検出Pit(1～10)より円形を呈するものと考えられる。炉はほぼ中央に位置し、火床面はよく焼けている。91号遺構貼床部を全面掘り下げていないので詳細不明。												
93	縄　文　？	－	－	16	－	－	－	○	－	－	－	遺物なし
91号遺構清掃中、炉跡を検出して判明。検出PitはP11、P16平面プランは円形と推定。炉はほぼ中央に位置し、火床面はよく焼けている。91号遺構貼床部を掘り下げていないので詳細不明。												
94	弥生後期	(2.65)	軟	－	－	－	－	○	－	－	－	甕2、壺4、鉢1
91号・97号・98号・103号遺構に削平され、ショートケーキ状に遺存。出土遺物から弥生後期の竪穴として捉えられる。P17～P20で構成される95号遺構、P21～P24で構成される96号遺構のいずれかが主柱穴となる可能性もある。炉は91号遺構清掃中に検出し、P11(93号遺構)より新しい。												
95	不　明	P16～P20＝4.15 P17～P18＝3.05	－	4	－	－	－	△	－	－	－	細片のみ
4本検出した主柱穴から、南北方向に長い隅丸～楕円形プランの竪穴の存在が考えられる。本遺構P20の位置及び94号遺構残存壁との関係から、94号遺構主柱穴となる可能性は少ない。												
96	不　明	P21～P24＝2.8 P21～P(22)＝3.8	－	4	－	－	－	△	－	－	－	細片のみ
4本検出した主柱穴から、東西方向に長い隅丸～楕円形プランの竪穴の存在が考えられる。94号遺構炉との関係から94号遺構主柱穴となる可能性は弱い。												
98	奈良時代	4.4×4.0	硬	4	深さ15cm前後	－	北壁	－	－	1回	－	甕3、小型甕1、鉢1、須恵器（高台付坏）1、土玉3、管状土錘2、刀子2、鉄滓2（23.5g)、軽石2（4ｇ）
103号遺構の上に貼床をもって構築。カマド煙道部がやや長い。												
99	古墳中期	5.45×(3.4)	硬	4	深さ7cm前後	カマド右脇2	東壁	－	－	－	－	甕3、小型甕2、坏6、甑2、埦1、高坏？2、高坏5、須恵器（蓋）1、支脚1、土玉3
100号・185号遺構の上に貼床をもって構築。遺物はカマド内～前面にかけて集中的に検出。91号遺構によって西側は削平される。また、本遺構貼床は一部を除いて掘り下げていない。												
100	古墳前期	4.8×(4.2)	－	4	深さ7cm前後	－	－	△	－	－	－	甕（細片2）、土玉1
99号遺構貼床下より周溝検出。周溝内よりハケ整形の甕形土器胴部片2及び土玉1/2以上欠が検出されている。99号遺構貼床部を全面除去しておらず詳細不明。あるいは99号の古段階、建替前の遺構の可能性も考えられる。												

101	古墳前期	(3.8)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	細片のみ
100号遺構調査中に周溝のみ検出。周溝東端部より88号遺構の方へ展開する竪穴と推定される。周溝内より磨耗した土器片3点検出。												
103	古墳中～後期	6.3×6.7	硬	4	深さ12cm前後	カマド右脇	東壁	—	—	2回	—	甕4、小型甕1、坏2、高坏15、手捏（埦）3、須恵器（甌）2、土玉5、鉄器2、磨石1、種子1
98号・104号遺構の貼床下より検出。カマドは東壁中央に位置するが、98号遺構Pitによって一部削平されている。												
104	古墳後期	5.8×5.85	硬	4	深さ16cm前後	—	東壁	—	—	—	—	甕3、坏3、高坏2、鉢2、須恵器（蓋）1、支脚1、土玉10、管状土錘1、軽石1（4g）
103号遺構の上に貼床をもって構築。118号・162号遺構に一部削平されている。												
105	古墳後期	5.35×5.2	硬	3	深さ4～13cm前後	カマド右脇	北壁	—	—	—	—	甕2、甑1、坏2、高坏1、須恵器（蓋）1、土玉8、管状土錘1、刀子1、鉄滓1(24g)、軽石1（1g）
98号遺構に切られ、107号・109号遺構を切る(109号遺構の上に貼床をもって構築されている)。攪乱によって大きく削平されている。南壁際にＰ7、Ｐ8が存在するが、本遺構に直接伴うものではない。												
106	平安時代	(1.3×0.5)	軟	—	深さ17cm前後	—	△	—	—	—	—	坏4、須恵器片1
108号遺構床面に達しない位置にカマドが存在したものと推定されるが、攪乱によってほとんど削平されている。												
107	古墳後期	4.35×(0.8)	軟	2	深さ12cm前後	—	△	—	—	—	—	甕1、坏4、支脚2
攪乱によってほとんど削平されている。北側にカマドが検出されなかったことから、東カマドと推定される。105号遺構に切られている。												
108	弥生後期	—	軟	—	—	—	—	△	—	—	—	壺？1、鉢4
106号遺構床面以下に遺構プランが検出されなかったことから、攪乱内に収まる規模の比較的小さな竪穴と推定される。												
109	古墳後期	5.75×5.0	硬	8	深さ12cm前後	カマド右脇1 西南コーナー1	東壁	—	—	1回	—	小型甕1、甑1、坩1、坏1、高坏4、鉢？2、須恵器(蓋)1、支脚1、土玉9、管状土錘3、鉄滓1(6.5g)
カマドは東壁中央やや南よりに存在。Ｐ15～Ｐ17は本遺構に直接伴わない。105号・110号遺構に切られる。カマド右脇、貯蔵穴内より坩と支脚が検出されている。												

遺構No.	時　期	規　模（m）	床	柱穴	周　構	貯蔵穴	カマド	炉	火災	建替	その他	遺　物
110	古墳後期	5.35×5.4	硬	3	深さ10cm前後	カマド右脇1	北壁	－	○	－	－	甕3、小型甕1、甑？1、坏4、高坏2、埦1、支脚1、土玉9、釘？1、鉄滓2(25g)、軽石6(18.5g)
南側の攪乱により一部削平されている。109号遺構の上に貼床をもって構築されている。焼土及び炭化物が多量に検出され、火災住居と推定される。												
113	古墳中期？	(3.5×0.4)	軟	－	深さ10cm前後	東南コーナー部	△	－	－	－	－	甕2、坏3、土玉5、鉄滓1(100g)
121号遺構との新旧関係不明。118号・119号・104号遺構に切られる。図示甕形土器からすれば、古墳時代中期の所産と考えられるが、東南コーナー部が比較的丸くおさまっているので、古墳時代中期以前に遡るか、中期でも比較的古い段階で南カマドの可能性がある。												
114	平安時代	2.5以上 (4×4)か	－	－	深さ6cm前後	カマド右脇	北壁	－	－	－	－	甕1、坏1、高台付坏1、支脚1、軽石1(4.4g)
無柱穴の竪穴と考えられる。また規模の割に比較的りっぱなカマドを保持しているが、これは下層に位置する127号・128号・129号遺構いずれかのカマドと重複していた為と考えられる。(調査中に火床面と思われる焼土範囲を3枚検出したが、1枚目は本遺構の天井部2枚目は覆土と判断して掘り下げてしまった為)したがって図示火床面は127号～129号遺構のいずれかに属し、最初の火床面(袖上端より10cm程下に存在)が本遺構に伴うものと考えられる。												
115	古墳後期	5.5×5.5	硬	20	深さ13cm前後	カマド右脇 及びPit 8	東壁	－	－	4回？	－	甕1、小型甕1、甑1、坏1、高坏2、須恵器（瓶）1、支脚1、土玉9、鉄滓3（144.4g)、軽石4(7g)、石器4
P3、P4、P5、P6外側は床面において検出。連結する他Pitはすべて床面下より連鎖反応的に検出。P8が貯蔵穴的に長方形を呈することから、古い時期の他住居跡がすっぽり入っている可能性も考えられる。												
116	古墳後期	5.3×(2.1)	硬	2	深さ17cm前後	カマド右	北壁	－	－	－	－	甕1、小型壺1、坏6、鉢2、須恵器（高坏）1、支脚1、鉄滓1（64g)
P12～P13に対応する柱穴は調査区域外に存在するものと推定される。カマド左側周溝部分は、123号遺構柱穴と重複しており、明瞭な範囲、底面は確認できなかった。120号遺構を切る。												
117	古墳前期	(0.8×4.6)以上	硬	－	深さ16cm前後	－	－	△	－	－	－	甕1、壺2、埦1、深鉢1
115号・118号・130号遺構に切られ、123号遺構床面上に貼床を持って構築されている。北壁の一部と残存床面硬化範囲のみ検出で、明瞭な遺構プランは検出できなかった。北壁残長0.8m床面残存長4.6m以上、検出される土器から古墳前期の竪穴住居跡と推定される。												
118	古墳後期	7.4×7.5	硬	4	深さ18cm前後	－	北壁	－	－	－	－	甕2、坏9、高坏2、埦1、鉢3、土玉9、須恵器（甕）1、（蓋）1、（坏）2、軽石1(24.0g)、臼玉2、鉄器（毛ぬき型）1、鉄滓1(9g)
P20～P23は、それぞれ組合せるPitが検出できなかった。このうち、P20とP23は本遺構より新、P21及びP22は本遺構より古い。104号・113号・115号・117号・119号・129号遺構を切る。114号遺構に切られると考えられるが、114号遺構の明瞭なる壁立ちあがりはカマド右脇の北壁以外検出されていない。												
119	古墳後期	(5.26×0.5)	－	8	一部あり 深さ8cm前後	－	東壁	－	－	1回	－	甕2、坏3、手捏1、土玉2、鉄器1、軽石2(8g)
110号・115号・118号遺構にほとんど削平されている。												

120	不　　明	(2.1×1.35)	軟	2	深さ14cm前後	−	−	−	−	−	−	鉄滓４(579.5g)
検出された遺物は鉄滓４点のみで、明瞭な時期確定困難。Ｐ28は116号遺構硬化床面下より検出。平面形から古墳時代前期以降の竪穴と推定される。												
121	古墳中期？	(1.85×0.55)	軟	−	深さ12cm前後	−	−	△	−	−	−	細片のみ
103号、104号遺構に削平される。113号遺構との切り合い関係不明。103号遺構に切られていることから、古墳時代中期以前の遺構と推定される。												
122	奈良時代	(2.9×0.55)	軟	−	−	−	北壁	−	−	−	−	甕２
カマドと推定される粘土ブロック及び２点の甕形土器より住居跡と推定される。壁立ち上り及び周溝不明。土層断面における粘土粒散布範囲を本遺構推定壁付近として捉える。また粘土ブロックの断面を観察すると全体的に焼土粒、山砂、粘土ブロックが散布しているが、明瞭なる袖部を確認できなかった。												
123	弥生中期末	長軸長(13.0)前後	硬	3	深さ20cm前後	−	−	○	−	−	−	甕31、壺９、甑１、鉢３、高坏１、手捏（埦）１、土玉３、砥石玉１、敲き石１、琥珀垂玉３、琥珀勾玉３、軽石２(23.9g)、鉄滓13(473.55g)、骨45、人歯２
主柱穴の１つは調査区域外に存在するものと推定、柱穴はいずれも柱ぬき取り状の痕跡を有し、階段状を呈している。炉は６点のレンガ状遺物（粗であるが支脚のごとく粘土を焼きあげた物）によって囲まれており、内部より焼けた骨や人間の歯２点が検出されている。また床面より約10cm程浮いた状況で、鍛造剝片集中範囲（124号遺構に伴うか？）を検出している。また６点の琥珀玉が検出されている。												
124	不　　明	Ｐ７～Ｐ８＝3.37 Ｐ６～Ｐ８＝2.44	−	4	−	−	−	−	−	−	−	細片のみ
Pitのみの検出。明瞭なる床面不明。123号・125号遺構より新、炉、カマドは未検出。123号遺構床面より約10cm程浮いた状況で検出された鍛造剝片集中範囲は本遺構に伴うものと推定。												
126	古墳前期	(1.05)北壁 (0.45)南壁	硬	4	深さ10cm前後	−	−	△	−	−	−	甕２、坏１、高坏２、坩１
129号・130号・141号・144号遺構に削平される。141号遺構北側に検出された南壁の一部から推定して、一辺４ｍ前後の方形を呈するものと考えられる。												
127	古墳後期	4.6×4.1	軟	4	深さ８cm前後	西南コーナー部	△	−	−	−	−	甕５、坏２、須恵器（蓋）１、(坏）１
118号遺構貼床下より検出。Ｐ５～Ｐ８が主柱穴と推定される。またＰ９は本遺構の貯蔵穴と考えられる。114号遺構カマド下層部分(袖の下面)が本遺構に直接伴うものと推定される。床は軟弱であるが、129号遺構(火災住居)焼土面をほぼ平坦に削平して構築されたものと考えられる(第54図)。遺物№１の甕形土器は129号遺構に伴う可能性の方が強い。Ｐ９覆土中より、４・５の須恵器検出。												
128	不　　明	(3.8×1.25)	軟	3	深さ６cm前後	東南コーナー部	△	−	−	−	−	甕１、土玉４
127号遺構床面より12cm程下がって存在する。Ｐ13は118号遺構Ｐ16と同一であり、すでに削平されたものと考えられる。覆土中より弥生甕形土器を検出するが、本遺構の半面プランより直接伴うものとは考えられない。												

遺構№	時　期	規　模（m）	床	柱穴	周　構	貯蔵穴	カマド	炉	火災	建替	その他	遺　物
129	古墳後期	5.05×4.65	硬	4	深さ10cm前後	－	△	－	○	－	－	甕２、坏４、鉢１、土玉10、軽石１（2g）
P15～P18主柱穴、127号遺構によって覆土の大半を削平されて存在する。焼土が床面のほぼ全域にわたって検出され、床面は２次加熱によってボロボロになっている。カマドは北壁に構築されていたものと推定されるが、114号遺構調査時に３枚の火床面を検出したが最下層まで掘り下げた為、第54図図示火床範囲は最下層に相当するもので本遺構に直接伴うものと推定される。												
130	古墳中期	(3.95)×4.55	硬	4	深さ10cm前後	カマド左脇	南壁	－	○	－	－	甕10、甑１、小型甕１、坏15、高坏４、鉢１、手捏４、手捏（鉢）１、（埦）１、支脚３、管状土錘１、土玉48、刀子１、管玉１、種子２、軽石４
上層に112号貝ブロック、遺構北側に土器密集地点が存在する。床面上のほぼ全域に亘って焼土炭化物が大量に検出され、床面は２次加熱によってボロボロになっており、火災住居と推定される。												
131	奈良時代	(1.67×5.35)	硬	2？	△	－	北壁	－	－	－	－	甕４、須恵器（坏）１
135号遺構及び攪乱によって、大幅に削平されている。推定遺構範囲内に柱穴２基を検出するが、位置的に本遺構に直接伴うものかどうか不明。123号遺構の上に一部貼床面をもって構築されている。調査区域南側上層断面及び、123号遺構上層中に深さ８cm程の周溝の一部を検出する。												
132	不　明	(2.35×4.2)	硬	－	－	－	北壁	－	－	－	－	須恵器（高坏）１、土玉１
調査区域南側の一部に壁面の一部を検出。136号遺構覆土上層に貼床をもって構築。覆土中より古式須恵器片を検出するものの、下層に位置する136号遺構との関係から、本遺構に直接伴うものとは考えられない。												
136	古墳後期	4.64×(4.0)	硬	4	深さ６～12cm前後	カマド右	西壁	－	○	－	間仕切溝深さ10cm前後	甕８、小型甕１、甑１、坏10、高坏３、支脚１、須恵器（蓋）２、（坏）１、土玉５、鉄滓１（8g）
調査区域西南コーナーにおいて検出。貯蔵穴と推定されるP７付近は、床面平坦部に比べ４cm程高くなっており、壁際に№３甕が検出されているが、134号ＫＢではなく本遺構に伴うものと考えられる。また遺物の多くは床面密着から直上で検出されており、ほぼ本遺構に直接伴うものと考えられる。P11、P14は貼床硬化面下からの検出。尚、須恵器№21は137号に伴う可能性強。												
137	古墳中期	4.72×(3.95)	硬	16	深さ８cm前後	カマド右２	東壁	－	－	３回？	P17は梯子状Pitと推定される。	甕１、坏９、高坏２、土玉６、管状土錘１、刀子１、用途不明鉄製品１、臼玉１
P９～P12の結線ライングループとP13、P14を含めた結線ライングループが存在し、P13グループはいずれも床硬化面下からの検出である。一部は組合せPitが認められないことから、他遺構Pitとして帰属するものと考えられる。（138B号）またP17は、本遺構に伴う梯子状施設と考えられる。												
138A	不　明	(0.4)	軟	－	深さ６cm前後	－	－	－	－	－		釘？１
136号・137号遺構に削平されて存在する。												
138B	不　明	P13～P14＝2.3	－	2	－	－	－	－	－	－		
P13、P14で構成。137号・138A号遺構に伴なわないことから、調査区域西側に展開し、136号～138A号遺構より古い時期の竪穴住居跡と推定される。												

139	古墳後期	4.41×4.55	硬	12	深さ8cm前後	東南コーナー部2	北壁	−	−	2回	−	甕10、小型甕3、甑2、小型甑1、短頸壺1、坏42、高坏5、鉢？2、坩2、手捏3、(鉢)2、埦1、須恵器(坏)3、(蓋)1、支脚3、土玉46、管状土錘1、釘1、鉄滓2(50g)、石器7、(剣形模造品)1、軽石11(40g)
142号・143号遺構に削平され存在する。遺物は極めて多量に検出されるが、床面～10cm程の高さに存在するものが多く、特にP5、P6周辺には積重ねられた状況で検出されている。貯蔵穴と考えられるP5、P6は柱穴拡張に伴ないP5～P6への変遷が考えられる。												
140	古墳中期末	3.95×4.10	硬	8	深さ12cm前後	−	西壁	−	○	1回	−	甕1、小型甕3、坏7、高坏21、坩4、鉢4、支脚3、土玉24、管状土錘1
東壁～カマド前面にかけて厚さ10～30cm程の焼土が堆積。焼土下の床面は2次加熱によってボロボロになっており、遺物はこの焼土中～床面にかけて多く検出されている。住居廃絶直後に投棄されたものか？検出遺物中に模倣坏が含まれておらず、ある程度の時期は推定しうる。												
141	古墳後期	(3.8×3.6)	一部硬	4	深さ10cm前後	−	北壁	−	−	−	−	小型甕2、坏2、高坏1、支脚1、土玉6、管状土錘1、軽石1(2g)
129号・130号・144号遺構より新、カマド粘土及び遺存状況不良。粘土ブロック(カマド)周囲に明瞭な硬化床面の検出が認められなかったことから、図示の様な掘り上り状況となってしまったが、図示カマドは本遺構に伴うものと考えられる。												
142	古墳後期	4.64×(2.40)	硬	2＋2	深さ5cm前後	−	北壁	−	−	−	P8付近に馬蹄形の凸面	甕1、甑1、坏4、高坏2、須恵器(坏)3、(蓋)4、手捏1、土玉5、鼓型土製品？1、軽石2(34.0g)
139号遺構を切り、143号遺構の貼床下より検出される。P8及び馬蹄形の凸帯の存在する南壁付近に入口施設が存在したものと推定される。												
143	奈良時代	(4.6×4.6)	硬	2＋2	−	−	北壁	−	−	−		甕1、小型甕1、台付甕1、坏1、須恵器(蓋)1、土玉11、支脚1、刀子1、鉄滓4(1156g)
142号遺構の上に貼床を持って構築。周溝覆土と他遺構覆土との境は不明瞭。4.6m前後の規模で方形を呈するものと推定される。												
144	古墳中期	4.7×4.7	硬	4	深さ8cm前後	カマド左脇	東壁	−	−	1回？		甕3、甑2、坏3、高坏4、埦1、手捏1、支脚2、土玉1、紡錘車1
126号・140号・145号・148号・152号・153号遺構を削平し、129号・139号・141号遺構に一部削平される。遺物はカマド周囲床直の状況で検出され、本遺構に直接伴うものと考えられる。建替えないしは柱抜き取り状の痕跡が認められるが、1の甕形土器の出土状況より、柱抜き取りの可能性の方が強い。												
145	古墳中期	(4.4×3.7)	硬	−	−	−	−	△	−	−		甕3、坏5、高坏2、坩4、須恵器(短頸壺？)1、土偶脚状土製品1、管状土錘1、土玉3、砥石1
140号・141号・144号遺構に削平される。確認面は床直上であり、壁周溝とも検出されなかった。遺物No.10は144号遺構壁際で、本遺構床面から若干落下した状況で、No.3が覆土中より検出された以外は、すべて床直の状況で検出されており(No.12は確認調査時、当遺構床面上より検出)、本遺構に直接伴うものと考えられる。また遺構中央部トレンチは確認調査時のものである。No.1壺形土器内より、約2合程の炭化米が検出されている。												
146	古墳後期	(4.3)×4.45	硬	4	深さ10cm前後	カマド右脇	東壁	−	−	−		甕3、甑1、坏3、高坏2、鉢2、須恵器(坏)2、手捏1、土玉29、管状土錘1、支脚1、石器1、(砥石)1、(磨石？)1、(凹石)2、(敲き石)2、鉄滓1(25.3)g
P37付近は調査時において覆土の締りが本遺構覆土に比べやや弱かったが、明瞭な土坑プランとして把握できず、図示状態で実測。しかし本遺構検出遺物としたもののうちNo.1、2は157号床面より高い位置で口縁部を検出し、残る他片は、本遺構床面以下に達するものも存在し、本遺跡検出同時期遺構の遺物と比べてもやや違和感を与えることから時期が下る可能性が強い。この場合P37付近において二段の掘り方を有する土坑(他遺構)が存在した可能性が強い。157号遺構より古。150号遺構より新。												

遺構No.	時　期	規　模（m）	床	柱穴	周　構	貯蔵穴	カマド	炉	火災	建替	その他	遺　物
147	不　明	(1.55×2.45)	軟	1？	深さ5cm前後	－	△	－	－	－		甕1、高坏1
甕形土器と高坏形土器との間に時期差が存在し、いずれの時期に所属するか不明。しかし、143号遺構床面(硬化面)の一部に粘土が比較的多く散布していたことから本遺構カマド残骸部である可能性が考えられないこともない。変遷図では、古墳時代前期にひとまず比定している。												
148	古墳後期	(2.00×1.70)	軟	－	－	－	△	－	－	－		高坏2
139号・144号遺構に削平。144号遺構西コーナーの床面上において、粘土及び焼土の散布が認められることから本遺構カマド残骸の可能性が考えられる。												
149	不　明	(1.4)以上	軟	－	－	－	△	－	－	－		甕1、小型甕1
壁と床面の一部のみ検出、覆土中から布留系甕形土器口縁の一部を検出するが、本遺構に直接伴うかどうか不明。												
150	古墳後期	不明 (図示は157号周溝範囲)	硬	4	－	－	△	－	－	－		坏3、臼玉1
157号遺構貼床下よりさらにもう一枚の硬化面を検出し、判明する。周溝壁立ち上がりとも未検出(157号遺構プラン内に収まるものと考えられる明瞭な痕跡が見あたらない)。P38は146号遺構カマド袖下より検出されることや、検出された遺物より146号遺構より古い時期の遺構と考えられる。												
151	古墳後期	(0.9)以上	軟	－	－	－	－	－	－	－	－	坏1、他細片
153号遺構東側に壁立ち上りの一部を検出。床面と考えられる範囲は比較的平坦であるものの、明瞭な硬化面の検出は認められず（掘り方面まで掘り下げてしまった可能性が考えられる)、図示可能遺物は坏1点であるが、甕形土器等の胴部細片は比較的多量に検出しており、竪穴住居跡と捉えて問題はないものと考えられる。(P39、P40のいずれかが本遺構に伴うか)												
152	古墳前期？	(2.5×0.9)	軟	2	－	－	－	△	－	－	－	甕（拓本）4、土玉5、他細片
P41、42が本遺構に伴うものと考えられる。胴部にハケ目を施した細片が比較的目立つことから、弥生後期～古墳時代前期頃の竪穴住居跡と推定される。												
153	縄文後期	(1.5)以上	軟	－	深さ8cm前後	－	－	△	－	－	－	深鉢(拓本)23、凹石1、石斧1
152号遺構東側に検出される周溝部より、平面プランは円形を呈するものと推定される。												
154	古墳後期	(4.05)以上	軟	－	深さ12cm前後	－	東壁	－	－	－	－	細片のみ
142号遺構に削平される。												

155	不　　明	−	硬	−	−	−	−	−	−	−	−	細片のみ
137号、138号、140号、147号遺構に削平される。土層断面に硬化面が認められることや、床面相当範囲が比較的平坦であることから、竪穴住居跡と判断してよいものと考えられる。												
156	不　　明	(4.3×1.8)以上	軟	4	深さ12cm前後	−	−	−	−	1回？	−	遺物なし
142号遺構調査中に周溝を検出し、判明。P4、P16の西側に位置するグループの組合せは、142号遺構プランよりも主軸方向を大きく変えることから、本遺構に伴う可能性も考えられる。ただし、上層に143号、149号遺構との重復が認められることや、周溝の位置する範囲にやや問題があり、南側の遺構プランは、142号と重復している可能性が強い。												
157	奈良時代	(5.5×5.25)	硬	4	況さ10cm前後	−	北壁	−	−	−	−	甕2、小型甕1、坏2、土玉13、管状土錘1、軽石1(3g)
150遺構の上層遺構、158号、163号、164号遺構を削平、158号遺構と時期が近接するが、本遺構の方がやや新しいようである。												
158	奈良時代	4.2×(4.35)	硬	4	深さ8cm前後	カマド右脇	北壁	−	−	−		甕3、坏1、須恵器(坏)1、土玉、手捏1
P8は、163号遺構を削平、東・南壁及び周溝は、重復が激しくよくわからなかったが、検出される遺物から推定し、157号遺構以外よりは新しい時期のものと考えられる。												
159	古墳後期	4.78×4.32	軟	4	深さ8cm前後	−	北壁	−	−	−		甕1、甑1、坏3、高坏1、土玉4、土錘1
カマド遺存度不良（袖高7cm程で粘土粗悪）床面は軟弱で、出土遺物も床面より浮いた状況で検出されることから、掘り方面まで下げてしまった可能性がある。												
160	古墳後期	(5.4)×6.2	軟	4	深さ6cm前後	−	北壁	−	−	1回	−	甕1、坏1、鉢1、支脚1
159号・162号・166号遺構より削平される。162号床面下に深さ3cm前後の周溝が検出されたことから、本遺構南側周溝と判断、P18は重複が激しい。												
161	古墳後期	(4.8×4.85)	軟	8	−	−	北壁	−	−	1回		甕1、小型甕1、坏3、鉢1、軽石1(21g)
164号遺構内にすっぽりと収まって存在。当初その存在に気づかなかったが、カマド及び柱穴等から竪穴住居跡と判明。床面としての硬化面は認められなかったが、164号遺構に伴うと考えられる焼土、炭化物集中範囲がほぼ一定レベルで検出されたことから、図示数値は本遺構掘り方面と推定される。(164号遺構床面より8cm程高い位置)												
162	古墳終末	(5.3×5.75)	軟	4	深さ3～8cm前後	−	北壁	−	−	1回		甕3、鉢1、坏1、高坏1、支脚1、土棒状製品1、土玉2、磨石1、軽石1(14g)
91号・103号・104号・159号・160号・164号遺構より新。カマド北側に木根があり、159号・160号遺構覆土内に粘土が散布している。												

遺構No.	時　期	規　模（m）	床	柱穴	周　構	貯蔵穴	カマド	炉	火災	建替	その他	遺　物
163	古墳後期	5.98×6.21	軟	4	深さ3cm前後	－	北壁	－	－	－		甕2、坏1、鉢1、手捏（鉢）2、土玉15、管状土錘1、骨1
158号・161号・162号に削平される。特に158号遺構にはカマド付近を削平されており、袖高は最大でも10cm程しか存在しない。												
164	古墳中期	6.6×6.45	やや硬	7	深さ6cm前後	カマド右	東壁	－	○	1回	壁際にP9～P12の4Pitが存在	甕5、甑2、小型甕1、鉢7、手捏（鉢）1、土玉29、紡錘車1、高坏15、坏7、須恵器（坏）1、石皿1、軽石1（0.6g）、刀子？1
P1～P3間にP5、P3～P4間にP6・P7の支柱穴が存在する。覆土中に多量の焼土・炭化物を含み、火災住居であることは明白である。床面は2次加熱によってボロボロになっている。遺物は床面～8cm程の高さで集中的に検出されており、本遺構に直接伴うものと考えられる。図、焼土、範囲は焼けた床面。尚、遺物－4の甕は、外来系の土器と思われ、あるいは161号遺構に伴う可能性が考えられる。												
165A	古墳終末	（1辺5.3）前後？	硬	2	－	－	北壁	－	－	－		甕2、小型甕1、坏6、高坏2、須恵器（蓋？）2、土玉4、有蓋高坏蓋鈕1、鉄鏃1、鉄滓1（6g）、軽石3（16g）
周溝未確認。167号カマド左袖下端が残存することから、（上端は一部のみ検出）周囲に周溝が存在したものと推定される。												
165B	不　明	P3、P4間2.65	軟	2	－	－	－	－	－	－		遺物なし
165A号遺構貼床下よりP3、P4のPitのみの検出。他に組合せるPitが検出されないことから、調査区域外に存在するものと考えられる。												
166	古墳終末	6.32×6.13	硬	4	深さ4cm前後	－	北壁	－	－	－		甕5、坏3、鉢2、手捏（鉢）1、土玉10、土製切子玉1、金銅製耳飾1、軽石1（20g）、管状土錘1
北側のカマド付近は最近の攪乱によって、南側は158号遺構によって削平されている。遺物はカマド付近に集中し、検出状況から、本遺構に直接伴うものと考えられる。												
167	古墳後期	（6×6）前後？	硬	4	－	カマド右脇	北壁	－	－	－		甕2、小型甕1、鉢2、坏7、高坏1、紡錘車1、軽石5（87.8g）
165A号・166号遺構に削平される。主柱穴はP10～P13によって構成されている。カマドの遺存状況は不良で、袖高は10cmに満たない。上層の168A号遺構が削平したものと推定される。												
168A	古墳終末	P1～P18＝3.96 P7～P18＝3.90	－	4	－	－	△	－	－	－	－	坏2
167号遺構より新、明瞭な床面カマド等未検出。167号遺構床面より15.8cm程浮いた状況でNo.2及び、P7西側底面より15cm程浮いた状況でNo.1の坏形土器を検出。カマドは北側に存在する攪乱により削平されたものと推定される。P1、P7、P17、P18によって構成される。												
168B	古墳後期	P15～P5＝3.74 P15～P7＝4.12	－	4	－	－	△	－	－	－	－	細片のみ
165A号及び166号下層より検出。P5、P7、P12、P15により構成される。図示に至らなかったが、古墳時代後期初頭頃の所産と思われる坏形土器口縁部の一部及び高坏形土器脚部細片などが、P7、P17及び167号遺構貼床下より検出され、当期に比定される住居跡と推定される。												

169	弥生中～後期	(9.0)×7.65	硬	3	深さ20cm前後	−	−	○	−	−		甕11、壺5、坏3、土玉3、管状土錘2、鉄滓2(77g)、軽石2(61g)
165A号・165B号・167号・158号・157号・146号・154号遺構下層より検出。特に165A号遺構により、覆土の大半を削平される。約1/4程調査区域外に存在するものと考えられ、長軸長推定9m前後を測る。P2、P3内より山砂をブロック状に検出する。組合せ不明な柱穴としてP4が存在する。												
170	弥生末～古墳前期	(4.8)×4.8	硬	4	深さ7cm前後	−	−	○	○	−		甕4、壺2、小型壺1、高坏2、土玉2、管状土錘1、管玉1
覆土中に焼土粒を多量に含んでおり、その変色範囲においてプランが確認された。西側は最近の攪乱によって削平されている。1～3は床面より検出されており、本遺構に直接伴うものと考えられる。P5は他の柱穴と比べ浅く、本遺構に直接伴うかどうか不明。												
171	弥生後期	4.5×4.95	硬	4	深さ5cm前後	−	−	○	−	−		甕1、壺5、土玉2、凹石1
覆土の大半を攪乱によって削平されており、床面、硬化部の一部がかろうじて残存する。31号遺構より新。												
172	古墳前期	3.4×3.39	軟	−	深さ4cm前後	−	−	−	−	−		甕2、壺3、鉢1、手捏（鉢）4、土玉6、管状土錘1
166号下層より検出。トレンチによって一部削平される。炉、柱穴等は検出されない。												

第5表　椎津茶ノ木遺跡掘立柱建物跡・柵列一覧表

遺構No.	規　　模	柱　間　寸　法	掘形	遺　物	備　　考
40	桁行2間2.75m×梁行2間2.7m	P26～P27(1.35)m、P28～P29　1.5m P27～P28　1.35m、P29～P30　1.25m	円形	なし	36号遺構と重複するものと推定されるが、Pit掘り込みの深さが36号床面まで達しておらず、新旧関係不明。
41	桁行3間3.93m×梁行2間3.6m	P31～P32　1.25m、P34～P35　1.92m P32～P33　1.35m、P35～P36　1.48m P33～P34　1.66m、P36～P37　1.16m P37～P38　1.26m	円形	なし	174号遺構中に2Pit存在することは確認されていたが、174号遺構調査時に再確認することなく、掘り下げてしまった。
54	桁行3間5.16m×梁行2間3.85m	P15～P16　1.55m、P19～P20　1.64m P16～P17　2.30m、P20～P21　2.03m P17～P18　1.65m、P21～P22　2.02m P18～P19　1.87m、P22～P23　1.72m	円形	なし	51号・52号・53号・56号・57号遺構より新
76	桁行2間4.42m×梁行2間3.32m	P1～P2　2.20m、P5～P6　2.22m P2～P3　2.22m、P6～P7　2.20m P3～P4　1.60m、P7～P8　1.60m P4～P5　1.72m、P8～P1　1.26m	円形	P3より坏1	Pit深さ40～50cm。付近に組合せのないPit多。
97	柱穴上端間 (P25～P29)＝8.4m	P25～P26　2.00m P26～P27　1.80m P27～P28　2～2.20m P28～P29　1.7～1.85m	円形	細片のみ	柵列？91号、94号、99号、103号遺構より新。4間以上の規模を有する。掘立柱建物跡になる可能性もあるが対応するPitは検出されなかった。

第6表　椎津茶ノ木遺跡溝一覧表

遺構No.	規　　模	掘　形	遺　物	備　　考
66	長さ22.4m、幅1.5～1.85m、深さ35～42cm	断面逆梯形	須恵器2、鉄器2、管状土錘2、鉄滓222点(5229.7g)	鉄滓を多量に検出する。また覆土中より羽口片なども検出することから、付近に製鉄関連遺構が存在するものと推定される。
67	長さ4.9m、幅50～70m以上、深さ40～70cm	断面逆梯形か	細片のみ	
68	長さ13.0m、幅5.48～6.2m、深さ最大33.5cm	断面逆梯形＋硬化平坦面	細片のみ	道路状遺構硬化面あり。
69	長さ15.2m以上、幅5.4～6.7m、深さ最大120cm	断面逆梯形	甕4、杯1、高杯2、器台1、焙烙蓋1、須恵器(杯)2、(甕)1、縄文土器片4、手捏1、土玉5、刃子片1、抉入石斧1、尖頭器1	古墳周溝の一部か？
102	長さ1.05m、幅0.66m、深さ14.9cm	断面逆梯形	なし	残存部分少なく、切り合い関係不明。
135	長さ12.33m、幅0.21～0.66m、深さ12cm	断面逆梯形	鉄滓2(29.9g)	123号・131号・132号・136号遺構を削平。
173	長さ6.9m、幅1.9～2.3m、深さ9cm	底部は平坦	土玉1、鉄滓1(13.4g)	竪穴住居床面状の硬化面あり。22号遺構上21号遺構との関連が考えられるが詳細不明。

第7表　椎津茶ノ木遺跡土坑一覧表

遺物No.	長　径	短　径	深　さ	遺　物	備　　考
42	1.33m	0.80m	0.12m	なし	34号よりも古。
181	2.22m	0.45m	0.6 m	なし	69号遺構下層より検出。
182	1.31m	1.06m	0.37 m	土師器片10	覆土中に多量の粘土ブロックを含む。覆土中上層より土師器細片10点検出。
183	2.43m	1.00m	0.76 m	弥生土器片53、ハケ目土器片3、土師器片12、鉄滓1(50.1g)、土玉1、軽石1(4.0g)、黒曜石1	弥生土器細片が最も多く検出されることから、あるいは当期に比定される遺構か？
184	1.80m	0.45m	0.92 m	なし	50号遺構下層より検出。
185	2.30m	1.00m	0.85 m	なし	99号遺構下層より検出。
186	1.43m	0.94m	1.1 m	なし	底部に3Pit検出。
187	(2.2m)	1.80m	0.8m(断面)より	土師器片4	基本土層2a層中より掘り込まれている。約1/4程調査区域外に存在。
188	2.86m	1.00m	1.2 m	なし	28号遺構下層より検出。

第8表　椎津茶ノ木遺跡古墳・方形周溝墓一覧表

遺構No.	名　称	外　径	内　径	周溝深さ	遺　物	備　考
31	方形周溝墓	8.8×8.95m	7.7×7.72m	13.5～54cm	甕2、高坏1	高坏は本遺構に直接伴わない。
62	〃	—	—	53.8cm	甕1、破片2、管状土錘4、軽石1、鉄滓3(89.9g)、土玉1	周溝1辺の長さ7.75m、幅1.4m、60号遺構内検出溝とで構成される。
111	方　墳	(18m)前後	15.0m	0.33m	壺3、甕3、鉢1、管状土錘1、鉄器2、鉄滓4(38g)	東側は68号遺構に削平。
174	円　墳　?	55m前後	41m以上	1.3m前後	土器整理箱50箱	今回の調査では時期及び墳形の確定は困難。

第９表　椎津茶ノ木遺跡出土土器観察表

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外) (内)色調	胎土	(外) (内)特徴	備考
1	2	1-1	1	甕 底部1/3	0.065	－	(9.0)	－	良好	淡褐色	密	ヘラケズリ ヘラナデ	
2	1	2-1	1	甑 口縁～底部2/3	東壁周溝上 0.002	19.3	7.0	23.0	良好	暗～淡褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		2-2	2	甑 口縁2/3、胴～底部1/2強	東壁付近 0.065	(16.5)	6.2	－	良好	暗褐色	微砂粒多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	全体的にケズリ痕が明瞭で作り粗、胴中位欠く、2-3と同一個体
		2-3	2	甑 底部	0.065	－	－	－	良好	暗褐色	微砂粒多	ヘラケズリ ヘラケズリ	2-2と同一個体
		2-4	5	埦 1/3	P4内 -0.310	(15.2)	－	(7.8)	良好	濃茶褐色	微砂粒多	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後ナデ、全体的にケズリ痕不明瞭 口縁部ナデ、体部ヘラナデ後ナデ	内外面(赤彩)
		2-5	6	坏 口縁～体部1/3強	0.006	(15.0)	－	5.8	良好	赤茶褐～淡褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ	内赤彩、外中位上(赤彩)
		2-6	8	坏 1/2強	P4上 -0.022	14.1	－	5.5	良好	暗赤褐色	茶色粒多	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ磨耗激しく、ケズリ痕やや不明瞭 口縁部ナデ、体部ナデ	内(赤彩)、外体部下位より上(赤彩)
		2-7	4	甕 口縁～胴部3/4	東壁周溝上 0.084	16.5	－	－	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ、ケズリ痕不明瞭 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	底部全欠
		2-8	3	甕 口縁～胴部1/3弱	0.072	(17.5)	－	－	不良	暗褐色	茶褐色粒多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ、ケズリ痕不明瞭 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	砂っぽく非常に脆い
3	3	3-1	2	甑 底部1/5	0.225	－	(12.8)	－	良好	淡褐色	密	胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ 胴部ヘラナデ後ヘラミガキ	
		3-2	3	甕 底部1/5	0.200	－	7.2	－	やや不良	暗褐色	微砂粒多	ヘラケズリ 粗なヘラナデ	
		3-3	1	坏 1/5	-0.018	(13.0)	(8.0)	(4.3)	良好	淡橙褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ	
		3-6	4	甑？ 取手部	0.171	－	－	－	良好	淡褐色	密	胴部ヘラケズリ	取手部は指整形
4	4	4-1	1	鉢 ほぼ完形	3号壁際 0.071	18.7	8.2	12.6	やや不良	暗～褐色	5㎜大の小礫多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ後ナデ、輪積痕明瞭に残る	
5	5	5-1	1	甕 口縁	一括	－	－	－	良好	暗褐色	密	ハケ ハケ	拓本

5	5	5-2	2	坩 胴部	0.028	−	−	−	良好	暗褐色	密	ハケ ナデ	拓本
6	6	6-1	2	壺 口縁	一括	−	−	−	良好	褐色	密	口縁部羽状縄文、口縁下端刻み及び2ケ所に径3㎜程の貫通孔あり	拓本
		6-2	1	壺 口縁	0.084	−	−	−	良好	褐～赤褐色 赤褐色	密	口唇部細縄文他ヘラミガキ、赤彩 ヘラミガキ赤彩	拓本
8	8	8-1	2	高坏 脚部½強	0.029	−	(9.2)	−	やや不良	淡橙色	密 (砂っぽい)	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラナデ後ナデ	内外面(赤彩) 内外面磨耗激しい
		8-2	1	小型甕(坩) 底部⅓	0.411	−	5.0	−	良好	淡褐色 黒褐色	密	胴部ヘラケズリ後、ヘラミガキ 胴部ヘラミガキ	
9	10	9-1	1	坏 口縁¼	一括	(12.4)	−	−	良好	茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ	内外面(赤彩)
		9-2	2	甕 底部½	一括	−	8.4	−	良好	淡褐色	密	ヘラケズリ	内面剝離激しい
10	9	10-1	1	甕？ 底部⅓残	一括	−	(6.0)	−	良好	淡褐色	密	ヘラケズリ ヘラナデ	
		10-2	2	甕 底部⅓残	一括	−	(9.5)	−	良好	淡褐色	密	ヘラケズリ ヘラナデ	底部木葉痕
12	12	12-1	1	鞴羽口 下端部欠	カマド内 0.060	−	(7.6)	18.4	良好	暗～淡褐色	2～5㎜大 小礫多	先端部に容解鉄付着、二次加熱を受け下端はボロボロになっている	支脚として転用、砲弾形を呈し、断面は円形
14	162	14-1	1	壺 口縁½弱	一括	(16.0)	−	−	良好	淡褐色	密	ナデ ナデ)内外面共やや器面磨耗	複合口縁
		14-2	2	甑 胴部¼～底部½	一括	−	6.4	−	良好	淡褐色	茶褐色粒 2～3㎜大多	ヘラケズリ ヘラナデ	
16	163A	16-1	1	須恵器、蓋 ¼強	0.217	(14.4)	−	3.1	良好	灰色	白色微砂粒少	天井部回転ヘラケズリ、逆時計廻り 横ナデ、天井部中央内面不整方向のナデ	
20	160A	20-1	1	坏 ほぼ完形(口縁一部欠)	カマド前 0.000	11.8	−	2.9	良好	暗褐色 暗～黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラミガキ	内面黒色処理(漆仕上) 床直
		20-2	6	支脚 下端部一部欠	カマド脇 0.000	最大幅 6.6	厚さ 6.4	長さ 15.5	不良	淡褐色	微砂粒多	重量472.0ｇ、底部三角形	断面円形 床直
		20-3	2	小型鉢 ½弱	床直 0.000	(9.8)	7.2	4.5	不良	暗褐色	微砂粒多	指ナデ、輪積痕明瞭 口唇部のみ指ナデ、胴部ヘラナデ	手捏手器 底部木葉痕

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外) (内)色調	胎土	(外) (内)特徴	備考
22	160C	22-1	3	小型鉢？ 口縁1/3～底部完存	0.071	(9.5)	－	7.7	良好	淡赤～橙褐色 淡赤褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	外口縁～胴部上位(赤彩)下位(赤彩剝離か)内(赤彩)底部丸底
24	161	24-1	1	坏 口縁1/8	一括	(12.6)	－	－	良好	褐色	密	内外面ヘラミガキ	
25	146	25-1	5	小型甕 底部完存	0.100	－	6.4	－	不良	暗褐色	2～3m大 小礫多	粗なヘラケズリ ヘラナデ	焼成、胎土共不良でさわるとボロボロ
		25-2	2	坏 1/2弱	0.019	(14.2)	－	(3.8)	良好	暗～黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ	内外面黒色処理 (漆仕上)
		25-3	3	坏 口縁全欠、体部1/3強	P4付近 0.026	－	－	－	良好	暗褐色	密	体部ヘラケズリ後ヘラミガキ ヘラミガキ	内外面黒色処理(漆仕上) 口縁部は推定
		25-4	1	須恵器、坏 完形	0.167	13.0	－	3.7	良好	淡青灰色 (白色味やや強)	白色微砂粒 小砂粒若干含	底部回転ヘラケズリ、ケズリ方向逆時計廻り ナデ、底部中央付近、不整方向のナデ	ややシャープさに欠く 底部一文字ヘラ記号
27	149	27-1	3	坏 口唇部1/4欠	0.260	14.0	－	6.8	良好	茶褐色	密	ヘラナデ ヘラナデ	内外面(赤彩)
		27-2	1	坏 完形	0.214	13.4	－	5.0	良好	暗～茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後、ヘラミガキ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ後ヘラミガキ	作り全体的に丁寧
		27-3	2	須恵器、坏 ほぼ完形(口縁一部欠く)	0.139	8.5	－	3.0	良好	青灰色	白色、黒色 微砂粒若干含	底部回転ヘラケズリ、ケズリ方向逆時計廻り 底部中央付近内面若干不整方向のナデ	底部一文字ヘラ記号 受け部から立ち上りは短い
28	144	28-1	14	鉢？ 口縁1/4	0.012	(12.0)	－	－	良好	淡茶褐色	2～3mm大 小礫やや多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部粗なヘラミガキ	輪積明瞭
		28-2	10	小型短頸壺 1/4弱	南壁際 0.012	(10.2)	－	5.5	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ ヘラナデ	内外面黒色処理(漆仕上)
		28-3	7	坏 口縁1/4	一括	(15.0)	－	－	良好	褐～黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラミガキ	内外面黒色処理(漆仕上)
		28-4	9	坏 口縁1/4～体部2/3	床直上 0.027	(14.6)	－	3.3	良好	黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、口縁と体部の境は沈線状の稜 ヘラナデ	内外面黒色処理(漆仕上)
		28-5	8	坏 1/4強	床直上 0.015	(14.0)	－	3.3	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ ヘラミガキ	内外面黒色処理(漆仕上)
		28-6	4	甕 底部完存	南壁際 0.012	－	7.0	－	良好	淡褐色 黒褐色	2～3mm大 小礫多	ヘラケズリ ヘラナデ	内面黒色処理 (炭素吸着)

28	144	28-7	6	甕 底部完存	一括	－	5.2	－	良好	暗褐色	小礫少含	ヘラケズリ ヘラナデ	
		28-8	3	甕 口縁～胴中位1/2	カマド脇 -0.011	21.2	－	－	良好	暗褐色	2～3㎜大 小礫少	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		28-9	1	甕 口縁～胴中位3/4	カマド脇 -0.011	19.8	－	－	良好	暗褐色	2～3㎜大 小礫少	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		28-10	2	甕 口縁3/4強～胴部1/3	0.215	16.6	－	－	良好	暗褐色	微砂粒多	口縁部ナデ、胴部上位縦ヘラケズリ、中位横ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		28-11	5	甕 胴中位1/4強～底部	0.307	－	(8.2)	－	良好	茶褐色 明褐色	密	ヘラケズリ ヘラナデ	
		28-12	18	支脚 先端部欠	0.375	最大幅 5.5	厚さ 5.4	残長 12.5	良好	明茶褐色	微砂粒多		断面は三角形
		28-14	15	埦 2/3	一括	4.6	－	2.5	良好	褐色	密	指ナデ 指ナデ	手捏土器
29	145	29-1	7	甕 胴部	一括	－	－	－	良好	暗褐色 褐色	密	ハケ ハケ	拓本
		29-2	8	甕 胴部	一括	－	－	－	良好	暗褐色	密	ハケ ハケ	拓本
		29-3	5	甕 口縁	一括	－	－	－	良好	暗褐色 褐色	密	ハケ ハケ	拓本
		29-4	6	大型甕 頸部	一括	－	－	－	良好	褐色	密	ハケ ハケ、頸部輪積痕あり	拓本
		29-5	12	坩 口縁1/8	床直 0.000	(8.8)	－	－	良好	淡暗褐色	密	ナデ ナデ	内外面(赤彩)
		29-6	13	高坏 坏部1/2弱、脚部欠	床直 0.000	(19.2)	－	－	良好	赤褐色	密	ナデ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		29-7	11	短頸壺 口縁～胴部1/3強	床直 0.000	(12.6)	－	－	良好	淡赤褐色 淡赤～褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラナデ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	外(赤彩) 内口縁部(赤彩)
		29-8	1	甕 底部完存	0.224	－	6.0	－	良好	褐色	密	ヘラミガキ ヘラナデ	
		29-9	2	甕 底部完存	一括	－	6.2	－	良好	暗褐色 褐色	密	ヘラケズリ ヘラナデ	

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外) (内)色調	胎土	(外) (内)特徴	備考
29	145	29-10	3	甕 底部1/2	一括	－	(7.5)	－	良好	暗褐色 褐色	密	ヘラミガキ ヘラナデ？	
		29-11	9	深鉢 口縁	一括	－	－	－	やや不良	茶褐色	繊維混入		拓本 条痕文系土器
31	153	31-1	1	甕 口縁1/4	0.413	(20.6)	－	－	良好	淡褐色	密	口縁指頭押捺圧波状文、胴部ナデ後ヘラミガキ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ後ヘラミガキ	光沢が表われる程よく磨かれる
		31-2	3	甕 底部1/3	一括	－	(5.1)	－	良好	暗褐色	密	ヘラナデ ヘラナデ	
		31-3	2	高坏 坏部完存	0.153	14.4	－	－	良好	淡赤褐色	密	口縁部ナデ、体部弱いヘラケズリ、 口縁部ナデ、体部弱いヘラナデ	内外面(赤彩) 直接伴なわない
		31-4	9	甕 口縁	一括	－	－	－	良好	暗褐色 褐色	密	ハケ、表面の一部折り返しあり ハケ、口唇部に刻み	拓本
		31-5	10	壺 口縁	一括	－	－	－	良好	褐～赤褐色 赤褐色	密	口縁部羽状縄文に円形貼付文×２以上、下端縄文原体による圧痕を加える	拓本 口縁他(赤彩)
		31-6	12	壺 胴部	一括	－	－	－	良好	褐色	密	細縄文(羽状縄文か)の下にＳ字条結節文	拓本 無文帯のみ(赤彩)
		31-7	13	壺 胴部	一括	－	－	－	良好	褐色	密	沈線区画内羽状縄文	拓本 無文帯のみ(赤彩)
		31-8	11	壺 胴部	一括	－	－	－	良好	褐色	密	沈線区画山形文内に細縄文、区画外に及んだ細縄文は磨消しが残る	拓本
32	154	32-1	15	鉢 口縁	一括	－	－	－	良好	暗褐色	密	沈線文、口唇部指頭押捺圧痕	拓本 縄文後期
		32-2	10	鉢 口縁	一括	－	－	－	良好	暗褐色	密	沈線文、口唇部指頭押捺圧痕	拓本 縄文後期
		32-3	16	鉢 口縁	一括	－	－	－	良好	褐色	密	沈線文、口唇部指頭押捺圧痕	拓本 縄文後期
		32-4	12	鉢 口縁	一括	－	－	－	良好	暗褐色	密	沈線文、口唇部指頭押捺圧痕	拓本 縄文後期
		32-5	2	鉢 口縁	一括	－	－	－	良好	褐色	密	撚糸文	拓本 縄文後期

32	154	32-6	13	鉢 胴部	一括	—	—	—	良好	暗褐色	密	沈線文	拓本
		32-7	11	鉢 胴部	一括	—	—	—	良好	暗褐色	密	沈線文	拓本
		32-8	14	鉢 胴部	一括	—	—	—	良好	淡褐色	密	沈線文、縄文	拓本
33	14	33-1	1	高台付皿 ほぼ完形	カマド脇 0.034	13.3	6.9	3.3	良好	褐色	密	ロクロ、底部回転ヘラケズリ後、高台部貼り付	
		33-2	2	坏 3/4	0.078	12.3	7.1	4.8	良好	淡橙褐色	密	ロクロ、体部下端回転ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ	
		33-3	10	坏 口縁1/4、底部欠	0.025	(12.0)	(6.0)	(4.0)	良好	暗褐色	密	ロクロ、体部下端手持ヘラケズリ	油煙付着
		33-4	11	坏 1/5	0.165	(12.8)	(6.8)	4.0	良好	暗茶褐色	密	ロクロ、体部下端手持ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ	
		33-5	6	坏 口縁1/6、底部ほぼ完形	カマド脇 0.067	(14.0)	6.6	5.0	良好	淡褐色	密	ロクロ、体部下端～底部手持ヘラケズリ	
		33-6	9	坏 口縁1/8、底部2/3	0.112	(12.4)	6.7	4.6	良好	淡褐色	密	ロクロ、底部回転糸切り、無調整	
		33-7	4	坏 口縁1/4、底部1/2	0.094	(13.6)	7.0	4.0	良好	淡橙褐色	密	ロクロ、体部下端回転ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ	
		33-8	3	坏 1/2、底部欠	0.005	13.4	(7.4)	3.8	良好	淡褐色	密	ロクロ、体部下端回転ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ	
		33-9	5	坏 口縁1/3	0.135	(13.2)	(7.5)	4.1	不良	橙褐色	密	ロクロ、体部下端回転ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ	
		33-10	7	坏 口縁1/3、底部完存	0.171	(12.2)	6.5	4.0	良好	暗褐色 暗茶褐色	密	ロクロ、体部下端回転ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ	
		33-11	17	甕 口縁1/6	0.076	(20.7)	—	—	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		33-12	15	甕 口縁1/6	0.261	(20.7)	—	—	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		33-13	18	甑 1/8	0.103	—	(14.5)	—	良好	淡橙褐色	密	磨耗激しく、ケズリ痕等不明瞭	

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外)(内)色調	胎土	(外)(内)特徴	備考
33	14	33-14	16	支脚 両端部欠	0.049	－	－	－	不良	茶褐色	密	断面方形	二次加熱を受ける
		33-15	14	埦？ 完形	一括	3.6	2.1	1.8	良好	淡褐色	密	指ナデ 指ナデ	手捏土器
		33-17	20	瓦	0.030	－	－	－	良好	淡橙褐色	密	凹面布目瓦	拓本、重量212.0g
34	16	34-1	2	坏 1/4	0.136	(10.2)	－	(4.0)	良好	暗～淡褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ	内外面黒色処理 （漆仕上）
		34-2	6	坏 1/5	一括	(12.0)	－	(3.0)	良好	淡褐色	密	剝離やや激しい 丁寧なヘラミガキ	内外面黒色処理 （漆仕上）
		34-3	4	甕 底部のみ	0.101	－	6.0	－	良好	淡褐色	2～3㎜大 小礫多	胴部ヘラケズリ、全体的に不明瞭 胴部ヘラナデ	
		34-4	3	小型甕 底部2/3	0.074	－	5.0	－	良好	暗～褐色	2～3㎜大 小礫多	胴部ヘラケズリ、全体的に不明瞭 胴部ヘラナデ	
		34-5	1	甕 1/6弱	P2底面より 0.227	(21.0)	－	－	良好	茶褐色	2～3㎜大 小礫多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ、器面剝離あり 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
36	15	36-1	2	坏 口縁～体部1/8	カマド脇 0.034	(14.2)	－	－	不良	淡茶～暗褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ、不明瞭	
		36-2	3	埦 1/3残	一括	(7.1)	(6.9)	3.6	不良	暗褐色	2～3㎜大 小礫多	指ナデ 指ナデ	手捏土器 内外面輪積痕明瞭
37	17	37-1	1	高坏 脚部上端部のみ	0.063	－	－	－	良好	淡茶褐色	密	不明 脚部指ナデ	いかなる器形かは不明であるが、初期鬼高的ではない
43	27	43-1	3	埦 1/2弱	0.010	(12.0)	－	5.1	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 放射状暗文	内外面黒色処理（漆仕上） 内面放射状暗文
		43-2	2	坏 1/4強	西壁付近 0.103	(11.4)	－	(3.9)	良好	橙褐色 黒色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ（光沢あり）	内面黒色処理（漆仕上）
		43-3	1	須恵器、蓋 1/2	西壁付近 0.015	10.2	－	3.8	良好	青灰色	密	ロクロ、天井部ナデ調整、ロクロ回転時計廻り	
44	28	44-1	4	坏 1/2弱	0.028	(13.6)	－	3.7	良好	黒褐色	密	ヘラミガキ、ミガキ丁寧 ヘラミガキ	内外面黒色処理 （漆仕上）

44	28	44-2	3	坏 口縁～体部2/5強	0.082	(15.4)	—	3.7	良好	暗～淡褐色 暗褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内面黒色処理(漆仕上)
		44-3	6	坏 1/2	カマド前面 0.022	13.7	—	4.1	不良	暗褐色	微砂粒多	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ ）内外面共剝離激しい	
		44-4	5	坏 口縁1/8	一括	(14.5)	—	(3.0)	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラミガキ	内外面黒色処理 (漆仕上)
		44-5	2	坏 1/2底部欠	一括	(15.2)	(5.4)	(4.5)	やや不良	暗～淡褐色	微砂粒多	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後、ナデ 口縁部ナデ、体部若干のヘラミガキ	底部平底か？
		44-6	1	小型鉢 3/4	0.013	8.8	5.8	7.2	良好	暗褐色	白色微砂粒多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
45	35	45-1	1	高坏 胴部1/2	0.246	—	8.0	—	良好	淡赤褐色 褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	外(赤彩)
47	29	47-1	9	坏 1/2強	0.063	14.4	—	3.8	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ、光沢あり	
		47-2	4	坏 ほぼ完形	-0.012	13.0	—	4.1	良好	暗～褐色 黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後、ヘラミガキ ヘラミガキ	内面黒色処理
		47-3	19	坏 1/8	一括	(13.8)	—	—	良好	暗～淡褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラミガキ ヘラミガキ	内外面やや磨耗
		47-4	10	坏 口縁1/4弱	0.108	(15.5)	—	—	良好	淡赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		47-5	8	坏 1/2弱	0.159	13.5	—	(3.8)	良好	暗～淡褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ	
		47-6	7	坏 2/3残	カマド内 0.177	(14.5)	—	6.6	やや不良	暗～赤褐色	微砂粒多	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	口縁歪み、埦形を呈す、成形不良
		47-7	6	坏 1/6	0.020	(12.8)	—	—	良好	黒褐色 暗褐色	密	ヘラミガキ ヘラミガキ	内外面黒色処理 内外面やや磨耗
		47-8	5	高坏 坏部のみ	0.039	13.5	—	—	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラミガキ	
		47-9	23	高坏 脚部のみ	0.004	—	9.2	—	良好	淡褐色	2～7㎜大 小礫粒多	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	
		47-10	12	鉢 1/2弱	0.011	(10.4)	(7.0)	3.7	良好	淡茶褐色	密	指ナデ、底部、胴部の一部ヘラケズリ後、指ナデ 指ナデ	手捏土器？

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外) (内)色調	胎土	(外) (内)特徴	備考
47	29	47-11	24	鉢 ほぼ完形	0.004	10.0	6.1	5.2	良好	淡褐色 暗～黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後、ヘラミガキ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	底部中央に焼成後穿孔
		47-12	18	鉢 1/2	0.088	3.7	3.9	3.0	良好	暗～淡褐色	密	口縁部指ナデ 指ナデ	手捏土器 胴～底部木葉痕
		47-13	15	小型甕 口縁～胴部1/4弱	0.029	(13.3)	—	—	良好	淡褐色	微砂粒多	ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		47-14	11	鉢 ほぼ完形	0.029	19.2	7.2	6.5	良好	明茶褐色 暗褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ後ヘラミガキ	口縁の一部欠く
		47-15	17	坩 底部1/2強	一括	—	3.0	—	良好	黒褐色	密	ハケ目 不明	ミニチュア土器 五領期？
		47-16	1	甕 5/6	カマド脇 0.001	20.0	6.5	27.7	良好	暗～淡褐色	2～5㎜大 小礫多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラナデ、胴部中位剝離 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	最大径は口縁部
		47-17	3	甕 口縁～胴部1/6弱	0.040	(22.0)	—	—	良好	暗褐色 淡褐色	5㎜大 小礫多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ、胴部殆んど剝離 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ、剝離	二次加熱を受けボロボロ
		47-18	21	甑 口縁～胴部1/4残	0.016	(23.6)	—	—	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラミガキ、丁寧	
		47-19	2	甕 口縁～胴中位1/2	0.024	19.8	—	—	良好	淡褐色 暗褐色	2～5㎜大 小礫多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		47-20	16	鉢 1/3	0.016	(8.0)	4.6	4.5	良好	淡茶褐色	茶褐色粒多	指ナデ 指ナデ	手捏土器
		47-21	13	鉢 1/2強	0.022	7.2	—	3.3	良好	淡茶褐色	密	指ナデ 指ナデ	手捏土器
		47-22	29	鉢 完形	0.002	5.4	—	2.5	良好	淡褐色	密	指ナデ 指ナデ	手捏土器
48	57	48-1	1	甕？ 底部のみ	0.081	—	4.5	—	良好	淡茶～暗褐色	密	ヘラミガキ ヘラミガキ）内外面共光沢が表われる程よく磨かれる	胎土は（非常に精選されている）
		48-2	2	甕 口縁	一括	—	—	—	良好	褐色	密	指頭押捺圧波状文	拓本
		48-3	5	甕 口縁	一括	—	—	—	良好	暗褐色	密	指頭押捺圧波状文	拓本

48	57	48-4	3	鉢 口縁	一括	—	—	—	良好	褐色	密	羽状縄文、口唇部に細縄文 ヘラミガキ赤彩	拓本
		48-5	7	甕 頸部	一括	—	—	—	良好	褐色	密	羽状縄文、連続刺突文 ヘラミガキ赤彩	拓本
50	31	50-1	3	坏 2/3	カマド内他 0.164	12.9	—	4.2	良好	淡橙色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後やや太いヘラミガキ ヘラミガキ(放射状暗文)5〜6本1組	内外面黒色処理 (漆仕上)
		50-2	8	坏 口縁〜底部1/3	0.166	(12.5)	—	(5.0)	良好	暗〜淡褐色 黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ ヘラミガキ	内面黒色処理(漆仕上)
		50-3	4	坏 口縁〜底部1/2弱	カマド内他 0.016	15.2	—	(4.2)	良好	暗〜淡褐色 淡橙色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	
		50-4	5	坏 口縁〜底部1/4	一括	(14.5)	—	(4.0)	不良	淡橙色	密	内外面剝離激しく、調整等不明瞭	混入品
		50-5	9	埦 ほぼ完形	南壁際 0.183	8.0	—	4.6	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ後ヘラミガキ	内外面黒色処理(漆仕上) 小ぶりで非常に丁寧
		50-6	6	坏 1/4	一括	(12.0)	—	4.0	良好	暗褐色 淡褐色	密	ヘラケズリ ヘラミガキ(放射状暗文)2〜3本1組	内面黒色処理(漆仕上)
		50-7	10	須恵器、蓋 1/2弱	北壁際 0.092	(9.8)	—	3.1	良好	青灰色	密 白色微砂粒多	ロクロ、天井部回転ヘラケズリ、ロクロ回転時計廻り	
		50-8	11	支脚 下端部欠	カマド脇 0.019	—	—	—	不良	灰〜褐色	微砂粒多	二次加熱を受けボロボロ	断面方形
		50-9	1	甕 口縁大半、胴部1/2欠	カマド内他 0.054	21.5	6.5	25.3	やや不良	暗褐色	2〜3㎜大 小礫多	口縁部ナデ、頸部の一部指ナデ、胴部上位上〜下のヘラケズリ、下位下〜上のヘラケズリ 口縁〜頸部ナデ、胴部上位比較的丁寧なヘラナデ、下位粗でケズリに近いナデ	口唇部は摘み上げ気味、底部の輪積痕はこの粗いケズリによって密閉していない
		50-10	2	甕 1/2弱	カマド周辺 0.079	(21.6)	—	—	良好	暗褐色	2〜3㎜大 茶褐色粒含	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		50-11	15	埦 1/3	一括	(6.0)	—	(3.0)	良好	暗褐色	密	指ナデ 指ナデ	手捏土器
		50-12	14	埦 1/2	カマド付近 0.056	4.1	2.6	2.3	良好	淡茶褐色	密	指ナデ 指ナデ	手捏土器
		50-13	19	埦 1/4	一括	(5.0)	—	—	良好	淡茶褐色	密	指ナデ 指ナデ	手捏土器
		50-14	18	埦 1/4	一括	(2.4)	—	(1.9)	良好	茶褐色	微砂粒多	指ナデ 指ナデ	手捏土器

遺構 No.	旧遺構 No.	図番	実測 No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外)(内)色調	胎土	(外)(内) 特徴	備考
51	48	51-1	5	甕 ¼	カマド内 0.047	(25.0)	−	−	やや不良	暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部細かいヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		51-2	4	鉢 ½強	0.032	21.0	7.4	7.2	良好	暗褐色	密	口唇部磨耗、胴部ヘラケズリ、剝離やや激しい 胴部ヘラナデ	底部木葉痕
		51-3	2	支脚 ほぼ完形	カマド脇 0.017	最大径 6.4	−	20.5	やや不良	淡暗褐色	微砂粒多	二次加熱を受け、脆い	断面円形
		51-4	3	坏 ⅔	カマド内 0.080	13.7	−	3.9	良好	淡褐色	密	ヘラケズリ後ヘラミガキ ヘラミガキ ）内外面ミガキ丁寧	内外面黒色処理(漆仕上)
52	40	52-1	1	坏 完形	P9付近 0.013	13.0	−	3.5	良好	黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラミガキ 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ	内外面黒色処理(漆仕上)
53	43	53-3	3	甕 頸部	炉内 0.018	−	−	−	良好	暗褐色	微砂粒やや多	ハケ ヘラナデ後ヘラミガキ	拓本
		53-4	2	壺？ 胴部	炉内 0.018	−	−	−	良好	淡褐色	密	ヘラミガキ、灰付着器面も二次加熱を受けボロボロ ヘラナデ	炉内検出、炉内専用土器か？
		53-5	4	甕 頸部	炉内 0.018	−	−	−	良好	暗褐色	微砂粒やや多	ハケ ヘラナデ後ヘラミガキ	拓本
56	38	56-1	4	坏 ⅛	0.059	(12.0)	−	−	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ	内外面黒色処理(漆仕上)
		56-2	3	坏 ⅓	0.173	(14.0)	−	3.5	良好	淡褐色 暗褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ	内面黒色処理(漆仕上)
		56-3	2	坏 ½	0.030	13.4	−	4.0	良好	暗～淡褐色	2～3㎜大 小礫多	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ	漆仕上？
		56-4	8	高坏 脚部⅓	0.197	−	−	−	良好	淡褐色 暗褐色	密	脚部ヘラケズリ 脚部ヘラナデ	
		56-5	5	小型甕 底部⅔	カマド内 0.057	−	7.0	−	不良	暗褐色 淡褐色	小礫多	胴部ヘラケズリ 胴部ヘラナデ	丸底気味で安定感なし
		56-6	1	ミニチュア甕 口縁欠	0.644	(4.6)	−	(5.3)	良好	暗～淡褐色	2～3㎜大 小礫多	指ナデ 指ナデ	手捏土器
		56-7	9	ミニチュア鉢 ⅓	0.201	(6.2)	−	−	良好	茶～淡褐色 茶褐色	密	ヘラケズリ後ヘラミガキ ヘラナデ後ヘラミガキ	

56	38	56-8	6	甕 底部のみ	0.256	—	5.9	—	良好	淡褐色	白色徴砂粒多	細かいヘラミガキ ヘラナデ	混入
		56-9	7	壺 底部のみ	0.039	—	5.6	—	良好	淡褐色	白色徴砂粒多	ヘラナデ ヘラナデ	混入
		56-10	10	支脚 両端部欠	カマド内 0.083	—	—	—	不良	淡褐色	徴砂粒多	二次加熱を受けボロボロ	断面方形
57	44	57-1	1	坏 口縁	炉内 一括	—	—	—	良好	淡褐色	密	ハケ 一部ハケ	拓本
58	37	58-1	5	坏 口縁¼	カマド内 0.024	(4.2)	—	—	良好	淡暗褐色	密	口縁ナデ 口縁ナデ	
		58-2	1	高坏 坏部下端⅓、脚接合部	0.053	—	—	—	良好	淡褐色	密	坏部～脚部ヘラケズリ	
		58-3	3	鉢 ⅓	一括	(8.9)	—	—	良好	淡褐色	密	指ナデ 指ナデ	手捏土器
		58-4	4	鉢 底部⅓	一括	—	—	—	良好	淡褐色	密	指ナデ ヘラナデ	手捏土器
59	36	59-1	1	坏 口縁⅓～底部⅔	0.368	(12.4)	4.5	3.1	良好	暗褐色	密	ロクロ、底部回転糸切り無調整	内外面油煙付着 (燈明皿)
		59-3	10	甕 口縁	一括	—	—	—	良好	明茶褐色	密	ハケ、頸部付近連続刺突文 ハケ、口唇部連続刺突文	
		59-4	12	壺 口縁	一括	—	—	—	良好	褐色 淡赤褐色	密	口唇～口縁部細縄文	拓本、内(赤彩)
		59-5	11	壺 口縁	一括	—	—	—	良好	褐色	徴砂粒多	口縁部連続刺突による波状文、頸部連続刺突文	拓本
		59-6	17	鉢？ 口縁	一括	—	—	—	不良	淡橙色	徴砂粒多	口縁部竹管文	拓本
		59-7	15	甕 胴部	0.070	—	—	—	良好	褐色	密	ハケ後、羽状条痕	拓本
		59-8	9	甕 頸部	0.070	—	—	—	良好	暗褐色	密	ハケ ヘラミガキ	拓本
		59-9	16	壺 胴部	一括	—	—	—	良好	赤褐色 褐色	徴砂粒多	細縄文の下に沈線区画以下赤彩	拓本、外(赤彩)

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外)(内)色調	胎土	(外)(内)特徴	備考
59	36	59-10	14	甕 底部	一括	−	−	−	良好	淡茶褐色	密	ハケ	拓本
		59-11	3	坏 底部	一括	−	−	−	良好	褐色	密	ロクロ、底部回転糸切り、無調整	拓本
60	50	60-1	1	高坏 脚部の一部	一括	−	−	−	良好	淡赤褐色 褐色	密	ヘラミガキ	脚部3方有孔 外(赤彩)
		60-2	2	小型甕 底部½	一括	−	4.0	−	良好	黒褐色	密	ヘラケズリ	
		60-3	4	壺 口縁	一括	−	−	−	良好	淡橙色	微砂粒多	口縁部細縄文 ヘラミガキ	拓本、内(赤彩)
		60-4	3	甕 口縁	一括	−	−	−	良好	褐色	密	口縁部刻み、連続刺突文、ハケ後羽状条痕	拓本
61	39	61-1	1	甕 頸部	一括	−	−	−	良好	茶褐色 暗褐色	白色微砂粒多	ハケ	拓本
		61-2	2	甕 胴部	一括	−	−	−	良好	茶褐色 暗褐色	密	ハケ	拓本
62	45A	62-1	11	甕 口縁	一括	−	−	−	良好	暗褐色	微砂粒多	口唇部波状文、複合口縁	拓本
66	30	66-1	201	須恵器、坏 ⅙	一括	(10.6)	−	−	良好	白灰色 灰色	密	白灰色の自然釉が厚く付着して、ケズリ及びロクロ水挽き痕がまったくわからない	高台付坏か、長頸壺類
		66-2	211	須恵器、坏？ ¼	一括	−	(9.0)	−	良好	灰色	密		
69	25A	69-1	1	甕 口縁～胴中位½	0.446	18.2	−	−	良好	褐色	微砂粒多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラナデ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		69-2	2	小型甕 口縁⅓強	0.500	(14.8)	−	−	良好	淡橙褐色	茶褐色粒多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	内面輪積痕残る
		69-3	3	小型甕 口縁½	一括	11.5	−	−	良好	褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	内面輪積痕残る
		69-4	5	坏 ¼強	0.188	(14.8)	−	4.8	良好	淡赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)

69	25A	69-5	4	甕 底部完存	0.584	−	6.2	−	良好	茶褐色	2～3㎜大 小礫多	ヘラケズリ ヘラナデ	
		69-6	8	高坏 坏部⅔強	0.278	12.6	−	−	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		69-7	7	高坏 口縁¼～体部⅔	0.188	(14.8)	−	−	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		69-8	64	須恵器、坏？ 底部¼	0.480	−	(19.8)	−	良好	灰色	密	高台貼付	高台付坏か長頸壺？
		69-9	14	須恵器、坏 口縁⅓	0.610	(13.6)	−	−	良好	灰色	密	自然釉付着 黒斑あり	
		69-10	12	焙烙蓋 ½弱	0.719	23.4	−	5.2	良好	暗褐色	密	ロクロ整形、天井部手持ちヘラケズリ、錘貼付、ロクロ回転は逆時計廻り、ロクロ水挽き成形	近代か
		69-11	13	器台 脚部全欠	0.135	2.0	−	−	良好	褐色	密	上位指ナデ、下位ヘラケズリ	
		69-12	28	須恵器、甕 口縁	一括	−	−	−	良好	白灰色	密	口唇部下波状文	拓本
		69-13	29	深鉢 口縁	一括	−	−	−	良好	暗褐色	密	沈線文	拓本
		69-14	31	深鉢 口縁	一括	−	−	−	良好	暗褐色	密	平行沈線文	拓本
		69-15	30	深鉢 口縁	一括	−	−	−	良好	褐色	密	平行沈線文	拓本
		69-16	15	蓋？ 先端部欠	一括	2.7	−	−	良好	褐色	密	指ナデ 指ナデ	ミニチュア土器
		69-18	11	埦 ½	一括	5.3	4.5	3.4	良好	褐色	密	指ナデ 指ナデ	手捏土器
70	41	70-1	1	高坏 口縁一部欠・ほぼ完形	0.038	13.7	10.9	9.0	良好	暗～黒褐色	密	口唇部磨耗やや激しい、口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ、脚部ヘラナデ、裾部ナデ	内外面黒色処理(脚内部除く)
		70-2	3	高坏 坏部ほぼ完存	カマド脇 0.048	14.2	−	−	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ	内面黒色処理(漆仕上)
		70-3	2	高坏 坏部¾以上	カマド脇 0.023	12.6	−	−	良好	暗褐色 黒～暗褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後若干ヘラミガキ 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ	内面黒色処理(漆仕上)

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外) (内)色調	胎土	(外) (内)特徴	備考
70	41	70-4	6	高坏 坏部½強	0.183	13.4	—	—	良好	暗褐色	密	ヘラミガキ ヘラミガキ	内外面黒色処理(漆仕上)
		70-5	4	坏 ½	カマド脇 0.038	11.8	—	3.4	良好	暗褐色 黒～褐色	密	ヘラケズリ後ヘラミガキ ヘラミガキ	内外面黒色処理(漆仕上)
		70-6	11	須恵器、蓋 ⅕	0.055	(12.6)	—	(2.9)	良好	灰色	白色微砂粒多	ロクロ、天井部回転ヘラケズリ、ケズリ方向逆時計廻り 天井部内面中央部付近不整方向のナデ	白色自然釉付着
		70-7	8	鉢 底部欠、口縁½弱、胴部½強	カマド脇 0.053	(14.6)	—	—	不良	暗褐色	微砂粒多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ、器面剝離あり、内外面輪積痕明瞭内ヘラナデ	
		70-8	7	坏 ほぼ完形	0.053	12.2	—	4.2	良好	淡褐色	密	丁寧なヘラミガキ 丁寧なヘラミガキ、十文字の線刻	内外面黒色処理(漆仕上)
		70-9	9	甕 口縁～底部⅓	カマド脇 0.032	(27.0)	(8.4)	13.6+11.5 (25.1)	良好	褐色	微砂粒多	口縁部ナデ、頸部は強いナデによってケズリ端を消す、胴部ヘラケズリ上～下胴下端は下～上のヘラケズリ、内口縁部ナデ、胴部ヘラナデ後ヘラミガキ、中位以下ヘラナデのみ	
71	49	71-1	2	大型甕？ 口縁1/10	カマド脇 0.104	(43.2)	—	—	良好	淡茶褐色 黒褐色	3㎜大 小礫多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		71-2	1	大型甕 口縁⅛	0.175	(29.4)	—	—	良好	褐色	3㎜大 茶褐色粒多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		71-3	5	高坏 口縁、裾部全欠	0.034	—	—	—	良好	淡赤褐色 淡赤～暗褐色	密	坏部底面ヘラケズリ、脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 坏部底面ヘラナデ、脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	内外面(赤彩) (脚部内面除く)
		71-4	4	高坏 脚部½	0.021	—	9.7	—	良好	淡赤褐色 褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	外(赤彩)
		71-5	3	甕 底部½弱	0.269	—	(10.2)	—	良好	褐色	密	ヘラケズリ ヘラナデ	底部木葉痕あり
76	80	76-1	1	坏、底部 底部¼	P3一括	—	(7.4)	—	良好	褐色	密	底部回転ヘラ切り	拓本
77	126A	77-1	1	甕 ¾底部欠	0.284	21.2	—	—	良好	暗褐色	密	口唇部1条の沈線状の凹帯、口縁部ナデ、頸部輪積痕、胴部上位縦ヘラケズリ、下位横ヘラケズリ、内、口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	器厚が非常に薄い 口唇部摘み上り気味
		77-2	2	甕 ¼	0.332	(24.6)	—	—	良好	暗褐色 褐色	密	口唇部1条の沈線状の凹帯、口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	器厚非常に薄い
		77-3	4	甕 口縁¼	0.284	(19.6)	—	—	良好	暗褐色	密	口唇部1条の沈線状の凹帯、口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	器厚非常に薄い 口唇部摘み上り気味

		77-4	3	甕 底部完存	0.284	—	4.8	—	良好	黒褐色	密	ヘラケズリ ヘラナデ	器厚非常に薄い
78	89	78-1	2	鉢 口縁¼～底部完存	カマド内 0.071	(14.8)	8.0	7.3	良好	明茶褐色	2～3㎜大小礫及び1cm大小礫含	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		78-2	12	須恵器、蓋 口縁⅙、鈕部分全欠	85号床面より 0.158	(17.6)	—	—	良好	青灰色	密	ロクロ、口唇は短く内傾気味に屈曲	
		78-3	13	須恵器、蓋 ¼、鈕部分全欠	79号床面より 0.288	(16.5)	—	—	良好	青灰色	密	ロクロ、口唇は短く外反気味に屈曲	
		78-4	5	須恵器、蓋 口縁½、鈕部完存	カマド内 一括	(15.5)	—	(3.8)	良好	白灰色	密	口唇は短く外反気味に屈曲、鈕貼付後、周囲横ナデ、鈕偏平な擬宝珠形	器面磨耗激しい
		78-5	1	甕 口縁～胴中位⅓	カマド内 0.071	23.0	—	—	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	最大径口縁部
		78-6	4	高坏？ 脚部のみ、裾部欠	0.175	—	(±9.3)	—	良好	褐色	密	脚部ヘラケズリ 脚部ヘラケズリ	
79	88	79-1	3	埦 ⅓	-0.022	(13.6)	8.2	(±6.2)	良好	暗～茶褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		79-2	2	坏 口縁⅓強、体部½強	0.040	(14.8)	—	3.9	良好	黒～暗茶褐色 暗～明茶褐色	密	立ち上りは3段、凹部は沈線状を呈す、(ナデ)、体部ヘラケズリ後若干のヘラミガキ 立ち上りはヘラナデ、体部ヘラナデ後ミガキによる放射状暗文	内外面黒色処理(漆仕上) 有段口縁坏
		79-3	1	甕 口縁¼	0.006	(19.8)	—	—	良好	黒褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	外面灰付着
		79-4	4	坏 口縁⅙欠	周溝内 0.266	9.0	—	3.0	良好	茶褐色 暗～茶褐色	密	口縁部ナデ、体部粗いヘラケズリ 粗いヘラナデ	ミニチュア土器
		79-5	10	蓋 摘み部	0.164	幅 1.4	—	21.5	良好	赤褐色	密	ヘラナデ	(赤彩)、断面円形
80	137	80-1	1	甕 口唇部欠、頸部⅛、胴部½強	カマド前 0.004	(±18.2) 前後	—	—	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部上位縦ヘラケズリ、胴部中位横ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
81	75	81-1	9	甕 口縁欠、胴中位⅔、底部完存	-0.013	—	5.2	—	良好	暗褐色	2㎜大 小礫多	ヘラケズリ ヘラナデ	
		81-5	5	坏 口縁¼、体部½	周溝内 0.189	(14.2)	—	4.2	良好	褐～淡橙色 淡橙色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		81-6	3	坏 完形	周溝内 0.135	14.4	—	4.2	良好	淡橙色	密	二次風化激しく器面全体に及び、調整等やや不明瞭 外、口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、内、口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外)(内)色調	胎土	(外)(内)特徴	備考
81	75	81-7	6	坏 ⅓強	0.102	(14.9)	—	5.0	良好	褐～淡赤褐色 淡赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	外面立ち上り部のみ(赤彩) 内全面(赤彩)
		81-8	7	坏 ¼強	0.144	(15.1)	—	4.9	良好	淡橙色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩) 部分的に磨耗している
		81-9	1	坏 ⅓欠	P13内 -0.026	15.3	—	4.8	良好	茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		81-10	4	坏 完形	0.020	15.8	—	5.2	良好	茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		81-11	2	坏 完形	0.019	12.3	—	4.2	良好	茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ナデ、体部丁寧なヘラナデ	内外面(赤彩)
		81-12	8	坏 ¼弱	0.141	(14.2)	—	(5.9)	良好	褐色	微砂粒多	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ	
82	126B	82-1	4	高坏 脚部½弱	一括	—	—	—	良好	褐色	密	脚部横方向の平行沈線状のハケ or 櫛状工具による条線 ヘラナデ	2方に有孔は確認できる
		82-2	2	高坏 脚部のみ	一括	—	—	—	良好	褐色	密	ヘラミガキ ヘラケズリ	脚3方に有孔
		82-3	3	坩 口縁⅛	一括	(11.2)	—	—	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ハケ後若干ヘラミガキ 口縁部ナデ、頸部付近にハケ整形痕残る	
		82-4	1	高坏 脚部のみ	一括	—	—	—	良好	褐色	密	ヘラミガキ ヘラミガキ	脚3方に径1.0cm前後の有孔
83	119	83-1	1	甕 口縁	一括	(14.2)	—	—	良好	黒褐色	密	頸部にハケ残る 頸部付近ハケ	
84	60	84-1	7	壺 口縁⅛	90号西側 一括	(28.8)	—	—	良好	褐～赤褐色 赤褐色	白色微砂粒多	口唇部～口縁羽状縄文、棒状浮文2連肘付、赤彩箇所 ヘラミガキ、内ヘラミガキ	外口縁下端(赤彩) 内全面(赤彩)
		84-2	8	鉢 口縁⅙	90号西側 一括	(17.2)	—	—	良好	褐色	密	口唇部細縄文、口縁羽状縄文、沈線以下ヘラミガキ、 径6㎜程の貫通孔内ヘラミガキ	内外面共やや磨耗している 外沈線以下、内全面(赤彩)
		84-3	14	壺 口縁	一括	—	—	—	良好	淡赤褐色	密	頸部縄文原体による刺突文、ヘラミガキ ヘラミガキ	拓本、内外面(赤彩)
		84-4	11	甕 口縁	一括	—	—	—	良好	褐色	微砂粒多	口縁部輪積4段以上、口唇部指頭押捺圧痕	拓本

84	60	84-5	12	甕 口縁	90A号西側 一括	−	−	−	良好	淡暗褐色	黒色徴砂粒多	口唇部指頭押捺圧波状文、頸部に1条の段残す	拓本
		84-6	10	鉢 口縁	90A号西側 一括	−	−	−	良好	褐色 赤褐色	密	羽状縄文、口唇部細縄文 ヘラミガキ	拓本、内(赤彩)
		84-7	13	甕 口縁	一括	−	−	−	良好	褐色	密	口唇部指頭押捺圧波状文、頸部に1段の輪積を有す、ヘラナデ ヘラナデ	拓本
		84-8	9	壺 胴部	90A号西側 一括	−	−	−	良好	淡褐色	白色徴砂粒多	2条の平行沈線区画内に羽状縄文	拓本、外(赤彩)
85	121	85-1	18	鉢 ¼	一括	(12.0)	(4.4)	5.0	良好	淡褐色	密	口唇部細縄文、口縁部羽状縄文、胴部ヘラナデ後ヘラミガキ ヘラミガキ	赤彩は認められない
		85-2	1	壺 底部完存	0.042	−	8.8	−	良好	淡褐色	密	ヘラナデ ヘラナデ	
		85-3	15	甕 口縁	一括	−	−	−	良好	暗褐色 褐色	密	口唇部指頭押捺圧波状文、ハケ	拓本
		85-4	22	甕 口縁	一括	−	−	−	良好	暗褐色	密	口唇部指頭押捺圧波状文	拓本
		85-5	17	壺 肩部	一括	−	−	−	良好	淡褐色	密	S字状結節文	拓本
		85-6	16	壺 肩部	一括	−	−	−	良好	淡褐色	密	羽状縄文	拓本
		85-7	8	甕 頸部	一括	−	−	−	良好	淡茶褐色	密	ハケ	拓本
87	56	87-1	3	甕？ 胴部½～底部完存	0.022	−	5.5	−	良好	黒～茶褐色 暗～茶褐色	密	ハケ中位以下器面の剝離激しい 頸部の一部にハケ痕あり、胴部ヘラミガキ	外(色調茶褐色は剝離箇所)
		87-2	7	甕 口縁～胴部½	炉内底 0.029	21.4	−	−	良好	淡茶褐色	密	波状口縁、胴部ハケ状工具によるヘラケズリ、擦痕状の条線は1単位20本以上、外面調整時のハケ状工具によるヘラナデ、下位ヘラミガキ	
		87-3	2	壺？ 底部½	0.030	−	−	−	良好	暗赤褐色 赤～淡褐色	密	S字状結節文、間にヘラミガキ赤彩 ヘラミガキ、底部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		87-4	6	甕？ 胴部½弱、底部完存	0.387	−	5.8	−	良好	淡暗褐色	密	ヘラミガキ ヘラナデ	
		87-5	5	壺？ 頸部のみ	0.049	−	−	−	良好	淡褐色	密	ヘラミガキ、肩部に細縄文あり 剝離激しく不明	

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外)(内)色調	胎土	(外)(内)特徴	備考
87	56	87-6	1	甕 底部½弱	0.124	—	—	—	良好	淡褐色	白色微砂粒多	ヘラケズリ後ヘラミガキ ヘラナデ	
		87-7	4	高坏？ 坏部下半～脚部のみ	0.063	—	—	—	良好	赤茶褐色	密	ヘラナデ ヘラナデ、坏部赤彩丁寧、脚部赤彩粗	内外面(赤彩)
		87-8	11	甕 口縁	0.000	—	—	—	良好	暗褐色	微砂粒多	口唇部、内外面指頭押捺圧による波状文、ハケ状工具によるナデ(条線は細かい)	
		87-9	15	甕 口縁	一括	—	—	—	良好	淡褐色 暗褐色	密	口唇部刺突による刻み、ハケ	拓本
		87-10	14	甕 口縁	一括	—	—	—	良好	暗褐色	密	口唇部刺突による刻み、ハケ	拓本
		87-11	5	壺 肩部のみ	0.049	—	—	—	良好	淡褐色	密	細縄文以外ヘラミガキ	拓本
		87-12	12	壺 胴部	0.056	—	—	—	良好	暗褐色 赤～淡褐色	密	S字状結節文間にヘラミガキ赤彩	拓本 87-3と同一個体
89	85	89-1	5	甕 口縁欠、胴部¼	カマド内 0.048	—	—	—	良好	淡褐色 暗褐色	白色微砂粒少 石英微砂粒多	タタキ ヘラナデ	須恵器か？
		89-2	7	小型甕 口縁¼	0.125	(13.2)	—	—	良好	淡茶褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		89-3	1	坏 ⅕欠	カマド袖より -0.165	12.1	6.5	4.1	良好	淡褐色	2～3㎜大 微砂粒多	ロクロ、回転ヘラケズリ、底部下端ヘラケズリ	
		89-4	3	高台付坏 口縁½弱、高台部全欠	カマド内 0.094	(18.8)	(9.2)	(6.1)	良好	淡褐色 黒色	密	ロクロ ヘラミガキ	内面黒色処理 高台部欠損
		89-5	4	坏 ⅓	0.147	(16.6)	(8.2)	5.0	良好	淡褐色	密	ロクロ、底部付近手持ちヘラケズリ	
		89-6	2	支脚 完形	カマド内 0.021	5.7×5.0	—	13.0	良好	淡褐～白灰色	微砂粒多 (砂っぽい)	二次加熱を受ける	断面円形
90A	42	90A-1	1	甕 ほぼ完形(胴部一部欠)	カマド内 0.068	20.6	6.1	27.5	良好	暗～淡褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	口唇部片口状を呈している
		90A-2	2	甕 口縁¾、底部¼欠	カマド内 -0.019	(17.4)	6.5	26.7	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後一部にヘラナデ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	

90A	42	90A-3	3	高坏 口縁¼欠	カマド内 0.128	13.6	8.9	8.7	良好	淡赤褐色 脚部内面褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、脚部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ、脚部ヘラケズリ	外全面(赤彩) 内坏部(赤彩)
		90A-4	7	高坏 口縁½、裾部¾欠	0.008	14.6	9.5	10.5	良好	淡赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ、脚部ヘラケズリ	外全面(赤彩) 内坏部(赤彩)
		90A-5	12	坏 ½	カマド内 0.026	14.2	—	4.3	良好	淡赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		90A-6	16	小型甕 ¼	0.030	(11.4)	—	—	良好	暗赤褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		90A-7	4	高坏 坏部½強	カマド内 0.176	13.0	—	—	良好	淡赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		90A-8	9	高坏 坏部¼強	カマド内 -0.057	(14.6)	—	—	良好	淡赤茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩) 外面輪積痕明瞭
		90A-9	13	高坏 坏部¼	カマド内 0.090	(13.8)	—	—	良好	暗赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩) 外面輪積痕明瞭
		90A-10	8	高坏 坏部¼	0.092	(14.8)	—	—	良好	淡赤～茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		90A-11	10	高坏 坏部¼	0.026	(14.2)	—	—	良好	淡赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		90A-12	22	須恵器、坏身 口唇欠⅓	0.135	(11.9)	—	(4.7)	良好	青灰色	白色微砂粒多	ロクロ、底部回転ヘラケズリ、ケズリ範囲⅓弱、ケズリ方向時計廻り	断面淡紫色
		90A-15	5	坏？ 口縁⅓欠	一括	2.8	2.0	2.0	良好	茶褐色	密	指ナデ 指ナデ	手捏土器
91	76AB	91-1	17	甕 口縁¼～全体½弱	0.019	(25.0)	—	28.2	良好	褐色	2～5㎜大 小礫多	口縁部ナデ、胴部上位縦ヘラケズリ、中位以下横ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		91-2	51	甕 ⅓強	P19上 0.059	(25.6)	—	—	良好	淡褐色	2～3㎜大 小礫多	口縁部ナデ、胴部上位縦ヘラケズリ、中位横ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		91-3	42	甕 ほぼ完形	0.032	17.2	7.9	21.2	良好	暗褐色 淡褐色	微砂粒多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		91-4	31	小型甕 口縁～底部⅓強	0.063	(14.0)	(5.2)	15.6	良好	暗～暗茶褐色	微砂粒多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	P12内出土破片と接合
		91-5	13	小型甕 口縁⅓	0.001	(13.1)	—	—	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外) (内)色調	胎土	(外) (内)特徴	備考
91	76AB	91-6	45	小型甕 口縁¼～底部完存	カマド袖 0.150	(10.8)	5.6	8.8	やや不良	暗褐色	1～2㎜大 小礫多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		91-7	49	小型短頸壺 ¼	P9内 0.047	(9.1)	－	(6.6)	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、頸部～肩部ヘラケズリ後ヘラミガキ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラミガキ	内外面黒色処理 (漆仕上)
		91-8	9	小型甕 口縁¼	0.060	(11.1)	－	－	良好	淡橙褐色 暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		91-9	10	鉢 口縁～胴中位½	0.072	13.0	－	－	良好	褐色 暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		91-10	44	鉢 ½、底部完存	カマド内 0.107	14.7	7.2	5.8	良好	暗～褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		91-11	39	鉢 口縁⅓欠、底部½	0.098	12.8	6.0	8.7	良好	暗褐色	2～3㎜大 小礫多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		91-12	46	坏 ⅓強	カマド前 0.030	(13.8)	－	(3.7)	良好	淡～暗褐色 黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラミガキ	内外面黒色処理 (漆仕上)
		91-13	54	坏 ⅓強	P19底面 0.074	(13.2)	－	(3.7)	良好	黒～暗褐色	密	ヘラミガキ ヘラミガキ	内外面黒色処理 (漆仕上)
		91-14	41	坏 ⅕欠	-0.007	13.4	－	3.5	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ後ヘラミガキ	内外面黒色処理 (漆仕上)
		91-15	48	坏 ¼強	一括	(14.0)	－	3.5	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ	内外面黒色処理 (漆仕上)
		91-16	56	坏 口縁¼、体部½強	0.049	(14.5)	－	3.8	良好	暗褐色	密	口縁部ヘラミガキ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ ヘラミガキ	内外面黒色処理 (漆仕上)
		91-17	16	高坏 坏部½、脚部欠	0.357	12.5	－	－	良好	淡赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ	内外面(赤彩)
		91-18	30	高坏 裾部⅓欠	一括	－	(9.1)	－	良好	淡赤褐色 暗褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		91-19	8	高坏 坏部欠、裾部⅔欠	0.362	－	(9.5)	－	良好	淡赤褐色 暗褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		91-20	3	坏 口唇部⅓欠	0.222	12.6	－	4.8	良好	暗～淡赤褐色 淡赤褐色	密	口唇部一部ナデ他ヘラケズリ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	外口縁～体部(赤彩) 内全面(赤彩)

91	76AB	91-21	7	須恵器、坏 口縁¼	0.353	(12.1)	−	−	良好	緑灰色 灰色	白色微砂粒含	立ち上りやや内傾、端部明瞭な段、受け部は丸く上方にのびる	外面緑灰色の自然釉全面付着 特に受部に多量に留る。
		91-25	57	坏？ 完形	0.255	5.6	4.6	3.2	不良	褐色	微砂粒多	指ナデ 指ナデ	手捏土器
		91-26	15	坏？ 口縁½欠	0.417	3.9	2.9	2.4	良好	淡褐色	密	指ナデ 指ナデ	手捏土器
		91-27	12	坏？ ほぼ完形	0.083	4.3	3.4	3.6	良好	濃茶褐色	微砂粒多	指ナデ 指ナデ	手捏土器
		91-28	22	坏？ 口縁½欠	一括	2.5	2.0	1.0	良好	茶褐色	密	指ナデ 指ナデ	手捏土器
94	101A	94-1	6	壺 口縁	0.165	−	−	−	良好	褐色	密	口唇部細縄文、頸部羽状縄文Ｓ字状結節文２連×２、中間は無文 Ｓ字状結節文下、羽状縄文、内ヘラナデ	
		94-2	7	鉢 口縁¼弱、底部欠	-0.039	(17.2)	−	−	良好	褐～淡赤褐色	密	口唇部細縄文、口縁部細縄文、胴部Ｓ字結節文沈線、ヘラミガキ ヘラミガキ	内外面(赤彩) 口縁部に5㎜程の一孔
		94-3	3	壺 底部完存	P24 一括	−	6.4	−	良好	明赤褐色	微砂粒多	ヘラナデ ヘラミガキ	内外面(赤彩)
		94-4	1	甕 口縁	0.102	−	−	−	やや不良	暗褐色	1㎜大 砂多量混入	口唇部波状文、ヘラナデ ヘラナデ	拓本 (器面内外共に磨耗激しい)
		94-5	2	壺 胴部	0.100	−	−	−	良好	褐～赤褐色 褐色	乳白色粒多	上位羽状縄文沈線、中位平行沈線山形文内羽状細縄文 ヘラナデ	拓本 沈線区画外(赤彩)
		94-6	5	壺 口縁	一括	−	−	−	良好	褐色 淡赤褐色	乳白色微砂粒多	口縁部羽状縄文、棒状浮文1本磨耗、羽状縄文の下端は刻み	拓本 内(赤彩)
		94-7	4	甕 口縁	一括	−	−	−	良好	黒褐色	密	ハケ、口唇文指頭押捺圧痕による波状文 ハケ	拓本
98	65	98-1	2	甕 口縁½	カマド付近 0.097	22.8	−	−	良好	褐色	2～3㎜大 小礫多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	最大径は口縁か
		98-2	3	甕 胴中位⅓～底部完存	0.087	−	9.2	−	良好	茶褐色	密	ヘラケズリ ヘラナデ	底部に張り合わせ板の圧痕2ケ所あり
		98-3	1	甕 口縁½弱	0.000	(25.5)	−	−	良好	淡茶褐色	密 (部分的に5㎜大小礫含)	口縁部ナデ、頸部ヘラケズリ後ヘラナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ 口縁部ナデ、頸部ヘラナデ横方向、下端指ナデ縦方向、胴部ヘラナデ	床直上
		98-4	4	鉢 口縁⅓強、底部完存	0.174	(17.8)	7.8	7.3	良好	暗褐色	密	ヘラケズリ 口縁部、胴部ヘラナデ	

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外) (内)色調	胎土	(外) (内)特徴	備考
98	65	98-5	5	小型甕 底部完存	カマド付近 0.102	－	5.9	－	良好	茶褐色	微砂粒多	ヘラケズリ ヘラナデ	
		98-6	8	須恵器、高台付坏 底部1/3強	0.270	－	(8.6)	－	良好	淡青灰色	密	高台貼付、ロクロ、底部回転ヘラケズリ、ケズリ方向逆時計廻り	
99	70	99-1	18	甕 ほぼ完形	カマド内 0.081	19.8	5.2	27.7	良好	暗茶褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ(上下)後ヘラナデ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		99-2	19	甕 口唇部欠～胴部1/3	カマド脇 0.033	(20.2) 前後	－	－	良好	褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後上位ヘラミガキ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ、輪積痕残る	
		99-3	20	甑 全体の1/3強	P41 0.027	－	(5.8)	－	良好	暗～茶褐色 暗茶褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	口唇欠～胴中位1/3、胴中位1/3弱、胴下位1/3、接合しないが同一個体
		99-4	6	小型甕 完形	カマド前面 0.056	12.8	5.8	10.4	良好	暗褐色 淡褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		99-5	8	小型短頸壺 口縁2/3欠	0.041	(11.1)	4.7	8.5	良好	茶褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ、胴部中位以下剝離激しく不明	
		99-6	5	埦？ 完形	カマド前面 0.056	12.6	－	6.2	良好	淡茶～褐色	密	内外面器面剝離激しい	外口縁～体部1/2(赤彩) 内全面(赤彩)
		99-7	4	坏 ほぼ完形	カマド脇 0.003	13.7	－	4.7	良好	淡～茶褐色	密	剝離激しく不明、赤彩痕は全面に残る 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内全面(赤彩)
		99-8	1	坏 ほぼ完形	0.023	13.8	－	5.0	良好	茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ	内外面(赤彩)
		99-9	2	坏 完形	カマド前面 0.091	13.7	－	4.9	良好	淡茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		99-10	9	坏 2/3	0.062	14.2	－	4.9	良好	淡茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		99-11	3	坏 ほぼ完形	カマド前面 0.088	14.1	－	5.1	良好	茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		99-12	13	高坏？ 口縁1/3、脚部欠	カマド内 0.006	(14.9)	－	－	良好	淡橙褐色	密	全体的に器面磨耗、口縁部ナデ、体部ヘラケズリ磨耗激しいがナデか	内外面(赤彩)
		99-13	7	須恵器、蓋 ほぼ完形	カマド内 0.022	13.0	－	4.6	良好	淡青灰色	白色粒2㎜大含	ロクロ、ヘラケズリ順廻り、天井部ヘラケズリの範囲は鋭い稜部付近迄及ぶ、口縁部は比較的高く天井部は丸味を持つ、口唇部は段をなす	

99	70	99-14	11	坏 口縁1/4	0.052	(11.6)	−	−	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ナデ	内外面(赤彩)
		99-15	15	高坏 口縁3/4欠、胴部欠	カマド脇 0.003	(13.5)	−	−	良好	淡赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部弱いヘラナデ	内外面(赤彩)
		99-16	12	高坏 口縁1/4	カマド前面 0.117	(14.0)	−	−	良好	淡赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ	内外面(赤彩)
		99-17	26	支脚 ほぼ完形	カマド内 0.020	幅 8.0	厚 8.6	長 18.2	不良	茶褐色	微砂粒多 (砂っぽい)	底部に焼土灰付着、粗いヘラケズリ	断面円形
		99-18	16	高坏 坏部完存、脚部欠	カマド内 0.069	14.0	−	−	良好	淡橙褐色	茶褐色粒多	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		99-19	14	高坏 坏部完存、脚中位以下欠	0.024	13.2	−	−	良好	暗赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、脚部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ、脚部ヘラケズリ	脚内面除き(赤彩)
		99-20	17	高坏 坏部欠、脚部ほぼ完存	0.016	−	9.3	−	良好	明赤褐色 褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		99-21	10	高坏？ 坏部1/3、脚部欠	0.014	(14.8)	−	−	良好	淡茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
103	86	103-1	5	甕 口縁1/2	中央西側 0.145	16.0	−	−	良好	淡褐色	3㎜大 小礫多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		103-2	6	小型甕 1/4	中央西側 0.066	(13.6)	−	−	良好	淡茶褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		103-3	24	甕 胴下位1/3～底部完存	西壁周溝内 0.053	−	6.2	−	良好	暗褐色	密	ヘラケズリ ヘラナデ、底部付近は櫛状工具による調整後粗いヘラミガキ	
		103-4	2	甕 ほぼ完形	中央西側 0.129	19.3	6.9	31.3	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		103-5	1	甕 完形	中央西側 0.132	14.7	4.7	26.8	良好	淡茶褐色	密 5㎜大小礫含	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ方向は下から上、一部器面剝離箇所あり 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	口唇部歪む、全体的に器厚が厚く重い
		103-6	3	須恵器、甕 口唇部欠	中央西側 0.050	(±11.2)	−	(±12.2)	良好	青灰色	密	頸部及び沈線間には櫛描き波状文をめぐらし、円孔1ケを穿つ、胴中位以下は入念に平滑化し、にぶい光沢をもつ、内底部は粘土紐巻き上げ痕残る	頸部上位から肩部、内面底部に白灰色～緑色の自然釉付着
		103-7	4	須恵器、甕 口縁～頸部欠、胴部1/2強	0.089	−	−	−	良好	暗青灰色	密	底部やや偏平気味で胴中位付近に沈線及び波状文等は認められない、胴中央部に径1.7㎝程の孔を穿つ、断面は紫がかった青灰色	底部内面、及び外面肩部に緑色自然釉付着
		103-8	7	坏 1/2強	0.073	14.4	−	5.3	良好	淡赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外)(内)色調	胎土	(外)(内)特徴	備考
103	86	103-9	9	坏 1/3	P一括	(14.0)	—	—	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ、器面剝離激しい	内外面(赤彩)
		103-10	8	高坏 口縁1/4欠	0.016	13.3	9.1	9.6	良好	淡赤褐色 脚内面褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ、脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		103-11	10	高坏 脚部欠、1/3強	P一括	(15.0)	—	—	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		103-12	17	高坏 裾部1/2欠	0.151	—	9.4	—	良好	淡赤褐色 暗褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		103-13	12	高坏 脚部1/3	一括	—	(8.7)	—	良好	赤褐色 褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		103-14	15	高坏 脚部2/3	中央西側 0.067	—	8.6	—	良好	淡橙色 褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		103-15	22	高坏 脚部完存、裾部2/3欠	0.003	—	8.7	—	良好	赤褐色 褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		103-16	14	高坏 脚部のみ	0.006	—	(8.7)	—	良好	淡橙褐色 暗褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		103-17	20	高坏 裾端部2/3欠	0.080	—	8.2	—	良好	淡赤褐色 暗褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		103-18	19	高坏 脚部ほぼ完存	0.011	—	9.0	—	良好	淡茶褐色 褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		103-19	16	高坏 脚部完存	中央西側 0.149	—	10.0	—	良好	淡橙色 褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラミガキ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		103-20	23	高坏 脚部完存	中央西側 0.129	—	8.8	—	良好	赤褐色 褐色	密	脚部ヘラミガキ、裾部ナデ ナデ	脚内面除き(赤彩)
		103-21	21	高坏 脚部のみ	0.325	—	—	—	良好	赤褐色 褐色	密	脚部ヘラケズリ 脚部ヘラケズリ	脚内面除き(赤彩)
		103-22	18	高坏 脚部のみ	0.159	—	—	—	良好	淡橙褐色 橙褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ	脚内面除き(赤彩)
		103-23	11	高坏 脚部のみ	0.252	—	—	—	良好	赤褐色 黒褐色	密	脚部ヘラケズリ 脚部ヘラケズリ	脚内面除き(赤彩)

103	86	103-24	13	高坏 脚部のみ	0.084	−	−	−	良好	赤褐色 褐色	密	脚部ヘラケズリ 脚部ヘラケズリ	脚内面除き(赤彩)
		103-25	25	埦？ ほぼ完形	0.046	5.5	5.1	3.3	やや不良	淡褐色	微砂粒多	指ナデ 指ナデ	手捏土器
		103-26	26	埦？ 口唇部一部欠	0.011	3.8	2.7	2.5	良好	淡茶褐色	密	指ナデ 指ナデ	手捏土器
		103-27	27	埦？ 完形	0.006	3.4	2.6	2.3	良好	淡茶褐色	密	指ナデ 指ナデ	手捏土器
104	79	104-1	3	甕 口縁1/4	0.244	(20.4)	−	−	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		104-2	2	甕 底部完存	0.043	−	6.4	−	良好	淡褐色	密	ヘラケズリ ヘラナデ	底部突出
		104-3	4	高坏 坏部2/3	0.049	15.4	−	−	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、体部下端に稜あり 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		104-4	5	高坏 脚部のみ、裾部2/3欠	0.148	−	(9.6)	−	良好	赤褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		104-5	6	坏 口縁1/4	0.403	(15.1)	−	−	良好	暗赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ナデ	内外面(赤彩)
		104-6	7	坏 1/3強	カマド脇 0.032	12.0	−	(4.5)	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ナデ	内外面(赤彩) 109号住須恵器蓋に類似する
		104-7	26	須恵器、蓋 口縁1/8、天井部下1/4	一括	(12.0)	−	−	良好	青灰色	密 白色微砂粒含	ロクロ、稜は弱く短く屈曲、天井部回転ヘラケズリ、範囲は2/3程、ケズリ方向順廻り口唇部は弱い段を持つ	
		104-14	11	鉢 1/2	一括	−	6.7	−	やや不良	淡褐色	密	指ナデ 指ナデ	手捏土器
		104-15	10	鉢 口縁欠、底部1/2	一括	−	3.8	−	良好	淡褐色	密	ヘラケズリ ヘラミガキ	ミニチュア土器
105	72A	105-1	2	甑 ほぼ完形	カマド付近 0.020	26.8	9.8	28.6	良好	褐色	2〜3㎜大 小礫多	口縁部ナデ、胴部上位上から下のヘラケズリ後ヘラミガキに近いヘラナデ、胴部下位は下から上のヘラケズリ、内面口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		105-2	3	甕 口縁1/6、胴〜底部1/2強	カマド付近 0.016	(17.0)	7.3	24.2	良好	暗褐色 褐色	2〜5㎜大 小礫多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	胴中位大きく歪む 底部径7-8㎝で楕円形
		105-3	19	甕 胴中位3/4、底部完存	北壁周溝付近 0.159	−	5.4	−	良好	暗褐色	2〜3㎜大 小礫多	下から上へのヘラケズリ後若干のヘラミガキ ヘラナデ	

遺構 No.	旧遺構 No.	図番	実測 No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外)(内)色調	胎土	(外)(内) 特徴	備考
105	72A	105-4	20	坏 1/4	北壁周溝付近 0.181	(13.1)	—	—	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ	内外面黒色処理
		105-5	5	須恵器、蓋 1/5	0.047	(12.9)	—	—	良好	青灰色	白色微砂粒多	ロクロ、回転ヘラケズリ方向は時計廻り、稜はやや鈍く短く屈曲、天井部ヘラケズリ範囲は2/3前後、口唇部は明瞭な段を持つ	炭化物付着
		105-6	4	高坏 坏部1/2弱、脚部欠	0.093	(13.0)	—	—	良好	淡赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		105-7	1	坏 完形	南壁際 0.106	10.2	—	5.0	良好	暗褐色	2～3㎜大 小礫多	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後ヘラナデ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面黒色処理
106	71	106-1	3	坏 1/8	一括	(16.0)	(5.4)	6.0	良好	淡褐色 黒色	密	ロクロ、体部下位～底部にかけて手持ちヘラケズリ ヘラミガキ	内面黒色処理
		106-2	1	坏 口縁1/2弱～底部ほぼ完存	南壁周溝内 0.016	13.7	5.6	4.5	良好	暗褐色	密	ロクロ、体部中位～底部手持ちヘラケズリ	
		106-3	2	坏 口縁1/6～底部1/3強	南壁周溝内 0.017	(12.9)	(4.7)	4.3	良好	淡橙褐色	密	ロクロ、底部回転糸切り後体部中位にかけて手持ちヘラケズリ	
		106-4	4	坏 口縁1/4、底部ほぼ全欠	南壁周溝内 0.016	(12.1)	(5.1)	(3.6)	良好	淡橙褐色	密	ロクロ、体部下位～底部にかけて手持ちヘラケズリ	
107	64A	107-1	6	支脚 下端部欠	-0.070	—	—	—	不良	淡褐色	2㎜大 微砂粒多	粗いヘラケズリ、部分的に角張る	断面円形
		107-2	2	坏 3/4	0.007	13.7	—	4.9	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
108	64B	108-1	5	壺？ 底部完存	一括	—	5.7	—	良好	暗赤褐色	白色微砂粒多	ヘラミガキ ヘラミガキ	内外面(赤彩)
		108-2	1	鉢 口縁	一括	(22.4)	—	—	良好	淡～赤褐色	乳白色微砂粒多	口唇部斜行細縄文、口縁羽状細縄文3段、ボタン状の貼付文内に円形竹管刺突文、体部下位沈線区画1条、以下赤彩ヘラミガキ、内面赤彩ヘラミガキ	拓本、体部下位沈線より下(赤彩)
		108-3	2	鉢 口縁	一括	—	—	—	良好	淡褐色 赤褐色	乳白色微砂粒多	口唇部斜行細縄文、折り返し口縁羽状細縄文、下端部に縄文原体による押捺圧、以下羽状縄文、内ヘラミガキ赤彩	拓本
		108-4	3	鉢 口縁	一括	—	—	—	良好	淡～赤褐色 赤褐色	乳白色微砂粒多	口唇部細縄文、口縁斜行細縄文、上位S字状結節文、下端沈線区画1条、赤彩ヘラミガキ、内面赤彩ヘラミガキ	拓本
		108-5	4	鉢 胴部	一括	—	—	—	良好	淡褐色 赤褐色	乳白色微砂粒多	羽状縄文、下端沈線、赤彩ヘラミガキ、内面赤彩ヘラミガキ	拓本

109	62	109-1	2	甑 口縁1/4～底部完存	東壁際 0.000	(26.5)	7.0	28.4	良好	暗～淡褐色	1mm大 小礫多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	床直上
		109-2	9	坩 口縁欠、胴部完存	貯蔵穴内 0.317	－	－	－	良好	淡橙褐色 暗褐色	密	胴部ヘラケズリ 頸部指ナデ、胴部ヘラナデ	出土レベルは貯蔵穴底部より
		109-3	7	鉢 1/4	南壁際 0.046	(15.3)	－	－	良好	黒褐色	微砂粒多	口縁部ナデ、胴部ヘラナデ 口縁部ナデ、胴部指ナデ、輪積痕明瞭	
		109-4	26	坏 1/5	一括	(14.4)	－	－	良好	淡赤褐色 暗赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		109-5	6	高坏 坏部1/3	0.073	(15.0)	－	－	良好	淡茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、 ヘラナデ	内外面(赤彩) 内外面器面やや磨耗
		109-6	3	高坏 坏部3/4、脚部欠	0.054	13.2	－	－	良好	淡赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ	内外面(赤彩)
		109-7	4	高坏 坏部1/3	一括	(13.8)	－	－	良好	明赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ)内外面器面磨耗	内外面(赤彩)
		109-8	5	高坏 裾部1/3欠	南壁際 0.236	－	(9.1)	－	良好	淡褐色 褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き赤彩
		109-9	8	須恵器、蓋 口縁3/4、天井部全欠	0.003	12.3	－	(4.2)	良好	淡青灰色	白色微砂粒多	ロクロ、回転時計廻り、ケズリ方向範囲は天井部1/2強、稜はやや鈍い、口唇部に不明瞭な段を有する箇所あり、口縁部歪む	
		109-10	1	鉢？ ほぼ完形(口縁の一部欠)	0.378	4.3	3.6	3.2	不良	淡褐色	微砂粒 小礫3～4mm大多	指ナデ 指ナデ	手捏土器
		109-11	11	鉢？ 口縁欠	0.054	3.4	2.7	1.5	良好	褐色	密	指ナデ 指ナデ	手捏土器
		109-20	24	支脚 ほぼ完形	貯蔵穴内 0.232	最大幅 5.8~8.6	8.5	長 23.0	やや不良	暗褐色	密	所々に焼土付着、粗なヘラケズリ	円筒形 出土レベルは貯蔵穴底部より
110	61	110-1	1	甕 胴部一部欠	カマド付近 及び貯蔵穴内 -0.102	27.2	8.0	37.0	良好	暗～褐色	密	口縁部ナデ、胴部横ヘラケズリ後縦ヘラケズリ後一部ヘラミガキ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	底部突出気味
		110-2	2	甑？ 口縁～胴部3/4強	0.001	30.1	－	－	良好	暗～褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後一部ヘラミガキ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		110-3	3	甕 1/4	0.091	(19.1)	－	－	良好	茶～暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラナデ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		110-4	4	坏 1/2弱	0.330	(14.0)	－	4.4	良好	暗～淡褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ	内面黒色処理(漆仕上)

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外)(内)色調	胎土	(外)(内)特徴	備考
110	61	110-5	32	坏 1/6	一括	(13.4)	—	—	良好	黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ	内外面黒色処理(漆仕上)
		110-6	5	坏 1/4	一括	(14.6)	—	—	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ後ヘラミガキ	
		110-7	9	甕 底部完存	0.248	—	4.3	—	良好	淡褐色	密	ヘラミガキ、底部付近ヘラケズリ ヘラナデ	混入、底部擦痕状の文様あり
		110-8	10	小型甕 胴部のみ	0.324	—	—	—	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	ミニチュア土器 口縁～底部欠
		110-9	28	支脚 下端部欠	カマド付近 0.035	—	—	—	不良	明橙色	微砂粒多		断面方形
		110-14	11	埦？ 完形	一括	4.5	—	1.6	良好	淡茶褐色	2mm大 小礫多	指ナデ 指ナデ	ミニチュア手捏土器
111	51	111-1	10	壺 口縁	一括	—	—	—	良好	淡褐色 赤褐色	暗褐色微砂粒多	口唇部羽状縄文、下位刺突文 ヘラミガキ後赤彩	拓本
		111-2	6	鉢 口縁	床直 0.000	—	—	—	良好	淡褐色 赤褐色	密	口唇～折り返し口縁部細縄文、以下羽状縄文 ヘラミガキ、赤彩	拓本
		111-3	9	甕 口縁	一括	—	—	—	良好	淡褐色	暗褐色微砂粒多	口唇部押捺圧波状文、折り返し口縁ヘラナデ ヘラナデ	拓本
		111-4	7	壺 口縁	一括	—	—	—	良好	淡褐色	白色微砂粒多	口唇部細縄文、口縁羽状縄文2段 ヘラナデ	拓本
		111-6	5	甕 口縁1/6	0.055	(17.0)	—	—	良好	暗褐色	密	ハケ整形後、口縁部ナデ、頸部ヘラナデ、口唇部面取 丁寧なヘラミガキ	
		111-7	1	鉢 底部完存	0.141	—	6.6	—	良好	淡赤茶褐色	白色微砂粒多	ヘラミガキ ヘラミガキ	内外面(赤彩) 壺底部？
		111-8	2	甕 胴部中位1/3、底部完存	0.078	—	7.4	—	良好	淡褐色	暗褐色微砂粒多	胴部ヘラナデ、底部付近ヘラケズリ ミガキに近いヘラナデ	
113	73	113-1	1	甕 底部欠	118号東壁付近 0.024	16.7	(6.0)	26.0	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	口縁1/5～胴下端1/2
		113-2	2	甕 底部のみ	0.019	—	6.5	—	良好	茶褐色 淡褐色	密	ヘラケズリ ヘラナデ	底部突出気味、やや不整ながら安定感あり

113	73	113-3	4	坏 1/6弱	一括	(13.1)	−	−	良好	淡赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	)内外面やや磨耗している	内外面(赤彩)
		113-4	3	坏 1/6弱	一括	(15.2)	−	−	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ		内外面(赤彩)
		113-5	5	坏 1/6残	一括	(14.8)	−	−	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ		内外面(赤彩)
114	87	114-1	3	高台付坏 口縁1/10、底部1/4以下	一括	(16.0)	(6.9)	(5.6)	良好	暗褐色 黒褐色	密	ロクロ ヘラミガキ		内面黒色処理 (複原実測)
		114-2	2	甕 底部1/2	一括	−	5.8	−	良好	極暗褐色	微砂粒多	ヘラケズリ ヘラナデ		
		114-3	1	坏 口縁1/2欠	カマド付近 0.149	12.6	5.5	4.3	良好	淡橙褐色	1〜2㎜大 小礫多	ロクロ、体部下端手持ヘラケズリ、底部糸切り後一部ヘラケズリ		
		114-4	4	支脚 中位欠	カマド付近 0.093	幅 6.5	厚 6.5	長 (21.5)	不良	淡褐色	微砂粒多	砂っぽくボロボロ、粗いヘラケズリ		断面円形
115	68	115-1	3	甕 口縁〜胴部1/2残	中央 -0.004	18.1	−	−	良好	茶褐色 暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ		
		115-2	2	甑 口縁、胴部一部欠	カマド脇 0.003	24.7	8.1	28.1	良好	淡褐色	2〜3㎜大 微砂粒多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ後ヘラミガキ		胴中位5〜6㎜大小石含む
		115-3	1	小型甕 ほぼ完形	0.299	4.2	−	3.7	不良	淡褐色	微砂粒多	指ナデ 指ナデ		ミニチュア土器、内面朱が入っていた可能性あり、口縁〜底部一部欠
		115-4	31	須恵器、甕 口縁1/10	一括	(10.2)	−	−	良好	暗青灰色 灰色	白色微砂粒少	頸部波状文、頸部〜口縁部の境界に鋭い凸帯がめぐる。 内、口唇部は明瞭な段を持たない		内外面白灰色の自然釉付着
		115-5	6	高坏 坏部下端〜脚中位	一括	−	−	−	良好	赤褐色	密	脚部ヘラケズリ 脚部ヘラケズリ		脚内面除き(赤彩)
		115-6	7	高坏 脚部のみ	一括	−	9.6	−	良好	淡褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラナデ、裾部ナデ		
		115-7	4	坏 1/4	一括	(15.1)	−	−	良好	暗〜赤褐色 赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ		内面(赤彩) 外面口縁部(赤彩)
		115-8	8	支脚 下端部欠	カマド内 0.047	幅 4.4	厚 4.5	長さ (17.3)	不良	淡褐色	小礫多	粗いヘラケズリ		断面方形
116	67	116-1	4	甕 口縁1/3	カマド脇 0.120	(5.3)	−	−	良好	淡褐色	3〜5㎜大 小礫多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ		

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外) (内)色調	胎土	(外) (内)特徴	備考
116	67	116-2	7	坏 1/3残	-0.017	(14.1)	—	—	良好	暗赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、稜線はヘラケズリによって整形される、内ヘラナデ	外口縁～稜線(赤彩) 内全面(赤彩)
		116-3	6	坏 1/3残	0.029	(13.2)	—	—	良好	明～赤褐色 赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	外口縁～体部中位(赤彩) 内全面(赤彩)
		116-4	8	坏 口縁欠、体部1/2	-0.054	(14.2)	—	4.3	良好	淡橙色 赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	外口縁～体部中位(赤彩) 内全面(赤彩)
		116-5	9	坏 1/4残	0.015	(12.5)	—	—	良好	黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ	内外面黒色処理
		116-6	5	坏 口縁2/3弱欠	カマド前面 0.037	(13.3)	—	4.2	良好	淡橙色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、口縁部輪積痕あり ヘラナデ	
		116-7	12	須恵器、高坏 坏部、裾部全欠	0.197	—	—	—	良好	青灰色	白色微砂粒多	脚部3方に有孔、脚部カキ目整形	混入品？ 断面紫がかった青灰色
		116-8	1	鉢 完形	カマド内 0.026	18.2	6.0	10.7	良好	暗～淡褐色	2～3㎜大 小礫多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		116-9	2	鉢 口縁1/6欠	カマド脇 -0.006	17.2	6.9	5.7	やや不良	黒～淡褐色	2～3㎜大 小礫多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		116-10	11	支脚 先端1/2欠、下端欠	カマド内 一括	幅 6.2	—	残長 10.0	不良	淡橙色	微砂粒多		断面円形か
		116-11	3	小型壺 完形	-0.013	3.0	3.1	2.7	良好	淡暗褐色	微砂粒多	口縁～頸部指ナデ、胴部ヘラケズリ 指ナデ	ミニチュア土器
117	92	117-1	5	埦 口縁1/3	0.012	(11.6)	—	—	良好	淡褐色	黒色微砂粒やや多	口縁部ハケ後ナデ 口縁部ナデ後ヘラナデ	
		117-2	3	深鉢 口縁	一括	—	—	—	良好	淡褐色	密	8条の平行沈線 口唇部2条の沈線	拓本
		117-3	6	壺 口縁	一括	—	—	—	良好	淡褐色	白色粒多	口唇部羽条縄文中央部円形刺突、下端に縄文原体による刺突文、内赤彩	拓本
		117-4	11	甕 口縁	一括	—	—	—	良好	淡褐色	密	口唇部刻み目	拓本
		117-5	8	壺 胴部	一括				良好	茶褐色	微砂粒多	沈線区画山形文内に細縄文	拓本

118	78	118-1	19	甕 口縁～胴下端1/2	カマド脇 0.010	18.0	－	－	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		118-2	16	甕 胴中位～底部完存	カマド付近 0.013	－	5.0	－	良好	暗茶褐色	密	胴部ヘラケズリ 胴部ヘラナデ	
		118-3	5	坏 口縁1/4～底部完存	 0.046	(14.5)	－	5.1	良好	黒褐色 褐色	2㎜大 小礫やや多	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	
		118-4	14	坏 1/4	 0.066	(13.7)	－	－	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ	
		118-5	8	坏 口縁1/3	 一括	(12.6)	－	－	良好	淡暗褐色	茶褐色粒多	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラミガキ	内外面黒色処理
		118-6	9	坏 口縁1/4～体部2/3以上	カマド脇 0.004	(12.2)	－	2.7	良好	淡暗褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ	
		118-7	11	坏 1/6	 一括	(12.4)	－	－	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラミガキ	
		118-8	18	高坏 脚部1/2弱	 0.061	－	(9.7)	－	良好	赤褐色 褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		118-9	17	高坏 脚部2/3	 一括	－	9.9	－	良好	赤褐色 黒色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ	脚内面除き(赤彩)
		118-10	1	鉢 完形	南壁周溝際 0.041	16.8	5.4	5.7	良好	淡～茶褐色 黒色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ後ヘラミガキ	)丁寧	内面黒色処理
		118-11	2	鉢 ほぼ完形、口唇部一部欠	カマド付近 0.049	17.6	7.6	7.5	不良	淡褐色	微砂粒多(粗)	口縁部指ナデ、胴部粗なヘラケズリ 口縁部指ナデ、胴部ヘラナデ		口唇部凹凸であり底部上げ底気味
		118-12	6	鉢 口縁1/3～底部完存	カマド付近 0.041	(14.4)	5.8	6.2	やや不良	暗褐色	微砂粒多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		118-13	15	埦 口縁体部一部欠	 0.004	12.8	－	8.2	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ		内外面黒色処理 (漆仕上)
		118-14	13	坏 1/3強	 一括	(14.9)	－	－	良好	暗褐色 黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ		内外面黒色処理 (漆仕上)
		118-15	4	坏 口縁一部欠	カマド脇 0.004	14.2	－	3.8	良好	暗褐色	茶褐色粒やや多	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ後ヘラミガキ		内外面黒色処理 (漆仕上)
		118-16	7	坏 体部完存	 0.060	(13.1)	－	2.5	良好	茶褐色 黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラミガキ		内外面黒色処理(漆仕上) 口縁一部のみ

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外)(内)色調	胎土	(外)(内)特徴	備考
118	78	118-17	10	坏 1/6	0.042	(14.0)	−	−	良好	黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラミガキ、光沢あり	内面黒色処理(漆仕上)
		118-18	35	須恵器、甕 口縁1/12	0.201	(25.0)	−	−	良好	白灰色	密	口縁部下断面三角形の段をなす ナデ	
		118-19	33	須恵器、蓋 口縁1/8	0.162	(13.0)	−	−	良好	白灰色	白色微砂粒多	ロクロ、ケズリの回転方向は逆時計廻り、天井部は丸くケズリの範囲は1/2以下、口唇部は丸く収めている	
		118-20	34	須恵器、坏 口縁1/3	-0.005	(12.2)	−	−	良好	青灰色	白色微砂粒やや多	ロクロ、ケズリ回転方向は逆時計廻りか？受け部は丸い 口唇部は丸く収め段をなさない	
		118-21	32	須恵器、坏 口縁1/8	一括	(13.0)	−	−	良好	青灰色	白色微砂粒少	ロクロ、回転方向不明、受け部は丸く口唇部は僅かに外向に屈曲する	
119	69	119-1	2	坏 口縁1/4弱	(カマド付近) 一括	(13.1)	−	−	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ナデ	内外面(赤彩)
		119-2	4	坏 口縁1/6	(カマド付近) 一括	(14.5)	−	−	良好	淡赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ナデ	内外面(赤彩)
122	122	122-1	1	甕 口縁完存～胴中位1/2	0.108	23.7	−	−	良好	暗褐色	微砂粒やや多	口縁部ナデ、輪積痕残る、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		122-2	2	甕 口縁～胴中位1/2	0.165	22.2	−	−	良好	淡～一部暗褐色	微砂粒多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ、輪積痕残る 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	最大径は口縁
123	63	123-1	2	甕 3/4	-0.001	27.0	−	(25.0)	良好	暗～淡褐色	密	指頭押捺圧波状口縁、胴部ヘラナデ？ 口縁部ナデ、胴部ヘラミガキ	ヘラナデ状の1単位内に20数本の条線状の擦痕あり
		123-2	4	甕 口縁～胴部1/4弱	0.192	(22.8)	−	−	良好	暗褐色 淡褐色	黒色微砂粒多	指頭押捺圧波状口縁 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		123-3	225	甕 胴中位1/3、底部完存	P8内 0.051	−	6.8	−	良好	淡褐色	石英粒(微砂粒)多	胴部ヘラナデ 胴部ヘラミガキ	
		123-4	45	壺 胴部1/2	一括	−	−	−	良好	淡褐色	密	胴部細羽状縄文下、ヘラミガキ 胴部細かい粗いヘラケズリ(カキ取りに近い)	
		123-5	5	甕 口縁～胴部1/2	0.112	16.4	−	−	良好	暗褐色 淡茶褐色	黒色微砂粒多	波状口縁ナデ、胴部条線のはっきりしたヘラナデ 口縁部ナデ、胴部不明瞭なヘラナデ？	
		123-6	215	壺？ 底部のみ	一括	−	4.3	−	良好	暗褐色	密	ヘラケズリ ヘラナデ	

123	63	123-7	227	甕 底部1/2	-0.090	−	4.8	−	良好	暗褐色	密	ヘラナデ ヘラナデ	
		123-8	214	甕 底部1/3	一括	−	(6.0)	−	良好	暗褐色	密	ヘラナデ後ヘラミガキ(胴下端のみ) ヘラナデ	底部突出気味
		123-9	226	甑 底部のみ	0.185	−	7.0	−	良好	淡褐色 暗褐色	複色微砂粒多	ヘラナデ ヘラナデ	底部中央やや右寄りに径1.0～1.5cmの有孔
		123-10	9	甕 底部3/4	0.136	−	(7.0)	−	良好	淡褐色 暗褐色	黒色微砂粒多	ヘラナデ ヘラナデ	
		123-11	211	壺 胴部1/2弱	一括	−	−	−	良好	茶褐色	密	ミガキ後胴中位以上S字状結節文による平行区画山形文、内面指ナデ	仕上丁寧
		123-12	8	高坏 脚部のみ	0.329	−	−	−	良好	えび茶褐色	白色微砂粒多	脚部ヘラミガキ 脚部ヘラナデ	内外面(赤彩) 裾部欠
		123-13	1	甕 底部一部欠	0.039	15.0	6.0	15.5	良好	暗～淡褐色	微砂粒多	波状口縁、胴部ヘラナデ後ナデ ヘラミガキ	
		123-14	3	甕 口縁～胴部1/3残	0.090	(14.4)	−	−	やや不良	暗褐色 淡茶褐色	黒色微砂粒多	波状口縁ナデ、胴部ヘラナデ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	ナデは下から上方向
		123-15	224	甕 口縁1/4弱	0.078	(16.8)	−	−	良好	淡褐色 暗褐色	密	指頭押捺圧波状口縁ナデ、胴部ヘラナデ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	125号A(KB内)と接合
		123-16	10	甕 口縁～胴部1/2強	0.092	13.8	−	−	良好	暗褐色 淡茶褐色	黒色微砂粒多	波状口縁ナデ、胴部ヘラナデ、全体的に不明瞭 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ後ヘラミガキ	頸部3段の輪積痕残す
		123-17	7	甕 口縁～胴部3/4	一括	(16.0)	−	−	やや不良	淡褐色	黒色微砂粒多	指頭押捺圧波状口縁 内外共器面の調整不明瞭	(口唇部1/4残)
		123-18	12	壺？ 底部のみ	0.127	−	8.7	−	良好	赤茶褐色	白色微砂粒多	ヘラミガキ ヘラミガキ	内外面(赤彩) 鉢型土器の可能性あり
		123-19	223	鉢 口縁1/3残、底部完存	0.070	(21.1)	6.8	10.2	良好	淡褐色 赤褐色	密 複色微砂粒多	ヘラナデ後ヘラミガキ ヘラミガキ	内面(赤彩)125号A(KB内)と接合、口唇部面取部に施文なし
		123-20	207	甕 口縁	一括	−	−	−	良好	淡褐色	密	口唇部細縄文、折り返し口縁、中央部S字状結節文、下端刻み、頸部ナデ(細かい条線)～S字状結節文7条、内面ナデ	拓本
		123-21	22	甕 口縁	0.239	−	−	−	良好	淡褐色	乳白色微砂粒多	口唇部指頭押捺圧波状文、頸部ナデ ナデ	拓本
		123-22	216B	甕 口縁	貯蔵穴 一括	−	−	−	良好	暗褐色	密	口唇部細縄文、頸部不規則な波状沈線文、胴部細縄文 ヘラミガキ	拓本

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外)(内)色調	胎土	(外)(内)特徴	備考
123	63	123-23	216A	甕 口縁	貯蔵穴 一括	－	－	－	良好	暗褐色	密	口唇部細縄文、頸部不規則な波状沈線文、胴部細縄文 ヘラミガキ	拓本22と同一個体
		123-24	29	甕 口縁	0.011	－	－	－	良好	暗褐色	密	口唇部押捺圧波状文、胴部ヘラナデ ナデ	拓本
		123-25	20	甕 口縁	0.081	－	－	－	良好	褐色	密	口唇部細縄文以下不整方向の細縄文 ナデ	拓本
		123-26	27	鉢 口縁	一括	－	－	－	良好	淡褐色 赤褐色	密	口唇部細縄文、口縁部羽状縄文、沈線以下ヘラミガキ赤彩 ヘラミガキ赤彩	拓本
		123-27	209	甕 口縁	一括	－	－	－	良好	黒褐色	密	口唇部刻み、頸部ヘラ状工具による連続刺突文、頸部ナデ 口唇下ヘラ状工具による連続刺突文、内ナデ	拓本
		123-28	40	甕 口縁	0.166	－	－	－	良好	淡褐色	黒色粒多	口唇部指頭押捺圧波状文、頸部にかけて5条の輪積明瞭に残す、内ヘラナデ	拓本
		123-29	26	鉢 口縁	0.119	－	－	－	良好	淡褐色 赤褐色	密	口唇部細縄文、口縁部羽状縄文、沈線以下ヘラミガキ赤彩 ヘラミガキ赤彩	拓本
		123-30	210	壺 口縁	一括	－	－	－	良好	淡褐色	乳白色粒多	口縁部羽状縄文、下端に縄文原体による連続刺突文、頸部ヘラミガキ赤彩、内ヘラミガキ赤彩	拓本
		123-31	37	甕 口縁	0.655	－	－	－	良好	赤褐色	密	口唇部～口縁部細縄文、径4㎜程の貫通孔1、ヘラミガキ赤彩、内ヘラミガキ赤彩	拓本
		123-32	22	甕 頸～胴部	一括	－	－	－	良好	暗褐色	密	細縄文、頸部付近ナデ消し ヘラミガキ	拓本
		123-33	23	甕 頸～胴部	一括	－	－	－	良好	暗褐色	密	細縄文、頸部付近ナデ消し ヘラミガキ	拓本、32と同一個体
		123-34	33	壺 胴部	一括	－	－	－	良好	淡褐色	乳白色粒多	山形沈線文内羽状縄文、ヘラミガキ赤彩	拓本
		123-35	35	壺 胴部	0.115	－	－	－	良好	淡褐色	乳白色粒多	山形沈線文内羽状縄文、ヘラミガキ赤彩	拓本 鍛造剝片集中範囲内(混入か？)
		123-36	28	甕 頸部	0.230	－	－	－	良好	暗褐色	乳白色粒多	羽状縄文、沈線以下ヘラミガキ赤彩 剝離激しい	拓本
		123-37	19	甕 胴部	一括	－	－	－	良好	暗褐色	密	頸部以下細縄文、頸部沈線3条 ヘラミガキ	拓本

123	63	123-38	219	壺 胴部	-0.017	−	−	−	良好	淡褐色	密	ヘラナデ後S字状結節文による山形文及びS字状結節文	拓本
		123-39	38	甕 胴部	一括	−	−	−	良好	暗褐色	密	ハケ、ヘラ状工具による連続刺突文 ハケ	拓本
		123-40	31	甕 頸部	0.120	−	−	−	良好	淡褐色	密	羽状縄文、連続刺突文、ヘラミガキ ヘラミガキ	拓本 鍛造剝片集中範囲内
		123-41	25	甕 底部	0.167	−	−	−	良好	淡褐色	密	細縄文	拓本、底部網代痕
		123-42	36	甕 底部	0.124	−	5.9	−	良好	茶褐色	密		拓本、木葉痕
		123-43	30	甕 胴部	一括	−	−	−	良好	暗褐色 茶褐色	密	ハケ後S字状平行沈線文 ヘラミガキ	拓本
		123-44	39	甕 頸部	0.159	−	−	−	良好	赤褐色 暗褐色	密	平行沈線間に細縄文、赤彩	拓本
		123-45	218	壺 胴部	一括	−	−	−	良好	淡褐色	密	ヘラナデ後S字状結節文による山形文、及びS字状結節文	拓本
		123-55	11	埦？ 完形	0.200	4.0	3.0	1.8	良好	淡褐色	密	指ナデ 指ナデ	手捏土器
126	112	126-1	2	高坏 1/6以下	一括	(24.2)	−	−	良好	淡茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラミガキ 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ	2破片の複原実測 器高はもう少し低いか
		126-2	3	坏 1/6	一括	(14.3)	−	−	良好	淡茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラミガキ 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ	
		126-3	1	甕 口縁1/6	一括	(13.7)	−	−	良好	茶褐色	密	口縁部ナデ、頸部ハケ 口縁部除いてハケ、頸部ヘラナデ	
		126-4	5	坩 口唇部欠、頸部1/4	一括	−	−	−	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ後ハケ、ヘラミガキ ヘラミガキ	
		126-5	7	甕 頸部	一括	−	−	−	良好	暗褐色	密	ハケ 一部ハケ	拓本
127	108	127-1	6	甕 口縁～胴中位1/3弱	129号床面より 0.110	(17.8)	−	−	良好	暗褐色	微砂粒多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	出土位置レベル的にも129号遺構に伴う可能性あり
		127-2	7	坏 1/4、底部欠	129号床面より 0.376	(17.1)	−	−	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、輪積痕残る 口縁部ナデ、体部ヘラナデ、光沢が出る程丁寧	内外面(赤彩)全体的に薄くシャープ

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外)(内)色調	胎土	(外)(内)特徴	備考
127	108	127-3	8	坏 口縁～体部中位1/3	一括	(14.1)	－	(3.8)	良好	明茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 弱いヘラナデ	
		127-4	9	須恵器、蓋 口縁～天井部1/3強	P 9内 一括	(13.6)	－	(3.9)	良好	明灰色	白色微砂粒多	ロクロ、天井部回転ヘラケズリ、ケズリ方向は逆時計廻り、ケズリ範囲1/3、明瞭な稜なし 口唇部は段を持たない、天井部一定方向のナデ	
		127-5	10	須恵器、坏 1/8	P 9内 一括	(13.0)	－	(4.1)	良好	青灰色	白色微砂粒多	ロクロ、底部白灰色自然釉、口唇部は丸く収めている	
		127-6	4	甕 底部2/3	129号床面より 0.269	－	4.7	－	良好	淡茶褐色	密	ヘラケズリ ヘラナデ	混入品
128	117	128-1	8	甕 口縁	一括	－	－	－	良好	淡褐色	密	口縁部指頭押捺圧波状文、ハケ ハケ	拓本(表、裏)
129	109A	129-1	3	甕 胴中位上～底部完存	0.061	－	5.0	－	良好	暗褐色	3～5㎜大 小礫多	胴部ヘラケズリ 胴部ヘラナデ	
		129-2	2	甕 口縁～胴中位上1/3	一括	(15.9)	－	－	良好	淡茶～褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		129-3	5	鉢 口縁～体部1/4弱	0.012	(20.5)	－	(4.8)	良好	淡～淡赤褐色 淡赤褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ、器面の磨耗が認められる 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	外稜線より上(赤彩) 内全面(赤彩)
		129-4	4	坏 2/3以上	南壁際 0.032	15.2	－	4.9	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ	内外面(赤彩)
		129-5	6	坏 口縁1/3、体部1/2以上	0.006	(15.1)	－	4.9	良好	淡赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後、中位ヘラミガキ、やや磨耗 ヘラナデ	外口縁部(赤彩) 内全面(赤彩)
		129-6	7	坏 1/3強	一括	(16.2)	－	(4.7)	良好	暗～赤褐色 赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ	外口縁～体部中位(赤彩) 内全面(赤彩)
		129-7	8	坏 1/3強	一括	(15.6)	－	(4.7)	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ	内外面(赤彩)
130	74	130-1	30	坏 ほぼ完形	0.091	14.2	－	6.5	良好	暗赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後ナデによって不明瞭 ナデ	埦形を呈する 内外面(赤彩)
		130-2	4	坏 ほぼ完形	貯蔵穴内(P28) -0.069	15.2	－	5.8	良好	茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後ナデ ヘラナデ後ナデ、作り丁寧	外面底部一部除き(赤彩) 内全面(赤彩)
		130-3	6	坏 口縁1/4弱欠	貯蔵穴内(P28) -0.096	15.3	－	6.2	良好	暗～茶褐色 茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ後若干のヘラミガキ	内外面(赤彩) 外面底部周囲煤付着

130	74	130-4	17	坏 口縁1/3、体部2/3	0.091	(15.8)	—	4.6	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後赤彩ハケ塗りによりケズリ、ナデ痕共不明瞭 ヘラナデ後赤彩ハケ塗りによりナデ痕不明瞭	内外面(赤彩)
		130-5	5	坏 完形	貯蔵穴内 (P28) -0.158	14.8	—	5.5	良好	黒～茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後光沢が出る程のナデ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ、丁寧に作られる	内外面(赤彩)外面一部赤彩の上に煤付着し、黒色を呈している
		130-6	7	坏 ほぼ完形	0.013	14.6	—	5.6	良好	茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		130-7	13	坏 口縁一部欠	-0.007	14.4	—	6.1	良好	赤褐色	3～5㎜大 茶褐色粒多	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ	内外面(赤彩ハケ塗り)
		130-8	16	坏 1/2強	0.027	14.4	—	6.1	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ	内外面(赤彩)
		130-9	20	坏 口縁一部、底部欠	カマド前面 0.082	14.4	—	(6.5)	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ	内外面(赤彩)
		130-10	12	坏 ほぼ完形	0.049	15.3	—	6.1	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、使用痕はミガキかと思われる程の光沢あり ヘラナデ	内外面(赤彩ハケ塗り)
		130-11	14	坏 3/3強	0.093	14.4	—	5.5	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、輪積痕 ヘラナデ後赤彩ハケ塗り	内外面(赤彩ハケ塗り)
		130-12	32	坏 2/5	カマド前面 -0.001	(14.2)	—	5.2	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ	内外面(赤彩)
		130-13	31	坏 口縁1/6欠	0.078	14.4	—	5.5	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ	内外面(赤彩)
		130-14	19	坏 1/3	0.236	(14.0)	—	5.9	良好	褐～赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ	外体部中位上(赤彩) 内全面(赤彩)
		130-15	15	坏 1/3強	カマド内 0.034	(14.5)	—	6.2	良好	暗赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ？やや磨耗	内外面(赤彩)
		130-16	18	高坏 脚部欠	0.155	14.5	—	—	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ	内外面(赤彩) タール付着
		130-17	33	高坏 坏部1/3弱	0.219	(15.8)	—	—	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ	内外面(赤彩)
		130-18	22	高坏脚部 裾部欠	0.222	—	—	—	良好	赤褐色 褐色	密	脚部ヘラケズリ 脚部ヘラケズリ後ナデ	脚内面除き(赤彩)
		130-19	21	高坏脚部 裾部欠	-0.017	—	—	—	良好	赤褐色 褐～赤褐色	密	脚部ヘラケズリ、坏部下端に弱い稜あり 脚部ヘラケズリ後ナデ	脚内面除き(赤彩)

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外) (内)色調	胎土	(外) (内)特徴	備考
130	74	130-20	3	鉢 完形	0.088	14.2	5.1	10.0	良好	暗～淡褐色	密	口縁～胴部ヘラケズリ後ヘラナデ、底部は細いヘラ状工具による粗いケズリ 粗いヘラナデ、輪積痕明瞭	
		130-21	10	甕 胴部一部欠	0.034	17.7	6.1	31.5	良好	暗～茶褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後上位付近のみヘラミガキ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	底部突出し、丸底気味で不安定 内外面に若干剝離箇所あり
		130-22	9	甕 口縁一部欠、全体2/3以上	貯蔵穴内 (P28) -0.008	17.4	5.5	(31.5)	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後中位以上ヘラミガキ、頸部灰付着 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	複原実測、底部突出気味 胴部と底部は接合に至らない
		130-23	36	小型短頸壺 口縁3/4欠	0.041	(5.3)	4.6	7.5	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ ヘラナデ	作り丁寧
		130-24	107	支脚 一部	カマド内 -0.003	－	－	(12.3)	不良	淡褐色	小礫多含	太く短い	断面方形気味
		130-25	8	甕 口縁、胴中位1/2欠	カマド内 0.156	(7.1)	5.8	24.6	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		130-26	1	甑 ほぼ完形	カマド前面 0.068	21.8	5.8	26.0	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、胴部上位ヘラケズリ後ヘラミガキ、下位ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		130-27	28	甕？ 口縁1/10	0.112	(19.8)	－	－	良好	褐色	石英少含	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ後ヘラミガキ	内外面タール付着
		130-28	27	甕 口縁～胴中位2/3強	貯蔵穴内 (P28) -0.035	(17.2)	－	－	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		130-29	23	甕 口縁～胴中位2/3	カマド袖上 0.073	16.9	－	－	良好	淡茶褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ ヘラナデ	
		130-30	25	甕 口縁～胴中位1/2	0.055	16.8	－	－	良好	淡茶褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		130-31	26	甕 口縁1/2、胴中位1/4弱	0.117	16.7	－	－	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、頸部ハケナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		130-32	29	甕 底部1/2	0.063	－	(8.4)	－	良好	黒褐色 淡褐色	密	ヘラケズリ後ヘラミガキ ヘラナデ	
		130-33	24	甕 口縁～胴中位1/3	0.007	16.2	－	－	良好	茶褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		130-37	37	埦 口縁一部欠	0.166	5.6	2.9	最大 3.6	良好	淡褐色	微砂粒多	指ナデ 指ナデ	手捏土器

130	74	130-38	38	鉢？ 底部欠	一括	4.7	－	最大 (3.1)	不良	淡褐色	密	指ナデ 指ナデ	手捏土器
131	103	131-1	2	甕 頸部～底部2/3	カマド内 0.039	(±24.0)	6.6	(±30.0)	良好	暗褐色	密	頸部ナデ、胴部ヘラケズリ 頸部ナデ、胴部ヘラナデ	
		131-2	5	須恵器、坏 口縁1/10、底部1/2	カマド脇 0.035	(11.3)	(8.0)	3.5	良好	灰色	密	ロクロ、底部回転ヘラケズリ	内外面火襷状の痕跡あり
		131-3	1	甕 口縁、胴中位5/6	カマド内 0.069	21.0	－	－	良好	暗褐色	密	口唇部1条の沈線、摘み上り気味、口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		131-4	4	甕 胴部3/4	カマド脇 0.018	最大 33.7	－	－	良好	茶褐色	密	胴部ヘラケズリ 胴部ヘラナデ	
132	97	132-1	1	須恵器、高坏 脚部1/4	一括	－	(10.0)	－	良好	青灰色	密	長方形透しか3≦4方透しと思われる、脚部は短く端部は段をなす	短脚一段透し 脚部透し間のみ残存
133	105	133-1	3	高坏 坏部1/5	一括	(13.6)	－	－	良好	淡赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ナデ	内外面(赤彩)
		133-2	2	高坏 坏部1/5	一括	(13.6)	－	－	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ナデ	内外面(赤彩)
		133-4	5	高坏 脚部1/2弱	一括	－	(10.4)	－	良好	赤褐色 褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		133-5	10	坏 底部	一括	－	－	－	良好	淡褐色	密	高台貼り付けの痕跡あり ヘラミガキ	内面黒色処理 拓本
		133-6	11	坏 底部	一括	－	－	－	良好	淡褐色	密	底部回転切り	拓本
		133-7	4	高坏 口縁、脚端部欠	一括	－	－	－	良好	赤褐色 坏部赤褐色	密	脚部ヘラケズリ 坏部ヘラナデ、脚部ヘラケズリ	脚内面除き(赤彩)
		133-8	1	坏 1/8	一括	(15.0)	－	－	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ナデ	口唇端部に段あり 全面的にシャープ
134	104	134-1	2	甕 口縁～胴部1/4	貝層中 0.029	(15.8)	－	－	良好	暗褐色	微砂粒多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部粗いナデ、胴部粗いヘラナデ	
		134-2	1	高坏 脚部2/3以上	貝層中 0.176	－	(10.0)	－	良好	赤褐色 赤～褐色	密	脚部ヘラケズリ後ヘラナデか、裾部ナデ 坏部ヘラナデ、脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
136	95	136-1	1	甕 ほぼ完形	カマド前面 -0.035	29.6	8.7	30.3	良好	暗～淡褐色	2～5mm大 小礫多	口縁部ナデ、胴部ヘラナデ後ヘラケズリ、全体的に二次加熱を受け、器面剥離激しい 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	口縁、胴部、底部一部欠

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外)(内)色調	胎土	(外)(内)特徴	備考
136	95	136-2	3	甕 ほぼ完形	カマド内 0.083	18.5	6.0	27.1	良好	暗～淡褐色	2～3㎜大 小礫多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	二次加熱を若干受けている
		136-3	35	甕 底部欠	西側断面内 図中	21.5	—	—	良好	暗～茶褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		136-4	2	甑 ほぼ完形	0.092	22.8	7.0	30.8	良好	茶褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	最大径は口縁部
		136-5	19	甕 口縁～胴下位⅔	0.001	15.8	—	—	良好	暗褐色 暗～茶褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		136-6	21	甕 口縁～胴中位½強	-0.027	19.4	—	—	不良	暗褐色	2～3㎜大 小礫多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	（精選されていない）
		136-7	4	甕 ½弱	0.015	20.0	—	—	良好	淡茶褐色	白色粒多	口縁部ナデ、頸部～胴部細かいハケ、口唇部摘み上げ気味 口縁部ナデ、胴部ハケ	内外面二次加熱により剝離箇所あり（駿東型甕）
		136-8	23	甕 底部欠	-0.001	20.4	—	—	良好	茶褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	胎土は3～5㎜大の小礫若干含んでいる
		136-9	5	小型甕 口縁⅓～底部完存	0.027	(20.0)	6.0	15.9	良好	茶褐色	2～3㎜大 小礫多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ、二次加熱受ける 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ粗い } 内外面輪積痕明瞭	口縁部歪む 底部木葉痕
		136-10	20	甕 口縁～胴下位⅔	-0.002	16.0	—	—	良好	暗～暗赤褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ、二次加熱を受けた部分は暗赤褐色を呈し器面もボロボロで剝離している、内 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	横倒検出、床面に接していなかった部分が加熱を受ける
		136-11	18	坏 ½強	0.040	12.7	—	3.6	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面（赤彩） 内面一部煤付着
		136-12	15	坏 ½弱、底部½強	0.321	(14.8)	—	5.1	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ナデ	内外面（赤彩）
		136-13	13	坏 ¾	0.225	13.0	—	5.2	良好	黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、やや器面の剝離あり 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面黒色処理 （炭素吸着）
		136-14	12	坏 ½	0.317	10.8	—	6.7	良好	黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面黒色処理 （炭素吸着）
		136-15	16	坏 ⅔、口縁½弱	-0.002	(13.6)	—	6.1	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ 口縁部ナデ、他剝離激しく不明瞭	
		136-16	10	坏 ½弱、口縁⅓強	0.056	13.2	—	4.8	良好	淡茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	口唇部端に段あり、全体的に器厚薄く作り、シャープで丁寧

136	95	136-17	11	坏 口縁1/2弱、底部1/2強	0.032	(13.2)	—	7.1	良好	暗褐色 暗～茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	
		136-18	17	坏 4/5	-0.004	13.2	—	5.0	良好	黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ、底部平底気味 口縁部ナデ、体部ヘラナデ後ヘラミガキ	内外面黒色処理(炭素吸着)丁寧、底部木葉痕
		136-19	7	高坏 ほぼ完形	0.075	13.7	10.2	10.8	良好	暗～淡褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、脚部細かいヘラケズリ、裾部ナデ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ、脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	
		136-20	14	高坏 脚部、裾部2/3欠	-0.018	13.1	(10.7)	11.5	良好	赤褐色 脚部褐色	密	口縁部ナデ、坏部～脚部ヘラケズリ後ヘラミガキ 口縁部ナデ、坏部ヘラナデ、脚部奥ヘラケズリ、中位下ヘラナデ、下端ヘラミガキ	脚内面奥除き(赤彩) 丁寧に作られる
		136-21	27	須恵器、坏蓋 口縁1/8	-0.037	(13.9)	—	—	良好	灰色	白、黒色微砂粒多	ロクロ、底部回転ヘラケズリ、ケズリ方向時計廻り、ケズリの範囲は稜付近に及び、稜は短く突出。内口唇部に段あり	TK-216～ON-46型式併行か？137号に伴う可能性強
		136-22	28	須恵器、蓋 口縁1/6	一括	(13.2)	—	—	良好	青灰色	白色微砂粒多	ロクロ、天井部はやや丸味を持ち、天井部と口縁部を分ける稜は短く鈍く沈線的になる。口唇部は段をなし、外方に開く	TK-47型式併行
		136-23	25	須恵器、坏 口縁1/6	-0.005	(12.6)	—	—	良好	灰色	白、黒色微砂粒多	ロクロ、底部回転ヘラケズリ、ケズリ方向逆時計廻り、ケズリ範囲は1/3、受け部はやや薄く上方に突出し、口唇部は段を持たない	TK-10～MT-85型式併行か?
		136-24	24	支脚 下端部欠	0.058	最大幅 (7.2)	—	長 18.6	不良	褐色	微砂粒多	二次加熱を受けボロボロになっている	断面は方形に近い円形
137	94	137-1	12	甕 口縁1/2～胴部1/3	一括	17.0	—	—	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、頸部付近器面剝離激しい、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		137-2	2	坏 口縁一部欠	0.331	14.7	—	5.5	良好	茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		137-3	1	坏 完形	コーナー部 0.020	13.8	—	5.5	良好	茶～淡褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ後ヘラミガキ	外体部中位(赤彩) 内全面(赤彩)
		137-4	3	坏 口縁1/6、体部2/3	0.034	(14.1)	—	5.2	良好	暗茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ナデ	外底部除き(赤彩) 内全面(赤彩)
		137-5	7	坏 口縁～底部1/6	0.149	(14.3)	—	(5.1)	良好	赤～褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ナデ	外底部除き(赤彩) 内全面(赤彩)
		137-6	5	坏 1/4	コーナー部 0.072	(13.0)	—	—	良好	赤～褐色 赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ナデ	外底部除き(赤彩) 内全面(赤彩)
		137-7	6	坏 1/4	P15内 -0.023	(14.8)	—	(5.0)	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ナデ	外口縁(赤彩) 内全面(赤彩)
		137-8	10	高坏坏部 口縁1/3、体部2/3	P12内 -0.065	(13.4)	—	—	良好	明赤褐色 赤橙色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 剝離激しく、整形、赤彩の有無不明	外面(赤彩)

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外)(内)色調	胎土	(外)(内)特徴	備考
137	94	137-9	8	坏 1/5	コーナー部 0.026	(15.3)	−	−	良好	暗赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ナデ	内外面(赤彩)
		137-10	4	坏 1/3、底部欠	0.045	(15.8)	−	−	良好	暗茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ナデ	内外面(赤彩)
		137-11	11	高坏 脚部1/3	0.014	−	(11.0)	−	良好	赤褐色 赤～褐色	密	脚部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
139	116	139-1	16	甕 口縁～胴部一部欠	0.008	23.7	7.6	32.9	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ後ヘラミガキ	底部突出気味で安定感なし
		139-2	14	甕 完形	P5、P6上 0.014	19.0	6.6	28.7	良好	暗～淡茶褐色	微砂粒多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラナデ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		139-3	83	甕 ほぼ完形	-0.092	16.8	6.0	最大 24.1	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	外灰付着
		139-4	75	甕 口縁～頸部完存	P1付近 0.123	21.2	−	−	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、口唇部摘み上げ気味、胴部器面剝離激しく不明瞭 口縁部ナデ、頸部指押さえ、胴部ヘラナデ	
		139-5	84	小型甕 1/2強	一括	17.8	5.0	19.1	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ輪積痕残る	
		139-6	86	甑 底部2/3欠	0.029	24.1	7.0	25.0	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	二次加熱により外面一部剝離箇所あり
		139-7	17	甑 口縁～胴部1/2欠	P1付近 0.004	23.0	8.0	19.9	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		139-8	82	甕 1/4	0.127	(20.8)	−	−	良好	暗褐色 淡暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		139-9	85	甕 口縁～胴中位2/3以上	P5付近 0.369	17.8	−	−	良好	暗～淡褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		139-10	73	甕 口縁～胴上位2/3	カマド周辺 0.045	16.3	−	−	良好	黒褐色	密	口縁部ナデ、口縁は垂れ下り気味に大きく外反する、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	内面特に黒色を呈す(黒色処理)か
		139-11	74	甕 口縁～胴上位一部欠	0.068	19.0	−	−	良好	暗～茶褐色	微砂粒 小礫多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ、口縁はコの字外反 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	二次加熱を受けて、かなりの範囲で器面が剝離している
		139-12	71	短頸壺 口縁～胴中位1/3	0.050	(14.2)	−	−	良好	暗～淡褐色 褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	

139	116	139-13	15	小型甕 完形	P5、P6上 0.009	15.8	5.0	13.8	良好	暗～淡茶褐色	2～3㎜大 小礫多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		139-14	70	小型甕 ほぼ完形	P2上 -0.034	11.9	4.3	11.7	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		139-15	72	小型甑？ 口縁～胴下位1/2弱	0.149	(17.6)	－	－	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、頸部ヘラケズリ後ナデ、胴部中位ヘラケズリ後ヘラミガキ他ヘラケズリ、 内丁寧なナデ	作り丁寧
		139-16	81	甕 胴下位～底部2/3	カマド周辺 0.035	－	5.6	－	良好	暗褐色	密	ヘラケズリ ヘラナデ	
		139-17	78	甕 底部完存	0.398	－	6.4	－	良好	淡褐色	2～3㎜大 小礫多	ヘラケズリ ヘラナデ	底部木葉痕あり
		139-18	77	鉢？ 胴中位～底部完存	0.044	－	6.2	－	良好	淡褐色	密	ヘラケズリ ヘラナデ	器厚は薄い
		139-19	59	坩 底部のみ	0.225	－	1.9	－	良好	暗茶褐色	密	ヘラケズリ ヘラナデ	本遺構には直接伴わない？ 底部上げ底気味
		139-20	60	坩？ 底部のみ	一括	－	2.9	－	良好	暗褐色 茶褐色	密	ヘラケズリ ヘラナデ	
		139-21	76	鉢？ 底部2/3	0.000	－	6.5	－	良好	茶褐色 黒色	密	ヘラケズリ後ヘラナデ、底部ナデ(木葉痕を消すまで至らない) ヘラナデ	底部木葉痕あり 作りが比較的丁寧
		139-22	67	鉢 1/2	P1付近 0.090	7.1	－	3.8	不良	淡褐色	密	指ナデ 指ナデ	手捏土器
		139-23	63	鉢 1/2強	0.416	(6.5)	－	3.9	良好	淡暗褐色	微砂粒多	指ナデ 指ナデ	手捏土器
		139-24	57	坏 1/3強	0.461	(14.0)	－	4.7	良好	淡～赤褐色 赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	外立ち上り部のみ(赤彩) 内全面(赤彩)
		139-25	18	坏 口縁～体部一部欠	0.020	14.7	－	4.7	良好	褐～赤褐色 赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ナデ	内外面(赤彩)
		139-26	38	坏 口縁～体部中位1/3	P1付近 0.229	(14.8)	－	(3.7)	良好	褐～赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	外面口縁部(赤彩)、体部に若干の赤彩痕跡あり、内全面(赤彩)
		139-27	27	坏 口縁～胴部1/3強	一括	(14.8)	－	4.1	良好	赤橙色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		139-28	11	坏 完形	カマド袖上 0.085	14.6	－	4.5	良好	淡～赤褐色 赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	外底部除き(赤彩) 内全面(赤彩)

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外)(内)色調	胎土	(外)(内)特徴	備考
139	116	139-29	36	坏1/3	P5、P6上 0.320	(15.3)	−	(4.2)	良好	褐～赤褐色 赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ナデ	外口縁～体部中位(赤彩) 内全面(赤彩)
		139-30	30	坏 1/3	0.030	(16.6)	−	(4.2)	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部弱いヘラナデ	内外面(赤彩)
		139-31	32	坏 1/4弱	0.146	(13.0)	−	(4.3)	やや不良	淡赤橙色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、器厚は薄く全体的にシャープ 口縁部ナデ、体部ナデ	内外共(赤彩ハケ塗り)痕跡あり 図中2点と接合
		139-32	37	坏 口縁～体部中位1/3強	P1付近 0.171	(13.6)	−	(4.2)	良好	暗赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		139-33	29	坏 1/4弱	0.456	(12.4)	−	(4.3)	良好	暗赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ やや不明瞭なナデ	内外面(赤彩)
		139-34	34	坏 1/4弱	0.153	(13.2)	−	(4.3)	良好	褐～明赤褐色 明赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ナデ	外底部除き(赤彩) 内全面(赤彩)
		139-35	54	坏 2/3	0.191	(14.4)	−	3.6	良好	赤褐色 褐色	密	口縁部ナデ後ヘラミガキ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ	内外面(赤彩)
		139-36	19	坏 4/5	カマド周辺 0.052	14.7	−	4.1	良好	褐～赤褐色 赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、稜線もたず、輪積痕が沈線状をなしあまり丁寧に仕上がらない、内面口縁部ナデ、体部ナデ	外底部除き(赤彩) 内全面(赤彩)
		139-37	53	坏 ほぼ完形	0.121	14.3	−	4.6	良好	淡～赤褐色 赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ハケナデ(赤彩時)	外体部中位上(赤彩) 内全面(赤彩)
		139-38	26	坏 1/2弱	0.380	(15.8)	−	(4.5)	良好	淡～暗赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、やや磨耗 口縁部ナデ、体部ナデ、やや磨耗	外口縁のみ(赤彩) 内全面(赤彩)
		139-39	68	坏 口縁～体部一部欠	0.225	15.0	−	5.0	良好	黒色	密	ヘラミガキ(光沢あり) ヘラミガキ(光沢あり)	内外面黒色処理(漆仕上)
		139-40	21	坏 1/3	0.354	(15.0)	−	4.4	良好	淡茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ナデ	内外面黒色処理
		139-41	8	坏 ほぼ完形	0.011	13.2	−	5.0	良好	淡～赤褐色 赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	外体部中位上(赤彩)ハケ塗り 内全面(赤彩)、口縁一部欠
		139-42	51	坏 1/2強	0.084	12.6	−	4.8	良好	茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ハケナデ(赤彩時)	内外面(赤彩) (赤彩の質悪い)
		139-43	56	坏 2/3	0.177	13.4	−	4.0	良好	暗～赤褐色 赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ハケナデ(赤彩時)	外体部中位上(赤彩) 内全面(赤彩)

139	116	139-44	20	坏 口縁～体部一部欠	カマド周辺 -0.002	13.1	—	5.1	良好	褐～赤褐色 赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ後ナデ	外体部中位上(赤彩)、内全面(赤彩)、使用痕の光沢あり
		139-45	52	坏 口縁1/4欠	0.108	13.8	—	4.7	良好	淡～赤褐色 赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	外体部中位上(赤彩) 内全面(赤彩)
		139-46	22	坏 1/2強	0.369	13.0	—	5.1	良好	褐～赤褐色 赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ナデ	外口縁～稜(赤彩) 内全面(赤彩)
		139-47	49	坏 口縁1/2欠	一括	12.6	—	4.4	良好	赤褐色	密	口縁部ハケナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ハケナデ、体部ハケナデ、不明瞭	内外面(赤彩)
		139-48	58	坏 2/3	カマド周辺 0.027	12.7	—	4.7	良好	淡～赤褐色 赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	外体部中位上(赤彩) 内全面(赤彩)
		139-49	33	坏 1/4弱	0.315	(12.0)	—	(3.2)	良好	暗～赤褐色 赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ナデ	外体部中位上(赤彩) 内全面(赤彩)
		139-50	35	坏 口縁～体部上位1/4	0.264	(12.2)	—	—	良好	暗～赤褐色 赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ナデ	外体部中位上(赤彩) 内全面(赤彩)
		139-51	25	坏 口縁～体部1/3	カマド周辺 0.330	(13.4)	—	4.2	良好	赤橙色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ナデ	内外面(赤彩)
		139-52	10	坏 完形	0.015	13.4	—	4.7	良好	茶～淡褐色 茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	外底部除き(赤彩) 内全面(赤彩)
		139-53	24	坏 ほぼ完形	P1付近 0.056	13.8	—	4.7	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ナデ	内外面(赤彩)
		139-54	31	坏 1/3	0.283	(12.9)	—	(4.3)	良好	淡～赤褐色 赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ不明瞭、器面剝離激しい 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	外(部分的に赤彩残る) 内全面(赤彩)
		139-55	23	坏 口縁～底部1/3強	カマド周辺 0.094	(15.6)	—	3.3	良好	黒～赤褐色 赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、大部分は黒褐色を呈する、かなり偏平である 口縁部ナデ、体部ナデ	外稜より上(赤彩)体部の一部に赤彩の痕跡あり、内全面(赤彩)
		139-56	69	坏 口縁～体部1/8弱	0.452	(12.9)	—	—	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ナデ	
		139-57	50	坏 ほぼ完形	0.134	14.1	—	3.9	良好	茶褐色	密	口縁部ハケ状工具によるナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ハケ状工具によるナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩) 質の悪い赤彩
		139-58	2	坏 完形	P5、P6上 0.014	14.8	—	4.1	良好	茶褐色	2～3mm大 茶褐色粒含	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	外稜立ち上り付近より(赤彩) 内全面(赤彩)
		139-59	1	坏 完形	P5、P6上 0.066	13.9	—	5.0	良好	茶褐色	2～3mm大 茶褐色粒やや多	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ後ヘラミガキ	内外面(赤彩) 作り丁寧

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外)(内)色調	胎土	(外)(内)特徴	備考
139	116	139-60	55	坏 ほぼ完形	P5、P6上 -0.127	14.0	−	4.6	良好	淡～赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ハケナデ(赤彩塗)	外体部中位上(赤彩) 内全面(赤彩)
		139-61	9	坏 完形	P5、P6上 -0.028	14.0	−	3.4	良好	暗～茶褐色 茶褐色	茶褐色粒やや多	口縁部ナデ、体部不明瞭なヘラケズリ後ナデ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	外体部中位上(赤彩) 内全面(赤彩)
		139-62	4	坏 完形	0.045	15.4	−	4.6	良好	茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ後一部ヘラミガキ	内外面(赤彩)
		139-63	3	坏 完形	P5、P6上 0.004	15.0	−	4.3	良好	茶褐色	茶褐色粒やや多	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	外口縁付近(赤彩) 内全面(赤彩)
		139-64	12	坏 ほぼ完形	P5、P6上 -0.037	13.6	−	4.5	良好	暗～茶褐色 茶褐色	茶褐色粒多	口縁部ナデ、体部はっきりしないヘラケズリ、器面やや剝離 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		139-65	6	須恵器、坏 完形	P5、P6上 -0.008	12.2	−	4.7	良好	青灰色	白色粒若干含	ロクロ、底部回転ヘラケズリ、ケズリ方向逆時計廻り、ケズリ範囲1/2程、口唇部は段をなさない	
		139-66	159	須恵器、蓋 天井部2/3、口縁先端部欠	0.094	(14.8)	−	(3.7)	良好	青灰色	白色微砂粒多	ロクロ、天井部回転ヘラケズリ、ケズリ方向逆時計廻り、ケズリ範囲1/3程、稜部はやや鋭い、光沢がありエナメル質	
		139-67	79	須恵器、坏 2/3以上	0.297	12.9	−	5.0	良好	青灰色	白色微砂粒含	ロクロ、底部回転ヘラケズリ、ケズリ方向逆時計廻り、範囲1/3、口唇部は段をなさない	
		139-68	80	須恵器、坏 1/3	0.244	(12.8)	−	−	良好	淡灰色	白色微砂粒含	ケズリ方向範囲不明、口唇部は段をなさない	
		139-69	39	高坏 坏部1/3欠	0.173	(13.0)	6.5	10.7	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、坏部、脚部ヘラケズリ後赤彩塗りのハケナデ 坏部ヘラケズリ後赤彩塗りのハケナデ、脚部ヘラケズリ	脚内面除き(赤彩)
		139-70	46	高坏 脚部のみ(一部欠)	0.247	−	10.0	−	良好	赤褐色 褐色	密	脚部ヘラミガキ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩) 内面一部に赤彩痕
		139-71	87	支脚 基部欠(1/2程残か)	カマド周辺 0.007	−	−	残長 9.8	良好	淡褐色	芳状の繊維質少量含		断面方形
		139-72	13	坏 ほぼ完形	P1付近 0.196	13.7	5.5	5.6	良好	暗茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後一部ヘラナデ、底部は平底 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)、内面一部煤付着、作り丁寧
		139-73	5	埦 完形	0.008	12.9	−	7.7	良好	茶褐色	長石粒、微砂粒多	口縁部ナデ、体部上位ヘラケズリ後ヘラナデ、底部付近ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	外体部上位迄(赤彩) 内全面(赤彩)
140	96	140-1	2	甕 口縁～胴部1/4	0.048	(16.7)	−	−	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ、二次加熱の影響でほぼ全面に薄く灰付着	口縁は垂れ下り気味

140	96	140-2	1	小型甕 口縁～胴中位1/3弱	0.192	(13.6)	－	－	良好	茶～暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラミガキ 口縁部ナデ、頸部指ナデ、胴部ヘラナデ	
		140-3	3	小型甕 口縁～胴中位1/2	0.016	13.5	－	－	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ、二次加熱により殆んど剝離している 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		140-4	36	小型甕 口縁～胴中位1/3強	0.050	(11.0)	－	－	良好	淡茶褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラナデ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	口縁～頸部にかけ段をなして内傾
		140-5	11	坩 口縁～胴中位1/2	0.024	11.9	－	－	良好	淡茶褐色	密	ナデ、指ナデ不明瞭 口縁部ナデ、胴部指ナデ	器厚は非常に薄い
		140-6	7	坩？ 胴中位～底部1/2	0.052	－	5.3	－	良好	淡茶～暗褐色	密	胴部ヘラケズリ 胴部ヘラナデ	底部平底
		140-7	33	坩 胴上位～底部2/3	0.262	－	－	－	良好	淡赤褐色 淡褐色	密	胴部ヘラケズリ 頸部指ナデ、胴部ヘラナデ	外(赤彩)
		140-8	5	鉢 3/4	0.043	11.5	6.6	7.8	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後若干のヘラミガキ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ後若干のヘラミガキ	
		140-9	4	鉢 胴中位～底部一部欠	カマド付近 -0.011	9.7	5.7	9.8	良好	暗～赤褐色	密	口縁部指ナデ、胴部ヘラミガキ、二次加熱を受け一部剝離 ヘラナデ後ヘラミガキ(底部のみ)	口縁部口径は9.9～11.0cmと歪んでいる
		140-10	37	坏 ほぼ完形	0.016	14.3	－	5.4	良好	赤褐色	茶褐色粒やや多	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩) 口縁一部欠
		140-11	38	坏 1/2弱	0.175	(14.0)	－	－	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ナデ	内外面(赤彩)
		140-12	39	坏 1/3	0.512	(15.7)	－	－	良好	暗～黒褐色 赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラナデ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内面(赤彩)
		140-13	42	坏 1/6	0.255	(13.7)	－	－	良好	淡赤褐色	密	二次加熱を受け器面の剝離激しく不明	全体的に赤彩痕残る
		140-14	40	坏 1/3	0.361	(15.0)	－	5.0	良好	赤～褐色 赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ナデ	内外面(赤彩)
		140-15	43	坏 口縁～体部中位1/4	カマド付近 0.279	(14.0)	－	－	良好	黒褐色	密	ナデ ナデ	内外面黒色処理
		140-16	15	高坏 2/3強	0.239	14.0	(8.1)	9.0	良好	赤褐色 赤～褐色	密	口縁部ナデ、坏部ヘラケズリ、脚部ヘラミガキ、裾部ナデ 坏部ヘラナデ、脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面一部除き(赤彩)丁寧に作られる
		140-17	14	高坏 2/3強	0.035	(12.5)	(9.3)	9.7	良好	赤褐色 赤～褐色	密	口縁部ナデ、坏部ヘラケズリ、脚部細かいヘラケズリ、裾部ナデ 坏部剝離激しく不明、脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	全面赤彩と推定される

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外)(内)色調	胎土	(外)(内)特徴	備考
140	96	140-18	41	坏 1/3	0.190	(14.0)	−	−	良好	暗赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ナデ	内外面(赤彩)
		140-19	13	高坏 坏部2/3、脚部欠	0.144	13.0	−	−	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		140-20	12	高坏 坏部2/3強、脚部欠	0.247	13.6	−	−	良好	暗茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		140-21	18	高坏 坏部1/2弱	0.174	(14.6)	−	−	良好	明赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		140-22	17	高坏 坏部のみ	0.019	13.7	−	−	良好	淡橙褐色 淡赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内面(赤彩)
		140-23	20	高坏 坏部、脚端部欠	カマド内 0.133	−	(9.8)	−	良好	淡褐色	密	不明、粗いヘラケズリ、二次加熱を受けてボロボロ 脚部ヘラケズリ	
		140-24	19	高坏 脚部のみ	0.365	−	9.5	−	良好	赤褐色 赤～褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		140-25	16	高坏 脚裾部2/3欠	0.302	−	(8.8)	−	良好	赤褐色 淡褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		140-26	26	高坏 脚部のみ	0.181	−	9.7	−	良好	赤褐色 褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部奥カキトリ後ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		140-27	31	高坏 脚部1/3強	0.396	−	−	−	良好	淡～赤褐色 褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		140-28	21	高坏 脚部5/6	0.211	−	9.2	−	良好	赤褐色 褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		140-29	25	高坏 脚裾部2/3欠	0.195	−	(8.6)	−	良好	淡赤褐色 褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ、二次加熱を受けた痕跡あり 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		140-30	22	高坏 脚裾部1/3欠	0.368	−	8.8	−	良好	赤褐色 褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ヘラケズリ	脚内面除き(赤彩)
		140-31	29	高坏 脚裾部2/3欠	0.062	−	(9.0)	−	良好	赤褐色 褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ、二次加熱により黄白色の灰付着 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		140-32	24	高坏 脚部のみ	0.288	−	9.9	−	良好	赤褐色 褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)

140	96	140-33	27	高坏 脚部のみ	カマド付近 0.007	−	9.9	−	良好	赤褐色 暗褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ、少量の灰付着 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		140-34	23	高坏 脚部ほぼ完存	 0.007	−	8.3	−	良好	赤褐色 褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		140-35	28	高坏 脚裾部1/3欠	 0.038	−	8.2	−	良好	赤褐色 褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		140-36	35	鉢？ 3/4	 0.096	9.9	4.5	4.4	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、体部ナデに近いヘラケズリ ヘラナデ	
		140-37	47	支脚 ほぼ完形	 0.346	3.6~6.3	−	20.9	不良	淡褐色	芯状繊維質含	粗いヘラケズリ	断面方形に近い
141	106	141-1	2	小型甕 口縁～胴部一部欠	 0.015	14.5	6.5	10.6	良好	淡褐色 暗～黒褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		141-2	4	坏 口縁1/2、底部欠	 一括	13.2	−	−	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		141-3	3	坏 1/3以上	 0.103	(16.2)	−	4.5	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ	内外面(赤彩)
		141-4	1	小型甕 ほぼ完形	 0.180	5.6	3.3	6.2	良好	暗～淡褐色	微砂粒多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、頸部指ナデ、胴部ヘラナデ	ミニチュア土器 口縁一部欠
		141-5	5	高坏 脚部1/3強	カマド内 0.200	−	(9.1)	−	良好	赤褐色 褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(ヘラケズリ後赤彩 ハケナデ塗り)
		141-6	6	支脚 完形	P14上 0.038	最大幅 7.0	−	13.5	不良	淡橙色	2～3㎜大 小礫多	粗いヘラケズリ	断面は円形に近い
142	141	142-1	3	甑 口縁～底部1/3強	 0.042	(21.5)	(8.0)	25.8	良好	茶褐色	2㎜大 小礫やや多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	外面の一部、内面のほぼ全域 に灰付着
		142-2	2	甕 口縁1/3強	 -0.005	(17.8)	−	−	良好	淡褐色 暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラナデ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		142-3	16	坏 口縁1/8～体部1/3以上	 0.035	(13.4)	−	(2.6)	良好	褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラミガキ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	器厚は非常に薄い 口唇部に段あり
		142-4	17	坏 口縁1/3	 一括	(12.8)	−	−	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラミガキ ナデ	
		142-5	25	高坏 坏部、脚端部欠	 0.160	−	−	−	不良	茶褐色	密 (砂っぽい)	ヘラケズリ後ナデ ヘラケズリ	

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外)(内)色調	胎土	(外)(内)特徴	備考
142	141	142-6	24	高坏 坏部、脚端部欠	0.199	−	−	−	良好	赤褐色 赤～褐色	密	ヘラケズリ ヘラケズリ	脚内面除き（赤彩）
		142-7	6	坏 口縁1/8	一括	14.0	−	−	良好	黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ナデ	内外面黒色処理（漆仕上） 口唇部に沈線あり
		142-8	1	坏 ほぼ完形	北壁周溝内 0.182	14.9	−	3.7	良好	茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後、ヘラナデ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ、作り丁寧	内外面（赤彩） 口縁一部欠
		142-9	23	須恵器、蓋 口縁極一部のみ	一括	−	−	−	良好	暗灰色	密	口縁部と天井部の境に鋭い稜を持ち、口縁部は外反、口唇部は鋭い段状を呈する、ロクロ	古い様相が認められる
		142-10	22	須恵器、蓋 天井部1/6	一括	−	−	−	良好	青灰色	密 白色微砂粒少	ロクロ、ケズリの方向は時計廻り、天井部のケズリ範囲は1/2、天井部と口縁部の境にやや鋭い稜を持つ	
		142-11	19	須恵器、蓋 口縁1/8	一括	(14.8)	−	−	良好	暗灰色	白色微砂粒多	ロクロ、ケズリの方向範囲不明、口唇部は丸く収め稜は純い	断面紫色
		142-12	7	須恵器、坏 1/3	0.064	(13.4)	−	4.7	良好	明灰色	白色微砂粒多	ロクロ、底部のケズリ方向は逆廻り、ケズリ範囲は1/2強、受け部の端は丸く口唇部は段を持たない	
		142-13	20	須恵器、蓋 口縁一部～天井部1/3強	一括	(13.7)	−	3.6	良好	暗灰色	白色微砂粒多	ロクロ、天井部ケズリ方向は逆廻り、稜は純い、ケズリの範囲1/3 口唇部は段を持たない	外面天井部自然釉
		142-14	18	須恵器、坏 口縁～体部1/5	一括	(13.0)	−	(4.5)	良好	黒灰色	白色微砂粒少	ロクロ、底部のケズリ方向自然釉付着で不明瞭、ケズリの範囲1/3 受け部は丸く口唇部は段を持たない	外面受け部～底部に黒灰色自然釉付着、復原実測
		142-15	21	須恵器、坏 口縁1/8	一括	(12.2)	−	−	良好	灰色	白色微砂粒多	ロクロ、ケズリ方向範囲共不明瞭、口唇部は段を持たない	
143	140	143-1	2	甕 胴下位1/3～底部完存	P17上 0.042	−	8.2	−	良好	淡褐色	密	ヘラケズリ ヘラナデ、底部ヘラケズリに近いカキトリ	
		143-2	1	小型甕 口縁1/2～胴中位	一括	14.2	−	−	良好	暗～淡褐色	2～3㎜大 小礫多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	内外面一部剝離あり
		143-5	4	台付甕 底部のみ完存	0.116	−	9.0	−	良好	暗～淡褐色 暗褐色	密	ヘラナデ、台部ナデ ナデ、台部ヘラナデ剝離やや激しい	
		143-6	5	坏 1/2弱	0.049	(14.7)	(7.2)	(4.1)	良好	暗～淡褐色 橙～黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラミガキ	内外面黒色処理 （漆仕上）
		143-7	6	須恵器、蓋 口縁1/8	0.087	(15.6)	−	−	良好	白灰色	密	ロクロ、口唇部は短く屈曲	

144	102	144-1	3	甕 口縁1/8、胴上位～底部1/2	P18内 -0.083	(18.0)	5.1	28.1	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		144-2	15	甕 ほぼ完形	カマド左脇 0.026	16.0	6.4	最大 29.6	良好	黒～淡茶褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ(ケズリ痕は殆んど残さない) 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	口縁～頸部に二次加熱による灰、胴中位～下位に煤付着
		144-3	17	支脚 両端部欠	カマド左脇 0.170	－	－	－	不良	暗茶褐色	微砂粒多		断面は方形か
		144-4	2	甕 口縁完存～胴上位	カマド左脇 -0.005	22.0	－	－	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ ヘラナデ	口縁と胴部の間はヘラミガキによる1条の沈線
		144-5	13	甑 口縁1/3弱	 -0.009	(26.7)	－	－	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ後ヘラミガキ	
		144-6	16	甑 ほぼ完形	カマド右脇 -0.002	24.2	8.0	24.5	良好	淡茶～茶褐色	密	口縁部ナデ、胴部ハケ後ヘラミガキ 口縁部ナデ、胴部ヘラミガキ、底部ナデ	
		144-7	5	坏 1/3、底部欠	床直 0.001	(10.4)	－	3.8	良好	褐色 赤褐色	密	不明、器面の磨耗が激しく調整等不明瞭ながら部分的に赤彩が残存する、内面ヘラナデ	内面(赤彩)
		144-8	4	坏 口縁～底部2/3	カマド内 -0.011	15.0	－	5.8	良好	暗茶褐色	2～3㎜大 茶褐色粒多	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		144-9	7	高坏 2/3、脚端部一部残	カマド右脇 0.139	－	(10.0)	－	良好	淡赤褐色	密	坏部ヘラナデ、脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラナデ、裾部ナデ	内外面(赤彩)
		144-10	8	高坏 脚部完存	カマド左脇 0.043	－	9.7	－	良好	赤褐色 褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		144-12	10	埦 口縁1/3欠	 一括	5.5	4.1	2.8	良好	淡褐色	密	指ナデ 指ナデ	手捏土器
145	99	145-1	1	甕 完形	 0.005	13.0	5.0	22.0	良好	淡褐色 黒褐色	密	口縁部ナデ、頸部ナデ後ヘラケズリ後ヘラミガキ、胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面口縁部ナデ、頸部ヘラナデ	外面煤付着、複合口縁 容量1/3の範囲より炭化米検出
		145-2	5	甕 口縁完存～胴下端2/3	 -0.001	16.4	－	－	良好	淡茶褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部指ナデ後ヘラナデ、輪積痕明瞭	指で輪積を押さえ込み跡やや明瞭に残る
		145-3	21	須恵器、短頸壺？ 底部のみ	 一括	－	(3.8)	－	良好	青灰色	密 白色微砂粒多	ロクロ、ケズリ方向は時計廻り、底部ヘラ記号	混入
		145-4	9	坩 口縁～底部1/2以上	 0.020	10.0	－	9.4	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラナデ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		145-5	8	坩 口縁～胴部一部欠	 -0.003	10.8	－	14.6	良好	暗～暗赤褐色 暗～淡橙褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラナデ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	外面胴中位以上(赤彩) 内面頸部より上(赤彩)

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外) (内)色調	胎土	(外) (内)特徴	備考
145	99	145-6	7	坩 頸～胴部一部欠	硬化床面上 -0.001	10.8	－	14.3	良好	暗～淡褐色 淡褐色	密	口縁部ナデ、頸部一部ヘラナデ、胴上位ヘラケズリ後ヘラミガキ、下位ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部一部ヘラナデ	外面胴中位上(赤彩) 内面頸部より上(赤彩)
		145-7	6	坩 口縁、底部欠	硬化床面上 0.012	－	－	－	良好	明橙色	密	胴部上位ナデ、中位ヘラナデ 頸部指ナデ、胴部ヘラナデ	胴部完存
		145-8	4	坏 完形	床面 -0.020	15.2	－	6.3	良好	茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラナデ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩) 内外面煤付着、底部丸底
		145-9	3	坏 完形	床直 -0.020	13.4	－	4.6	良好	茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラナデ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩) 底部丸底
		145-10	11	高坏 坏部1/2弱	床直 -0.038	17.4	－	－	良好	赤褐色	密	坏部下位に弱い稜線を持つ、ハケナデ(赤彩時) ハケナデ(赤彩時)	内外面(赤彩) 条線は弱い
		145-11	12	高坏 脚部2/3以上	一括	－	9.4	－	良好	赤褐色 淡褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		145-12	20	坏 2/5	確認調査時 9トレ床面一括	(15.5)	－	6.1	良好	暗赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ハケナデ(赤彩時)	内外面(赤彩)
		145-13	14	坏 口縁1/3欠	硬化床面上 -0.014	15.9	－	4.6	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩) 確認調査時9トレ床面一括
		145-14	2	坏 ほぼ完形	硬化床面上 0.004	13.0	－	4.9	良好	茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後ナデ、底部付近ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面煤付着 口縁一部欠、底部丸底
		145-15	10	甕 口縁1/3	一括	(20.0)	－	－	良好	黒褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部粗いヘラナデ	
146	125	146-1	1	甕 胴中位～底部1/2欠	-0.115	16.3	(7.2)	(26.5)	良好	茶～褐色 茶褐色	密	口縁部ナデ、胴部上位～中位ヘラケズリ(縦方向)後ヘラナデ(横方向)、下位ヘラケズリ(斜方向)後一部ヘラミガキ、内面口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	外面(赤彩)、肩部張る 直接伴なわない
		146-2	2	甕 口縁～胴中位1/2弱	0.198	(20.5)	－	－	良好	淡橙褐色	3mm大 小礫少	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	肩部張る 直接伴なわない
		146-3	4	甑 胴中位～底部2/3以上	一括	－	6.8	－	良好	暗～淡褐色	3mm大 小礫やや多	ヘラケズリ ヘラナデ	底部完存
		146-4	8	坏 口縁～底部1/3	0.290	(15.2)	－	(4.3)	良好	明橙褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		146-5	7	坏 口縁～底部1/3以上	0.040	(15.0)	－	5.7	良好	暗赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ後一部ヘラミガキ	内外面(赤彩) 内面一部煤付着

146	125	146-6	6	坏 3/3弱	0.050	13.9	—	4.1	やや不良	淡橙褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	
		146-7	11	須恵器、坏 口縁～底部1/4	一括	(12.4)	—	(±4.5)	良好	青灰色	白色徴砂粒多	ロクロ、ケズリ方向逆廻り、ケズリ範囲底部1/2、口唇部は段を持たない	
		146-8	12	須恵器、坏 口縁1/8	一括	(13.0)	—	—	良好	青灰色	白色徴砂粒少	ロクロ、ケズリ方向範囲不明、受け部は鋭く突出、口唇部は弱い段あり	
		146-9	56	支脚 半分以上欠損か	0.038	幅 6.7	—	長さ (9.2)	不良	褐色	1～2cm大 小礫多	粗いヘラケズリ、指ナデ	断面は隅丸方形 胎土は精選されていない
		146-10	9	高坏 口縁1/3～体部3/3弱	0.000	(14.5)	—	—	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後ヘラナデ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ後ヘラミガキ	内外面(赤彩) 脚部欠床直上
		146-11	10	高坏 脚部のみ	カマド内 0.120	—	7.8	—	良好	褐～赤褐色 褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ、器面剝離激しい 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		146-12	5	小型短頸壺 口縁一部欠	P30上 0.007	12.0	—	6.7	良好	暗赤紫色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、頸部細かいヘラ状工具によるケズリに近いナデ、胴部ヘラナデ	黒色に近く、焼き上がった器面に赤彩を施す、内外面底部灰付着
		146-13	14	鉢？ 1/3弱	一括	—	(5.0)	4.1	不良	淡褐色	2～3mm大 小礫多	指ナデ 指ナデ	手捏土器
147	107	147-1	1	甕 口縁～胴部上位	0.285	18.1	—	—	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ハケ後ヘラミガキ ハケ後ヘラミガキ	置き台として使用？
		147-2	2	高坏 脚端部欠	-0.031	—	—	—	良好	赤褐色 赤～褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
148	134	148-1	1	高坏 坏部1/4弱	0.426	(13.0)	—	—	良好	暗赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、やや粗いナデ	内外面(赤彩)
		148-2	2	高坏 脚部2/3欠	0.406	—	(8.8)	—	良好	暗赤褐色 赤橙色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ	脚内面除き(赤彩)
149	111	149-1	1	甕 口縁のみ1/8	一括	(18.2)	—	—	良好	黒褐色 暗褐色	金雲母片含	口縁部ナデ、頸部一部に若干のハケ、口唇部屈曲する 口縁部ナデ	布留系甕
		149-2	6	小型甕 口縁～頸部1/16	一括	(7.8)	—	—	不良	乳白色	密	口縁部ナデ、胴部ハケ 口縁部ナデ、胴部ハケ後ナデ	
150	159	150-1	3	坏 1/4	一括	(14.2)	—	—	良好	明赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		150-2	5	坏 1/8	一括	(15.1)	—	—	良好	暗赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩) 内外面磨耗

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外)(内)色調	胎土	(外)(内) 特徴	備考
150	159	150-3	4	坏 1/6	一括	(13.6)	—	—	良好	暗赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
151	127B	151-1	1	坏 1/3	0.245	(14.2)	—	(5.4)	良好	暗～赤褐色 赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ナデ	外面口縁部(赤彩) 内面全面(赤彩)
152	113	152-6	10	甕 胴部	一括	—	—	—	良好	暗褐色	密	ハケ ヘラナデ	拓本
		152-7	9	甕 胴部	一括	—	—	—	良好	暗褐色	密	ハケ ナデ	拓本
		152-8	7	甕 胴部	一括	—	—	—	良好	淡褐色	密	ハケ 弱いハケか？	拓本
		152-9	6	甕 胴部	一括	—	—	—	良好	淡褐色	密	ハケ ハケ	拓本
153	127A	153-1	1	深鉢 口縁	0.274	—	—	—	良好	暗褐色	密	1条の沈線文 ヘラミガキ	拓本
		153-2	11	深鉢 口縁	一括	—	—	—	良好	淡褐色	微砂粒多	沈線文 剝離激しく不明	拓本
		153-3	14	深鉢 口縁	一括	—	—	—	良好	淡褐色	微砂粒多	沈線文 剝離激しく不明	拓本
		153-4	22	深鉢 口縁	一括	—	—	—	良好	暗褐色	密	平行沈線文 ヘラミガキ	拓本
		153-5	15	深鉢 口縁	一括	—	—	—	良好	淡褐色	密	平行沈線文による斜行格子文	拓本
		153-6	23	深鉢 口縁	一括	—	—	—	良好	淡褐色	密	平行沈線文による斜行格子文	拓本
		153-7	18	鉢 口縁	一括	—	—	—	良好	茶褐色	密	口縁部縄文下沈線文 ヘラミガキ	拓本
		153-8	8	深鉢 口縁	一括	—	—	—	良好	暗～淡褐色	密	口唇部指頭押捺圧痕 ヘラミガキ	拓本
		153-9	19	鉢 口縁	一括	—	—	—	良好	暗褐色	密	口唇部刻み、2条の沈線文下縄文 ヘラミガキ	拓本

153	127A	153-10	6	深鉢 口縁	一括	−	−	−	良好	淡褐色	微砂粒多	2条の沈線文 やや剝離	拓本
		153-11	10	鉢 口縁	一括	−	−	−	良好	暗褐色	密	口唇部下1条の沈線下縄文 ヘラミガキ	拓本
		153-12	2	深鉢 胴部	0.136	−	−	−	良好	淡褐色	微砂粒多	沈線文 剝離激しく不明	拓本
		153-13	3	深鉢 胴部	0.320	−	−	−	良好	淡褐色	微砂粒多	1条の沈線文あり 剝離激しく不明	拓本
		153-14	16	鉢 胴部	一括	−	−	−	良好	暗褐色	密	頸部付近連続刺突文、胴部に沈線文及び縄文、ヘラミガキ ヘラミガキ	拓本
		153-15	4	深鉢 頸部	0.319	−	−	−	良好	褐色	密	4本の条線が認められる ヘラナデ？	拓本
		153-16	9	深鉢 口縁	一括	−	−	−	良好	淡褐色	密	平行沈線文による斜行格子文	拓本
		153-17	13	深鉢 口縁	一括	−	−	−	良好	淡褐色	密	平行沈線文による斜行格子文	拓本
		153-18	7	鉢 胴部	一括	−	−	−	良好	暗褐色	密	沈線文の下による斜行格子文 ヘラミガキ	拓本
		153-19	24	鉢 胴部	一括	−	−	−	良好	暗褐色	密	沈線文の下に縄文 ヘラミガキ	拓本
		153-20	12	深鉢 胴部	一括	−	−	−	良好	淡褐色	密	平行沈線間に連続刺突文 ヘラミガキ	拓本
		153-21	17	深鉢 胴部	一括	−	−	−	良好	暗褐色	密	平行沈線間に連続刺突文 ヘラミガキ	拓本
		153-22	25	深鉢 胴部	一括	−	−	−	良好	褐色	密	平行沈線間に斜行格子文 ヘラミガキ	拓本
		153-23	20	深鉢 胴部	一括	−	−	−	良好	暗褐色	密	沈線文の上縄文 ヘラミガキ	拓本
157	115	157-1	2	坏 1/4、底部完存	一括	(11.2)	−	−	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ	
		157-2	1	坏 1/2強	P2内 0.003	12.2	6.5	4.2	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラミガキ	内外面黒色処理(漆仕上) 内面煤付着

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外)(内)色調	胎土	(外)(内)特徴	備考
157	115	157-3	4	小型甕 口縁～底部1/8	一括	(12.2)	(2.4)	11.8	良好	茶褐色 黒褐色	2㎜大 小礫少	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ、ケズリに近い	
		157-4	5	甕 底部のみ	カマド脇 0.070	－	5.8	－	良好	暗褐色	密	ヘラケズリ ヘラナデ	
		157-5	7	甕 底部1/4弱	0.065	－	(6.4)	－	良好	暗褐色 褐色	密	ヘラケズリ ヘラナデ、輪積痕あり	
		157-6	6	甕 底部のみ	カマド脇 0.160	－	7.8	－	良好	茶褐色 暗褐色	微砂粒多	ヘラケズリ ヘラナデ	表面二次加熱を受け器面剝離箇所あり
158	139	158-1	2	甕 口縁1/3	0.000	(19.6)	－	－	良好	暗褐色 淡褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ、口縁～頸部にかけて輪積痕残る 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	外面口唇部に1条の沈線 口唇部は摘み上げる
		158-2	5	甕 底部のみ	カマド前面 0.068	－	7.2	－	良好	暗褐色 黒褐色	2～3㎜大 小礫多	ヘラケズリ後ヘラミガキ ヘラナデ、器面剝離やや激しい	
		158-3	1	坏 ほぼ完形	カマド前面 0.027	12.0	－	4.1	良好	暗～黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ	内外面黒色処理(漆仕上)
		158-4	4	須恵器、坏 口縁1/4、底部1/3	0.174	12.1	7.1	3.8	良好 硬緻	暗灰～灰色	白色微砂粒含	ロクロ、底部回転ヘラケズリ、ケズリ方向逆時計廻り	内外面火襷痕あり
		158-5	6	甕 頸～胴部1/2強	カマド前面 0.062	－	－	－	良好	暗褐色 淡褐色	密	頸部ナデ指圧痕、胴部ヘラケズリ ヘラナデ	器形から最大径は口縁になるものと考えられる
159	132	159-1	1	甑 口縁1/8	カマド内 一括	(23.0)	－	－	やや不良	暗褐色	微砂粒多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		159-2	13	甕 口縁1/4	0.139	18.5	－	－	良好	明茶褐色	密	口縁部ナデ 口縁部ナデ後ヘラナデ	
		159-3	4	坏 口縁1/8	0.105	(13.6)	－	－	良好	淡褐色 暗褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラミガキ 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ	内面にタテ方向のヘラミガキによる暗文
		159-4	12	坏 完形	0.128	10.6	－	3.8	良好	暗～淡褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラミガキ ヘラミガキ	内外面黒色処理(漆仕上)
160	133	160-1	3	甕 口縁1/4	カマド右脇 0.279	(21.8)	－	－	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ 口縁部ナデ	
		160-2	2	坏 1/2強	カマド右脇 0.185	12.7	－	3.1	良好	黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面黒色処理 (炭素吸着)

160	133	160-3	1	鉢 完形	カマド右脇 0.184	18.8	7.5	8.3	良好	暗～明茶褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラナデ後指ナデ(不明瞭)下位ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		160-4	5	支脚 両端部欠	一括	－	－	－	不良	淡橙褐色	小礫多 (砂っぽい)		断面は方形
161	158	161-1	8	甕 口縁1/4	164号床面より 0.128	(21.5)	－	－	良好	褐色	密	口縁部ナデ、頸部細かいヘラナデに近いヘラケズリ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		161-2	1	小型甕 ほぼ完形	164号床面より 0.066	14.4	5.6	15.6	良好	暗～茶褐色	3～5mm大 小礫少	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		161-3	4	坏 ほぼ完形	164号床面より 0.097	14.6	－	3.8	良好	茶～淡褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ	
		161-4	3	坏 1/2	164号床面より 0.066	12.6	－	4.5	やや不良	褐色	2～3mm大 小礫多	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	
		161-5	2	坏 1/2	164号床面より 0.066	12.7	－	3.5	良好	黒色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラミガキ	内外面黒色処理(漆仕上)
		161-6	7	鉢 口縁～胴下位1/2	164号床面より 0.243	8.6	－	－	良好	暗～黒褐色 黒褐色	密	ヘラミガキ ヘラミガキ	内外面黒色処理(漆仕上)
162	100	162-1	2	甕 口縁1/2	北側周溝内 0.027	22.0	－	－	やや不良	暗褐色	2～3mm大 小礫多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ(下から上へやや変則的) 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	最大径は口縁か
		162-2	13	甕 口縁1/4	0.121	(25.1)	－	－	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		162-3	3	鉢 1/2弱	0.111	(12.4)	5.8	6.7	良好	淡褐色	微砂粒多	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	
		162-4	1	坏 完形	北側周溝内 0.090	12.8	－	3.5	良好	橙褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ	内外面黒色処理(漆仕上) 内面一部煤付着
		162-5	5	高坏 脚部一部欠	0.300	－	9.2	－	良好	暗橙色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		162-6	4	甕 底部3/4以上	0.042	－	5.6	－	良好	黒褐色 茶褐色	2～3mm大 小礫多	ヘラケズリ ヘラナデ	
		162-8	6	支脚 下端部欠	0.126	(5.0)	－	(4.8)	不良	淡褐色	微砂粒多	灰付着、粗いヘラケズリ	断面は不整方形 残長9.8cm、重量298.0g
163	123	163-1	4	甕？ 口縁1/4	一括	(15.8)	－	－	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ 口縁部ナデ、頸部に明瞭な輪積痕あり	

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外)(内)色調	胎土	(外)(内)特徴	備考
163	123	163-2	5	甕 底部2/3	一括	－	6.4	－	良好	暗～淡褐色	密	ヘラケズリ ヘラナデ	
		163-3	1	坏 1/6欠	カマド左脇 0.040	12.1	－	3.0	良好	黒褐色	密	口唇部付近ヘラミガキ、体部ヘラケズリ ヘラミガキ	内外面黒色処理(漆仕上) 底部木葉痕
		163-4	9	鉢 口縁2/3欠	一括	(7.0)	4.4	3.4	良好	茶褐色	密	指ナデ 指ナデ	手捏土器
		163-5	8	鉢 1/3	一括	(6.9)	4.0	3.0	良好	暗褐色 茶褐色	密	指ナデ 指ナデ	手捏土器 手捏の中でもやや作り丁寧
		163-6	10	鉢 完形	一括	1.8	2.0	1.7	良好	淡褐色	密	指押え 指ナデ	手捏土器
164	114	164-1	30	甕 口縁1/2強	一括	17.5	－	－	良好	淡茶褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	外面一部灰付着
		164-2	28	甕 口縁～胴部1/2強	0.011	17.8	－	－	良好	淡～暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		164-3	29	甕 口縁3/4	0.035	18.9	－	－	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、頸部下にヘラミガキに近いヘラナデを用いタテケズリの痕跡を消す 口縁部ナデ、頸部ヘラナデ	
		164-4	31	甕 口縁1/4	0.055	(15.3)	－	－	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、頸部及び胴部1条の沈線状ヘラナデ、胴部12条1単位クシガキ、一部斜行格子状、内面口縁部ナデ、頸部指ナデ	
		164-5	32	甕 底部のみ	一括	－	7.9	－	良好	淡褐色	密	ヘラケズリ ヘラナデ	底部は丸底気味で安定感欠く
		164-6	27	甑 口縁1/3	0.078	(24.2)	－	－	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	内面輪積痕残る
		164-7	24	甑 口縁1/4強	0.016	(22.7)	－	－	良好	明茶褐色	密	丁寧なヘラミガキ 丁寧なヘラミガキ	
		164-8	26	小型甕 口縁1/3強	一括	(13.8)	－	－	良好	明赤褐色 明赤～淡褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	外全面(赤彩)、内口縁部(赤彩) 内外面輪積痕残る
		164-9	25	鉢？ 口縁1/3	0.015	(14.4)	－	－	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、胴部剝離激しく不明 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		164-10	23	鉢 口縁1/3、胴部1/2	0.025	(11.4)	(5.8)	7.8	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ、器面剝離やや激しい 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	内外面輪積痕残る 底部欠

164	114	164-11	35	鉢 1/3	一括	(8.8)	(5.8)	3.6	良好	明茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後ヘラナデ ヘラナデ	ミニチュア土器 底部木葉痕
		164-12	37	鉢 1/6	一括	(7.5)	—	—	良好	明褐色	密	粗いヘラミガキ 指ナデ	ミニチュア土器 内外面輪積痕あり
		164-13	39	鉢 1/6、底部欠	一括	(10.2)	—	—	良好	明茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	ミニチュア土器
		164-14	7	鉢 1/4弱	0.144	(11.3)	—	—	良好	褐～赤褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		164-15	19	高坏 坏部1/2弱欠	0.003	14.0	9.7	10.1	良好	淡赤褐色 赤～暗茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ、脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		164-16	10	高坏 坏部1/4強	0.116	(13.7)	—	—	良好	淡橙色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩) 外面輪積痕あり
		164-17	11	高坏 坏部1/3	-0.016	(8.7)	—	—	良好	淡赤褐色	2mm大 茶褐色粒多	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		164-18	15	高坏 坏部2/3以上	0.082	13.8	—	—	良好	暗赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ	内外面(赤彩)
		164-19	33	高坏 坏部下位～裾部1/2弱	0.063	—	(8.8)	—	良好	淡赤褐色	密	坏部ヘラケズリ、脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 坏部ヘラナデ、脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		164-20	14	高坏 坏部1/4	0.117	(13.3)	—	—	良好	淡赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		164-21	12	高坏 坏部1/3弱	0.063	(14.6)	—	—	良好	淡赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、下位磨耗激しく不明 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		164-22	13	高坏 坏部1/3以上	0.022	(12.7)	—	—	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		164-23	22	高坏 脚部完存	0.024	—	8.9	—	良好	淡赤褐色 黒褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		164-24	21	高坏 脚部ほぼ完存	0.053	—	9.0	—	良好	明橙色 褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		164-25	18	高坏 脚部1/3強	0.040	—	9.0	—	良好	明赤褐色 褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)
		164-26	17	高坏 脚部3/4	0.013	—	9.4	—	良好	暗赤褐色 褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き(赤彩)

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外) (内)色調	胎土	(外) (内)特徴	備考
164	114	164-27	20	高坏 脚部完存	0.009	－	9.6	－	良好	明橙色 褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き（赤彩）
		164-28	78	高坏 脚部ほぼ完存	一括	－	9.7	－	良好	赤褐色 明褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、ヘラ切り状の沈線あり、裾部ナデ	脚内面除き（赤彩）
		164-29	34	高坏 脚部2/3以上、裾部1/4	0.055	－	(8.6)	－	良好	赤褐色 淡褐色	密	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き（赤彩）
		164-30	6	坏 口縁2/3欠	一括	(14.9)	－	5.2	良好	黒～赤褐色 淡赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	外口縁部（赤彩） 内全面（赤彩）
		164-31	2	坏 1/2	0.030	(13.7)	－	5.2	良好	淡赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面（赤彩）
		164-32	8	坏 2/3以上	0.022	14.6	－	4.8	良好	暗赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面（赤彩）
		164-33	5	坏 口縁1/3	一括	(13.9)	－	－	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、稜部に輪積痕あり 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面（赤彩）
		164-34	1	坏 口縁1/3	一括	(14.6)	－	－	良好	明茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ナデ	内外面（赤彩）
		164-35	4	坏 1/3強	一括	(14.0)	－	－	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、口縁部輪積痕あり ヘラナデか？器面剝離激しい	内外面（赤彩）
		164-36	3	坏 1/3強	0.130	(16.0)	－	－	良好	赤褐～褐色 赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、輪積痕あり 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	外口縁部（赤彩） 内全面（赤彩）
		164-37	40	須恵器、坏 口縁1/3弱欠	-0.014	10.5	－	4.8	良好	青灰色	3～5㎜大 白色粒多	ロクロ、底部ケズリ方向順廻り、ケズリ範囲は1/2以上、受け部は鋭い 口唇部に明瞭な段を持つ	貯蔵穴内検出破片と接合
		164-39	36	鉢 1/2弱	一括	(5.3)	(2.2)	2.9	良好	明茶褐色	密	丁寧なヘラミガキ 丁寧なヘラミガキ	ミニチュア土器
		164-40	38	鉢 ほぼ完形	一括	4.8	5.2	2.6	不良	淡褐色	微砂粒多	指ナデ 指ナデ	手捏土器
165A	143	165A-1	13	甕 胴部2/3	カマド右脇 0.090	－	－	－	良好	褐色	5㎜大 小礫多	ヘラケズリ ヘラナデ	最大径は口縁か
		165A-2	2	甕 底部完存	0.035	－	9.1	－	良好	暗褐色	密	ヘラケズリ ヘラナデ	

165A	143	165A-3	1	小型甕 2/3	0.047	13.4	4.2	12.8	良好	褐色	微砂粒多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		165A-4	7	鉢 1/2、底部欠	一括	12.6	—	—	良好	褐色 黒～茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラミガキ、やや磨耗し褐色味がかる	内面黒色処理(漆仕上)
		165A-5	8	坏 1/4弱	一括	(13.1)	—	4.7	良好	褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラミガキ	内外面黒色処理(漆仕上)
		165A-6	5	坏 口縁1/4欠	0.245	9.2	—	3.0	良好	黒～褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラミガキ	内外面黒色処理(漆仕上)
		165A-7	10	坏 1/4弱	一括	(11.7)	—	—	良好	橙褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラミガキによる放射状暗文	器面やや磨耗、暗文部分のみ黒褐色を呈する(漆仕上か？)
		165A-8	9	坏 1/8	一括	(14.1)	—	—	良好	橙褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラミガキによる放射状暗文	器面やや磨耗、暗文部分のみ黒褐色を呈する(漆仕上か？)
		165A-9	6	坏 1/3、底部完存	一括	(15.4)	—	3.7	良好	赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内面(赤彩)
		165A-10	3	高坏 坏部1/4弱	カマド右脇 0.143	(13.1)	—	—	良好	橙褐色 黒～暗褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラミガキ	
		165A-11	4	高坏 脚部のみ	一括	—	—	—	良好	赤褐色 褐色	密	ヘラケズリ ヘラカキトリ	脚部利用の管状土錘？重量126.0g
		165A-12	12	須恵器、蓋？ 1/8	一括	(9.3)	—	—	良好	白灰色	密	ロクロ、受け部からの立ち上りは短い、ケズリ範囲不明	身蓋逆転期、とりあえず蓋として実測
		165A-13	11	須恵器、蓋？ 1/6	-0.002	(9.4)	—	—	良好	青灰色	密	ロクロ、受け部からの立ち上りは短い、ケズリ範囲不明	身蓋逆転期、とりあえず蓋として実測
		165A-14	21	有蓋高坏蓋つまみ？ つまみ部	一括	鋬幅 1.6	—	鋬高 1.0	良好	赤褐色	密	細かいヘラケズリ	外面(赤彩)
166	135	166-1	1	甕 ほぼ完形	カマド右脇 0.074	21.4	7.2	34.9	良好	褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	口縁、胴部の一部欠
		166-2	3	甕 口縁1/2弱	0.023	(22.6)	—	—	良好	暗褐色	微砂粒多	口縁～頸部ナデ、ナデ以外不明、剝離激しい 口縁部ナデ	
		166-3	6	甕 底部1/3	一括	—	(7.4)	—	良好	茶褐色	密	ヘラケズリ ヘラナデ	
		166-4	5	蓋 胴下端～底部完存	一括	—	6.9	—	良好	褐色	2～3㎜大 小礫やや多	ヘラケズリ ヘラナデ	

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外)(内)色調	胎土	(外)(内)特徴	備考
166	135	166-5	8	鉢 ほぼ完形	カマド右脇 0.110	14.0	4.5	6.0	良好	淡褐色	密	口縁～体部中位ナデ一部ヘラミガキ、下位ヘラケズリ 口唇部ヘラミガキ、体部ヘラナデ	
		166-6	11	坏 口縁一部欠	一括	11.6	－	3.7	良好	暗～淡茶褐色 黒～淡茶褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、やや器面の磨耗箇所あり ヘラミガキ	内外面黒色処理部分的に剝離 （漆仕上）
		166-7	4	甕 胴下位1/3～底部完存	カマド右脇 0.074	－	6.4	－	良好	暗茶褐色	密	ヘラケズリ ヘラナデ	
		166-8	7	鉢 口縁1/2欠	0.025	10.0	5.4	8.3	良好	淡～黒褐色 淡褐色	密	口縁部ナデ後ヘラミガキ、胴部ヘラケズリ後ヘラミガキか？剝離激しく不明 口縁部ナデ？剝離激しく不明、胴部ヘラナデ後ヘラミガキ	外面胴部中位上黒色処理（漆仕上）
		166-9	10	坏 2/3	0.037	10.8	－	4.2	良好	黒～褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラミガキ	内外面黒色処理（漆仕上）
		166-10	9	坏 ほぼ完形	カマド右脇 0.066	12.0	－	3.4	良好	黒～淡褐色 暗褐色	密	口縁部ナデ又はヘラミガキ、体部ヘラケズリか？磨耗激しく整形不明 ヘラミガキ	内外面黒色処理（漆仕上）
		166-11	14	鉢 完形	0.092	6.2	5.4	4.0	やや不良	暗褐色	微砂粒多	指ナデ 指ナデ	手捏土器
167	136A	167-1	7	甕 ほぼ完形	カマド右脇 0.012	16.7	4.6	32.0	良好	暗褐色	2～5㎜大 小礫多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ、胴下位指ナデ、底部付近ヘラナデ	
		167-2	9	小型甕 3/4以上	カマド右脇 -0.047	14.9	7.6	14.0	良好	暗茶褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		167-3	8	甕 底部のみ	カマド右脇 0.002	－	5.4	－	良好	淡褐色	2～3㎜大 小礫多	ヘラケズリ ヘラナデ、輪積痕あり	
		167-4	12	鉢 口縁1/5	カマド右脇 0.012	(18.0)	(10.0)	(6.6)	良好	淡茶褐色 暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ、輪積痕あり 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		167-5	13	鉢 1/6	カマド右脇 -0.007	(16.0)	(8.0)	(6.1)	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		167-6	10	高坏 ほぼ完形	貯蔵穴内 -0.015	14.8	9.5	11.1	良好	黒褐色	密	坏部ヘラミガキ、脚部ヘラミガキ、裾部ナデ 坏部ヘラミガキ、脚部ヘラケズリ、裾部ナデ	脚内面除き黒色処理 （漆仕上）
		167-7	11	坏 2/3	貯蔵穴内 -0.135	13.0	－	3.7	良好	黒～褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面黒色処理（漆仕上）
		167-8	3	小型短頸壺 完形	貯蔵穴内 -0.021	13.9	－	4.1	良好	黒～暗褐色 黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面黒色処理 （炭素吸着）？

167	136A	167-9	5	坏 完形	貯蔵穴内 -0.111	13.6	—	3.9	良好	暗～黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面黒色処理(漆仕上)
		167-10	6	坏 1/5欠	カマド右脇 0.072	13.0	—	3.7	良好	暗～黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ	内外面黒色処理 (漆仕上)
		167-11	4	坏 完形	貯蔵穴内 -0.077	11.4	—	3.9	良好	淡暗褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ	内外面黒色処理 (漆仕上)
		167-12	1	坏 完形	カマド内 -0.022	12.4	—	3.7	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ後ヘラミガキ	内外面黒色処理 (漆仕上)
		167-13	2	坏 完形	貯蔵穴内 -0.141	12.8	—	3.4	良好	暗～黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面黒色処理 (漆仕上)
168A	136B	168A-1	2	坏 ほぼ完形	P7 -0.149	10.2	—	4.3	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、器面剝離やや激しい 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ	内外面黒色処理 (漆仕上)
		168A-2	1	坏 ほぼ完形	167号混在 0.158	10.3	—	3.6	良好	暗褐色 黒褐色	密	丁寧なヘラミガキ 丁寧なヘラミガキ	内外面黒色処理 (漆仕上)
169	142	169-1	5	甕 胴中位～底部1/2	一括	—	16.0	—	良好	明茶褐色	密	条線の非常に薄いハケ後一部ヘラミガキ ヘラナデ	
		169-2	2	甕 口縁1/2	0.076	(19.3)	—	—	良好	極暗褐色 褐色	密	指頭押捺圧波状口縁、胴部条線が不明瞭なハケ ヘラナデ	
		169-3	9	甕 底部のみ	0.063	—	5.6	—	良好	茶褐色	密	ヘラミガキ 剝離激しく不明	
		169-4	8	甕 底部1/2	一括	—	9.0	—	良好	褐色	密	ヘラミガキ ヘラナデ	
		169-5	7	甕 底部のみ	0.294	—	7.2	—	良好	淡褐色	密	ヘラミガキ ヘラミガキ	
		169-6	6	甕 底部ほぼ完存	0.259	—	8.4	—	良好	淡褐色	密	胴部磨耗激しく、底部ヘラケズリ ヘラナデ	
		169-7	4	甕 口縁	一括	—	—	—	良好	極暗褐色 褐色	密	口縁部ハケ、胴部条線のはっきりしないハケ、指頭押捺圧波状口縁 口縁部ハケ、胴部ヘラナデ	
		169-8	26	壺 頸部～胴中位1/2弱	一括	—	—	—	良好	淡褐色	微砂粒多	ヘラナデ ヘラナデ	拓本
		169-9	3	甕 口縁	0.157	—	—	—	良好	極暗褐色 褐色	密	指頭押捺圧波状口縁、胴部条線のはっきりしない、ハケ整形 ハケ	拓本

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外) (内)色調	胎土	(外) (内)特徴	備考
169	142	169-10	29	甕 口縁	一括	—	—	—	良好	赤褐色	密	口唇部細縄文、折り返し口縁、中位連続刺突文	拓本、外面(赤彩)
		169-11	10	甕 口縁	一括	—	—	—	良好	黒褐色	密	指頭押捺圧波状口縁、ハケ ハケ	拓本
		169-12	32	甕 口縁	一括	—	—	—	良好	茶褐色 赤褐色	微砂粒多	口縁羽状縄文、棒状浮文3連 ヘラミガキ浮文内に連続刺突文、口縁部下端に連続刺突文	拓本、内面(赤彩)
		169-13	30	壺？ 胴部	一括	—	—	—	良好	赤褐色 褐色	密	連続刺突文、S字状結節文、上は沈線	拓本、外面(赤彩)
		169-14	27	壺 胴部	一括	—	—	—	良好	褐～赤褐色 褐色	微砂粒多	平行沈線間、山形文内に羽状縄文	拓本、外沈線区画外(赤彩)
		169-15	31	壺 胴部	一括	—	—	—	良好	赤褐色 褐色	微砂粒多	平行沈線による山形文内に細縄文	拓本、外面(赤彩)
		169-16	28	壺 胴部	一括	—	—	—	良好	褐～赤褐色 褐色	微砂粒多	平行沈線、山形文内に羽状縄文	拓本、外沈線区画外(赤彩)
170	138	170-1	2	壺 口縁～頸部ほぼ完存	0.037	18.5	—	—	良好	褐色 濃茶褐色	密	口縁部ナデ、複合口縁下端ヘラ状工具による刻み、ヘラミガキ、頸部7本以上の沈線、内ヘラミガキ	口縁部他(赤彩)
		170-2	3	高坏 坏部¾残	0.030	12.3	—	—	良好	褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラミガキ一部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ	
		170-3	4	小型壺 口縁～頸部ほぼ完存	0.047	8.2	—	—	良好	褐色	密	口縁部ヘラミガキ、頸部ヘラケズリ 口縁部ヘラミガキ、頸部ヘラナデ	全体に丁寧であるが、頸部のみ粗い
		170-4	6	甕 底部⅔	0.057	—	7.2	—	良好	暗褐色 黒褐色	密	ヘラケズリ、やや剝離激しい ヘラナデ	
		170-5	5	甕 底部のみ	0.106	—	6.0	—	良好	淡茶褐色	密	ヘラケズリ ヘラナデ	
		170-9	10	甕 口縁	0.093	—	—	—	良好	暗褐色	密	口唇部指頭押捺圧痕、口縁部ナデ後ヘラミガキ ヘラミガキ	拓本
		170-10	11	甕 胴部	一括	—	—	—	良好	褐色	密	輪積2条、最下段の輪積前後に連続刺突文 ヘラナデ	拓本
		170-11	12	壺 胴部	一括	—	—	—	良好	赤～褐色	密	沈線6条S字状結節文＋沈線7条、7条の平行沈線間にS字状結節文	拓本(赤彩)

171	151	171-1	4	甕 口縁一部、胴部¼弱	一括	(28.8)	−	−	良好	褐～赤褐色 赤褐～褐色	密	口縁部細縄文、棒状浮文3連、頸部S字状結節文3連、胴部羽状縄文、沈線区画による山形文内細縄文他ヘラミガキ、内口縁部ヘラミガキ、胴部ヘラナデ	復原実測(赤彩)
		171-3	10	壺 口縁	一括	−	−	−	良好	褐～赤褐色 赤褐色	密	羽状縄文＋S字状結節文、平行沈線文による山形文？ ヘラミガキ	拓本(赤彩) 1と同一個体
		171-4	8	壺 胴部	一括	−	−	−	良好	褐色	密	羽状縄文	拓本 1と同一個体
		171-5	9	壺 胴部	一括	−	−	−	良好	褐色	密	S字状結節文、ヘラミガキ細縄文	拓本、結節文以外(赤彩) 1と同一個体
		171-6	5	壺 胴部	一括	−	−	−	良好	赤褐～褐色	密	平行沈線文による山形文内に細縄文	拓本(赤彩) 1と同一個体
		171-7	7	壺 胴部	一括	−	−	−	良好	褐色	密	羽状縄文＋S字状結節文	拓本 1と同一個体
172	148	172-1	1	甕 口縁～胴部½強	0.418	15.6	−	−	良好	暗褐色	微砂粒多	ハケ後ヘラミガキ 口縁部ハケ、頸部輪積痕、胴部ヘラナデ	
		172-2	2	鉢 ¼	0.043	(21.8)	−	−	良好	淡褐色	密	ヘラケズリ後ヘラミガキ ヘラミガキ	
		172-3	22	坩 口縁¼強	一括	(9.6)	−	−	良好	淡茶褐色	密	ヘラミガキ ヘラナデ	
		172-4	5	坏 口縁⅙	一括	(10.4)	−	−	良好	茶褐色	密	ヘラケズリ ヘラナデ	ミニチュア土器
		172-5	7	坏？ ¼	一括	(6.2)	(4.5)	2.7	良好	淡褐色	密	ヘラケズリ ヘラナデ	ミニチュア土器
		172-6	4	鉢？ ¾	一括	7.6	5.2	3.0	良好	暗褐色 茶褐色	密	指ナデ 指ナデ	手捏土器
		172-7	9	鉢？ 底部のみ	一括	−	3.2	−	良好	淡褐色	密	指ナデ 指ナデ	手捏土器
		172-15	24	鉢？ 口縁	一括	−	−	−	良好	赤褐色 褐色	密	口唇部～口縁S字状結節文、下位径6㎜程の円形貼付文	拓本内外面(赤彩) 径4㎜程の貫通孔2
		172-16	23	小型壺？ 口縁	一括	−	−	−	良好	赤褐色 褐色	密	口唇部1条の沈線、口縁S字状結節文、下位沈線	拓本、内外面(赤彩) 径3㎜程の貫通孔1
		172-17	10	壺 頸部	一括	−	−	−	良好	茶褐色 褐色	密	S字状結節文、沈線区画による山形文内羽状縄文、平行沈線による斜行格子状文内羽状縄文ヘラミガキ	拓本、内外面(赤彩)

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外)(内)色調	胎土	(外)(内)特徴	備考
174	156	174-1	100	甕 完形	一括	17.8	6.6	29.6	良好	茶褐色	微砂粒多	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ、胴中位灰付着し調整不明 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	底部木葉痕あり
		174-2	41	甑 口縁⅓～底部完存	一括	(24.0)	6.8	28.2	良好	淡褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラミガキ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ後ヘラミガキ	
		174-3	40	甑 ほぼ完形	一括	22.8	7.4	21.8	良好	淡茶褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	口唇部は摘み上がる
		174-4	39	甕 ほぼ完形	一括	17.5	6.2	26.5	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ、剝離激しく不明	頸部灰付着
		174-11	31	須恵器、大型甕 口縁⅓～胴部½弱	一括	41.0	－	最大 64.0	良好	青灰色	密	口縁～頸部に5条の凸帯があり、凸凹帯間に2条の櫛描き波状文 胴部叩目文、内面同心円文による青梅波を磨消していない	
		174-12	14	須恵器、蓋 ½弱	一括	(14.5)	－	(4.2)	良好	灰色	白色微砂粒多	ロクロ、天井部回転ヘラケズリ、ケズリ方向逆時計廻り、ケズリ範囲口縁部付近迄及ぶ、稜部は鈍く口唇部に段を持たない	底部に1文字ヘラ記号あり
		174-13	17	須恵器、蓋 口縁⅙～天井部½弱	一括	(14.4)	－	(3.8)	良好	灰色	2～3㎜大 白色粒多	ロクロ、天井部回転ヘラケズリ、ケズリ方向逆時計廻り、ケズリ範囲½、天井部と口縁部を分ける稜は鈍く不明瞭、口唇部は段を持たない	
		174-14	16	須恵器、蓋 ¼強	一括	(13.0)	－	3.7	良好	青灰色	2～3㎜大 白色粒多	ロクロ、ケズリ方向逆時計廻り、範囲½強、稜部は鈍く不明瞭、口唇部は段を持たない、内天井部不整方向のナデ	
		174-15	12	須恵器、坏 ⅔弱	一括	11.8	－	4.5	良好	灰色	密	ロクロ、底部回転ヘラケズリ、ケズリ方向逆時計廻り、範囲は底部の⅓、口唇部に段を持たない	外面乳白色の自然釉付着
		174-16	13	須恵器、坏 口縁½以上、底部欠	一括	12.4	－	－	良好	青灰色	白色微砂粒少	ロクロ、底部回転ヘラケズリ、ケズリ方向逆時計廻り、範囲は底部の½、受け部は水平気味にのびる、口唇部は段を持たない	
		174-17	11	須恵器、蓋 ½強	一括	12.0	－	3.9	良好	青灰色	白色微砂粒少	ロクロ、天井部回転ヘラケズリ、ケズリ方向逆時計廻り、範囲は天井部の⅔、稜部の下は沈線状に巡る、口唇部は段を持たない	口縁と体部の境は太い沈線状を呈している体部外面自然釉付着
		174-18	15	須恵器、甕 頸部～底部½強	一括	最大 9.6	－	－	良好	暗灰色	白色微砂粒少	胴中位カキ目、底部格子ふう叩き文 指ナデ	孔径(９㎜)底部丸底 肩部白灰色自然釉付着
		174-19	101	坩 体部完存	一括	－	－	－	良好	淡赤褐色	密	頸部ナデ、体部ヘラケズリ 不明但し底部の一部はヘラミガキが認められる	外面(赤彩)、底部丸底 胴部最大径16.1cm
		174-20	32	高坏 ⅔以上	一括	13.5	9.2	9.1	良好	淡赤褐色 淡赤～褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ、脚部ヘラケズリ	脚内面除き(赤彩) 坏部⅓、脚部⅕欠
		174-21	4	高坏 ほぼ完形	一括	14.5	9.7	10.7	良好	赤褐色 褐～赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ、脚部ヘラケズリ	脚内面除き(赤彩)

174	156	174-22	23	坏 ⅔以上	一括	13.2	−	5.7	良好	褐～明赤褐色 明赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	外口縁部～体部½(赤彩) 内全面(赤彩)
		174-23	5	坏 完形	一括	14.6	−	5.3	良好	褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、輪積痕あり 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内面(赤彩)
		174-24	22	坏 口縁一部欠	一括	12.4	−	4.5	良好	暗～暗赤褐色 暗赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	外口縁部(赤彩) 内全面(赤彩)
		174-25	35	坏 口縁¾、底部欠	一括	12.8	−	(4.6)	良好	淡赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後ヘラナデ、口唇部輪積痕 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		174-26	27	坏 ⅔以上	一括	14.2	−	5.3	良好	褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	
		174-27	24	坏 ¾以上	一括	13.1	−	3.7	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラミガキ	内外面黒色処理 (漆仕上)
		174-28	7	坏 完形	一括	12.5	−	4.1	良好	暗褐色	密	ヘラケズリ後、ヘラミガキ ヘラミガキ	内外面黒色処理 (漆仕上)
		174-29	19	坏 底部一部欠	一括	13.4	−	4.1	良好	黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面黒色処理 (漆仕上)
		174-30	18	坏 口縁一部欠	一括	13.8	−	4.1	良好	黒褐色	密	ヘラケズリ後ヘラミガキ ヘラミガキ	内外面黒色処理 (漆仕上)
		174-31	36	坏 口縁⅔、底部欠	一括	14.2	−	(4.1)	良好	黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面黒色処理 (漆仕上)
		174-32	33	坏 ⅔以上	一括	13.8	−	3.3	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラミガキ ヘラミガキ	内外面黒色処理(漆仕上) 底部十文字の線刻あり
		174-33	37	坏 ¾	一括	13.8	−	3.9	良好	黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラミガキ	内外面黒色処理
		174-34	25	坏 ¾以上	一括	13.3	−	3.7	良好	暗～褐色 黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ	内面黒色処理(炭素吸着)？
		174-35	34	坏 ½	一括	15.2	−	4.2	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ	内外面黒色処理(漆仕上)
		174-36	28	坏 ⅔	一括	14.5	−	3.9	良好	淡暗褐色	密	やや磨耗しており、若干のヘラミガキ痕をとどめるにすぎない ヘラミガキ	内外面黒色処理 部分的に黒色処理部剝離
		174-37	21	坏 ¾以上	一括	13.9	−	3.7	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ ヘラミガキ	内外面黒色処理 (漆仕上)

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量（推定）cm 口径	底径	器高	焼成	(外)(内)色調	胎土	(外)(内)特徴	備考
174	156	174-38	38	坏 口縁1/3強	一括	(14.2)	—	(3.7)	良好	黒褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ	内外面黒色処理 (漆仕上)
		174-39	20	坏 2/3	一括	13.8	—	3.8	良好	褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	
		174-40	26	坏 2/3	一括	14.8	—	3.5	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ ヘラミガキ	内外面黒色処理 (漆仕上)
		174-41	9	高坏？ 口縁一部欠、底部欠	一括	19.0	—	—	良好	極暗褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 横方向ナデ	内外面黒色処理 (炭素吸着)？
		174-42	10	坏 坏部1/2弱	一括	18.6	—	—	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ後ナデ ナデ	内外面黒色処理(漆仕上)
		174-43	6	小型甕 完形	一括	12.0	5.2	10.8	良好	褐色	微砂粒少	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
		174-44	8	高坏 脚部1/3	一括	—	13.7	—	良好	褐色	2㎜大 小礫少	脚部ヘラケズリ、裾部ナデ ナデ	
175	156 KB-2	175-1	1	坏 完形	一括	13.8	—	5.6	良好	淡赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	内外面(赤彩)
		175-2	2	高坏 坏部1/2強欠	一括	(13.7)	9.0	9.5	良好	淡赤褐色	密	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ、脚部ヘラケズリ、裾部ナデ 口縁部ナデ、体部ヘラナデ、脚部ヘラケズリ	脚内面除き(赤彩)
		175-3	3	小型甕 完形	一括	9.2	4.6	7.6	良好	淡茶褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	
176	156 KB-1 上層	176-1	4	甑 ほぼ完形	一括	24.1	7.0	25.1	良好	淡茶褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラミガキ	
		176-2	5	甕 ほぼ完形	一括	18.8	5.6	26.0	良好	暗褐色	密	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	

第10表　椎津茶ノ木遺跡出土土製品一覧表

遺構	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量 cm/g				焼成	(外) (内)色調	胎土	備考
						径	孔	高さ	重量				
1	2	1-2	2	土玉 ½	0.036	3.7	1.3	3.3	24.0	良好	淡暗褐色	密	
10	9	10-3	3	土玉 ½欠	一括	2.3	0.7	1.9	6.0	良好	淡褐色	密	
		10-4	4	土玉 ¼欠	一括	3.1	0.61	2.9	16.0	良好	淡褐色	密	
14	162	14-3	3	管状土錘 両端部欠	一括	1.3	0.4	残長 5.0	10.0	やや不良	淡褐色	密	
16	163A	16-2	2	土玉 ⅓欠	ピット一括	3.2	0.8	(3.2)	21.0	良好	茶褐色	密	
20	160A	20-4	8	土玉 完形	一括	3.1	0.6～1.0	3.3	26.0	良好	茶褐色	密	
		20-5	9	土玉 完形	一括	3.1	0.9	2.7	28.0	良好	淡茶褐色	密	
		20-6	10	土玉 完形	一括	2.9	0.8	2.6	25.0	良好	暗茶褐色	微砂粒多	
28	144	28-17	19	土鈴？ ½以上欠	一括	(7.6)	0.8	(5.0)	38.0	良好	茶褐色	白色微砂粒多	中空を有するものと考えられ28-21と同様土鈴と推定される (数値)は残存長径と残存最大幅
		28-18	21	土玉 完形	一括	4.2	1.0	4.6	70.0	良好	暗褐色	密	
		28-19	22	土玉 完形	貯蔵穴一括	3.5	0.9	3.5	39.0	良好	褐色	密	
		28-20	23	土玉 ⅓欠	一括	2.9	0.8	2.7	16.0	良好	黒褐色	密	
		28-21	17	土鈴 完形	床直 0.092	長径 45	0.4～0.6	厚さ 2.35	22.0	良好	茶褐色	白色微砂粒多	振ると乾いた音がする、内部に2ケの小石あり 幅2.85cm
33	14	33-16	19	管状土錘 完形	0.166	1.5	0.6	4.2	10.5	良好	淡褐色	密	
34	16	34-6	5	土玉 ¼弱	一括	(3.1)	0.7	2.2	8.0	良好	暗褐色	密	

35	18	35-1	2	土玉 ½	一括	3.5	1.1	2.0	15.6	良好	淡茶褐色	密	擦痕が認められないから土玉≧紡錘車か、土玉にしては偏平である
45	35	45-2	2	土玉 ほぼ完形	0.176	3.3	0.8	3.1	36.0	良好	茶褐色	密	
46	52	46-1	1	土玉 一部欠	0.454	3.5	0.7～0.8	3.1	29.0	良好	褐色	密	
47	29	47-23	32	土玉 完形	0.062	3.5	0.4	3.1	33.0	良好	淡褐色	密	
		47-24	34	土玉 完形	0.243	3.4	0.8	3.1	28.0	不良	褐色	密	側面剝離
		47-25	31	土玉 完形	0.014	3.2	0.9	2.7	34.0	良好	淡褐色	密	
		47-26	30	土玉 ⅔	0.101	3.1	0.6	3.0	22.0	良好	暗褐色	密	
		47-27	27	土玉 ⅓	一括	(3.1)	0.9	(3.0)	16.0	良好	淡茶褐色	密	
		47-28	26	土玉 ⅓	一括	3.4	1.0	3.5	18.0	不良	淡褐色	密	
		47-29	28	土玉 ⅓	0.272	—	(1.1)	(3.6)	12.0	良好	淡褐色	密	側面は二次磨耗
49	53	49-1	5	土玉 一部欠	0.113	3.4	0.8	2.9	28.0	良好	淡褐色	密	
50	31	50-15	24	土玉 ½	一括	3.6	三角形0.9	2.6	16.0	良好	淡褐色	密	側面丸形、上面から見ると歪
		50-16	21	土玉 ⅕	0.222	3.4	0.5	3.1	24.0	良好	淡褐色	密	
		50-17	22	土玉 完形	一括	3.8	0.8	3.0	38.0	良好	茶褐色	密	
		50-18	23	土玉 ½	一括	3.8	0.6	3.0	18.0	良好	淡褐色	密	上下に平坦面あり
		50-21	20	土製丸玉	0.200	0.9	0.06	0.95	0.7	良好	暗～ 黒褐色	密	

遺構	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量 cm/g 径	孔	高さ	重量	焼成	(外)(内)色調	胎土	備考
51	48	51-5	7	土玉 ¼強	一括	3.7	(0.9)	2.9	15.0	良好	淡褐色	密	
		51-6	6	土玉 完形	P2内 -0.163	3.2	0.7	2.6	28.0	良好	淡褐色	密	
53	43	53-2	5	土玉 ½	-0.036	2.9	0.7	3.1	17.0	良好	茶褐色	密	
56	38	56-11	12	土玉 完形	0.233	3.4	8.0～1.4	3.1	34.0	良好	淡褐色	密	
		56-12	11	土玉 ⅓	一括	(3.0)	0.5	3.7	10.5	良好	淡褐色	密	
60	50	60-5	6	土玉 完形	0.079	3.5	0.8	3.4	51.0	良好	淡茶褐色	密	
		60-6	7	管状土錘 完形	0.228	0.7	0.2	3.5	2.0	良好	褐色	密	
62	45A	62-2	4	管状土錘 完形	0.123	1.2	0.4	3.8	4.2	良好	褐色	密	
		62-3	5	管状土錘 ½欠	0.146	1.1	0.4	—	4.0	良好	褐色	密	
		62-4	6	管状土錘 完形	一括	0.6	0.2	3.4	1.5	良好	褐色	密	土製管玉か？
		62-5	3	管状土錘 完形	0.035	0.6	0.16	2.7	0.5	良好	褐色	密	土製管玉か？
66	30	66-5	206	管状土錘 両端部一部欠	0.160	1.5	0.6	5.2	12.0	良好	暗褐色	密	
		66-6	207	管状土錘 下端部欠	一括	1.3	0.6	—	8.0	良好	淡褐色	密	
69	25A	69-19	19	土玉 一部欠	0.470	3.5	0.7～1.1	3.1	30.0	良好	茶褐色	密	
		69-20	16	土玉 完形	0.680	3.6	0.8	3.0	34.0	良好	暗褐色	密	

69	25A	69-21	18	土玉 一部欠	0.363	3.5	0.6～1.1	3.4	28.0	良好	褐色	密	
		69-22	17	土玉 完形	0.704	3.2	0.6～1.0	2.6	22.0	良好	褐色	密	
		69-23	20	土玉 ¼欠	0.566	4.6	1.0	—	50.0	良好	褐色	密	
78	89	78-8	9	土玉 完形	一括	3.4	0.6	3.7	44.0	良好	茶褐色	密	
		78-9	6	土玉 完形	一括	3.1	0.7	2.9	32.0	良好	茶褐色	密	
		78-10	7	土玉 完形	一括	3.2	0.6～1.5	2.9	30.0	良好	茶褐色	密	
81	75	81-2	14	土玉 ほぼ完形	一括	2.7	0.8	3.2	22.0	良好	茶褐色	密	
		81-3	15	管状土錘 ½以上欠	一括	3.1	1.2	—	29.0	良好	褐色	密	
87	56	87-16	16	土玉 完形	一括	3.6	0.7～0.9	3.2	40.3	良好	淡茶褐色	密	
		87-17	17	土玉 完形	一括	3.5	0.6	3.4	38.5	良好	淡褐色	密	
		87-18	18	土玉 ⅖	一括	3.5	0.6～0.7	3.5	18.0	良好	淡褐色	密	
88	55	88-2	2	土玉 ほぼ完形	一括	3.5	0.8	3.0	32.0	良好	茶褐色	密	
		88-3	3	土玉 ほぼ完形	一括	3.3	0.7	2.6	28.0	良好	茶褐色	密	
89	85	89-7	8	土玉 一部	0.393	3.5	0.8	2.8	31.0	良好	淡茶褐色	密	
90A	42	90A-13	19	土製紡錘車 ⅓	一括	—	—	—	24.0	良好	茶褐色	密	平面図位置のみ、レベルなし
		90A-14	18	土玉 ほぼ完形	一括	3.3	0.6	2.2	23.0	良好	淡茶褐色	密	

遺構	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量 cm/g 径	孔	高さ	重量	焼成	(外)(内)色調	胎土	備考
90A	42	90A-16	21	管状土錘 ½程欠	0.222	—	—	—	3.0	良好	暗褐色	密	
		90A-17	20	管状土錘 下端部欠	0.059	1.2	0.5	—	10.0	良好	淡褐色	密	
91	76AB	91-29	32	土玉 完形	一括	3.3	1.2～1.5	2.4	32.0	良好	褐色	密	
		91-30	23	土玉 ほぼ完形	0.173	3.7	0.6～0.9	3.6	54.0	良好	茶褐色	密	
		91-31	1	土玉 ¼欠	0.272	3.0	0.6	—	20.0	良好	褐色	密	
		91-32	5	土玉 完形	一括	3.3	1.0～1.5	2.7	30.0	良好	褐色	密	
		91-33	20	土玉 完形	一括	3.2	0.9	3.3	41.0	良好	茶褐色	密	
		91-34	6	土玉 ほぼ完形	0.077	3.4	0.7～1.0	2.7	28.0	良好	褐色	密	
		91-35	24	土玉 ほぼ完形	0.066	3.7	1.0～1.5	2.3	26.0	良好	淡褐色	密	
		91-36	25	土玉 完形	0.138	3.4	0.7	3.3	41.0	良好	褐色	密	
98	65	98-7	10	管状土錘 下端欠	0.115	1.3	0.4	残(4.6)	8.0	良好	褐色	密	
		98-8	9	管状土錘 上端一部、下端欠	0.270	0.75	0.4	残(3.3)	2.0	良好	茶褐色	密	
99	70	99-22	24	土玉 完形	0.015	2.7	0.7	2.7	16.0	良好	褐色	密	
		99-23	25	土玉 一部欠	カマド前面 0.116	3.2	0.6	2.9	28.0	良好	淡褐色	密	
		99-24	23	土玉 完形	一括	3.4	0.8～0.9	3.1	34.0	良好	茶褐色	微砂粒多	

103	86	103-28	30	土玉 完形	一括	3.8	1.1	2.7	40.0	良好	淡褐色	密	
		103-29	29	土玉 完形	一括	3.1	0.6	3.0	28.0	良好	褐色	密	
		103-30	32	土玉 完形	一括	3.0	0.6	3.1	28.0	良好	茶褐色	密	
		103-31	31	土玉 完形	一括	3.1	0.8	2.8	17.0	良好	暗褐色	微砂粒多	
104	79	104-8	18	土玉 ほぼ完形	一括	3.4	0.7～1.5	3.2	32.0	良好	褐色	密	
		104-9	24	土玉 完形	一括	2.9	1.0～1.7	2.1	21.0	良好	暗褐色	密	
		104-10	17	土玉 完形	一括	3.0	0.7	3.2	37.0	良好	暗褐色	密	
		104-11	15	土玉 ほぼ完形	一括	3.3	0.3～0.5	2.5	26.0	良好	褐色	密	
		104-12	23	土玉 完形	一括	2.4	0.7～1.1	2.7	18.0	良好	茶褐色	密	
		104-13	16	土玉 ほぼ完形	一括	3.2	0.6	3.1	34.0	良好	茶褐色	密	
105	72A	105-8	8	管状土錘 両端部欠	0.179	1.3	0.5	—	6.0	不良	淡褐色	密	断面カマボコ型
		105-9	14	土玉 完形	一括	2.6	0.6	2.5	20.0	良好	茶褐色	密	
		105-10	11	土玉 完形	一括	2.5	0.6	2.8	18.0	良好	暗褐色	密	
		105-11	10	土玉 完形	0.179	3.2	0.7	3.1	28.0	良好	茶褐色	密	
		105-12	9	土玉 完形	カマド付近 0.004	3.0	0.7～0.8	2.7	26.0	良好	暗茶褐色	密	
		105-13	12	土玉 ¼欠	一括	3.4	0.8	2.6	24.0	良好	淡褐色	密	

遺構	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量 cm/g 径	孔	高さ	重量	焼成	(外)(内)色調	胎土	備考
109	62	109-12	15	土玉 完形	一括	3.6	0.6	3.0	36.0	良好	褐色	密	
		109-13	21	土玉 完形	一括	2.5	0.7	2.4	14.0	良好	暗褐色	微砂粒多	
		109-14	16	土玉 完形	一括	2.9	0.7～1.1	2.9	24.0	良好	褐色	密	
		109-15	20	土玉 完形	一括	2.7	0.6	2.6	20.0	良好	暗褐色	密	
		109-16	17	土玉 完形	南壁際 0.096	2.7	0.7	2.8	26.0	良好	褐色	密	
		109-17	19	土玉 完形	一括	2.6	0.5～0.7	2.6	20.0	良好	茶褐色	密	
		109-18	13	管状土錘 下端部欠	一括	0.9	0.2	残(3.8)	4.0	良好	褐色	密	
		109-19	12	管状土錘 完形	0.001	4.4	1.8	9.7	210.0	良好	褐色	密	上端左右に紐を通した時に出来た様な切り込み状の凹がある
110	61	110-11	16	土玉 ほぼ完形	一括	3.0	0.9	2.6	21.0	良好	褐色	密	
		110-12	13	土玉 完形	貯蔵穴内 0.989	2.9	0.8	2.6	20.0	良好	茶褐色	密	
		110-13	20	土玉 ほぼ完形	一括	3.1	0.5	2.3	25.0	良好	茶褐色	密	
111	51	111-9	4	管状土錘 1/3欠	一括	0.9	0.2	(3.5)残存	3.0	良好	茶褐色	密	
113	73	113-6	6	土玉 完形	一括	3.2	0.7～1	3.3	37.0	良好	茶褐色	密	
		113-7	8	土玉 1/3欠	一括	3.0	0.7	2.9	20.0	良好	茶褐色	密	
		113-8	7	土玉 完形	一括	3.0	0.7	3.1	26.0	良好	茶褐色	密	

113	73	113-9	9	偏平土玉 ½欠	一括	3.5	0.9	1.7	15.0	良好	淡褐色	密	土製紡錘車か？
115	68	115-9	14	土玉 ½残	一括	3.5	0.7	3.5	20.0	良好	淡褐色	密	
		115-10	16	土玉 ½残	一括	3.5	0.6～1	3.2	20.0	良好	暗褐色	密	
		115-11	11	土玉 完形	一括	3.6	0.8～1	3.9	58.0	良好	暗褐色	密	
		115-12	10	土玉 完形	0.104	3.6	0.6～1.1	3.5	48.0	良好	暗褐色	密	
		115-13	13	土玉 一部欠	一括	3.1	0.5	2.5	26.0	良好	茶褐色	密	
		115-14	12	土玉 完形	一括	3.0	0.6～0.9	2.3	20.0	良好	暗褐色	密	
118	78	118-25	23	土玉 完形	一括	2.6	0.6	2.8	20.0	良好	暗褐色	密	
		118-26	21	土玉 一部欠	-0.001	3.1	0.5	2.8	30.0	良好	淡褐色	密	
		118-27	26	土玉 完形	一括	3.2	0.5	3.1	34.0	良好	茶褐色	密	
		118-28	22	土玉 完形	一括	2.6	0.7	2.4	16.0	良好	淡褐色	密	
		118-29	20	土玉 完形	0.187	3.0	0.8	3.0	26.0	良好	褐色	密	
		118-30	24	土玉 完形	一括	3.1	0.5～0.9	3.0	27.0	良好	淡褐色	密	
		118-31	25	土玉 一部欠	一括	4.4	0.6	4.6	76.0	良好	茶褐色	密	
123	63	123-53	42	土玉 完形	-0.011	2.9	0.4～0.5	3.4	30.0	良好	褐色	密	焼成時に粘土カス付着のまま焼成
		123-54	43	土玉 ½欠	一括	2.7	0.7	3.5	10.0	良好	褐色	密	

遺構	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量 cm/g 径	孔	高さ	重量	焼成	(外)(内)色調	胎土	備考
126	112	126-6	6	土玉？ ½	一括	3.2	0.6～0.8	2.6	20.0	良好	茶褐色	密	2条刻みあり
128	117	128-2	4	土玉 完形	一括	3.2	0.5～1.2	2.8	30.0	良好	淡褐色	密	
		128-3	6	土玉 一部欠	一括	3.5	0.6～0.9	3.3	39.0	良好	淡褐色	密	
		128-4	3	土玉 ほぼ完形	ピット一括	2.9	0.6	3.2	30.0	良好	淡褐色	密	
		128-5	5	土玉 完形	一括	3.2	0.8～1.2	2.7	26.0	良好	淡褐色	密	
129	109A	129-8	13	土玉 完形	一括	3.9	1.3～2.2	4.1	46.0	良好	暗褐色	密	棒抜き取りの際に左右に強く振った様な2個分の貫通孔
		129-9	18	土玉 ほぼ完形	一括	3.4	0.6～1.0	3.6	34.0	不良	淡褐色	密	
		129-10	16	土玉 完形	一括	3.6	0.6～0.8	3.1	32.0	良好	暗灰色	密	還元焼成
		129-11	17	土玉 完形	一括	3.1	0.7～0.8	2.5	25.0	良好	褐色	密	
		129-12	14	土玉 完形	一括	3.6	0.9～2.0	2.3	30.0	良好	淡茶褐色	密	糸を通して使用した様な、切り込み状の擦痕あり
		129-13	20	土玉 1/8欠	一括	(3.4)	0.6	3.2	24.0	良好	暗褐色	密	
		129-14	21	土玉 ⅓	一括	3.2	0.6	—	23.0	良好	茶褐色	密	
		129-15	15	土玉 完形	一括	2.9	0.6	3.0	28.0	良好	褐色	密	
		129-16	19	土玉 完形	一括	2.8	0.7	1.8	14.0	良好	茶褐色	密	
130	74	130-40	92	土玉 完形	一括	4.3	0.9～1.5	4.0	66.0	良好	暗褐色	密	

130	74	130-41	76	土玉 一部欠	カマド内 0.021	3.6	0.8～1.0	3.9	62.0	良好	茶褐色	密	
		130-42	69	土玉 完形	-0.002	3.7	0.7～1.9	3.5	52.0	良好	淡褐色	密	
		130-43	57	土玉 完形	0.126	3.7	0.7～1.0	4.1	52.0	良好	茶褐色	密	
		130-44	81	土玉 完形	一括	3.7	0.9～1.1	3.3	37.0	良好	茶褐色	密	
		130-45	63	土玉 完形	0.185	3.6	0.6～1.2	3.1	35.0	良好	淡褐色	密	
		130-46	70	土玉 一部欠	0.031	3.7	0.7～1.2	3.6	34.0	良好	淡茶褐色	密	
		130-47	51	土玉 完形	0.181	3.4	0.6～1	3.5	42.0	良好	茶褐色	密	
		130-48	80	土玉 一部欠	一括	3.8	0.6～0.9	4.0	49.0	良好	褐色	密	
		130-49	60	土玉 完形	-0.006	3.2	0.6～1.0	3.0	32.0	良好	淡褐色	密	
		130-50	62	土玉 完形	0.173	3.6	0.6～1.5	4.0	34.0	良好	淡褐色	密	
		130-51	65	土玉 完形	0.125	3.4	0.7～1.4	3.5	32.0	良好	淡褐色	密	
		130-52	64	土玉 完形	0.106	3.6	0.6～1.7	3.9	50.0	良好	暗褐色	密	貫孔の際に、中心棒を左右に振って抜きとった痕跡あり
		130-53	67	土玉 完形	0.101	3.5	0.6～1.0	3.5	46.0	良好	暗褐色	密	
		130-54	55	土玉 一部欠	0.032	3.0	1.2	3.0	28.0	良好	茶褐色	密	
		130-55	71	土玉 完形	-0.049	3.7	0.7～0.9	3.3	38.0	良好	茶褐色	密	
		130-56	56	土玉 完形	0.054	3.2	0.6～1.4	3.1	23.0	不良	褐色	微砂粒多	

遺構	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量 cm/g 径	孔	高さ	重量	焼成	(外)(内)色調	胎土	備考
130	74	130-57	52	土玉 一部欠	0.112	2.9	0.6～1.3	2.8	20.0	良好	茶褐色	密	
		130-58	54	土玉 一部欠	0.053	2.9	0.6～1.5	3.3	28.0	良好	茶褐色	密	
		130-59	58	土玉 完形	0.118	2.9	0.6～0.7	2.2	22.0	良好	茶褐色	密	
		130-60	66	土玉 完形	0.175	2.9	0.6	3.1	24.0	良好	褐色	密	
		130-61	61	土玉 完形	0.156	3.3	0.8～1.1	2.4	24.0	良好	淡褐色	密	
		130-62	68	土玉 完形	0.164	3.2	0.6～0.9	2.9	24.0	良好	淡褐色	密	
		130-63	83	土玉 ほぼ完形	一括	3.2	0.6～0.7	3.1	26.0	良好	茶褐色	密	
		130-64	74	土玉 完形	0.183	2.6	0.6～1.0	2.5	18.0	不良	淡茶褐色	密	
		130-65	79	土玉 完形	一括	2.7	0.6～0.7	2.7	17.0	良好	暗褐色	密	
		130-66	59	土玉 一部欠	-0.011	3.9	0.6～1.0	3.0	18.0	良好	暗褐色	密	
		130-67	82	土玉 完形	一括	2.8	0.6～0.9	2.5	18.0	良好	淡褐色	密	
		130-68	73	土玉 完形	0.055	3.0	0.7～0.8	3.0	20.0	良好	茶褐色	密	
		130-69	72	土玉 一部欠	-0.088	2.8	0.6～1.3	2.9	23.0	良好	茶褐色	密	
		130-70	53	土玉 一部欠	カマド前面 0.147	2.7	0.6	2.6	17.0	良好	淡褐色	密	
		130-71	108	管状土錘 完形	0.119	3.0	0.8～0.9	3.5	48.0	良好	暗褐色	密	

132	97	132-2	2	土玉 ¼	一括	(3.6)	(1.0)	3.8	10.0	良好	暗褐色	密	
133	105	133-3	6	土玉 完形	一括	2.7	0.6	2.8	16.0	良好	淡褐色	密	
136	95	136-25	29	土玉 完形	一括	3.4	0.8～1.0	3.4	36.0	良好	茶褐色	密	
		136-26	30	土玉 完形	一括	3.3	0.8～1.0	3.1	36.0	良好	暗褐色	密	
		136-27	31	土玉 ½強	カマド内 0.270	3.4	0.8	3.2	26.0	良好	茶褐色	密	他に支脚もカマド内より検出されるが崩壊(第61図参照)
137	94	137-12	20	管状土錘 完形	0.519	2.2	0.8～1.0	5.0	30.0	不良	暗茶褐色	微砂粒多	
		137-13	19	土玉 完形	一括	2.4	0.6	2.7	13.0	不良	乳白色	微砂粒多	
		137-14	18	土玉 完形	一括	2.8	0.6	2.7	24.0	良好	淡褐色	密	
		137-15	17	土玉 一部欠	一括	2.7	0.8～1.0	2.6	20.0	良好	暗褐色	微砂粒多	
		137-16	14	土玉 完形	一括	3.5	0.6	3.5	37.0	良好	褐色	密	
		137-17	15	土玉 一部欠	一括	3.5	0.8～1.1	3.5	40.0	良好	茶褐色	密	
		137-18	16	土玉 完形	一括	3.5	0.6～1.3	3.4	42.0	良好	暗褐色	密	
139	116	139-75	120	土玉 完形	一括	4.4	0.9～1.1	3.9	61.0	やや不良	淡茶褐色	2～5㎜大 小礫やや多	
		139-76	113	土玉 完形	0.115	3.8	0.6～1.2	3.8	43.0	良好	淡茶褐色	密	
		139-77	126	土玉 完形	一括	3.9	0.7～0.8	3.9	53.0	良好	茶褐色	密	
		139-78	122	土玉 完形	一括	4.1	0.6～1.0	3.9	61.0	良好	淡褐色	密	

遺構	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量 cm/g 径	孔	高さ	重量	焼成	(外)(内)色調	胎土	備考
139	116	139-80	129	土玉 左側カット	一括	3.8	0.9～1.2	3.7	38.0	良好	暗褐色	密	焼成後左側カット。かなり古い時期のもの
		139-81	128	土玉 完形	一括	4.0	0.8～1.0	2.7	32.0	良好	暗褐色	密	
		139-82	123	土玉 完形	一括	4.0	0.8～1.0	3.2	50.0	良好	褐色	密	
		139-83	121	土玉 完形	一括	3.5	0.6～0.8	3.3	41.0	良好	淡褐色	密	
		139-84	115	土玉 下端一部欠	カマド周辺 0.242	3.5	0.7～0.9	(3.8)	36.0	良好	黒褐色	2～5㎜大 小礫多	
		139-85	125	土玉 完形	一括	2.7	0.7～1.0	3.0	32.0	良好	淡褐色	密	
		139-86	117	土玉 完形	一括	3.5	0.6～1.3	3.0	28.0	良好	茶褐色	密	
		139-87	124	土玉 完形	一括	3.8	0.6～1.0	3.4	50.0	良好	淡褐色	密	
		139-88	118	土玉 完形	一括	3.9	0.6～0.9	3.1	42.0	良好	茶褐色	密	整形時につぶれた面あり
		139-89	131	土玉 完形	一括	2.9	0.6～0.8	3.0	31.0	良好	茶褐色	密	凸凹激しく、球形を呈さない
		139-90	119	土玉 完形	一括	3.8	0.6～1.4	3.3	38.0	良好	淡褐色	密	
		139-91	133	土玉 完形	一括	3.2	1.0～1.3	3.0	24.0	良好	淡褐色	密	
		139-92	116	土玉 一部欠	0.063	3.3	0.6～0.8	2.6	30.0	良好	淡褐色	密	
		139-93	114	土玉 完形	カマド周辺 0.049	3.3	0.9～1.2	3.1	30.0	良好	暗褐色	密	
		139-94	138	土玉 一部欠	一括	3.1	0.6～1.1	3.9	34.0	良好	暗褐色	密	

139	116	139-95	127	土玉 完形	一括	2.9	0.6～0.8	3.5	34.0	良好	暗褐色	密	
		139-96	132	土玉 完形	一括	3.3	0.7	2.6	32.0	良好	淡褐色	密	
		139-97	130	土玉 ほぼ完形	一括	3.2	0.7～1.0	2.7	24.0	良好	淡褐色	密	
		139-98	112	土玉 完形	0.379	2.9	0.6～0.8	2.8	26.0	良好	淡褐色	密	
		139-99	139	土玉 一部欠	一括	2.9	0.6～0.9	3.1	23.0	やや不良	黒褐色	密	
		139-100	134	土玉 完形	一括	2.8	0.8～0.9	2.8	19.0	良好	暗褐色	密	
		139-101	137	土玉 一部欠	一括	2.5	0.6	2.4	14.0	やや不良	暗褐色	微砂粒多	
		139-102	135	土玉 完形	一括	2.5	0.6	2.8	16.0	良好	淡褐色	密	
		139-103	136	土玉 完形	一括	2.4	0.6～0.7	2.7	18.0	良好	淡褐色	密	
140	96	140-38	50	管状土錘 ¼弱	0.508	3.8	1.0～1.2	5.0	73.0	良好	淡褐色	密	
		140-39	65	土玉 完形	一括	3.2	0.7～1.2	3.9	48.0	良好	暗褐色	密	
		140-40	66	土玉 ¼弱	一括	3.2	0.9～1.2	4.5	48.0	良好	暗褐色	微砂粒多含	
		140-41	52	土玉 完形	0.022	3.7	0.8～0.9	2.5	32.0	良好	暗褐色	密	
		140-42	59	土玉 完形	-0.002	3.8	1.0	2.5	40.0	良好	褐色	密	指ナデ
		140-43	58	土玉 完形	0.072	3.7	0.8～1.2	2.7	40.0	良好	暗～褐色	密	
		140-44	56	土玉 完形	0.008	4.0	1.0～1.4	2.1	34.0	良好	淡褐色	密	

遺構	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量 cm/g				焼成	(外) (内)色調	胎土	備考
						径	孔	高さ	重量				
140	96	140-45	69	土玉 一部欠	一括	3.0	0.6～1.0	3.1	28.0	良好	茶褐色	密	
		140-46	63	土玉 完形	一括	3.0	0.8～1.0	3.5	33.0	良好	茶褐色	密	
		140-47	54	土玉 完形	0.167	3.25	1.0	3.3	30.0	良好	暗褐色	密	
		140-48	62	土玉 完形	0.154	3.4	0.8～1.0	3.4	30.0	良好	茶褐色	密	
		140-49	61	土玉 完形	0.122	2.9	0.8～1.0	3.3	30.0	良好	淡褐色	密	
		140-50	51	土玉 完形	0.034	3.1	0.9～1.3	2.2	24.0	良好	褐色	密	
		140-51	53	土玉 完形	0.049	3.4	1.6～2.0	2.5	26.0	良好	褐色	密	貫通孔3個分
		140-52	55	土玉 完形	0.139	3.0	0.9	3.0	28.0	良好	褐色	密	
		140-53	64	土玉 完形	一括	3.1	0.7～1.4	2.6	23.0	良好	淡褐色	密	
		140-54	68	土玉 完形	一括	2.9	0.9～1.4	2.5	22.0	良好	淡褐色	密	
		140-55	57	土玉 ほぼ完形	0.108	3.3	0.8～1.2	3.3	32.0	良好	褐色	密	
		140-56	67	土玉 完形	一括	2.7	0.6	2.3	16.0	良好	淡茶褐色	密	
		140-57	60	土玉 一部欠	0.100	2.3	0.6	2.0	10.0	良好	褐色	密	
141	106	141-7	13	管状土錘 完形	0.134	3.9	1.0～1.4	9.1	132.0	良好	淡茶褐色	密	
		141-8	7	土玉 完形	一括	4.1	0.6～1.0	4.2	54.0	良好	暗茶褐色	密	

141	106	141-9	14	土玉 完形	0.368	3.2	0.4～0.7	3.4	32.0	不良	茶褐色	微砂粒多	孔は偏平気味、当遺跡の中でも特異
		141-10	8	土玉 完形	一括	3.2	0.6～1.0	3.0	30.0	良好	茶褐色	密	
		141-11	10	土玉 完形	一括	3.1	0.6～0.7	2.7	21.0	良好	暗褐色	密	
		141-12	9	土玉 一部欠	一括	2.7	0.6～0.8	2.6	16.0	良好	淡橙色	密	
142	141	142-16	26	鼓型土製品？ 端部欠	0.045	4.0	0.9	(5.6)	76.0	良好	暗茶褐色	密	指整形、手捏器台？or管状土錘、鼓状を呈している
		142-17	9	土玉 ⅓欠	0.062	3.8	0.8	3.5	30.0	良好	淡褐色	密	
		142-18	11	土玉 完形	一括	3.2	1.2～1.6	2.4	26.0	良好	暗褐色	密	
		142-19	13	土玉 ほぼ完形	0.255	3.5	0.7～1.2	3.2	40.0	良好	淡茶褐色	密	
		142-20	12	土玉 完形	0.247	4.0	0.8	2.9	40.0	良好	茶褐色	密	
143	140	143-4	10	土玉 完形	一括	3.1	0.7	2.9	28.0	良好	暗褐色	密	
144	102	144-13	14	土玉 ½	一括	3.1	0.7～0.8	3.1	18.0	良好	淡褐色	密	
145	99	145-17	13	土偶脚状土製品 脚部のみ	一括	2.3	—	残 3.7	19.0	良好	茶褐色	密	円形を呈し、土偶の脚状の器形か、 詳細不明、外面ヘラミガキ
		145-18	18	管状土錘？ ？	一括	(3.3)	0.9～1.5	—	18.0	良好	淡褐色	密	端部が非常に平坦であり、管状土錘かどうか不明
		145-19	16	土玉 一部欠	一括	2.5	0.7～1.0	1.9	10.0	不良	淡褐色	微砂粒多	
146	125	146-20	37	土玉 完形	一括	3.7	0.7～0.8	3.1	44.0	良好	暗褐色	密	貫通孔作成時に抜き取りそこなった粘土が付着したまま焼成される
		146-21	27	土玉 ほぼ完形	一括	3.6	0.9～1.0	3.4	42.0	良好	淡褐色	3㎜大小礫 混入	

遺構	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量 cm/g				焼成	(外) (内)色調	胎土	備考
						径	孔	高さ	重量				
		146-22	29	土玉 完形	一括	3.6	1.0	3.2	38.0	良好	褐色	密	
		146-23	36	土玉 完形	一括	3.7	0.7～0.9	3.2	38.0	良好	淡褐色	密	
		146-24	31	土玉 完形	一括	3.7	0.7	3.7	52.0	良好	褐色	密	
		146-25	33	土玉 完形	一括	3.6	0.9～1.0	3.1	32.0	不良	乳白色	微砂粒多	
		146-26	30	土玉 完形	一括	3.2	0.9～1.1	3.8	38.0	不良	暗褐色	2～3mm小礫多	
		146-27	35	土玉 完形	一括	3.3	0.6～1.2	3.2	32.0	不良	淡茶褐色	1mm小礫多	
		146-28	38	土玉 完形	一括	3.1	0.5	2.9	33.0	良好	暗褐色	密	
		146-29	54	土玉 完形	一括	3.3	0.8	2.2	26.0	良好	褐色	密	(一部煤付着し、黒味がかる)
		146-30	39	土玉 ほぼ完形	一括	3.2	0.8	2.6	32.0	良好	茶褐色	密	
		146-31	28	土玉 完形	一括	3.2	0.6	2.8	30.0	良好	褐色	密	
		146-32	34	土玉 完形	一括	3.1	0.5～0.8	2.9	28.0	良好	褐色	密	
		146-33	32	土玉 一部欠	一括	3.0	0.8	3.1	30.0	良好	茶褐色	密	
152	113	152-1	3	土玉 完形	一括	4.4	0.9～1.0	3.2	61.0	良好	淡褐色	密	
		152-2	2	土玉 完形	一括	3.8	1.0	2.9	44.0	良好	褐色	密	
		152-3	1	土玉 完形	一括	3.4	0.6～0.7	3.2	36.0	良好	暗褐色	密	

152	113	152-4	5	土玉 完形	一括	3.5	0.8～1.5	3.5	35.0	良好	淡褐色	密	
		152-5	4	土玉 完形	一括	3.5	0.7～1.1	3.1	38.0	良好	褐色	密	
157	115	157-7	13	土玉 完形	一括	2.7	0.6	2.6	22.0	良好	褐色	密	
		157-8	11	土玉 完形	一括	2.5	0.4	2.4	16.0	良好	暗褐色	密	
158	139	158-6	7	土玉 完形	一括	3.7	0.8	3.9	56.0	良好	茶褐色	密	
159	132	159-5	10	土玉 完形	一括	3.1	0.6	2.5	22.0	良好	淡褐色	密	
		159-6	9	土玉 ほぼ完形	一括	3.0	0.8	2.8	24.0	良好	茶褐色	密	
		159-7	8	土玉 完形	一括	3.0	0.6～1.0	3.7	38.0	良好	暗褐色	密	
		159-8	6	土錘 完形	一括	3.9	0.8	5.5	21.0	良好	暗褐色	密	土器片利用 両端部にV字状の刻みあり
162	106	162-9	7	棒状土製品 両端部欠	0.155	1.8	—	1.3	37.0	良好	明茶褐色	密	手捏、指紋明瞭、断面不整円形、残長7.5cm
		162-10	11	土玉 完形	一括	2.6	0.7	2.5	19.0	良好	淡褐色	密	
		162-11	12	土玉 完形	一括	3.0	0.8	3.0	32.0	良好	茶褐色	密	
163	123	163-7	26	土玉 完形	一括	3.2	0.5	2.8	32.0	良好	茶褐色	密	
		163-8	21	土玉 一部欠	一括	3.4	0.6～0.8	3.2	37.0	良好	茶褐色	密	
		163-9	15	土玉 完形	一括	3.3	1.1	3.3	36.0	良好	暗褐色	密	
		163-10	18	土玉 完形	一括	3.1	0.5	3.2	36.0	良好	茶褐色	密	

遺構	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量 cm/g 径	孔	高さ	重量	焼成	(外)(内)色調	胎土	備考
163	123	163-11	16	土玉 完形	一括	3.1	0.9	3.2	30.0	良好	淡褐色	密	
		163-12	13	土玉 ⅓程欠	一括	3.0	0.8	3.1	32.0	良好	茶褐色	密	
		163-13	27	土玉 完形	一括	2.5	0.6	3.0	20.0	良好	暗褐色	密	
164	114	164-44	58	土玉 完形	一括	4.0	1.3	3.8	48.0	良好	淡褐色	密	
		164-45	68	土玉 ½欠	一括	4.2	1.1～1.5	3.8	37.0	良好	淡褐色	密	
		164-46	60	土玉 一部欠	一括	4.0	0.8	3.1	46.0	良好	黒褐色	密	
		164-47	49	土玉 完形	一括	3.5	0.7	3.9	60.0	良好	淡褐色	密	
		164-48	55	土玉 一部欠	一括	3.8	0.8	3.5	48.0	良好	暗褐色	密	
		164-49	57	土玉 完形	一括	3.8	0.7	3.8	61.0	良好	暗褐色	密	
		164-50	51	土玉 完形	一括	3.8	1.0	2.7	32.0	良好	淡橙色	密	
		164-51	64	土玉 完形	一括	3.5	1.2	2.4	29.0	良好	茶褐色	密	
		164-52	52	土玉 完形	一括	3.5	1.2	3.2	35.0	良好	淡褐色	密	
		164-53	66	土玉 完形	一括	3.3	0.8	2.9	28.0	良好	暗褐色	密	
		164-54	56	土玉 完形	一括	3.2	0.8	3.5	38.0	良好	茶褐色	密	
		164-55	62	土玉 完形	一括	3.4	0.8	3.1	38.0	良好	褐色	密	

164	114	164-56	54	土玉 完形	一括	3.3	0.6	3.1	34.0	良好	淡褐色	密	
		164-57	61	土玉 完形	一括	3.2	0.9	3.4	36.0	良好	茶褐色	密	
		164-58	63	土玉 完形	一括	3.6	0.8	2.9	33.0	良好	茶褐色	密	
		164-59	53	土玉 完形	一括	3.0	1.7	2.6	25.0	良好	暗褐色	密	
		164-60	77	土玉 完形	0.053	3.2	0.7	3.0	28.0	良好	茶褐色	密	
		164-61	59	土玉 完形	一括	2.9	0.7	2.9	27.0	良好	茶褐色	密	
		164-62	67	土玉 完形	一括	3.0	0.6	2.7	22.0	良好	茶褐色	やや粗	
		164-63	50	土玉 完形	一括	3.1	1.0	2.9	29.0	良好	褐色	密	
		164-64	69	土玉 ½欠	一括	3.3	1.0	2.3	15.0	良好	暗褐色	密	
		164-65	65	土玉 完形	一括	2.8	0.7	2.9	24.0	良好	茶褐色	密	
		164-66	74	土玉 ½欠	一括	3.2	0.6～0.7	1.9	16.0	良好	暗褐色	密	土製紡錘車？
		164-67	70	土玉 ½欠	一括	3.2	0.6	2.9	16.0	良好	褐色	密	
165	143	165-15	20	土玉 ほぼ完形	一括	2.8	0.7	2.5	21.0	良好	褐色	密	
166	135	166-13	16	土玉 完形	一括	3.1	0.9	3.3	33.0	良好	褐色	微砂粒多	
		166-14	17	土玉 完形	一括	3.5	0.7～1.1	3.6	42.0	良好	暗褐色	密	
		166-15	23	土玉 ½弱欠	一括	3.4	1.0	2.8	24.0	良好	暗褐色	密	

遺構	旧遺構No.	図番	実測No.	器種 遺存度	出土位置	法量 cm/g 径	孔	高さ	重量	焼成	(外)(内)色調	胎土	備考
166	135	166-16	20	土玉 1/3弱欠	一括	3.0	0.6～0.9	3.3	28.0	良好	茶褐色	密	
		166-18	25	管状土錘？ 1/4	一括	(4.1)	(2.5)	(5.8)	24.0	良好	褐色	密	両端部平坦
		166-19	18	土玉 一部欠	一括	3.4	1.0～1.4	3.2	41.0	良好	茶褐色	微砂粒多	
		166-20	19	土玉 完形	一括	3.2	0.9～1.0	2.6	24.0	良好	褐色	密	
		166-21	15	土玉 完形	一括	2.7	0.8	3.4	32.0	良好	茶褐色	密	
		166-22	22	土玉 完形	一括	2.5	0.8	2.5	20.0	良好	暗褐色	密	
		166-23	21	土玉 完形	一括	2.5	0.7	2.9	18.0	良好	暗褐色	密	
		166-24	13	土製切子玉	0.001	1.5	0.1～0.2	2.0	2.0	良好	茶褐色	密	表面光沢が表われる程よく磨きあげられている
169	142	169-17	22	土玉 一部欠	一括	3.8	0.5	4.1	68.0	良好	茶褐色	密	
		169-18	23	土玉 完形	一括	3.2	0.5	3.1	38.0	良好	茶褐色	密	
		169-19	24	土玉 ほぼ完形	一括	3.1	0.8	3.3	37.0	良好	茶褐色	密	
		169-20	19	管状土錘 完形	一括	1.4	0.5	5.3	8.0	良好	褐色	密	
		169-21	18	管状土錘 1/4	一括	1.2	0.5	—	2.0	良好	褐色	密	
170	138	170-7	8	土玉 2/3	一括	3.8	0.8	—	26.0	良好	褐色	密	
		170-8	7	管状土錘 1/2弱	一括	2.5	1.4	5.1	14.0	良好	褐色	密	両端部平坦

171	151	171-8	2	土玉 完形	一括	3.1	0.8	3.0	36.0	良好	茶褐色	密	焼成時粘土塊が付着
172	148	172-8	12	土玉 完形	一括	3.3	0.9	2.9	34.0	良好	淡茶褐色	密	
		172-9	11	土玉 完形	一括	3.2	0.9	3.2	30.0	良好	褐色	密	
		172-10	16	土玉 ½欠	一括	3.1	1.0	3.1	18.0	良好	淡褐色	密	
		172-11	15	土玉 ½欠	一括	3.2	1.1	3.1	17.0	良好	褐色	密	
		172-12	13	土玉 完形	一括	3.0	0.8	2.8	22.0	良好	暗褐色	密	
		172-13	14	土玉 一部欠	一括	2.8	0.75	3.0	23.0	良好	淡褐色	密	
		172-14	21	管状土錘 完形	一括	3.1	1.5	5.5	70.0	良好	褐色	密	両端部平坦
174	156	174-7	30	管状土錘 完形	一括	5.5	1.5	12.2	394.0	良好	暗褐色	密	
		174-8	3	管状土錘 完形	一括	4.8	1.7～2.0	10.0	270.0	良好	茶褐色	密	
		174-9	29	管状土錘 完形	一括	最大(3.7)	1.5～1.7	12.7	208.0	良好	褐色	密	
183	124	183-2	2	土玉 一部欠	一括	2.9	0.8	2.9	29.0	良好	茶褐色	密	

第11表　椎津茶ノ木遺跡出土金属器一覧表

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	種別 遺存度	出土位置	法量 cm/g 長さ	最大幅	最大厚	重量	備考
3	3	3-4	6	刀子 刃部のみ	東壁周溝上 0.028	8.4	0.9	0.3	8.8	関部欠損
27	149	27-4	5	釘？	0.070	残A6.4 (13.0) B6.6	残A 0.5 B 0.5	残A 0.5 B 0.5	A7.0 (15.0) B8.0	断面方形、古い時期に二つに折れており接合に至らぬが同一固体
28	144	28-13	28	鎌 先端一部欠	-0.001	7.2	1.6～2.9	0.25～0.3	28.2	
33	14	33-19	21	刀子 先端部欠	0.182	残存、残刃、茎 (15.1)(8.0) 7.1	身 1.2 茎 0.7	身 0.3 茎 0.25	15.0	両関、両端部二次変形により反り返える
36	15	36-3	4	刀子 茎下端欠	P16内 0.147	身部、茎 2.9 1.7	身 1.0 茎 0.9	身 0.2 茎 0.2	4.0	両関
50	31	50-20	25	釘？ 両端部欠	0.235	残存 6.85	0.4	0.4	6.1	断面方形
51	48	51-7	8	鉄滓	カマド脇 0.217	5.2	2.5	2.5	41.0	強い磁石反応あり
54	47	54-1	3	釘？ 両端部欠	P20 一括	残 3.7	0.5	0.5	4.0	断面方形
59	36	59-2	20	鉄鏃 逆刺両端部欠	0.342	篦残、鏃身残 0.3 5.5	篦被 0.6 鏃身中央2.7	篦被 0.15 鏃身中央0.2	9.5	両丸造腸抉柳葉式　逆刺幅1.0～1.2cm　逆刺厚0.15～0.2cm
66	30	66-3	33	長茎鏃？ 鏃身部欠	0.014	関篦被残、篦被部残、茎残 6.7 5.0 1.7	篦被残 0.65 茎残 0.5	篦被残 0.45 茎残 0.5	8.0	断面方形 両端部欠損
		66-4	26	釘 両端部欠	0.097	残 3.1	0.5	0.4	2.0	断面方形 長茎鏃？
69	25A	69-17	51	刀子 両端部欠	一括	残 2.2	身 1.3 茎 1.1	身 0.3 茎 0.3	3.0	関は刃部側に切り込まれる
79	88	79-6	14	鉄鏃 両端部欠	0.005	残、鏃身、頸部残 8.2 4.0 4.2	身 0.7 篦被 0.45	身 0.3 篦被 0.3	7.8	長頸平刃箭式鉄鏃(篦被形状不明) 両端及び中央部共刃部状の鋭利面なし、又両端が欠損している為いかなる形状のものか不明、錆膨れ著しい
87	56	87-13	10	刀子状鉄製品 両端部欠	0.057	残 3.5	1.5	－	7.2	
		87-14	9	鉄滓	0.057	2.1	1.8	1.9	12.2	

87	56	87-15	8	鉄滓	P8内 0.137	2.9	2.6	2.2	23.4	磁石反応あり
91	76AB	91-24	28	鎌 先端一部欠	0.073	最大 11.2	2.1	0.4	22.0	
98	65	98-10	17	刀子 両端部欠	0.158	残存、茎残 7.5　4.3	身　1.1 茎　0.6	身　0.4 茎　0.3	8.0	関は両側に切り込まれる
105	72A	105-14	16	刀子 両端部欠	一括	残 3.4	身　1.4 茎　0.75	身　0.15 茎　0.2	4.0	関は両側に切り込まれる
110	61	110-10	29	釘？ 両端部欠	一括	残 4.2	0.4	0.3	4.0	断面方形
111	51	111-5	21	不明鉄器 両端部欠	0.014	残 5.4	1.0	0.2～0.4	10.0	
		111-10	22	釣針？ 先端部	0.054	3.9	0.2～0.3	0.2～0.25	3.0	断面は長方形～円形(円形部分は屈曲部分のみ) 先端及び逆り部分は欠損しており釣針かどうか不明
112	74KB	112-1	24	鉄鏃 篦被部分欠	一括	残 3.7	(1.1)	刃部　0.2	2.0	関無片丸造鑿箭式？
118	78	118-24	30	毛抜型鉄器 ½強	0.053	8.8+2.0　10.8	0.5	0.2	4.0	摘み部完存、肩～先端部にかけて、片側全欠
130	74	130-39	103	刀子？ 茎部のみ	0.154	3.6	0.7	0.4	4.2	断面方形、若干の木質付着
137	94	137-20	22	刀子？ 茎部のみ	一括	5.3	0.2～0.4	0.2	8.0	断面台形 表裏に木質の付着あり
		137-21	23	不明鉄器	0.139	−	0.9	0.2	6.0	断面方形、右先端部は径3㎜程の小孔が貫通か？
138	118	138-1	2	釘？ 両端部欠	-0.003	残 4.5	3.5	4.0	2.0	断面は円形
139	116	139-79	109	鎌 先端部欠	カマド周辺 -0.016	残6.0	2.7～3.0	0.2	17.2	
143	140	143-3	23	刀子？ 両端部欠	-0.005	残 2.7	1.0	0.3	1.5	断面長方形茎部分か、刃部は認められない
164	114	164-41	48	刀子？ 両端部欠	0.470	茎 2.8	茎　0.8 関　1.3	茎　0.25 関 0.3～1.8	5.9	刃部最大厚0.08～0.2 片関

遺構No.	旧遺構No.	図番	実測No.	種別 遺存度	出土位置	法量 cm/g 長さ	最大幅	最大厚	重量	備考
165A	143	165-16	18	鉄鏃 下端部欠	0.172	残、鏃身、篦被、茎 11.5 1.5 9.3 0.7	鏃身 0.9 篦被 0.5 茎 0.5	鏃身 0.4 篦被 0.4 茎 0.3	12.0	片丸関無棘篦被長茎鏃
166	135	166-17	12	金銅製耳環	0.330	径、 1.7	0.6	0.3	4.1	鍍金残存 中央部幅0.2cmのキレ目
174	156	174-5	43	鉄鏃 完形	一括	全長、刃長、柄部、篦被、茎、鏃身 17.0 3.0 14.0 9.5 4.5 3.0	0.9	3.5	21.0	片丸造棘篦被鏑箭式 (二次的に反り返える)、周溝底より70cm程浮いた状態で検出
		174-6	1	U字型鋤先 先端部欠	一括	14.5×8.9	身 3.1	身 0.2～0.8	97.0	測定は中央部の身幅、身厚

第12表　椎津茶ノ木遺跡出土種子・石器・玉類等一覧表

遺構	旧遺構No.	図番	実測No.	種別 遺存度	出土位置	法量 cm/g 長さ	幅	厚さ	重量g	備考
3	3	3-5	5	紡錘車	0.078	3.85	0.8～0.9	2.0	50.0	
27	149	27-5	4	石刃	27号周溝 -0.142	内 7.6	3.8	0.9	33.5	
28	144	28-15	26	軽石	0.498	7.4	5.3	2.7	12.0	V字状刻み、4ヶ所あり
		28-16	27	軽石	0.501	7.4	4.3	4.2	15.0	V字状刻み、4ヶ所あり
33	14	33-18	22	砥石	一括	5.1	4.0	0.5～2.3	39.5	
36	15	36-4	5	軽石	一括	2.9	0.1	1.3	2.0	浮子？
47	29	47-30	33	紡錘車	0.165	4.1	0.8	1.5	39.0	
48	57	48-6	4	石皿	0.096	13.0	9.3	3.3	900.0	凹面1ヶ所
50	31	50-19	12	凹石	一括	9.8	5.7	1.6	152.0	
53	43	53-1	1	抉入石斧 (横斧)	西側周溝内 0.069	12.4	3.8	最大(3.8)	302.0	光沢あり
62	45A	62-6	1	軽石	0.095	3.1	3.5	1.2	2.0	表面4ヶ所にV字状の刻みあり 浮子？
69	25A	69-24	24	抉入石斧 ½欠	0.081	残 7.5	最大 2.9	最大 3.4	107.0	未成品
		69-25	25	尖頭器	0.327	3.7	1.2	0.6	3.0	直接遺構に伴なわない
70	41	70-10	10	軽石	一括	3.4	2.4	1.9	4.0	特別な加工痕なし
78	89	78-7	11	軽石	一括	5.4	5.7	4.8	25.0	特別な加工痕なし

79	88	79-7	13	軽石	一括	7.0	4.2	2.7	17.0	特別な加工痕なし
81	75	81-4	16	有孔円盤	一括	2.0	2.1	0.4	3.8	貫通孔2、孔径0.1～0.2cm
88	55	88-1	1	軽石	0.150	7.5	5.1	2.9	32.0	特別な加工痕なし
90A	42	90A-18	23	管玉 下端部欠	0.135	0.7	0.4	—	1.1	(翡翠か？)
91	76AB	91-22	43	偏平勾玉	0.104	4.85	1.85	1.7	10.1	貫通孔2、孔径0.2～0.3cm
		91-23	35	有孔円盤	一括	2.9	2.6	0.4	6.0	孔径0.2cm、一方は径0.15cm程度で裏面迄 貫通していない
98	65	98-9	15	軽石	一括	1.9	1.7	1.1	2.0	V字状の刻みあり
103	86	103-32	37	種子 一部欠	0.134	2.0	(1.4)	1.2	2.0	桃or梅？炭化
		103-33	36	磨石？	0.027	5.2	3.8	3.0	75.0	凹面あり
114	87	114-5	6	軽石	0.255	7.1	6.2	4.4	4.4	特別な加工痕なし
118	78	118-22	3A	臼玉 一部欠	0.227	1.1×1.1	0.2～0.35	1.1	0.4	
		118-23	3B	臼玉 ほぼ完形	0.227	1.20×1.1	0.2～0.25	0.30	0.6	
		118-32	36	軽石	一括	4.5	3.6	3.4	24.0	特別な加工痕なし
123	63	123-46	15	琥珀垂玉 一部欠	0.030	2.9	最大 1.95	最大 2.0	4.6	孔は2方向から穿孔、孔径0.7～1.4cm
		123-47	17	琥珀垂玉 一部欠	0.107	2.2	最大 1.7	最大 7.5	3.5	孔径0.4cm
		123-48	18	琥珀勾玉 一部欠	0.173	3.9	最大 2.0	最大 2.0	10.3	孔は2方向から穿孔、孔径0.4～0.6cm

遺構	旧遺構No.	図番	実測No.	種別 遺存度	出土位置	法量 cm/g				備考
						長さ	幅	厚さ	重量g	
123	63	123-49	16	琥珀勾玉 完形	0.051	3.2	最大 1.8	最大 1.0	5.3	孔径0.5cm
		123-50	13	琥珀垂玉 一部欠	0.034	推定(3.5)	最大 2.4	最大 1.75	7.0	孔径0.5～(1.1)cm
		123-51	14	琥珀勾玉 一部欠	0.037	3.0	最大 1.3	最大 1.9	6.6	孔径0.4cm
		123-52	44	砥石玉	一括	3.1	最大 2.5	最大 1.8	18.4	孔径0.3～0.5cm
		123-56	228	敲き石	0.005	13.4	10.2	6.7	825.0	
130	74	130-34	101	種子	0.096	2.6	2.0	1.6	2.0	桃or梅？炭化
		130-35	100	種子	0.060	1.8	1.5	1.6	1.0	桃or梅？炭化
		130-36	2	管玉 完形	0.109	0.5	0.3	2.3	1.0	滑石製
137	94	137-19	13	臼玉 完形	0.194	0.5	0.2	0.3	0.1	(翡翠か？)
139	116	139-74	7	剣形模造品 完形	0.281	6.3×2.4	2.3	0.7	13.2	孔径0.25cm
141	106	141-13	12	軽石	一括	2.6	1.9	1.4	2.0	浮子？
142	141	142-21	15	軽石	一括	3.6	1.8	1.3	4.0	特別な加工痕なし
		142-22	14	軽石	-0.100	7.0	5.5	4.3	30.0	特別な加工痕なし
144	102	144-11	1	紡錘車 未成品	0.373	4.6	7.0	0.4～0.6	14.2	厚さが極めて薄い事から途中で欠損か？
145	99	145-16	19	砥石 両端部欠	一括	3.4	3.2	1.6	29.0	

146	125	146-14	22	砥石 両端部欠	0.000	4.0	1.9	1.6	18.0	上端に径2㎜以上の小孔を有していた痕跡あり 床直上
		146-15	21	磨石？ 両端部	0.000	残長 6.0	2.3	0.7	20.0	表面ツルツルしている 蠟石製床直上
		146-16	19	凹石	0.000	7.1	5.9	3.2	260.0	中央にわずかに敲き痕あり 床直上
		146-17	16	凹石	0.000	8.5	4.3	4.0	338.0	四面に渡って使用される 床直上
		146-18	18	敲き石	0.000	6.0	3.5	3.0	112.0	床直上
		146-19	17	敲き石	0.000	7.0	3.6	2.7	124.0	床直上
150	159	150-4	1	臼玉 一部欠	0.043	1.0×1.1	0.2	0.2	0.5	
153	127A	153-24	5	石斧	0.181	7.0	3.6	1.4	58.0	定角式磨製石斧
		153-25	21	凹石	一括	11.5	5.7	3.8	358.0	
161	158	161-7	10	軽石	0.169	5.7	3.5	3.0	21.0	特別な加工痕なし
162	100	162-7	8	磨石	ピット一括	(6.2)	4.5	2.4	101.0	凹面がよく使用されている
		162-12	9+10	軽石	ピット一括	(6.9)	3.6	1.8	(9-10g 10-4g) 14.0	3ヶ所に断面V字の刻みあり 浮子？
164	114	164-38	47	紡錘車	0.606	3.6	0.7～0.8	1.6	23.0	
		164-42	41	軽石	一括	3.5	2.5	2.3	0.6	中央にV字状の刻み断面は方形 浮子？
		164-43	46	石皿	0.158	11.7	9.2	3.3	700.0	
166	135	166-12	26	軽石	一括	3.3	1.2	(20)+2	2.0	断面V字状の刻みあり 浮子？

遺構	旧遺構No.	図番	実測No.	種別 遺存度	出土位置	法量 cm/g 長さ	幅	厚さ	重量g	備考
167	136A	167-14	18	軽石	一括	2.2	1.1	0.8	2.0	中央部がやや凹帯となっている 浮子？
		167-15	14	紡錘車 ⅛	一括	(4.2)	—	1.9	15.0	
169	142	169-22	16	軽石	一括	3.4	2.0	1.2	7.0	中央凹帯にV字状の刻み 浮子？
		169-23	15	軽石	0.030	12.0	6.2	3.2	52.0	特別な加工痕なし
170	138	170-6	1	管玉	-0.069	0.8	3.0～3.2	2.2	2.1	両方から穿孔 碧玉製
171	151	171-2	1	凹石	一括	10.6	5.5	2.2	195.0	凹面一ヶ所
174	156	174-10	2	紡錘車	床面直上 一括	4.65	0.7～0.9	0.9	28.0	沈線内の山形文内に朱残存箇所3ヶ所あり 滑石製
183	124	183-1	3	軽石	一括	3.2	2.1	1.8	4.0	中央にV字状の刻みあり 浮子？

付編
椎津茶ノ木遺跡出土の動物遺体について

樋泉　岳二（早稲田大学文学部考古学研究室）

はじめに

本報では千葉県市原市椎津茶ノ木遺跡より検出された動物遺体の分析結果を報告する。財団法人市原市文化財センターおよび同センター調査研究員木對和紀氏には貴重な資料を分析する機会を与えていただくとともに、分析の便宜をはかっていただいた。遺体の同定については、神奈川県立博物館松島義章博士、国立歴史民俗博物館西本豊弘助教授、奈良国立文化財研究所松井章氏よりご教示・ご協力を賜った。報告に先立ち、深く感謝の意を表する次第である。

1．貝層と動物遺体の出土状況

今回の調査では13の遺構内から23の貝層（貝ブロック。以下単に「ブロック」と呼ぶ）が検出された(表1)。すべて遺構内貝層であり、特に住居跡覆土中に形成されたレンズ状またはブロック状のものが大半を占めている。貝層の規模は総量が土嚢袋（容量10ℓ程度）で約40～80袋となる大型のもの、10袋前後の中型のもの、数袋から1袋の小型のものに分かれるようだ（以下、貝層の量は土嚢袋数で示す)。

各貝層の所属時期については表1中に示した。年代の上限については貝層を含む遺構の年代からある程度確定できるものの、下限については遺構の切り合いやその結果としての二次堆積が激しいため、確定困難な場合が多い。弥生時代以降とされているのは94号、125号、169号の3ヶ所である。このうち125号については、検出状況からそれほど時期は下らないと推測されていること、および後述の通り貝層内容が古墳時代以降のものと著しく異なることから見て、弥生時代に属する可能性がきわめて強いため、本報では一応弥生貝層として扱うことにした(94号、169号は小ブロックのため内容は不明確)。これら以外はすべて古墳時代以降であり、特に5世紀中葉～6世紀中葉を上限とするものが大半を占めている。133号は高台付坏が混入し、平安時代とされているが、134号に近接しており、貝層内容もこれと比較的類似していることから、年代に疑問が残る。これらの貝層は年代の確定したものが少なく、内容的にも極端な違いはみられないことから、本報ではおおまかに古墳時代以降として一括しておくことにする。

弥生時代以降とされた3ヶ所の貝層のうち、125号は123号住居跡覆土内に形成されたもので、6ヶ所のブロック(A～F)に分かれる。Aは平面2×2m、厚さ5～10cm程度の偏平なレンズ状貝層で、総量は6袋である。B～Fはいずれも直径10～50cm程度、総量1～2袋の小ブロックで、Aの周辺に散在している。貝層の周辺からは獣骨も多く検出されている。94号・169号はともに1袋の小ブロックである。

古墳時代以降では比較的大型の貝層が目立つ。112号は130号住居跡覆土内に形成されたレンズ状貝層で、平面約5×3m、厚さ約20cm、総量は77袋となる。134号は136号住居跡貯蔵穴から覆土内にかけて形成されたレンズ状貝層で、一部は調査区外に及ぶため未掘だが、検出範囲で平面2×1.5m、厚さ40cm、総量は71袋である。いずれも関東地方のこの時期の貝層としてはかなり大型の部類にはいる。

174号（古墳）周溝中からは6ヶ所のブロック（175～180号）が検出されている。175・176号は、ともに総量約40袋で比較的大型である。175号は周溝埋没過程の初期段階で周溝中に流れ込むように堆積したレンズ状の貝層（厚さ約30cm、平面規模は不明）で、貝の種類に層位差が認められる。176号は周溝埋没後に覆土上から掘り込まれたピット内（深さ80cm、平面範囲は不明）に堆積したもので、間層（厚さ約20cm）をはさみ上下に分かれる。177～180号についてはいずれも詳細不明だが、179号が約10袋で中型に属する以外はすべて1袋の小ブロックである。174号周溝中では貝層以外からも保存の良好な獣骨が多数得られているが、これらは貝層の周辺に埋存していたものである可能性が高い。133号は137号住居跡の柱穴内に堆積した中型の貝層で、上部は覆土中に及ぶ。その他、1～数袋程度の小規模な貝層が4軒の住居跡内（もしくはその付近）から検出されている。

貝層以外からの出土遺体としては、住居跡覆土からのものが数点あるほか、123号住居跡（弥生中期末）の炉跡から焼けた骨片が多数検出されている。

2．資料と分析方法

1）資料の採取と選別

分析資料には、貝層サンプルの水洗篩別によって得られた資料（水洗資料）と現場採集によって得られた資料（現場採集資料）の2者がある。それぞれの採取・選別方法は以下の通り。

水洗資料　貝層は、175号・176号では層位ごと、112号ではグリッド別（1×1m）、その他は無作為に採取され、土嚢袋に収納された。各袋には採取順に連続ナンバーが付けられているが、堆積序列を正確に示しているわけではない。

分析は、弥生貝層の125号、および古墳時代以降のうち比較的規模の大きい112号、133号、134号、175号、179号につき、それぞれ全サンプルの1割程度を抽出して行なった。資料抽出の際には、あらかじめ分析対象ブロック全サンプルの内容を肉眼観察し、各ブロックの内容を代表していると考えられるものを選定した。

サンプルの水洗選別は市原市文化財センターおよび筆者によって行われたが、両者とも方法はほぼ同じである。あらかじめ大型遺物（貝殻・土器・骨など）を抜き出して洗浄し、残りを4㎜、2㎜、1㎜の試験フルイを用いて水槽内にて水洗篩別すると同時に、フローテーションも実施した。なお、筆者は従来サンプルサイズの基準を求めるために選別前の総乾重量を測定しているが、今回は時間的な制約からこれを省略した。

篩別後の資料は各メッシュごとに乾燥・計量した後、内容物の選別・拾いだしを行い、貝類、魚骨、鳥獣骨についてはそれぞれ総重量を測定した（ただし、貝類は4㎜、骨は4㎜・2㎜抽出資料のみ）。

現場採集資料　発掘時に確認・採取された資料のほか、水洗処理対象外の貝層サンプルに含まれる資料についても、目についた大型遺体は抽出して現場採集資料と同様に扱った。

2）分析方法

同定方法は現生標本との比較を原則とした。比較標本の一部は国立歴史民俗博物館助教授西本豊弘氏、奈良国立文化財研究所松井章氏のご厚意によって所蔵標本を実見させていただいたものである。貝類の同定にあたっては神奈川県立博物館松島義章博士からご教示を賜った。なお、魚類の水洗資料については作業能率上から表6に示した15サンプルのみを分析対象とした。

貝類の同定・計数は、二枚貝は殻頂部、巻貝は殻頂または殻口部を残す資料のみを対象とした。魚骨・鳥獣類では部位の判明するものは極力同定するように努め、同一骨の重複が起らないよう確認しながら計数した。その他ではすべての資料を同定対象とし、破片数を計数した。脊椎動物遺体の組成については、分析資料数が少なかったため、最小個体数の算出などは特に行わず、計数結果をそのまま表示した。

計測は二枚貝（殻高または殻長）のみ1㎜目方眼紙上で行い、他は0.01㎜目盛りのデジタルノギスを使用した。鳥類・哺乳類の計測は Driesch（1976）に従った。

3．分析結果

1）貝層の内容物組成（表2）

水洗前の総乾重量が得られていないので混土率は不明である。動物遺体はすべてのサンプルで貝殻が大半を占める。貝類以外について見ると、弥生貝層（125号）では獣骨が22～37ｇと目立つ反面、魚骨はほとんど含まれない。これに対し、古墳時代以降の貝層では魚骨が多く、特に112号で4～28ｇ、179号で8ｇに達するほか、大半のサンプルで0.5～4ｇが検出されている。一方、獣骨はきわめて少なく、大半のサンプルで確認されなかった（112号(D3-36)№24での突出はイルカ頭蓋骨の出土によるものである）。フジツボは112号、133号、134号で、カシパン類は133号、134号、175号で、それぞれ少量ながら普通に検出されている。全体的に見ると、弥生貝層では貝殻、獣骨、土器以外の遺物をほとんど含まないのに対し、古墳時代以降の貝層では量的には貝殻が大半を占めるものの、遺物の種類に多様性が認められる点で特徴的である。なお、112号では炭化物を多量に含むサンプルが目立ち、内容物にも被熱の痕跡を残すものが多い。

2）同定記載

資料中からは表3に示す種(分類群）が確認されたほか、貝類・魚類・鳥類では若干の未同定種が検出されている。フジツボ・カニ・ウニ・カシパン類およびゴカイ類（棲管）は現生標本との体系的な比較を行っていない。形態の記載を十分に行なう余裕がないので、ここでは注釈を要するものについてのみ所見を示す。

貝類　ウミニナ属にはイボウミニナ・ウミニナ・ホソウミニナの3種がみとめられたが、破損の強い殻については種の判定がむずかしいためウミニナ属として一括した。カキ類の幼貝は形態が不安定で種の同定・左右殻の判別に不安を残すため一括した。タニシ科・ムラサキガイ属・マテガイ属についてはいずれも破損が強く、種の判定にいたらなかった。

魚類　ニシン科椎骨では第一・第二椎骨が種間の形態差を強く示すが、今回得られた資料中で確認できたのはコノシロの第二椎骨のみである。しかし他の椎骨でも不明瞭ながら種間の形態差があり、出土資料ではコノシロに近いタイプとマイワシに近いタイプが認められた。アジ科はブリ属腹椎が1点確認された他はすべてアジ類のものである。前上顎骨はマアジに一致し、ムロアジ属（アカアジ）とは異なることからマアジ？としておいた。

ヒト　123号住居跡の炉覆土から歯と指骨が各2点出土している。歯は下顎犬歯および切歯（下顎？）で、ともに小型であることから乳歯の可能性があるが、詳細はわからない。いずれも完存状態に近く、被熱の有無は明らかでない。指骨は近位端と遠位端の破片で、同一骨の可能性が強い。おそらく手の

指であろうと思われるが、断片のため断定を避ける。被熱・白色化しており、緻密質にはヒビ割れ・変形が認められる。

ウマ　174号（古墳）周溝中より手根骨・中手骨、足根骨・中足骨が検出されている。骨端の癒合は完了しており、成獣のものである。大半の資料が完存しており、カットマークや破砕の痕跡は認められない。中手骨は最大長（GD）215㎜、中足骨はGD244㎜で、林田の分類（林田1956）に従えば、中手骨は中型馬に、中足骨は小型馬と中型馬の中間に相当する。

イノシシ　近年西本は弥生時代以降のイノシシに家畜（ブタ）の可能性があることを強調している（西本1991）が、今回得られた資料には西本による判別基準を満たすものがなく、この問題について検討することができない。ここでは一応イノシシとして記載しておく。

ヒツジまたはヤギ　確認調査時に中足骨が出土した。出土位置は3号住居跡床面よりやや上位の粘土ブロック付近（図7）で、骨表面には粘土の付着が認められたとのことであり、この点から単純に判断すれば3号住居跡覆土に伴うものと考えられるが、記録がなく詳細は不明である。出土地点は3号・4号住居跡の重複部分に相当しており、4号住居跡（3号住居に切られる）覆土からの混入である可能性も否定できないが、3号住居跡の年代は出土土器から8世紀前半代（茶ノ木編年Ⅷ-13）に比定されているので、出土位置に誤りがなければ、標本の年代は8世紀前半代またはそれ以後となる可能性が強い。標本は近位端に軽微な破損が見られるもののほぼ完存しており、保存も良好である。骨端の骨化は完了しており成獣と判定できる。計測値は以下の通り。

外側長（L1）117.5㎜（最大長は計測不可）

骨幹最小幅（SD）12.4㎜、近位端最大幅（Bp）21.0㎜、遠位端最大幅（Bd）24.7㎜

形態的には偶蹄類の特徴を示すが、ウシ、シカよりもはるかに小さいことから、カモシカ、ヤギ、ヒツジの現生標本と比較した。出土標本はカモシカより明らかに小型で、近位端後面の孔がないこと、骨幹のくびれが強く前面の縦溝がきわめて弱いことなどからカモシカである可能性は低く、ヤギまたはヒツジのいずれかと考えられる。Boessneck（1969）によるヤギとヒツジの判別基準に従って両種の現生標本と比較した結果、全体のプロポーション（長幅比）および遠位端滑車縦稜の方向ではヒツジ、遠位端滑車の形態・滑車直上の凹みの強さではヤギに近く、いずれか一方に判別できなかった。家畜としての長い歴史をもつヤギ・ヒツジには品種ごとに大きな形態変異が存在しているものと予測されるため、両者の判別を行なうには、より多くの標本との比較が必要となるだろう。

ウシ　大臼歯（M^1、M^2、M_3？）および脛骨が同定された。M^1、M^2は同一個体と推測される。咬耗は、M^1でやや強く、M^2では認められない。脛骨は近位端のみの破片だが、人為的に割られたものかどうかは明らかでない。

臼歯最大長(L)　M^1：29.0㎜、M^2：33.1㎜

3）貝類（表4～5）

種類組成　弥生貝層（125号）ではハマグリが大半を占め、アカニシ・イボキサゴなどが若干加わる単純な組成である。アカニシは個体数は少ないが大型であり、実質的にはハマグリ・アカニシのみの貝層と考えてよい。

古墳時代以降ではブロック間あるいはブロック内部で組成の差が大きいが、全体としてはイボキサゴ・アサリ・ハマグリ・シオフキが主体的で、ウミニナ類・ツメタガイ・アラムシロも目立つ。アカ

ニシ・サルボウ・オオノガイも少数ながら大半のサンプルで出土しており、弥生貝層に比して多様性の強い組成が特徴である。この他、特徴的な種としてイタボガキ・ヒメシラトリ・タニシ科の出土が少量ながら認められる。組成の変異傾向を見ると、多くの種が特定のブロックで高頻度を示す傾向(たとえばイボキサゴでは134号・176号上層、ハマグリでは175号、など)をもつため、ブロック間の組成差が明らかであるのに対し、同一ブロック内では変異が比較的小さく、組成がある程度の類似性を示す場合が多い。ウミニナ類・ツメタガイ・マガキ・シオフキ・マテガイ・オオノガイは特定のサンプルで集中的な出土を示すことがある。組成を生態面から見ると、大半が内湾性砂質～砂泥質干潟産の種で占められており、これに内湾性泥底干潟産(マガキ・オオノガイなど)・淡水産(タニシ科)が若干加わっている。なお、112号では焼貝が多く、特にマガキで6～8割、アサリ・スガイで半数以上が明らかな被熱痕をとどめるサンプルも見られた。また、ウミニナ類・ツメタガイは殻軸を折損しているものが多く、人為的に打ち割られたことを示している。

計測結果　二枚貝類には著しく小型のものが認められたため、これを幼貝群、その他を主群として区別した。両群は殻高20㎜程度を境として明瞭に分離する。幼貝には肉食巻き貝による捕食痕をもつものも多く、食用に供されたものというよりは採捕時の混入である可能性が強い。幼貝は弥生貝層では見られず、古墳時代以降、特に133号・134号・176号で多い。種別では、カキ類、アサリ、カガミガイ、シオフキなどに目立ち、ハマグリでは少ない。巻貝でもイボキサゴにはきわめて小型のものが見られたが、成貝のサイズ分布と分離するかどうか明らかでないため、ここでは区別しなかった(小型貝の目立つサンプルは二枚貝の場合と同様である)。

主要種の主群殻サイズ分布を表4に示す。ハマグリ(殻高)は、弥生貝層(125号)では50～70㎜主体、平均60㎜前後で大型個体への偏りが著しく、50㎜以下の個体はほんど見られない。古墳時代以降では計測資料数が少ないものの、40～70㎜を主体とし、モード・平均が40～60㎜前後にあるサンプルが多い。弥生貝層に比べ小型個体の比率が高く、特に112号(D3-36)№18および134号№25では大半が25～40㎜で、大型個体をあまり含まない。アサリ(殻高)は、最小形20～30㎜、最大形40㎜前後で、モード・平均は30～35㎜にあるものが多い。シオフキ(殻高)は計測資料数が少ないが、平均40㎜前後、35～50㎜の範囲内に大半が含まれ比較的安定した組成を示す。イボキサゴ(殻径)はブロック間の差が大きく、134号、176号では14～18㎜主体、モード・平均は15～16㎜で比較的小型だが、175号では主体17～20㎜、モード・平均が18～19㎜で著しく大型である。各種ともブロック間の差が比較的明瞭であるのに比べ、各ブロック内のサンプル間では差が小さく、類似したサイズ分布を示す。

その他の種類については、以下に主体となるサイズの範囲を示す(幼貝を除く。H：殻高、L：殻長、D：殻径、単位はcm)。イボウミニナ(H)：3～3.5、ウミニナ(H)：2.5～3、ホソウミニナ(H)：2～2.5、ツメタガイ(D)：3～4、アカニシ(H)：(125号)5～10、(その他)2～10(サンプルにより変異が大きい)、アラムシロ(H)：1～1.5、サルボウ(H)：2.5～4.5、マガキ(H)：2～10、カガミガイ(H)：5～6、マテガイ(開口部径)：1～1.5、ヒメシラトリ(L)：1.5～2.5。オオノガイとタニシ科は破片が多く、サイズ分布が明らかでないが、前者でL5～10cm、後者でD2～3cm程度になると推測される。

4)　魚類

水洗資料(表6～7)　弥生貝層(125号)では資料がほとんどなく、ニシン科および未同定硬骨魚の尾椎骨、同定不可の硬骨魚椎骨が各1点得られているのみである。古墳時代以降では比較的多数の資

料が得られたが、貝類と同様に組成の変異が大きく、ブロックおよびサンプル間で組成は著しく異なる。全体的な組成としては、ニシン科・タイ科・フグ科がほとんどのブロックで検出されており、アジ類・サバ属・コチ科もやや多い。突出した魚種は見られず、多様性の強い組成といえる。生態的には大半が海産種で、表層回遊性魚類（ニシン科・アジ類・サバ属など）および沿岸性浮魚類（タイ科・フグ科など）が多く、コチを主とする底魚類が若干加わる。淡水または汽水産種としてはコイ科が一点認められたのみである。

特徴的なのは112号・175号からまとまって検出されたフグ科遺体で、最小個体数は112号（D3-26）で9尾、同（D3-37）№5で5尾となる。全身にわたる部位がみられるが、頭蓋諸骨に比べて椎骨が少ない。112号（D3-26）では頭蓋諸骨の頻度が左側に偏る。属以下の同定が未了だが、顎骨から推定されるおよその体長は、112号で20cm前後、175号ではより小型のもの（10cm前後？）が主体となるようだ。タイ科はマダイ・クロダイ属が確認されている。検出数が少ないため両者の比率は明瞭でないが、いずれかに極端に偏ることはないだろう。クロダイ属はいずれも現生標本（標準体長28cm）とほぼ同大もしくはやや大型、マダイはサイズのばらつきが大きく傾向はつかめない。ニシン科ではコノシロが確認されたほか、マイワシも含まれている可能性が高い。推定体長は17～18cm程度が主体となると推測される。その他の種は、アジ類・サバ属をはじめとして比較的小型ものもが多い。

現場採集資料（表8）　マダイ・タイ科・フグ科が確認された。いずれも大型個体である。タイ類ではクロダイ属が確認されず水洗資料の傾向と一致しないが、大型魚では実際にマダイが多いのか、偶然の偏りによるものなのかはわからない。

5）鳥獣類（表9）

鳥類・小動物　弥生時代では125号より鳥類（同定不可）が1点検出されているのみである。古墳時代以降では112号よりガンカモ科が、174号（古墳）周溝中より未同定の大型鳥類および齧歯類・カエル類・ヘビ類が確認された。鳥類・小動物は全般に少ないが、未水洗のサンプル中に多くの資料が残されている可能性が強い。

大型哺乳類　陸獣類は、弥生時代では123号・125号、古墳時代以降では28号・174号周溝中から出土している。123号では住居跡炉内より多数の焼骨が検出された。大半が細片となっているため、同定できたのはシカ1点およびヒト4点にとどまるが、その他の資料もほとんどは大型哺乳類に由来するものと推測され、骨質から見てヒトの可能性のあるものも多い。125号・174号周溝中では比較的まとまった資料が得られた（125号：シカ14点、イノシシ4点；174号周溝中：ウマ8点、イノシシ6点、シカ3点、ウシ1点）。同定資料数から見る限り125号ではシカが、174号周溝中ではウマ・イノシシが多いが、いずれも資料数が少なく、少数の個体に由来している可能性も強いため個体数比の推定はむずかしい。28号ではウシ1点が出土したのみである。海獣類としては112号よりイルカ類頭蓋骨が検出されている。

4．考　察

採貝　捕獲対象は、弥生貝層（125号）がほぼハマグリとアカニシのみに限られているのに対し、古墳時代以降ではイボキサゴ・アサリ・ハマグリ・シオフキなど砂泥底干潟産種を中心に幅広い種を含むようになる。このことから、弥生時代は貝類資源の一部を選択的に利用しているのに対し、古墳時代

以降では資源利用が多角化したことがわかる。採貝量についても貝層の規模から判断すると古墳時代以降増加しているように見える。

東京湾岸の貝塚産ハマグリが弥生時代以降大型化の傾向を示すことはこれまでにもしばしば指摘されてきたが、今回の分析でも全体的には同様の結果が得られた。しかし、本遺跡では弥生貝層のハマグリがきわめて大型の個体に限られるのに対し、古墳時代以降では逆に小型個体の増加が認められており、種構成の多様化とともに捕獲対象の拡大を示している。他の種については、主体種であるアサリ・シオフキ・イボキサゴなどに大型のものが目立つのに対し、ツメタガイ・マガキ・カガミガイなどではこうした傾向は特に認められなかった。なお、二枚貝に認められた幼貝群はイボキサゴの頻度と相関していることから、イボキサゴ採取の際の混獲物である可能性がある。

この他、ウミニナ類・ツメタガイは破砕されたものが多く、殻を打ち割って肉を取り出す特徴的な巻貝の食法が観察された。タニシ類はこの時期の貝層にしばしば見られるもので、淡水域の拡大や水田開発との関連が興味をひく。

本遺跡で見られた弥生貝層（中期末？）は、貝類組成の大半を大型のハマグリが占めるという点で市原市西広貝塚で確認された縄文晩期貝層（前浦期。樋泉・上杉1983）に近い特徴を示しており、両者は同一の系譜上に位置づけられる可能性がある。一方、市原市大厩弁天台遺跡・原遺跡や袖ヶ浦町境遺跡などで確認された弥生後期～古墳時代前期の貝層では、本遺跡の古墳時代以降の貝層に近い組成が認められている。したがって、東京湾東岸地域における縄文末から古墳時代以降にかけての採貝パターンは弥生中・後期頃を境として大きな転換を示した可能性があり、本遺跡でみられた弥生と古墳時代以降の貝類の特徴の相違は、こうした採貝パターンの長期的変化を反映したものとも考えられる。しかし、本遺跡の場合貝層の年代に不安があること、また現時点では定量的なデータの示された類例が少なく、採貝パターンに共時的なバリエーションが存在した可能性も残されていることなどから、この問題についてはさらに資料の蓄積をまって判断するべきであろう。

漁撈　弥生貝層（125号）では魚骨がほとんど含まれず、貝類の限定的利用とともに海産資源への消極性を示したのに対し、古墳時代以降における魚骨の比較的豊富な出土は、多量の土錘とともに漁撈の活発化を示している。主な漁獲対象はイワシ類（ニシン科）やアジ・サバ類などの表層回遊魚およびフグ・タイ類などの沿岸性魚類で、他にコチなどの底魚類も普通に漁獲されており、海産種に限れば集落周辺における漁業資源空間の大部分が利用の対象となっていたことがわかる。一方、集落が養老川河口に近い立地を持つにも関わらず、淡水～汽水性種や好汽水性のスズキ・ボラはほとんど見られなかった。少ないサンプルからの結果であり断定できないが、養老川本流～河口域での漁撈はそれほど活発ではなかった可能性がある。なお、フグ類・マダイが比較的多くみられることは湾口部的な様相を示唆しているようにも思われるが、いずれも東京湾内で捕獲は可能であり、他に湾口部・外洋方面での積極的な漁獲を示唆する証拠は（漁具も含め）得られていない。

土錘の多出は活発な網漁の存在を物語っており、上記魚類の多く（特にイワシ類やアジ・サバ類などの小型表層魚）がその対象となっていたことはほぼ確実と思われる。具体的な網の構造や操業法に関しては推定する手がかりがないが、多様性の強い魚種組成から見れば、特定の種を狙いうちにするというよりは、むしろ魚種に対する選択性の幅が比較的広い方法が用いられていたのではなかろうか。この他、タイ類など大型魚に対しては釣漁や刺突漁（179号貝層サンプルNo.9および111号遺構内（方墳）

から釣針の可能性がある鉄製品が得られている)、底魚類については潮汐を利用したスダテや刺突漁などが行われていた可能性も考えておく必要があろう。

フグ類の集中的な出土については、属以下の同定が未了であり生態についても不明な点が多いことなどからその性格についてはよくわからない。しかし、112号(D3-26)の頭部骨格が左側に偏ること、175号のものは小型で食用にされたとは考えにくいことなど、複雑な背景を予測させる。類例としては、横須賀市なたぎり遺跡C地点G区8層のヒガンフグの例(金子1986:145)が出土状況・部位組成などからみて近いものといえるかも知れない。マダイが普通に認められたことも注目される。縄文期ではマダイを多出する遺跡が後期以降に湾奥部周辺(貝の花貝塚など)で見られるようになるが、東岸域におけるマダイの出土は少ない。今回得られた結果は縄文期との様相の相違を示しているが、その背景(環境変化を反映したものか、嗜好・交易・湾口部方面への漁場の拡大といった文化的な要因の結果によるものか、など)を推測するには、さらに資料の蓄積と多角的な検討が必要である。

狩猟　野生の大型動物ではシカ・イノシシが確認された。弥生貝層では小規模な貝層であったにも関わらず比較的多くの遺体の出土があり、狩猟活動が依然として普通に行われていたことを示した。古墳時代以降でも174号周溝中より若干の資料が得られていることから狩猟活動が継続していたことがわかるが、弥生時代に比べ貝層の形成が拡大している割りには出土数が少ない。おそらく水産資源(魚貝類)の利用の活発化と前後して、狩猟は次第に衰退していったものと思われる。鳥類・小動物が少ない点についてはサンプリングエラーの可能性が強く、実際にはより頻繁に利用されていたものと思われるが、ネズミ・ヘビ類については貝層中での死亡個体に由来している可能性もある。海棲哺乳類としては112号出土のイルカ類頭蓋があるが、積極的な猟があったのか、偶然捕獲されたものか、あるいは交易などによって入手されたものか推定する手がかりがない。

家畜　家畜類は弥生貝層からは得られず、古墳時代以降でウマ、ウシ、ヒツジまたはヤギが出土している。関東地方におけるウマ、ウシの出土例は近年増加しているが、伊皿子貝塚出土のウシ(金子ほか1981)に弥生の可能性があるのを除けば、普及するのは古墳時代後期以降である。本遺跡例もこの程度の時期となる可能性が強いが、5世紀にまで遡る可能性のある資料も含まれている。ウマは174号周溝中より手根～中手骨と中足～足根骨がまとまって得られた。それぞれは同一個体に由来している可能性が強く、出土状況が不明ではあるが、手首・足首の部分が切り離されて廃棄(埋納?)されていた可能性もある。ヒツジまたはヤギは本邦の古代遺跡出土例としてはおそらく初見となろう。松井章氏の御教示によれば、古代の文献資料中には「羊」に関連する記事が散見されるが、ヤギの記載は知られていないとのことであり、8世紀以後という所属年代を信頼するならば出土標本はヒツジに由来するものである可能性が強いといえるかもしれない。しかし、所属年代にはなお不安が残り、また文献中の「羊」とヒツジ *Ovis aries* が同一のものかについてもさらに検討の余地があるように思われる。今後の類例の増加および関連分野の成果に期待したい。

参考文献

Boessneck,J. (1969) Osteological Differences between Sheep (*Ovis aries* Linne) and Goat (*Capra hircur* Linne). In Brothwell, D. and E.Higgs (eds.) *Science in Archaeology (2nd ed)*. Thames and Hudson.

林田重幸（1956）日本古代馬の研究。人類学雑誌64(4).pp.197-211。

金子浩昌・西中川駿・松平光春（1981）第2号方形周溝墓出土の家牛（*Bos taurus*）頭骨。『伊皿子貝塚遺跡』pp.476-486。港区教育委員会。

金子浩昌（1986）なたぎり遺跡出土の動物遺存体。『鉞切遺跡－C・D地点の調査－』pp.141-177。鉞切遺跡調査団。

西本豊弘（1991）弥生時代のブタについて。国立歴史民俗博物館研究報告36。pp.175-189。

樋泉岳二・上杉基通（1983）西広貝塚第4次調査　晩期見層の形成と構造。『上総国分寺台発掘調査概報　1983．3』pp.4-16。上総国分寺台遺跡調査会。

von den Driesch, Angela (1976) *A Guide to the Measurement of Animal Bones fom Archaeological Sites.* Peabody Museum Bulletin 1. Peabody Museum of Archaeology and Ethnology, Harvard University.

No.	細分	検出状態	年代	層位	サンプル数（分析数）	備考
94	-	住居跡覆土内	弥生後期後半？	-	1(-)	未分析
112	-	住居跡覆土内	6C中葉以降	-	77(5)	サンプルはグリッド別に採取。
125	A	住居跡覆土内	弥生中期末以降	-	6(2)	検出状況から、それほど時期
	B	〃	〃	-	2(-)	は下らないと思われる。
	C	〃	〃	-	1(-)	A～Fは同一住居跡覆土内の
	D	〃	〃	-	-(-)	小ブロック。分析はブロック
	E	〃	〃	-	1(-)	Aのみ。
	F	〃	〃	-	1(-)	
133	-	住居跡柱穴～覆土内	平安時代？	-	14(2)	
134	-	住居跡貯蔵穴～覆土内	6C中葉	-	71(5)	
139	-	住居跡覆土内？	6C中葉	-	2(-)	未分析
142	-	住居跡覆土内	6C中葉～後葉	-	1(-)	未分析
144	-	住居跡覆土内	5C中葉	-	3(-)	未分析
164	-	住居跡覆土内？	5C末？	-	1(-)	未分析
169	-	住居跡覆土内？	弥生中期末～7C末	-	1(-)	未分析
175	-	古墳周溝覆土内	古墳築造直後	上層	31(3)	サンプルは層位別に採取。
			(5C中葉？)	下層	9(1)	
176	-	古墳周溝覆土内に掘	周溝埋没過程	表層	3(-)	サンプルは層位別に採取。
		り込まれたピット		上層	23(2)	
				上層最下部	2(-)	
				下層	11(1)	
177	-	〃	〃	-	1(-)	
178	-	〃	〃	-	1(-)	
179	-	〃	〃	-	11(1)	
180	-	〃	〃	-	1(-)	
-	-	〃	〃	-	11(-)	
合計					287(22)	

表1　椎津茶ノ木遺跡から検出された貝ブロックおよびサンプル一覧

貝ブロックNo.	サンプルNo.	貝殻 (g)	魚骨 (g)	鳥獣骨 (g)	フジツボ (点)	カシパン (点)	土器 (g)	その他
112号(D3-26)	-	4820	28.10*	-	7	-	140	カニ類 fr2, ウニ類 fr8, 鉄製品(釘？) 1, 土玉 3.
(D3-36)	10	1920	4.00	1.80	3	-	190	ウニ類 fr4
(D3-36)	18	2130	9.25*	-	10	-	275	土玉 1
(D3-36)	24	2770	8.30	64.20	-	-	110	鉄鏃 1
(D3-37)	5	1370	18.50*	0.55	9	-	105	土玉 1
125号 A	2	1820	＋*	22.00	-	-	190	
	5	1240	0.10*	36.95	-	-	255	
133号	3	2240	＋	-	3	-	＋	軽石 1
	12	4190	3.60*	-	1	11	30	ウニ類 fr3
134号	12	2930	0.60*	-	1	2	＋	
	17	3520	0.50	-	1	4	15	カニ類 fr3
	25	4170	0.65*	-	1	7	＋	
	49	2290	0.45*	-	2	6	20	
	59	2930	＋	-	1	1	5	
175号 －	4	6180	0.85*	-	-	-	＋	
	15	3410	0.20	-	-	13	65	
	25	7460	0.75*	-	-	1	-	軽石 1
下層	5	5120	0.80*	-	-	4	90	
176号 上層	7	2560	2.10	＋	-	-	10	
	13	3390	4.00*	0.75	-	-	175	
下層	8	890	0.60*	0.10	-	-	380	
179号	1	1040	8.20*	-	-	-	200	軽石 2

表 2　椎津茶ノ木遺跡　分析用貝層サンプル一覧および貝層内容物組成

＊：魚骨分析サンプル, ＋：＜0.10 g

軟体動物門	MOLLUSCA
腹足綱	GASTROPODA
ツボミガイ	*Acmea (Niveotectura) pallida*
イボキサゴ	*Umbonium (Suchium) moniliferum*
サザエ	*Batillus cornutus*
スガイ	*Lunella coronata*
タニシ科	Viviparidae sp.
フトヘナタリ	*Cerithidea rhizophorarum*
イボウミニナ	*Batillaria zonalis*
ウミニナ	*B. multiformis*
ホソウミニナ	*B. cumingii*
カニモリガイ	*Proclava kochi*
キクスズメガイ	*Amalthea conica*
ツメタガイ	*Neverita (Glossaulax) didyma*
アカニシ	*Rapana thomasiana*
カゴメガイ？	*Bedevina birileffi ?*
イボニシ属	*Thais sp.*
マルテンスマツムシガイ	*Indomitrella martensi*
アラムシロ	*Hinia festiva*
ムシロガイ	*Niotha livescens*
バイ	*Babylonia japonica*
キジビキガイ？	*Punctacteon fabreanus ?*
ヒメゴウナ？	*Actaeopyramis eximia ?*
斧足綱	PELECYPODA
サルボウ	*Scapharca subcrenata*
ナミマガシワガイ？	*Anomia chinensis ?*
イタボガキ	*Ostrea denselamellosa*
マガキ	*Crassostrea gigas*
ウネナシトマヤガイ	*Trapezium (Neotrapezium) Liratum*
ウメノハナガイ	*Pillusima pisidium*
アサリ	*Tapes (Amygdala) philippinarum*
オキシジミ	*Cyclina sinensis*
カガミガイ	*Dosinorbis (Phacosoma) japonicus*
ハマグリ	*Meretrix lusoria*
バカガイ	*Mactra chinensis*
シオフキ	*M. veneriformis*
ムラサキガイ属	*Hiatula* sp.
ヒメシラトリガイ	*Macoma incongrua*
マテガイ属	*Solen* sp.
オオノガイ	*Mya (Arenomya) arenaria oonogai*
環形動物門	ANNELIDA
多毛綱	POLYCHAETA
定在目（ゴカイ類）	Sedentaria, family indet.
節足動物門	ARTHROPODA
甲殻綱	CRUSTACEA
フジツボ型亜目（フジツボ類）	Balanomorpha, family indet.
短尾亜目（カニ類）	Brachyura, family indet.

表3　椎津茶ノ木遺跡出土の動物遺体種名一覧

棘皮動物門	ECHINODERMATA
海膽綱	ECHINOIDEA
拱歯目(ウニ類)	Echinoida, family indet.
楯形目(カシパン類)	Clypeasteroida, family indet.
脊椎動物門	VERTEBRATA
軟骨魚綱	CHONDRICHTHYES
サメ類	
エイ目	Rajiformes, family indet.
硬骨魚綱	OSTEICHTHYES
コノシロ	*Konosirus punctatus*
ニシン科	Clupeidae sp.
カタクチイワシ	*Engraulis japonicus*
コイ科	Cyprinidae sp.
スズキ属	*Lateolabrax* sp.
ブリ属	*Seriola* sp.
マアジ?	*Trachurus japonicus* ?
アジ科	Carangidae sp.
ニベ科	Sciaenidae sp.
マダイ	*Pagrus major*
クロダイ属	*Acanthopagrus* sp.
タイ科	Sparidae sp.
サバ属	*Scomber* sp.
ハゼ科	Gobiidae sp.
コチ	*Platycephalus indicus*
コチ科	Platycephalidae sp.
ヒラメ科	Paralechthyidae sp.
カレイ科	Pleuronectidae sp.
フグ科	Tetraodontidae sp.
両生綱	AMPHIBIA
ヒキガエル	*Bufo bufo*
爬虫綱	REPTILIA
ヘビ亜目	Ophidia, family indet.
鳥綱	AVES
ガンカモ科	Anatidae sp.
哺乳綱	MAMMALIA
ヒト	*Homo sapiens*
ネズミ科	Muridae sp.
齧歯目	RODENTIA, family indet.
イルカ科	Dolphinidae sp.
ウマ	*Equus (Equus) caballus*
イノシシ	*Sus scrofa*
シカ	*Cervus nippon*
ウシ	*Bos taurus*
ヒツジまたはヤギ	*Capra hircus or Ovis aries*

＊学名は主として以下に従った。貝類：波部忠重・小菅貞男（1967）『標準現職図鑑全集3　貝』保育社、魚類：益田　一ほか(1984)『日本産魚類大図鑑』東海大学出版会、哺乳類:今泉吉典(1960)『原色日本哺乳類図鑑』保育社、その他・配列：内田亨ほか（1972）『谷津・内田動物分類名辞典』中山書店。

貝ブロックNo	サンプルNo	ツボミ	イボキサゴ	スガイ	イボウミニナ	ウミニナ	ホソウミニナ	ウミニナ属	ツメタガイ	アカニシ	アラムシロ	サルボウ	イタボガキ	マガキ	カキ類幼貝	アサリ	カガミガイ	ハマグリ	シオフキ	マテガイ属	オオノガイ	ヒメシラトリ	斧足綱未同定A	その他
112号(D3-26)	-	5	70	4 〈1〉	20	3	-	108	312	16	-	3:2	-:1	5:-	-	39:40	-	27:24	13:10	-	-:1	-	-	サザエ 1〈4〉, シボニシ属 1, タニシ科 1. 腹足綱目不明(イシダタミ？)2
(D3-36)	10	1	62	6 〈7〉	26	14	10	37	7	9	1	2:10	-	56:41	-	43:25	-	14:9	7:10	-	1:3	-	-	バイ 2, ウネナシトマヤガイ 4:6, ムラサキガイ属-:1
(D3-36)	18	-	75	12 〈23〉	6	5	5	49	9	3	-	15:15	-	36:15	-	39:34	-	49:39	21:19	-	5:3	-	-	オキシジミ 1:-
(D3-36)	24	-	17	-	3	2	-	16	15	10	-	2:3	-	4:1	-	18:20	-	38:38	8:10	-	-:1	-	-	ウネナシトヤマガイ 1:-
(D3-37)	5	1	9	-	2	3	5	17	64	4	-	2:1	-	26:39	-	24:25	-	13:11	4:1	-	1:-	-	-	
125号 A	2	-	3	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	41:43	2:-	-	-	-	-	フトヘナタリ 1
	5	-	8	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-:1	-	-	-	21:27	1:-	-	-	-	-	真珠光沢の貝殻破片 ＋
133号	3	-	274	6 〈6〉	-	2	-	7	3	-	3	2:2	-	-	1	23:15	-	4:5	82:106	59:54	7:5	-	-	
	12	-	4580*	1	-	6	7	9	3	1	48	2:- (3:2)	+	-	11	65:55 (9:7)	2:1 (3:2)	3:2	10:4 (8:5)	1:-	7:8 (1:-)	3:1	2:1	サザエ〈1〉, キクスズメガイ 1, ウメノハナガイ-:1, 斧足綱未同定B-:1
134号	12	-	3750*	-	1	8	8	9	3	1	67	1:-	-	1:1	6	48:55 (4:8)	1:- (1:1)	-:2	5:3 (-:1)	1:-	-	1:2	-	
	17	3	3940*	-	-	3	3	-	3	4	22	2:2	-	2:-	5	44:48 (10:9)	3:3 (5:3)	3:1	7:7 (8:2)	-	17:13	-:1	-:1	サザエ1〈1〉, カニモリガイ1, カゴメガイ？1, キジビキガイ？1
	25	-	4800*	- 〈1〉	1	6	3	6	-	1	39	1:7	1:-	1:2	8	81:65 (2:7)	7:7 (2:-)	14:13	4:4 (1:1)	+	1:4	-:8	-:1	マルテンスマツムシガイ1, ナミマガシワ？1, キジビキガイ1
	49	-	2930*	1 〈1〉	-	6	3	10	3	1	39	-	-:1	-	8	32:33 (8:4)	2:3 (2:2)	-:1 (1:2)	4:5 (1:1)	+	2:1	2:1	-:1	ムラサキガイ属1:-
	59	-	2880*	-	1	3	3	4	2	2	34	-	-	1:-	1	82:89 (9:8)	2:2 (2:3)	2:2	3:9 (5:1)	1:-	-	2:2	-:1	サザエ〈1〉, ヒメゴウナ？1, 斧足綱未同定B -:1
175号 一	4	-	799	-	1	8	-	7	16	2	3	-	-	1:2	-	103:106	1:-	117:104	69:57	1:-	-	-	-	タニシ科3, バカガイ1:-, 斧足綱未同定C 1:-
	15	-	12	-	-	-	-	2	8	4	-	-	1:-	-	-	15:23	-	183:195	5:6	+	1:1	-	-	
	25	1	561	-	-	7	-	16	12	3	3	-	-	-	-	145:128	-	158:161	58:44 (1:-)	3:2	-	-:1	-	タニシ科1
下層	5	-	84	-	-	4	-	11	5	3	1	1:-	-	-	-	80:82	-	158:165	32:32	2:2	1:-	-	-	タニシ科2
176号 上層	7	-	2570*	4 〈1〉	4	10	3	22	2	3	40	8:8 (1:1)	-:1	-	3	32:30 (1:1)	+ (-:2)	6:5	18:17 (2:-)	-	3:1	-	-	
	13	2	2370*	1	7	41	14	37	5	8	29	11:10	-	-	8	40:36 (4:2)	- (2:1)	10:3 (-:2)	24:26 (3:8)	-	1:3	-:1	-	カニモリガイ1, ムシロガイ1, タマガイ科1, オキシジミ-:1
下層	8	-	7	2	-	-	-	3	13	6	1	5:4	1:-	-	-	20:24	-	10:11	6:5	-	2:-	-	-	
179号	1	-	48	-	-	-	-	7	8	3	-	1:1	-:1	-	-	39:33	2:-	16:13	14:15	-	-	-	-	

表 4　椎津茶ノ木遺跡出土の貝類遺体一覧．X：X＝左殻：右殻，（　）：幼貝（外数），〈　〉：フタ，＊：個体数／重量比からの推定値．

ブロックNo.	サンプルNo.	ハマグリ(殻高)			アサリ(殻高)			シオフキ(殻高)			イボキサゴ(殻径)		
		N	平均	s.d.	N	平均	s.d.	N	平均	s.d.	N	平均	s.d.
112号(D3-26)	-	13	59.58	6.43	31	35.85	2.13	-	-	-	12	13.86	2.04
(D3-36)	10	7	57.64	12.30	14	34.57	2.43	5	41.90	2.59	-	-	-
(D3-36)	18	34	37.47	10.51	19	35.71	4.31	9	41.39	4.82	-	-	-
(D3-36)	24	51	64.40	5.75	21	35.98	3.19	9	43.72	1.87	-	-	-
(D3-37)	5	8	53.75	9.38	15	36.90	2.96	-	-	-	-	-	-
125号A	2	20	58.55	7.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	5	7	62.93	3.54	-	-	-	-	-	-	-	-	-
133号	3	4	53.75	3.27	24	32.67	2.27	49	42.87	3.06	75	17.37	2.00
	12	-	-	-	61	31.55	3.58	8	38.88	2.39	99	15.48	1.01
134号	12	-	-	-	38	30.29	2.91	6	36.83	2.05	123	15.01	0.96
	17	-	-	-	39	31.73	2.90	7	36.36	1.81	118	15.54	0.98
	25	16	32.94	4.47	67	31.40	3.57	-	-	-	99	15.48	0.94
	49	-	-	-	28	31.42	3.80	-	-	-	112	15.12	1.07
	59	-	-	-	59	32.35	4.47	7	38.64	4.73	136	15.32	0.88
175号 一	4	87	49.28	6.36	87	32.28	2.50	49	41.77	2.56	80	18.33	1.02
	15	87	43.88	6.08	22	32.86	2.29	6	41.00	3.73	-	-	-
	25	134	49.23	6.66	85	32.31	2.47	44	42.80	2.55	97	18.30	1.11
下層	5	58	48.91	6.26	48	32.77	2.56	37	42.07	3.07	25	18.73	0.78
176号 上層	7	-	-	-	42	33.83	4.13	23	40.98	2.65	71	15.91	1.14
	13	5	52.10	16.91	34	33.65	3.21	25	39.42	2.74	64	15.99	1.32
下層	8	-	-	-	10	35.70	3.06	-	-	-	-	-	-
179号	1	10	48.00	12.09	14	37.64	3.58	5	40.30	2.48	-	-	-

表5　椎津茶ノ木遺跡出土主要貝類計測値（幼貝をのぞく）

貝ブロックNo	サンプルNo	ニシン科		アジ科		マダイ・クロダイ	タイ科		フグ科														同定不可	
		vab	vca	scu	その他		t	その他	max	pm	den	ang	qua	hyo	pal	pop	op	chy	v vab	v va/c	v vca	v vur	V(fr)	その他
112号(D3-26)	-	11	36 vur4	11	マアジpm -:1	マダイmax1:-, den1:- qua1:1, iop-:1	2	asp2 1, apt 1 vab 1	2:1	7:1	3:1	6:1	6:1	1:1	4:1	2:1	9:2	4:2	22	15	10	2	11(21)	baso 1, jaw 1, qua 1
(D3-36)	18	3	21	-	ang -:1, vab 1	—	2	—	-:1	1:2	-:1	3:-	-	1:3	1:-	-	1:2	1:1	8	2	1	1	9(10)	—
(D3-37)	5	1	1	-		—	1	asp1 1, asp2 1	5:4	2:3	4:4	4:4	1:1	1:2	-:1	-	2:3	3:6	18	10	4	-	9(6)	baso 1
125号A	2	-	-	-	—	—	-	—	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1(2)	—
	5	-	1		—	—	-	—	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	—
133号	12	2	6	-	—	クロダイpm 1:-, pal -:1	4	asp2 1, jaw 1 vab 1, vca 1	-	-	-:1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1(1)	—
134号	12	5	13	-	—	—	1	vca 1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2(6)	—
	25	-	-	-	—	—	1	scl 1:-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	—
	49	コノシロ1	4	-	—	—	5	vca+vur 1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	—
175号 —	4	-	1	-	—	—	-	—	-	1:-	-:1	-:2	2:-	1:-	-:1	-:1	-:1	1:1	4	-	-	-	-(1)	—
	25	-	-	-	—	—	-	—	1:1	1:-	2:-	-:1	1:-	2:1	-:1	-:1	-:1	2:-	-	-	-	-	-	—
下層	5	-	-	1	—	—	1	—	-	〔fr1〕		-	1:-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	—
176号 上層	13	-	4	2	—	クロダイpal -:1	5	jaw 1,vca 2	1:0	-	1:1	1:-	-	-	-	-	1:-	-	2	-	1	-	5	t1
下層	8	-	2	-	—	—	3	—	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-(3)	—
179号	1	2	2	10	ブリ属vab 1	マダイfro1, supo1, hyo-:1 クロダイden -:1	6	hyo-:1,vca1	-	-	1:-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	7(9)	t2

表6　椎津茶ノ木遺跡出土の魚類遺体一覧(1)　水洗資料（主要魚種）。X：X＝左：右

略号：ang角骨，apt臀鰭担鰭骨，asp1第一臀鰭棘，asp2第二臀鰭棘，baso基後頭骨，chy角舌骨，den歯骨，fr破片，fro前頭骨，hyo舌顎骨，iop間鰓蓋骨，jaw顎骨，max主上顎骨，op鰓蓋骨，pal口蓋骨，pm前上顎骨，pop前鰓蓋骨，qua方骨，scl上擬鎖骨，scu稜鱗，supo上後頭骨，t歯，v椎骨(vab腹椎，va/c腹椎または尾椎，vca尾椎，vur尾鰭椎)

貝ブロックNo.	サンプルNo.	種・部位（左：右）
112号(D3-26)	-	サメ類 v2；サバ属 vca 1；ハゼ科 vca 1；コチ pop -:1；コチ科 den -:1
(D3-36)	18	カタクチイワシ vab 1, vca 2；スズキ属 qua 1:-, カレイ科 vca 2
(D3-37)	5	コイ科 vab 2
125号A	5	未同定 vca 1
133号	12	エイ目 v1；コチ科 op 1:-
134号	12	コチ科 max 1:-
	49	ニベ科 vab 1
175号 －	4	コチ科 den 1:-, pal 1:-；未同定pm-:1
	25	サバ属 ang -:1
下層	5	カタクチイワシ vca 1
176号 上層	13	サバ属 vca 1；未同定 jaw 1, vca 1
179号	1	サメ類 v1；ニベ科 pm 1:-；サバ属 vab 1, vca2；コチ科 vab 1；ヒラメ科 vca 3；未同定 hyo -:1

表 7　椎津茶ノ木遺跡出土の魚類遺体一覧(2)　水洗資料（その他の魚類）
略号・凡例は表 6 参照。

出土位置	サンプルNo.	種	部位・左右・計測値
112号 D3-36	8	マダイ	pm L（PML=46.4）
	12	フグ科	pop L
123号 炉(D3-47)	-	タイ科	den L
174号 周溝	-	マダイ	max R
	-	マダイ？	pm L
？	-	マダイ？	den？
	-	タイ科	jaw, t 8
179号 貝層中	9	マダイ	den R（DH=16.09）
		タイ科	vab

表 8　椎津茶ノ木遺跡出土の魚類遺体一覧(3)　現場採集資料
略号・凡例は表 6 参照。

出土位置		サンプルNo.	採取*1方法	種	部位*2(残存位置)左右	備考
〈両生・爬虫類〉						
175号		25	水	ヘビ目	椎骨	
176号	上層	13	水	ヒキガエル	上腕骨(d)R	大型
〈鳥類〉						
112号	D3-36	10	水	ガンカモ科	尺骨(p,d)L	マガモクラス．焼
				ガンカモ科	橈骨(p,d)L	〃　〃
125号	A	2	水	同定不可	椎骨	中型
174号	周溝	-	現	未同定	中手骨(p)R	大型(ハクチョウとほぼ同大)
〈哺乳類〉						
28号	-	-	現	ウシ	M_3L？	破片のため不明確
112号	D3-26	-	水	齧歯目	頬骨R	大型
	D3-36	10	水	同定不可	肋骨(fr)	小型
	D3-36	24	水	イルカ科	頭蓋骨	
	D3-36	-	現	イルカ科	頭蓋骨	水洗選別資料(74号D3-36，No.24)と同一個体？
112/125号	D3-38	-	現	シカ	P^4？L	
123号	炉	-	現	シカ	脛骨(d)R	一部焼
				ヒト	切歯,下顎犬歯L	乳歯？
				ヒト？	指骨(p,d)	基節骨？.焼
				同定不可	肋骨(fr)	焼，他に部位不明の焼骨小破片多数
125号	A	2	水	シカ	I_2R	
				シカ？	脛骨(s)R	
				シカまたはイノシシ	距骨	破損強い
		5	水	シカ	M_3L	咬耗指数=6(大泰司1980)
				シカ	脛骨(d)R	
				シカ	距骨L	
				ネズミ科	臼歯	有根
	D3-57	-	現	シカ	第2＋3手根骨R	
	1-3	-	現	シカ	M_1R	咬耗指数=6(大泰司1980)
				シカ	M(fr)	
				シカ	肩甲骨(d)R	
				イノシシ	M^1L	わずかに咬耗あり
				イノシシ	M^2L	咬耗なし
	-	-	現	シカ	角(角座～第2枝)L	落角
				シカ	肩甲骨(d)R	
				シカ	上腕骨(d)L	
				シカ	大腿骨(s)L	
				シカ	脛骨(s)R	
				イノシシ	下顎骨(I_2L～I_2R)	左右連合部
				イノシシ？	大腿骨(s)R	カットマークあり
174後	周溝	-	現	シカ	M^1R	
				シカ	M_{1OR2}R	
				イノシシ	C♂L	
				イノシシ	第1椎骨	
				イノシシ	第2椎骨	
				イノシシ	上腕骨(d)L	
				イノシシ	橈骨(p)R	
				イノシシ？	橈骨(s)L	
				シカまたはイノシシ	肋骨(p)L,R	
				ウシ	脛骨(p)R	
				ウマ	中間手根骨,第3手根骨R	同一個体？
				ウマ	中手骨(w)R	最大長215㎜
				ウマ	距骨L	一部焼
				ウマ	中心足根骨L	
				ウマ	中足骨(w)L	最大長244㎜
				ウマ	第4中足骨(p)R	
				ウマ	第3中手骨または中足骨(d)	
				同定不可	肋骨(fr)多数	
				同定不可	椎骨(fr)×2	
175号	下層	5	水	ネズミ科	臼歯	無根
176号	上層	13	水	齧歯目	切歯	
	下層	2	現	シカ	踵骨R	
179号	-	9	現	齧歯目	脛骨(d)R	大型
				同定不可	肋骨L	
確認調査	-	-	現	ウシ	M^1,M^2L	同一個体？
				ヒツジまたはヤギ	中足骨(w)R	計測値は本文参照
				同定不可	肋骨(fr)×2	大型

表9　椎津茶ノ木遺跡出土の両生類・爬虫類・鳥類・哺乳類遺体一覧
＊1　水：水洗選別資料，現：現場採集資料
＊2　略号〈部位〉I：切歯，C：犬歯，M：大臼歯
〈残存位置〉p：近位端，s：骨幹，d:遠位端，fr：破片